

平成23年度

講義計画書

(シラバス)

鹿児島県立短期大学

総目次

1	教養科目（人文，社会，自然，総合）	1
2	教養科目（外国語科目）	11
3	教養科目（スポーツ・健康科目）	41
4	教養科目（情報科目）	45
5	日本語日本文学専攻専門科目	51
6	英語英文学専攻専門科目	75
7	生活科学科共通科目	108
8	食物栄養専攻専門科目	110
9	生活科学専攻専門科目	131
10	第一部商経学科の専攻間で共通する科目（専門基礎科目）	151
11	経済専攻専門科目	161
12	経営情報専攻専門科目	172
13	第二部商経学科教養科目（教養一般）	182
14	第二部商経学科教養科目（外国語科目）	189
15	第二部商経学科教養科目（スポーツ・健康科目）	194
16	第二部商経学科教養科目（情報科目）	195
17	第二部商経学科専門科目	197
18	商経学科の演習・実習科目	224
19	教職に関する科目	227

文学科日本語日本文学専攻

【教養科目】		日本文法論	53
(人文)		日本語学講義	54
日本の歴史	1	日本語学講読Ⅰ	54
こころの科学	2	日本語学講読Ⅱ	55
芸術論	2	日本語学演習Ⅰ	55
かごしまカレッジ教育	3	日本語学演習Ⅱ	56
(社会)		日本語学演習Ⅲ	55
日本国憲法	3	日本語学演習Ⅳ	56
法学概論	4	日本語表現法	57
社会学	4	日本語表現法演習	57
キャリアデザイン	5	対照言語学	58
(自然)		(日本文学「古典」科目群)	
数学の世界	5	日本文学講義Ⅰ	58
物理の世界	6	日本文学講読Ⅰ	59
生物の科学	6	日本文学講読Ⅱ	59
化学の世界	7	日本文学講読Ⅲ	60
食生活と健康	7	日本文学講読Ⅳ	60
(総合)		日本文学演習Ⅰ	61
平和論	8	日本文学演習Ⅱ	61
環境問題	8	日本文学演習Ⅲ	61
かごしま教養プログラム	9	(日本文学「近代」科目群)	
かごしまフィールドスクール	9	日本文学史・近代Ⅰ	62
社会活動	10	日本文学史・近代Ⅱ	62
企業研修	10	日本文学講義Ⅱ	63
(外国語科目)		日本文学講読Ⅴ	63
英語Ⅰ(A)	11~12	日本文学講読Ⅵ	64
英語Ⅰ(A)	11~12	日本文学講読Ⅶ	64
英語Ⅰ(A)	11~12	日本文学講読Ⅷ	65
英語Ⅰ(A)	11~12	日本文学講読Ⅸ	65
英語Ⅱ(A)	16~17	日本文学演習Ⅳ	66
英語Ⅱ(A)	16~17	日本文学演習Ⅴ	66
英語Ⅱ(A)	16~17	日本文学演習Ⅵ	66
英語Ⅱ(A)	16~17	(地域文学・中国文学科目群)	
英語Ⅲ(D)	22	南九州の文学Ⅱ	67
英語Ⅲ(E)	23	中国文学史Ⅰ	68
英語Ⅲ(F)	23	中国文学史Ⅱ	68
英語Ⅲ(G)	24	中国文学講読Ⅰ	69
英語Ⅲ(H)	24	中国文学講読Ⅱ	69
英語Ⅳ(A)	25	中国文学演習Ⅰ	70
英語Ⅳ(B)	25	中国文学演習Ⅱ	70
英語Ⅳ(F)	27	中国文学演習Ⅲ	70
英語Ⅳ(G)	28	(卒業研究)	
異文化コミュニケーション(英語)	29	卒業研究Ⅰ	71
異文化コミュニケーション(中国語)	29	卒業研究Ⅱ	71
中国語Ⅰ(A)	32	(関連科目群)	
中国語Ⅰ(B)	32	英文学史	71
中国語Ⅰ(H)	35	米文学史	72
中国語Ⅱ(A)	36	比較文化	72
中国語Ⅱ(B)	36	書道Ⅰ	73
中国語Ⅱ(H)	39	書道Ⅱ	73
中国語Ⅲ	40	書道Ⅲ	74
中国語Ⅳ	40	書道Ⅳ	74
(スポーツ・健康科目)		【教職に関する科目】	
スポーツ・健康論	41	教職入門	227
生涯スポーツ実習Ⅰ(A)	41	教育原理	227
生涯スポーツ実習Ⅱ(A)	43	教育心理学	228
(情報科目)		教育行政学概論	228
情報リテラシーⅠ(A)	45	教育課程論	229
情報リテラシーⅡ(A)	48	国語科教育法	229
【専門科目】		道徳教育の研究	231
(専門基礎科目群)		特別活動の研究	232
日本文学概論	51	教育方法学概論	233
言語学概論	51	教育相談	233
(日本語学科目群)		生徒指導論	234
日本語学概論	52	教職実践演習	235
日本語教育概論	52	教育実習	237
日本語史	53		

文学科英語英文学専攻

【教養科目】

(人文)			
日本の歴史	1	オーラルコミュニケーションⅢ	79～80
こころの科学	2	オーラルコミュニケーションⅣ	80～81
芸術論	2	LL演習Ⅰ	81
かごしまカレッジ教育	3	LL演習Ⅱ	82
(社会)		LL演習Ⅲ	82
日本国憲法	3	コミュニケーション概論	83
法学概論	4	ビジネス英語	83
社会学	4	通訳入門	84
キャリアデザイン	5	(英語学科目群)	
(自然)		英語学概論	84
数学の世界	5	英文法	85
物理の世界	6	英語史	85
生物の科学	6	英語音声学	86
化学の世界	7	英語表現法Ⅰ	86～87
食生活と健康	7	英語表現法Ⅱ	87～88
(総合)		英語表現法Ⅲ	88～89
平和論	8	英語学演習Ⅰ	89～90
環境問題	8	英語学演習Ⅱ	90～91
かごしま教養プログラム	9	(英米文学科目群)	
かごしまフィールドスクール	9	英文学概論	91
社会活動	10	英文学史	92
企業研修	10	米文学史	92
(外国語科目)		英米文学講読Ⅰ	93
英語Ⅲ (A)	21	英米文学講読Ⅱ	93
英語Ⅲ (B)	21	英米文学講読Ⅲ	94
英語Ⅲ (C)	22	英米文学講読Ⅳ	94
英語Ⅲ (D)	22	英語講読	95
英語Ⅲ (E)	23	英米文学演習Ⅰ	95～96
英語Ⅲ (F)	23	英米文学演習Ⅱ	96～97
英語Ⅲ (G)	24	(比較文化科目群)	
英語Ⅲ (H)	24	比較文学	97
英語Ⅳ (A)	25	比較文化	98
英語Ⅳ (B)	25	比較文化講読	98
英語Ⅳ (C)	26	イギリス事情	99
英語Ⅳ (D)	26	アメリカ事情	99
英語Ⅳ (E)	27	ヨーロッパ事情	100
英語Ⅳ (F)	27	比較文化演習Ⅰ	100
英語Ⅳ (G)	28	比較文化演習Ⅱ	101
異文化コミュニケーション (英語)	29	(関連科目群)	
異文化コミュニケーション (中国語)	29	日本語学概論	101
ドイツ語Ⅰ	30	日本語教育概論	102
ドイツ語Ⅱ	30	対照言語学	102
フランス語Ⅰ	31	日本文学史Ⅰ	103
フランス語Ⅱ	31	日本文学史Ⅱ	103
中国語Ⅰ (B)	32	英文文書処理	104
中国語Ⅰ (H)	35	国際関係論	104
中国語Ⅱ (B)	36	国際経済論	105
中国語Ⅱ (H)	39	(卒業研究)	
中国語Ⅲ	40	卒業研究	105～107
中国語Ⅳ	40	【教職に関する科目】	
(スポーツ・健康科目)		教職入門	227
スポーツ・健康論	41	教育原理	227
生涯スポーツ実習Ⅰ (B)	41	教育心理学	228
生涯スポーツ実習Ⅱ (B)	43	教育行政学概論	228
(情報科目)		教育課程論	229
情報リテラシーⅠ (B)	45	英語科教育法	230
情報リテラシーⅡ (B)	48	道徳教育の研究	231
【専門科目】		特別活動の研究	232
(専門基礎科目群)		教育方法学概論	233
スタディスキルズ	75	教育相談	233
言語学概論	75	生徒指導論	234
(コミュニケーション科目群)		教職実践演習	235
オーラルコミュニケーションⅠ	76～77	教育実習	237
オーラルコミュニケーションⅡ	77～78		

生活科学科食物栄養専攻

【教養科目】

(人文)	
文学の世界	1
日本の歴史	1
こころの科学	2
芸術論	2
かごしまカレッジ教育	3
(社会)	
日本国憲法	3
法学概論	4
社会学	4
キャリアデザイン	5
(自然)	
数学の世界	5
物理の世界	6
化学の世界	7
食生活と健康	7
(総合)	
平和論	8
環境問題	8
かごしま教養プログラム	9
かごしまフィールドスクール	9
社会活動	10
企業研修	10
(外国語科目)	
英語 I (B)	13
英語 I (B)	13
英語 II (B)	18
英語 II (B)	18
英語 III (A)	21
英語 III (B)	21
英語 III (C)	22
英語 IV (A)	25
英語 IV (B)	25
英語 IV (F)	27
英語 IV (G)	28
異文化コミュニケーション (英語)	29
異文化コミュニケーション (中国語)	29
フランス語 I	31
フランス語 II	31
中国語 I (F)	34
中国語 I (H)	35
中国語 II (F)	38
中国語 II (H)	39
(スポーツ・健康科目)	
生涯スポーツ実習 I (C)	42
生涯スポーツ実習 II (C)	43
(情報科目)	
情報リテラシー I (C)	46
情報リテラシー II (C)	49
【専門科目】	
(学科共通科目群)	
生活科学概論	108
生活経営学	108
社会福祉論	109
(基礎科目)	
〈食物に関する科目〉	
食品学 I	110
食品学 II	110
食品学実験	111
食品衛生学	111
食品衛生学実験	112
食品加工学	112
調理学	113
調理学実習 I	113
調理学実習 II	114
調理学実習 III	114

〈消化・吸収・代謝に関する科目〉

栄養学総論	115
栄養学各論	115~116
栄養学実習	116
解剖生理学	117
解剖生理学実験	117
生化学 I	118
生化学 II	118
生化学実験	119
〈健康と運動に関する科目〉	
健康と運動	119
健康管理概論	120
公衆衛生学	120
運動生理学	121
(応用科目)	
〈給食の管理に関する科目〉	
給食管理	121
給食管理実習 I	122
給食管理実習 II	122
給食管理実習 III	123
〈栄養の指導〉	
栄養教育論	123
栄養指導論	124
栄養指導論実習 I	125
栄養指導論実習 II	125
公衆栄養学	126
栄養情報処理	126
〈臨床関連科目〉	
臨床栄養学 I	127
臨床栄養学 II	127
臨床栄養学実習	128
病理学	128
〈栄養教諭関連科目〉	
学校栄養教育論	129
〈その他〉	
有機化学概論	130
生物概論	130

【教職に関する科目】

教職入門	227
教育原理	227
教育心理学	228
教育行政学概論	228
教育課程論	229
道徳教育論	231
特別活動論	232
教育方法学概論	233
教育相談	233
生徒指導原論	234
教職実践演習	236
栄養教育実習	238
栄養教育実習の事前事後の指導	238

生活科学科生活科学専攻

【教養科目】

(人文)	
文学の世界	1
日本の歴史	1
こころの科学	2
芸術論	2
かごしまカレッジ教育	3
(社会)	
日本国憲法	3
法学概論	4
社会学	4
キャリアデザイン	5
(自然)	
数学の世界	5
物理の世界	6
食生活と健康	7
(総合)	
平和論	8
環境問題	8
かごしま教養プログラム	9
かごしまフィールドスクール	9
社会活動	10
企業研修	10
(外国語科目)	
英語 I (A)	11~12
英語 I (A)	11~12
英語 I (A)	11~12
英語 I (A)	11~12
英語 II (A)	16~17
英語 II (A)	16~17
英語 II (A)	16~17
英語 II (A)	16~17
英語 II (A)	16~17
英語 III (A)	21
英語 III (B)	21
英語 III (C)	22
英語 IV (A)	25
英語 IV (B)	25
英語 IV (F)	27
英語 IV (G)	28
異文化コミュニケーション (英語)	29
異文化コミュニケーション (中国語)	29
フランス語 I	31
フランス語 II	31
中国語 I (G)	35
中国語 I (H)	35
中国語 II (G)	39
中国語 II (H)	39
(スポーツ・健康科目)	
スポーツ・健康論	41
生涯スポーツ実習 I (D)	42
生涯スポーツ実習 II (D)	43
(情報科目)	
情報リテラシー I (D)	46
情報リテラシー II (D)	49

【専門科目】

(学科共通科目群)	
生活科学概論	108
生活経営学	108
社会福祉論	109
(衣生活学科目群)	
衣生活学	131
衣造形論	131
繊維と染織	132
衣生活学実習	132
衣造形実習 I	133
衣造形実習 II	133
衣造形実習 III	134

(住生活学科目群)

住生活学	134
住居史	135
住居・インテリア設計学	135
設計製図 I	136
設計製図 II	136
住居構造学 I	137
住居構造学 II	137
住居環境学	138
住居環境学演習	138
建築材料学	139
建築生産	139
建築法規	140

(生活化学科目群)

生活化学	140
生活コロイド学	141
生活化学実験	141

(生活デザイン科目群)

生活デザイン学	142
色彩学	142
生活造形史	143
デザイン実習 I	143
デザイン実習 II	144

(関連科目群)

CAD設計	144
食物と栄養	145
調理実習 I	145
調理実習 II	146
生活文化	146
環境生物学	147
地球環境論	147
保育学	148
(卒業研究)	
卒業研究	148~150

【教職に関する科目】

教職入門	227
教育原理	227
教育心理学	228
教育行政学概論	228
教育課程論	229
家庭科教育法	230
道徳教育の研究	231
特別活動の研究	232
教育方法学概論	233
教育相談	233
生徒指導論	234
教職実践演習	235
教育実習	237

商経学科経済専攻

【教養科目】

(人文)			
文学の世界	1	経済政策	153
日本の歴史	1	社会政策	153
こころの科学	2	社会思想	154
芸術論	2	民法	154
かごしまカレッジ教育	3	商法	155
(社会)			
日本国憲法	3	産業心理学	155
法学概論	4	簿記論 I	156
社会学	4	経営学総論	157
キャリアデザイン	5	〈情報基礎〉	
(自然)			
数学の世界	5	情報科学概論	157
物理の世界	6	文書作成実習	158
生物の科学	6	応用文書処理	158
化学の世界	7	PCデータ活用	159
食生活と健康	7	PCデータ活用実習	159
(総合)			
平和論	8	PCアプリケーション実習	160
環境問題	8	(専攻専門科目)	
かごしま教養プログラム	9	〈経済理論〉	
かごしまフィニッシュスクール	9	日本経済論	161
(外国語科目)			
英語 I (C)	14~15	財政学	161
英語 I (C)	14~15	農業経済論	162
英語 I (C)	14~15	金融論	162
英語 I (C)	14~15	経済学史	163
英語 II (C)	19~20	経済学特講 I	163
英語 II (C)	19~20	法学特講	164
英語 II (C)	19~20	簿記論 II	164
英語 II (C)	19~20	〈国際環境〉	
英語 II (C)	19~20	国際経済論	165
英語 III (D)	22	アジア経済論	165
英語 III (E)	23	国際関係論	166
英語 III (F)	23	比較文化	166
英語 III (G)	24	アジア事情	167
英語 III (H)	24	ヨーロッパ事情	167
英語 IV (C)	26	国際経済特講	168
英語 IV (D)	26	〈地域政策〉	
英語 IV (E)	27	地域経済論	168
英語 IV (F)	27	地域産業政策	169
英語 IV (G)	28	地方自治論	169
異文化コミュニケーション (英語)	29	労働法	170
異文化コミュニケーション (中国語)	29	地域研究特講	170
中国語 I (C)	33	地方自治法	171
中国語 I (E)	34	〈演習・実習〉	
中国語 I (H)	35	基礎演習	225
中国語 II (C)	37	演習 I	225
中国語 II (E)	38	演習 II	225
中国語 II (H)	39	卒業研究	225
中国語 III	40	社会活動	226
中国語 IV	40	企業研修	226
(スポーツ・健康科目)			
スポーツ・健康論	41		
生涯スポーツ実習 I (E)	42		
生涯スポーツ実習 II (E)	44		
(情報科目)			
情報リテラシー I (E)	47		
情報リテラシー II (E)	50		

【専門科目】

(専門基礎科目)	
〈基礎理論〉	
現代社会論	151
社会哲学	151
経済学	152
行政法	152

商経学科経営情報専攻

【教養科目】

(人文)

文学の世界	1
日本の歴史	1
こころの科学	2
芸術論	2
かごしまカレッジ教育	3

(社会)

日本国憲法	3
法学概論	4
社会学	4
キャリアデザイン	5

(自然)

数学の世界	5
物理の世界	6
生物の科学	6
化学の世界	7
食生活と健康	7

(総合)

平和論	8
環境問題	8
かごしま教養プログラム	9
かごしまフィールドスクール	9

(外国語科目)

英語 I (C)	14~15
英語 I (C)	14~15
英語 I (C)	14~15
英語 I (C)	14~15
英語 II (C)	19~20
英語 II (C)	19~20
英語 II (C)	19~20
英語 II (C)	19~20
英語 III (D)	22
英語 III (E)	23
英語 III (F)	23
英語 III (G)	24
英語 III (H)	24
英語 IV (C)	26
英語 IV (D)	26
英語 IV (E)	27
英語 IV (F)	27
英語 IV (G)	28
異文化コミュニケーション (英語)	29
異文化コミュニケーション (中国語)	29
中国語 I (D)	33
中国語 I (E)	34
中国語 I (H)	35
中国語 II (D)	37
中国語 II (E)	38
中国語 II (H)	39
中国語 III	40
中国語 IV	40

(スポーツ・健康科目)

スポーツ・健康論	41
生涯スポーツ実習 I (F)	42
生涯スポーツ実習 II (F)	44

(情報科目)

情報リテラシー I (F)	47
情報リテラシー II (F)	50

【専門科目】

(専門基礎科目)

〈基礎理論〉

現代社会論	151
社会哲学	151
経済学	152
行政法	152

経済政策	153
社会政策	153
社会思想	154
民法	154
商法	155
産業心理学	155
簿記論 I	156
経営学総論	157

〈情報基礎〉

情報科学概論	157
文書作成実習	158
応用文書処理	158
PCデータ活用	159
PCデータ活用実習	159
PCアプリケーション実習	160

(専攻専門科目)

〈経営理論〉

簿記論 II	172
経営管理論	172
経営組織論	173
管理会計論	173
原価計算	174
国際経営論	174
経営学特講 I	175
経営学特講 II	175

〈情報分析〉

比較経営論	176
経営分析	176
企業行動科学	177
経営戦略論	177
企業論	178
財務会計論	178
マーケティング論	179

〈情報活用〉

経営工学	179
コンピュータ会計	180
応用データ活用	180
プログラミング	181
情報論特講	181

〈演習・実習〉

基礎演習	225
演習 I	225
演習 II	225
卒業研究	225
社会活動	226
企業研修	226

第二部商経学科

【教養科目】

(教養一般)

人間と文化	182
日本の歴史	182
日本文学	183
こころの科学	183
比較文化	184
アジア文化論	184
日本国憲法	185
数学の世界	185
環境問題	186
かごしまカレッジ教育	186
かごしま教養プログラム	187
かごしまフィールドスクール	187
キャリアデザイン	188

(外国語科目)

英語 I (A)	189
英語 I (B)	189
英語 II (A)	190
英語 II (B)	190
異文化コミュニケーション (英語)	191
異文化コミュニケーション (中国語)	191
中国語 I (A)	192
中国語 I (B)	192
中国語 II (A)	193
中国語 II (B)	193

(スポーツ・健康科目)

生涯スポーツ実習 I	194
生涯スポーツ実習 II	194

(情報科目)

情報リテラシー I	195
情報リテラシー II	195~196

【専門科目】

(専門基礎科目)

〈基礎理論〉

経済学	197
社会学	197
行政法	198
経済政策	198
社会政策	199
社会思想	199
民法	200
商法	200
産業心理学	201
簿記論 I	201
経営学総論	202

〈情報基礎〉

情報科学概論	202
文書作成実習	203
統計学	203
応用文書処理	204
PCデータ活用	204
PCデータ活用実習	205
PCアプリケーション実習	205~206

(専門応用科目)

〈経済理論〉

日本経済論	206
財政学	207
農業経済論	207
金融論	208
経済学史	208
経済学特講	209

〈地域と国際〉

国際経済論	209
国際立地論	210
アジア経済論	210

国際関係論	211
アジア事情	211
ヨーロッパ事情	212
地域経済論	212
地域産業政策	213
地方自治論	213
労働法	214
国際経済特講	214
地域研究特講	215
地方自治法	215

〈経営理論〉

簿記論 II	216
経営管理論	216
経営組織論	217
管理会計論	217
原価計算	218
経営学特講	218

〈情報分析・活用〉

比較経営論	219
企業行動科学	219
経営戦略論	220
企業論	220
経営工学	221
コンピュータ会計	221
応用データ活用	222
プログラミング	222
情報論特講	223
マーケティング論	223

〈演習・実習〉

基礎演習	225
演習 I	225
演習 II	225
卒業研究	225
社会活動	226
企業研修	226

1 教養科目（人文，社会，自然，総合）

授業科目	文学の世界	担当者	木戸 裕子・轟 義昭・岩本 晃代・土肥 克己・中谷 彩一郎
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択 (注)	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 旅と文学</p> <p>【概要】 日頃本をあまり読まないで、「文学」なんて自分の生活とは無関係だと思いませんか。また、「文学」には興味はあるけれど、なんだか難しそうだと思いませんか。そのような皆さんに少しでも「文学」に親しんでもらおうと、担当教員5名は、「旅と文学」をキーワードにして、日本、イギリス、中国、ギリシア、ローマの文学作品を読み解きます。</p> <p>【到達目標】 日本、イギリス、中国、ギリシア、ローマの文学作品を読み解き、「文学」に親しみをもってもらおう。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし。適宜、プリントを配布します。</p> <p>(2) 各教員が必要に応じて教室で指示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、旅の苦しみ、旅の楽しみ：『万葉集』の中の旅</p> <p>第2回 一人旅、二人旅、家族の旅：『源氏物語』『更級日記』『赤染衛門集』</p> <p>第3回 お江戸の旅、薩摩の旅：『垂邑詩集(すいゆうししゅう)』</p> <p>第4回 旅にまつわる中世イギリス文学作品：『カンタベリー物語』と『マンデヴィル旅行記』</p> <p>第5回 旅にまつわる18～19世紀イギリス文学作品：『ガリバー旅行記』と『タイムマシン』</p> <p>第6回 旅にまつわる詩1：西脇順三郎の詩</p> <p>第7回 旅にまつわる詩2：丸山薫の詩</p> <p>第8回 旅にまつわる詩3：新川和江の詩</p> <p>第9回 中国文学における「旅と文学」(1)</p> <p>第10回 中国文学における「旅と文学」(2)</p> <p>第11回 中国文学における「旅と文学」(3)</p> <p>第12回 放浪するギリシア・ローマの英雄たち：『オデュッセイア』と『アエネイス』</p> <p>第13回 放浪する地中海世界の恋人たち：古代ギリシア恋愛小説の世界</p> <p>第14回 ビカレスク小説・空想旅行譚の先駆け：『サテュリカ』、『黄金の驢馬』、『本当の話』</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	レポートの提出(75点)および講義に関する毎回の感想・意見等(25点)で評価します。レポートは5名が課したのものから3つを選ぶかたちになります。		

(注) 文学科を除く

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	日本の歴史	担当者	下原 美保
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択 (注)	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本の文化—特に美術—について、トピックスごとに紹介する。</p> <p>【概要】 日本美術の特徴について、I 絵画(物語絵と絵巻・仏画・詩画軸と水墨画・狩野派・土佐派・浮世絵)・II 仏像(仏様の世界・藤原時代までの仏像・鎌倉時代の仏像)・III 暮らしと美術(茶の湯と美術・薩摩焼)の3点から紹介する。講義では、教科書とともにスライドやビデオなどを用い、具体的な作品鑑賞を行う。この際、作品の見方や考え方についても解説を行う。</p> <p>【到達目標】 日本文化—絵画・彫刻(仏像)・工芸—の特徴及び鑑賞のポイントを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『すぐわかる日本の美術』(田中日佐夫監修 東京美術 平成11年)</p> <p>(2) 『日本美術のこぼれ案内』(日高薫 小学館 2003年)</p> <p>『日本のやきもの 薩摩』(渡辺芳郎 淡交社 2003年)</p> <p>『新潮世界美術辞典』(新潮社 昭和60年1月)</p>		
授業スケジュール	<p>■ 授業スケジュール</p> <p>第1回 ：オリエンテーリング</p> <p>第2回～第9回 ：I 絵画について 1) 物語絵と絵巻 2) 仏画 3) 詩画軸と水墨画 4) 狩野派土佐派 5) 浮世絵</p> <p>第10回～第12回 ：II 仏像について 1) 仏様の世界 2) 藤原時代までの仏像 3) 鎌倉時代の仏像</p> <p>第13回～第14回 ：III 暮らしと美術 1) 茶の湯と美術 2) 薩摩焼</p> <p>第15回 ：まとめ</p>		
成績評価の方法	講義ごとの感想文(40%)及びレポート(60%)		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	こころの科学	担当者	石川 満佐育
	[履修年次] 1, 2年いずれも履修可 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「科学としての心理学」について、学生の自己理解、他者理解に役立つような知識、研究例を紹介するとともに、その研究方法を学ぶ。</p> <p>【概要】心理学領域のうち、社会心理学、カウンセリング心理学、青年心理学のトピックスを取り上げながら進めていく。また、心理学的研究の理解を深めるために、実際に質問紙調査、実験等を体験してもらい実習も取り入れる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 心理学という学問領域の多様性について理解し、心理学的なものの方・考え方を養うことを目標とする。 ② 自己理解・他者理解を深めるための知識を習得することを目標とする。 		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。</p> <p>(2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：心理学とは？</p> <p>第2回 心理学の基礎知識</p> <p>第3回 心理学の対象と研究方法</p> <p>第4回 社会心理学①：自己開示と自己呈示</p> <p>第5回 社会心理学②：対人認知</p> <p>第6回 社会心理学③：集団の影響</p> <p>第7回 社会心理学④：人とのつき合い方</p> <p>第8回 カウンセリング心理学①：カウンセリングとは？</p> <p>第9回 カウンセリング心理学②：自己理解のためのカウンセリング</p> <p>第10回 カウンセリング心理学③：ストレスへの対処</p> <p>第11回 カウンセリング心理学④：支援が必要な人たち</p> <p>第12回 青年心理学①：青年期の特徴</p> <p>第13回 青年心理学②：青年期の対人関係</p> <p>第14回 青年心理学③：進路選択・現代社会の中での自分</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	感想・質問などのミニレポート提出：40%、試験あるいはレポートで評価：60%		

(注) 受講希望数が上限を超える場合は、履修年次を考慮した上で受講制限を行う場合がある。

授業科目	芸術論	担当者	丸山 容爾
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】普段、鑑賞することの少ない芸術作品に触れ、芸術を味わう楽しさを経験する。</p> <p>【概要】映像表現された作品を中心に、一般的に馴染み深い作品（デザインのジャンルも含めて）を引用し、様々な視点からその芸術性を探っていく。</p> <p>【到達目標】何気なく眺めていた芸術作品の美しさを再認識し、モノを観る真の目を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント配布。テキストは使用しない。</p> <p>(2) 参考文献は、講義中に適時示す。講義中、PowerPoint・DVDを活用する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 「導入」 講義方式の説明と資料配布</p> <p>第2回 「日本の伝統芸能・歌舞伎 立役」 歌舞伎の魅力と小道具</p> <p>第3回 「日本の伝統芸能・歌舞伎 女形」</p> <p>第4回 「ショートフィルム」 世界のショートフィルム</p> <p>第5回 「錯視」 古典的錯視作品、身の周りの錯視・だまし絵</p> <p>第6回 「舞妓」 京都舞妓の衣装・髪型・小物・芸・歴史</p> <p>第7回 「アール・ヌーヴォーとアール・デコ」 その流行と時代背景</p> <p>第8回 「世界のコマーシャル・フィルム」 世界各国のコマーシャルの比較</p> <p>第9回 「造形作家の制作風景」 創造する喜びと生みの苦しみ</p> <p>第10回 「日本の伝統芸能・落語」 落語の小道具、歴史</p> <p>第11回 「日本の伝統芸能・人形浄瑠璃」 太夫・三味線・人形遣いの役割</p> <p>第12回 「美術館見学」 講義期間中の美術展を鑑賞・見学する</p> <p>第13回 「チャールズ・チャップリン 1」</p> <p>第14回 「チャールズ・チャップリン 2」</p> <p>第15回 「まとめと試験、あるいはレポート」</p>		
成績評価の方法	出席と授業態度 (30%)、試験あるいはレポート (70%) で評価。		

(注) 受講登録数が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	かごしまカレッジ教育	担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】レポートと話し合いのための日本語力（書く力・話す力）を養成する</p> <p>【概要】「書く力」では、レポートの構成要素と表現を知り、データ・資料・情報に基づいた論証型のレポートを作成する力を養成する。「話す力」では、少人数グループによる話し合いで相手の立場や意見を尊重しながら自分の意見を述べる力を養う。</p> <p>【到達目標】(1)「話し手」・「聞き手」としてふさわしい態度や話し方・聞き方を学び、実際話し合いの場で実践できる。(2)グループの話し合いの結果を、簡潔にわかりやすく授業の中で発表できる。(3)レポートの構成要素を理解し、組み立てにそって論理的なレポートが書ける。(4)レポートの構成要素として使われる様々な表現を理解し、レポートの中で使うことができる。(5)事実と意見を区別し、データや資料・情報に基づいた論証型のレポートが書ける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 授業中に紹介します。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション 第2回 話し合いに対する心構え 第3回 レポートとは何か 第4回 レポートの資料について 第5回 事実と意見について 第6回 情報カードの書き方、引用の書き方 第7回 書誌情報の書き方 第8回 文型・文体について 第9回 図表の読み方と説明の仕方 第10回 アウトラインの作り方 第11回 メモ付きアウトラインの作り方 第12回 パラグラフの書き方 第13回 レポート第1回提出 第14回 レポート第2回提出 第15回 レポート最終チェック		
成績評価の方法	(1)グループ活動の報告についての成績30%、(2)レポート作成の途中で提出した課題についての成績30%、(3)最終レポートの成績40%で総合評価する。		

(注) 受講者数は、20名を上限とします。

受講希望者が多い場合は抽選となりますが、「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」受講希望者を優先します。

授業科目	日本国憲法	担当者	山本 敬生																														
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式																																
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を体系的に理解した上で、日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに、基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年、その価値が問い直されている一方、新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では、国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権、平和に崇高な価値をおき、その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義、個人の尊厳の原理に基づき、個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として、人類の睿智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。</p> <p>【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し、政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>																																
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 小栗実編『新検証・日本国憲法』法律文化社 2007年 適宜、プリントを配布する。 (2) 『ポケット六法』（平成23年度版）有斐閣2010年																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回：憲法概論</td> <td>・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について</td> </tr> <tr> <td>第2回：基本権総論</td> <td>・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について</td> </tr> <tr> <td>第3回：包括的権利</td> <td>・幸福追求権、プライバシーの権利、法の下での平等について</td> </tr> <tr> <td>第4回：精神的自由権(1)</td> <td>・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について</td> </tr> <tr> <td>第5回：精神的自由権(2)</td> <td>・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、学問の自由、教育の自由について</td> </tr> <tr> <td>第6回：経済的自由権</td> <td>・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について</td> </tr> <tr> <td>第7回：受益権</td> <td>・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について</td> </tr> <tr> <td>第8回：社会権(1)</td> <td>・生存権、環境権、教育を受ける権利について</td> </tr> <tr> <td>第9回：社会権(2)</td> <td>・勤労権、労働基本権、団結権、団体交渉権、争議権について</td> </tr> <tr> <td>第10回：国会(1)</td> <td>・国権の最高機関、唯一の立法機関、衆議院の優越について</td> </tr> <tr> <td>第11回：国会(2)</td> <td>・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について</td> </tr> <tr> <td>第12回：内閣</td> <td>・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について</td> </tr> <tr> <td>第13回：裁判所</td> <td>・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について</td> </tr> <tr> <td>第14回：財政</td> <td>・財政民主主義、租税法主義、国費支出議決主義、予算について</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめと試験</td> <td></td> </tr> </table>			第1回：憲法概論	・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について	第2回：基本権総論	・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について	第3回：包括的権利	・幸福追求権、プライバシーの権利、法の下での平等について	第4回：精神的自由権(1)	・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について	第5回：精神的自由権(2)	・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、学問の自由、教育の自由について	第6回：経済的自由権	・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について	第7回：受益権	・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について	第8回：社会権(1)	・生存権、環境権、教育を受ける権利について	第9回：社会権(2)	・勤労権、労働基本権、団結権、団体交渉権、争議権について	第10回：国会(1)	・国権の最高機関、唯一の立法機関、衆議院の優越について	第11回：国会(2)	・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について	第12回：内閣	・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について	第13回：裁判所	・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について	第14回：財政	・財政民主主義、租税法主義、国費支出議決主義、予算について	第15回：まとめと試験	
第1回：憲法概論	・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について																																
第2回：基本権総論	・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について																																
第3回：包括的権利	・幸福追求権、プライバシーの権利、法の下での平等について																																
第4回：精神的自由権(1)	・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について																																
第5回：精神的自由権(2)	・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、学問の自由、教育の自由について																																
第6回：経済的自由権	・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について																																
第7回：受益権	・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について																																
第8回：社会権(1)	・生存権、環境権、教育を受ける権利について																																
第9回：社会権(2)	・勤労権、労働基本権、団結権、団体交渉権、争議権について																																
第10回：国会(1)	・国権の最高機関、唯一の立法機関、衆議院の優越について																																
第11回：国会(2)	・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について																																
第12回：内閣	・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について																																
第13回：裁判所	・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について																																
第14回：財政	・財政民主主義、租税法主義、国費支出議決主義、予算について																																
第15回：まとめと試験																																	
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + 授業での発言の記録 (10%) を基準に、総合的に評価する。																																

(注) 教職必修

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	法学概論	担当者	疋田 京子
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人を裁くという権威を盾に近寄り難いイメージのある「法」を、その起源から探り、昔話や映画、文学などを通して身近なところに存在する「法的なもの」に触れる。</p> <p>【概要】民事訴訟と刑事訴訟の構造の違いを知り、市民が参加する裁判員裁判という場が「裁き」の場であることをまず示す。その上で、なぜ法が発生したのか、その起源を探り、文学や映画をとおして、あらゆる所に法的なものがあること、私たちの思考に刷り込まれている法の概念を拾い出してみる。</p> <p>【到達目標】様々な角度から「法的なもの」に触れることによって「法的思考」を磨き、日常生活の中によくある事例を、法的な思考で判断できることを目指す。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	特に定めない。		
授業スケジュール	第1回～5回 「裁判」の構造 第1回 法とは何か 第2回 民事訴訟 第3回 刑事訴訟 第4回 裁判員制度(1) 第5回 裁判員制度(2) 第6回～14回 リーガルマインドを磨く 第6回 「裁く」とはどういうことか：刑事司法と民事司法の関係 第7回 刑罰は何のためにあるのか：犯罪認定のプロセス 第8回 刑罰の起源：復讐から儀式、儀式から刑罰へ 第9回 法の起源：法はどこから来て、どこに行くのか 第10回 法の正体と法文化、法文化と国民性 第11回 権利と義務の関係：誰かのものである(所有)ということの意味 第12回 契約の自由と信義則 第13回 法の解釈と屁理屈の違い：シェークスピア『ヴェニスの商人』を題材に 第14回 解釈の原則：「リーガルマインド (Legal Mind)」(法的思考)というもの 第15回 予備日		
成績評価の方法	講義中に書いてもらうレポート40点 + 最後のレポート60点		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	社会学	担当者	斉藤 悦則
	〔履修年次〕 全学年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会学の基本概念を学ぶ</p> <p>【概要】社会学の諸概念を道具として、身の回りの諸現実を新たな視点で見つめ直してみる。そうすると、いままで当たり前のように見えていたものが、意外に「変なこと」「怪しいこと」のように見えてくる。</p> <p>【到達目標】常識に囚われて、硬直していた発想が、社会学を学べば柔軟になる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 特になし		
授業スケジュール	第1回 社会学のおもしろさ……潜在機能 第2回 不良になろう……ラベリング 第3回 まなざしの地獄……一般化された他者 第4回 情報に踊らされる……予言の自己成就 第5回 格差のメカニズム……準拠集団 第6回 空気を読めってか?……他者志向 第7回 血液型とか信じる?……自由からの逃走 第8回 愛のジレンマ……社会的交換理論 第9回 わかりやすさの畏……疑似環境 第10回 オーラが消える……複製技術革命 第11回 コミュニティへの回帰……ゲメインシャフト 第12回 学校に行くとバカになる……制度化 第13回 セクシーとは何か……粋の構造 第14回 事なかれ主義……官僚制 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業ごとに実施する小論文(100%)		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	キャリアデザイン	担当者	担当教員
		[履修年次] 1年 [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式及びワークショップ	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年生を対象に、卒業後のキャリア形成についての具体的なイメージを描けるようになること</p> <p>【概要】近年の若者を巡る就職状況の厳しさの中、本学の学生も卒業後の進路のイメージは人それぞれである。入学時にすでに明確な就職希望を持っている学生もいるが、自分の興味だけで考えている場合、キャリア構築という点からは一面的な見方しかできていないおそれがある。入学時には興味がなかった様々な職種をできるだけ系統的に紹介し、社会の中で働くことの心構えや具体的な就職準備作業などキャリアデザインに必要な知識理解を系統的に身につけることを目指す。短期的な就職活動だけのためではなく、社会人として自立するために必要な自分なりのキャリアデザインを作り上げていく心構えを育てる助けになるであろう。</p> <p>※1年生は原則として全員受講すること。</p> <p>【到達目標】本講義を通じて、県短生をとりまく就業環境、社会の中で働くことの意味、就職活動の実践的な進め方などを系統的に学んでいただきたい。</p>		
授業スケジュール	<p>(講師陣)平成22年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期(7月23日) 社会人になる(就職する)ことはなぜ必要なのか、県短を取り巻く就職状況はどうかキャリア教育の総論的な講義を行う。 講師：森脇丈子(生活科学科准教授)、西村道子(株式会社 昂) 川村美鈴(KTS 鹿児島テレビ) ・第2期(9月27,28日) 地域を代表する企業・団体の経営者の話を聞き、働くことの意味、会社組織と学生生活との違いを考える。社会人として要求される発想力・コミュニケーション力をアップするワークショップを体験する。 講師：田原武志((株)アシップ)、石原美貴(石原興業(株) 石原荘) 前田幸一((株)浜島印刷)、丸田真悟(NPO 法人かごしまアートネットワーク) 小林陸夫(大学生協九州事業連合) ・第3期(12月24日) 県短生が多く志望する企業の人事・採用担当者や実際に現場で活躍しているOB・OGから話を聞き、進路イメージを具体化させる。 講師：北川隆巴(京セラ(株))、秋葉重登(鹿児島相互信用金庫) 宇都泰礼((株)健康家族)、原田忍((株) エム・ディ・エス) 本学卒業生8人(中学校教員、栄養士など) ・第4期(2月1日) いよいよ実際の就職活動を目前に控えて、労働基準法など社会人として働くために必要な法的知識を身につけるとともに、具体的な就職準備作業を行う。 講師：疋田京子(商経学科准教授)、学生部学生課職員 <p>※23年度のスケジュール・講師は適宜掲示する。</p>		
成績評価の方法	レポート2回(100%)		

授業科目	数学の世界	担当者	寛山 榮助
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】数学の世界を理解するための根拠について</p> <p>【概要】数学は言うまでもなく高度に抽象化された理論体系の学問です。われわれは物事の奥に潜んでいる数理的構造の本質を見据え解析し、推論する思考過程を身につける能力を培い育てていくことです。一方、数学を学ぶ過程で修得される種々の概念やそれらを表現し駆使する手段として修練される数式取り扱いの手法や技能は諸科学の研究のみならず人間活動のいろいろな場に応用されています。数学は、知的で文化的な面と技術的で実用的な面を併せ持っていて概念的に論述する場合は前者に力点を置くことが望ましい。すなわち『数学とはなにか』、『何のために数学を学ぶか』等に興味・関心をよせ自問自答しながら講義に臨んで欲しい。</p> <p>【到達目標】1 教科としての数学と学問としての数学について理解を深める。 2 人格形成ならびに社会生活に役立つ数学的ものの見方・考え方を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 量的なことを考慮して、特に定めない</p> <p>(2) 興味、関心、意欲養成に適宜提示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 第1章 数学という学問 1 数学の要請：数学的帰納法</p> <p>第2回 ・デカルトの発見的方法</p> <p>第3回 2 数学の関数的表現 ・近似多項式の微分表現</p> <p>第4回 ・マクローリンの定理とテーラー展開の魅力</p> <p>第5回 3 数学の源と数「0」の発見 ・整数の素数分解の一意性</p> <p>第6回 ・完全数 ・友愛数 ・婚約数の定義とその発見</p> <p>第7回 4 三平方の定理の古典数学としての魅力 ・ピタゴラス数の折り紙表現</p> <p>第8回 5 フェルマーの定理と現代数学</p> <p>第9回 第2章 経済や社会の動向を探る現代数学 1 行列と次元 ・ケーキ作り</p> <p>第10回 2 クラメルの定理 ・三元連立一次方程式</p> <p>第11回 3 経営や生産性の効率性 1 マルコフの推移行列</p> <p>第12回 2 推移行列とマーケット・シェア</p> <p>第13回 第3章 現代数学をどう理解するか 1 数学の論証性</p> <p>第14回 2 ロバチェフスキーの『平行線論』と数学の世界</p> <p>第15回 「まとめと試験」(定期考査、自分で考える「数学の世界」について小論)</p>	<p>★履修状況調査と感想文</p> <p>★試験と小論</p>	
成績評価の方法	定期試験60%、興味・関心・態度、感想文40%で評価する。		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	物理の世界	担当者	藤井 伸平																
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式																		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なものや身のまわりでおこる現象に題材を求め、それらを物理という視点から眺めてみようというのがこの講義のテーマです。</p> <p>【概要】普段、私たちは歩くという動作について考える（意識する）ことはありませんが、凍った道路は滑ってとても歩きにくいことに気づきます。このときあらためて靴と路面の間の摩擦が歩くという動作に重要な役割を果たしていることに気づきます。このように、いくつかの題材について考えていくつもりです。また、2, 3の実験も行う予定です。</p> <p>【到達目標】物理学を身近に感じる</p>																		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (適宜プリントを配布) (2) 藤城敏幸著「生活の中の物理」東京教学社。 そのほか、適宜授業中に紹介。																		
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回 無量大数と科学的記法</td> <td>第9回 焚き火</td> </tr> <tr> <td>第2回 地球を持ち上げる</td> <td>第10回 絶対零度</td> </tr> <tr> <td>第3回 動いている地球</td> <td>第11回 宇宙は膨張している</td> </tr> <tr> <td>第4回 万物は引き合う</td> <td>第12回 近視、遠視、老眼</td> </tr> <tr> <td>第5回 ロケットはなぜ飛ぶ</td> <td>第13回 光の三原色と色の三原色</td> </tr> <tr> <td>第6回 ヨットのはなし</td> <td>第14回 ダイヤモンドとファイバースコープ</td> </tr> <tr> <td>第7回 質量はエネルギー</td> <td>第15回 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第8回 水の特異な性質</td> <td></td> </tr> </table>			第1回 無量大数と科学的記法	第9回 焚き火	第2回 地球を持ち上げる	第10回 絶対零度	第3回 動いている地球	第11回 宇宙は膨張している	第4回 万物は引き合う	第12回 近視、遠視、老眼	第5回 ロケットはなぜ飛ぶ	第13回 光の三原色と色の三原色	第6回 ヨットのはなし	第14回 ダイヤモンドとファイバースコープ	第7回 質量はエネルギー	第15回 まとめ	第8回 水の特異な性質	
第1回 無量大数と科学的記法	第9回 焚き火																		
第2回 地球を持ち上げる	第10回 絶対零度																		
第3回 動いている地球	第11回 宇宙は膨張している																		
第4回 万物は引き合う	第12回 近視、遠視、老眼																		
第5回 ロケットはなぜ飛ぶ	第13回 光の三原色と色の三原色																		
第6回 ヨットのはなし	第14回 ダイヤモンドとファイバースコープ																		
第7回 質量はエネルギー	第15回 まとめ																		
第8回 水の特異な性質																			
成績評価の方法	レポート (100%)																		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	生物の科学	担当者	塚原 潤三																														
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式																																
テーマ及び概要	<p>【テーマ】脊椎動物の進化とヒトのなりたち</p> <p>【概要】本講義では、ヒトのなりたちを理解するために、脊椎動物の進化の流れを概観し、次いで霊長類のグループの進化を取り上げ、その中でヒトがどのように進化し、ヒトとしての特性を獲得してきたかについて、生物学の側面から解説する。</p> <p>【到達目標】脊椎動物の進化の流れを理解し、その中でヒトがどのように形成されてきたかを理解する。</p>																																
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 無し (あらかじめプリント集を配布する) (2) 『ヒトの進化・・・新しい考え』ロジャー・レウイン著 岩波書店 『脊椎動物の進化』E. H. コルバート&M. モラレス著 築地書館																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回 地球史概観</td><td>: 気候変動や大陸移動</td></tr> <tr><td>第2回 地質年代の測定</td><td>: 相対的年代測定と絶対的年代測定</td></tr> <tr><td>第3回 進化の不思議な大爆発</td><td>: カンブリア紀における脊椎動物の出現</td></tr> <tr><td>第4回 脊椎動物の特徴と概観</td><td>: 脊髄神経系の発達</td></tr> <tr><td>第5回 魚類の進化</td><td>: 水中動物の発達</td></tr> <tr><td>第6回 両生類の進化</td><td>: 陸上生活への移行過程</td></tr> <tr><td>第7回 は虫類の進化</td><td>: 完全な陸上生活の獲得と環境への適応</td></tr> <tr><td>第8回 ほ乳類の進化</td><td>: 子育ての革新的進化</td></tr> <tr><td>第9回 霊長類の進化</td><td>: サル類の共通の特性とヒトへのつながり</td></tr> <tr><td>第10回 ヒト進化の研究の歴史</td><td>: ヒト化石との出会い</td></tr> <tr><td>第11回 2足歩行に伴う身体変化 (1)</td><td>: 下半身の構造と機能の進化</td></tr> <tr><td>第12回 2足歩行に伴う身体変化 (2)</td><td>: 上半身の構造と機能の進化</td></tr> <tr><td>第13回 脳の進化と言語の発達</td><td>: 脳の発達と機能分化</td></tr> <tr><td>第14回 情報伝達と社会形成</td><td>: ヒトはなぜ群れをつくるのか</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめと試験</td></tr> </table>			第1回 地球史概観	: 気候変動や大陸移動	第2回 地質年代の測定	: 相対的年代測定と絶対的年代測定	第3回 進化の不思議な大爆発	: カンブリア紀における脊椎動物の出現	第4回 脊椎動物の特徴と概観	: 脊髄神経系の発達	第5回 魚類の進化	: 水中動物の発達	第6回 両生類の進化	: 陸上生活への移行過程	第7回 は虫類の進化	: 完全な陸上生活の獲得と環境への適応	第8回 ほ乳類の進化	: 子育ての革新的進化	第9回 霊長類の進化	: サル類の共通の特性とヒトへのつながり	第10回 ヒト進化の研究の歴史	: ヒト化石との出会い	第11回 2足歩行に伴う身体変化 (1)	: 下半身の構造と機能の進化	第12回 2足歩行に伴う身体変化 (2)	: 上半身の構造と機能の進化	第13回 脳の進化と言語の発達	: 脳の発達と機能分化	第14回 情報伝達と社会形成	: ヒトはなぜ群れをつくるのか	第15回	まとめと試験
第1回 地球史概観	: 気候変動や大陸移動																																
第2回 地質年代の測定	: 相対的年代測定と絶対的年代測定																																
第3回 進化の不思議な大爆発	: カンブリア紀における脊椎動物の出現																																
第4回 脊椎動物の特徴と概観	: 脊髄神経系の発達																																
第5回 魚類の進化	: 水中動物の発達																																
第6回 両生類の進化	: 陸上生活への移行過程																																
第7回 は虫類の進化	: 完全な陸上生活の獲得と環境への適応																																
第8回 ほ乳類の進化	: 子育ての革新的進化																																
第9回 霊長類の進化	: サル類の共通の特性とヒトへのつながり																																
第10回 ヒト進化の研究の歴史	: ヒト化石との出会い																																
第11回 2足歩行に伴う身体変化 (1)	: 下半身の構造と機能の進化																																
第12回 2足歩行に伴う身体変化 (2)	: 上半身の構造と機能の進化																																
第13回 脳の進化と言語の発達	: 脳の発達と機能分化																																
第14回 情報伝達と社会形成	: ヒトはなぜ群れをつくるのか																																
第15回	まとめと試験																																
成績評価の方法	筆記試験 (80%) と小論文 (20%)																																

(注) 生活科学科を除く。

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	化学の世界	担当者	井余田 秀美・木下 朋美
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なものや現象を通して、私たちの生活の中で、化学がどのようにかかわっているかを学ぶ。</p> <p>【概要】物質の科学である化学は、自然や生物の資源を利用して有用な物質を作ること等により、私たちの暮らしを豊かにしている。一方で、化学は環境や資源の問題等とも密接に関わっており、化学を学ぶことは、身の回りの物質についての知識を得、理解を深めるだけでなく、私たち自身の生活や身のまわりの自然について考える良い機会となる。こうした生活と物質の関わりの視点から、身の回りの物質や現象、生活に潤いをもたらす茶や香りについて、講義を行う。</p> <p>【到達目標】化学的視点から、課題を探索し、解決していくための基本的な能力を培う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 日本茶インストラクター協会編、『日本茶のすべてがわかる本』、農文協 財団法人 日本ホテル教育センター編、『世界・お茶の基本』、プラザ出版</p>		
授業スケジュール	<p>1 身近な物質 (井余田) 第1回 自然の恩恵 第2回 化学の基礎 第3回 生活と化学</p> <p>2 身近な現象 (井余田) 第4回 物質の変化 第5回 光と色 第6回 エネルギーと環境</p> <p>3 茶と香りの化学 (木下) 第7回 茶に隠された化学を探る 第8回 様々な茶を生み出した歴史 茶製法の変遷 第9回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法 (1) 第10回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法 (2) 第11回 緑茶に付加価値をつける 流通と仕上げ加工 (ブレンド・焙煎) 第12回 茶の味お淹れ方次第 溶出成分の特徴 第13回 茶の品質を見極める 官能検査と化学分析 第14回 味をも作り出す 香りの特性と役割 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	レポート		

(注) 生活科学科生活科学専攻を除く

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	食生活と健康	担当者	倉元 綾子・多田 司・木下 朋美・有村 恵美
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】健康な食生活を送るためにはどうしたらよいか。</p> <p>【概要】バランスの取れた栄養、運動や休養・睡眠によって健康な日常生活を送ることは私たちの願いである。今日、健康や栄養についての情報はあふれるほど存在し、私たちの関心を喚起し、生活に大きな影響を与えている。しかし、それらのなかには十分に検証されないまま提供される有害なものも少なくない。本科目では、健康で、安全・安心な生活を送るためにはどうしたらよいかについて、各種の活動を取り入れて、実践的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】健康な食生活を送るための知識とスキルを獲得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 適宜紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 健康な食生活：イントロダクション (倉元, 多田, 木下, 有村) : 健康とは何か? 食生活が健康に及ぼす影響 (有村)</p> <p>第2回 健康な食生活：食品に含まれる栄養素 (有村)</p> <p>第3回 健康な食生活：食品の特性 (木下)</p> <p>第4回 健康な食生活：食の安全 (木下)</p> <p>第5回 私たちの食生活トピックス1：ワークショップ (倉元)</p> <p>第6回 私たちの食生活トピックス2：ワークショップ (倉元)</p> <p>第7回 私たちの食生活トピックス3：ワークショップ (倉元)</p> <p>第8回 健康・栄養情報：メディア情報とのつきあい方1 (多田)</p> <p>第9回 健康・栄養情報：メディア情報とのつきあい方2 (多田)</p> <p>第10回 健康・栄養情報：ダイエット・サプリメント (有村)</p> <p>第11回 健康な食生活：あなたの食生活チェック (有村)</p> <p>第12回 健康な食生活：食事のバランス・食品選択の方法 (有村)</p> <p>第13回 健康な食生活：生活習慣病 (有村)</p> <p>第14回 健康な食生活：休養・睡眠・運動 (有村)</p> <p>第15回 まとめ：健康な食生活とは (有村)</p>		
成績評価の方法	試験、レポート、授業ごとの小論文、発表内容によって総合的に評価する 各担当者の成績を集計して、荷重平均。		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	平和論	担当者	福田 忠弘・森田 豊子・船津 潤・疋田 京子
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 テーマは、日本国内や国際社会で生起する諸問題について、平和論の視座からどのようにとらえることができるかについて考察することである。</p> <p>【概要】 現在の世界では、国家間の戦争だけでなく、民族・宗教対立による紛争、貧困問題、人権問題、女性への暴力など、到底平和とは呼べない状態が続いている。日本国内においては、憲法改正、教育基本法の改正など、国家権力の強化が進行している。本年度の平和論は、世界の平和ならざる状況を理解することを目的とする。特に焦点をあてるのは、暴力の様々な形態、「他者」への理解（特にイスラーム社会）、スリランカを事例にした国家建設の光と陰、様々な人権侵害についてである。</p> <p>【到達目標】 グローバル社会でおきている紛争、貧困問題、人権問題、女性への暴力などについての現状を認識し、その原因について説明できることを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。 (2) 講義中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第1回 平和論の方法：平和論という学問がどのようなものなのかを概説する（福田） 第2回 暴力の多様性（1）：暴力という概念について（福田） 第3回 暴力の多様性（2）：国際社会における紛争について視聴覚資料を使用（福田） 第4回 パレスチナ問題：パレスチナ問題の歴史と現状について（森田） 第5回 9・11後の世界：イラクとアフガニスタンについて（森田） 第6回 イスラーム原理主義：イスラーム原理主義の成り立ちと現状について（森田） 第7回 イスラームと女性：イスラーム原理主義における女性の権利をめぐる問題について（森田） 第8回 世界におけるイスラーム教徒：欧州、米国、日本におけるイスラーム教徒の問題について（森田） 第9回 民族紛争の構造：スリランカの事例について（船津） 第10回 平和への葛藤：スリランカの事例について（船津） 第11回 憲法9条の源流をさぐる：永久平和構想と非戦の制度化に向けて（疋田） 第12回 憲法9条の戦後史：憲法9条はどのように議論されてきたか（疋田） 第13回 平和と人権：暴力の連鎖を断つための様々な試み（疋田） 第14回 平和の多様性について：積極的平和という概念を中心に（福田） 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	レポートによって評価する（100％）。		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	環境問題	担当者	相場 慎一郎・井余田 秀美・野村 俊郎・曾宮 和夫
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 環境問題を様々な角度から考える</p> <p>【概要】 環境問題を、森林（相場）、化学（井余田）、自動車産業（野村）、環境保護行政（曾宮）の四つの視点から考える</p> <p>【到達目標】 環境に関する複眼的思考を養う</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第1回 総論：環境問題の複眼的考察 第2回 森林（1）：森林の役割 第3回 森林（2）：森林と環境 第4回 化学（1）：汚染物質1 第5回 化学（2）：汚染物質2 第6回 化学（3）：汚染物質3 第7回 化学（4）：汚染物質4 第8回 自動車（1）：ハイブリッド 第9回 自動車（2）：EV 第10回 自動車（3）：LCVとULCV 第11回 自動車（4）：発電と蓄電 第12回 環境保護行政（1）：総論 第13回 環境保護行政（2）：屋久島 第14回 環境保護行政（3）：奄美 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	4人の講師の25点満点×4		

(注) 受講登録が100人を超えた場合は、人数を制限することがあります。

授業科目	かごしま教養プログラム	担当者	県内12大学の担当教員
		[履修年次] 1年 [学期] 前期集中 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【概要】鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローバル」を考える文・理のバランスがとれたリベラルアーツ教育を行います。2泊3日の夏季集中授業で、講義とグループ学習(チューターの支援あり)を行います。さらに、夜間はディベートなどを取り入れ、学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習します。なお、4,500円程度の宿泊経費等が必要となります。</p> <p>【学習目標】</p> <p>①講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。</p> <p>②グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。</p> <p>③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	平成22年度実施概要(平成23年度については未定。若干の変更の予定があります。)		
成績評価の方法	講義ノート(レポート以外の部分) 30%、グループ討論・発表内容(40%)、レポート(30%)として評価を行い、それらを集計して最終評価とします。		

(注) 「かごしまカレッジ教育」の履修が条件となります。

授業科目	かごしまフィールドスクール	担当者	県内12大学の担当教員
		[履修年次] 1年 [学期] 前期集中 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【概要】地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らしなどにかかわる地域・施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし、今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し、今後、地域を活性化していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらを発展させる方策などについて考えます。</p> <p>この活動により、鹿児島の本質と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけ、あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。なお、4,500円程度の宿泊経費等が必要となります。</p> <p>【学習目標】</p> <p>①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を地産する。</p> <p>②同地区等のさらなる活性化のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。</p> <p>③実地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。</p> <p>テーマ別に編成されたグループにおいて、これらの3つの学習目標を達成する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	平成22年度実施概要(平成23年度は未定。若干の変更の予定があります。)		
成績評価の方法	地域学習を通して指定地区等の独自性を調査・認識し、グループ討論・発表とレポート作成を行います。 実地調査等30%(学習目標①)、グループ討論・発表20%と提案内容20%(学習目標②)、レポート30%(学習目標③)として評価を行い、それらを集計して最終評価とします。		

(注) 「かごしま教養プログラム」の履修が条件となります。

授業科目	社会活動	担当者	担当教員全員
	[履修年次] 年次指定なし [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100％）		

授業科目	企業研修	担当者	担当教員全員
	[履修年次] 1年 [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100％）		

2 教養科目（外国語科目）

授業科目	英語 I (A)	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日常会話で使える英語表現を学ぶ。</p> <p>【概要】スヌーピーの漫画をきっかけにして、日常生活の様々な場面で使える英語のキーワードや表現を学ぶ。重要な文法事項についても適宜復習したい。</p> <p>【到達目標】さまざまな状況での英会話練習を通して、リスニング力や発音力を向上させるとともに、文法知識を再確認する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	今泉志奈子&井上彰 <i>Let's Speak English with SNOOPY!</i> (英宝社, 2004)		
授業スケジュール	第 1回 UNIT 1 第 2回 UNIT 2 第 3回 UNIT 3 第 4回 UNIT 4 第 5回 UNIT 5 第 6回 UNIT 6 第 7回 UNIT 7 第 8回 UNIT 8 第 9回 UNIT 9 第 10回 UNIT 10 第 11回 UNIT 11 第 12回 UNIT 12 第 13回 UNIT 13 第 14回 UNIT 14 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業への積極的な参加度 (30%) , 小テスト (30%) , オーラル試験 (40%)		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語 I (A)	担当者	太田 一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実</p> <p>【概要】(1)ビデオ教材の視聴による聴き取りの訓練, および会話表現等の学習</p> <p>ビデオ教材で日常の会話で使用される生の英語にふれ, 英語の音声 (プロソディ) に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。</p> <p>(2)シャドーイング, 音読による訓練によるスピーキング力の養成</p> <p>モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで, 英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材 (または副教材) を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。</p> <p>【到達目標】日常場面で相手の考えを理解し, 情報を伝えることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) NEW HEADWAY VIDEO (Elementary) John Murphy 著 (Oxford University Press) (2) 授業中に適宜指示。		
授業スケジュール	第 1~2回 ガイダンスおよび練習法 (シャドーイングなど) の解説 第 3~4回 A New Neighbour 第 5~6回 To the Rescue 第 7~8回 Dinner for Two 第 9~10回 Change of a Dress 第 11~12回 A Long Weekend 第 13回 復習 第 14回 朗読試験 第 15回 まとめと試験 【注意】LL 教室を使っている授業なので, 遅刻は厳禁です。		
成績評価の方法	平常点 30%と試験 70%。試験は朗読と筆記の二種類。		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語 I (A)	担当者	塚崎 香織
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初歩的な英文を読んで、英語を読む際に必要なさまざまなスキルを身につけるとともに、テーマごとに関連する語彙を習得する。また、リスニングの練習も同時に行い、リーディングとリスニングを関連づける。</p> <p>【概要】必要な情報を探して素早く英文を読む、概要・要点を大まかに把握する、パラグラフの構造を理解する、わからない単語の意味を推測するなどのスキルを練習する。</p> <p>【到達目標】英語を読む際に必要なさまざまなスキルを駆使して、初歩的な英文の内容を把握できる。 初歩的な英文を聞いて、内容が把握できる。 英語を読んだり聞いたりするのに必要な初歩的な語彙を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Neil J. Anderson & Kawamata Masayuki / <i>Elementary Skills for Reading</i> (成美堂) 特になし		
授業スケジュール	第 1回 He's the Boss: Scanning の練習 第 2回 Working Holiday: Understanding Main Ideas の練習 第 3回 Doing Something Different: Recognizing Purpose の練習 第 4回 The Learning Center: Skimming の練習 第 5回 Sepak Takraw: Reading for Details の練習 第 6回 Are Sports Important?: Making Inferences の練習 第 7回 A Postcard from Hong Kong: Understanding the Order of Events の練習 第 8回 The Burj Al Arab Hotel: Scanning の練習 第 9回 Table Manners: Comparing and Contrasting の練習 第 10回 Homestay Diary: Making Inferences の練習 第 11回 Ask Emma: Skimming の練習 第 12回 Peer Pressure: Making and Checking Predictions 第 13回 A Real Life Superhero: Understanding the Order of Events の練習 第 14回 The Tiffin Men: Scanning の練習 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + 授業ごとに実施する小テスト・レポート等 (40%)		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語 I (A)	担当者	森 孝晴
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リスニングとスピーキングの基礎力の養成</p> <p>【概要】実際に英語で話すことを楽しみ、笑える話を聞いて英語を聞き取る集中力を高めていく。</p> <p>【到達目標】文法や発音に多少の誤りがあっても恥ずかしがらずに話せるようになり、英語を聞きとる基本的な姿勢を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Masakazu Someya, Fred Ferrasci & Paul Murray <i>Humorous Homestay Stories</i> 「リスニングで楽しむホームステイ体験記」 南雲堂 1400円+税 (2)		
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方について。リスニングとスピーキングのコツと注意点について 第 2回 テキスト Unit 1. グループでの英会話 第 3回 テキスト Unit 2. グループでの英会話 第 4回 テキスト Unit 3. グループでの英会話 第 5回 テキスト Unit 4. グループでの英会話 第 6回 テキスト Unit 5. グループでの英会話 第 7回 テキスト Unit 6. グループでの英会話 第 8回 テキスト Unit 7. グループでの英会話 第 9回 テキスト Unit 8. グループでの英会話 第 10回 テキスト Unit 9. グループでの英会話 第 11回 テキスト Unit 10. グループでの英会話 第 12回 テキスト Unit 11. グループでの英会話 第 13回 テキスト Unit 12. グループでの英会話 第 14回 テキスト Unit 13. グループでの英会話 第 15回 まとめと口頭試験		
成績評価の方法	口頭試験 (90%) + 授業への参加状況 (10%)		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語 I (B)	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 前半・鹿児島を英語で紹介 後半・オーストラリアの紹介を通して、基礎的英語運用能力を培う。</p> <p>【概要】 前半は、鹿児島の英文での紹介を基に、よりよい簡単な英語での紹介文を追加する。後半は、オーストラリアの文化、生活などを扱ったビデオ教材を軸に、基礎的英語運用能力の養成を図る。テキストの中の基礎的文法事項に関しては、随時説明を行う。</p> <p>【到達目標】 鹿児島の英語での紹介、およびオーストラリアの文化紹介のテキストを中心に、バランスのとれた基礎的英語運用能力を培う。なおコミュニケーション力をつけるのに必要な基礎的文法力の再確認も行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Kumiko T. Sato, Steve Lia, <i>Australia, Here We Come!</i> Asahi Press (2) 随時プリント		
授業スケジュール	第1回 Introduction (はじめに) 第2回 Street Life (街の生活) 第3回 Public Transport—Commuting (公共交通機関—通勤・通学) 第4回 University Life—The University of Sydney (大学生活—シドニー大学) 第5回 Australian Home (オーストラリアの家) 第6回 Supermarket—Coles (スーパーマーケット—コールズ) 第7回 Daily Life (日常生活) 第8回 Taronga Zoo—Australian Animals (タロンガ動物園—オーストラリアの動物) 第9回 Leisure Time at the Park (海辺でのレジャー) 第10回 Education Programs in Taronga Zoo (タロンガ動物園体験プログラム) 第11回 Leisure Time at the Park (公園でのレジャー) 第12回 Australian Family (オーストラリアの家庭) 第13回 Discussion (ディスカッション) 第14回 Discussion (ディスカッション) 第15回 Examination (定期試験)		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (40%), レポート(60%)で評価する。		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	英語 I (B)	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 音読練習</p> <p>【概要】 半ページくらいの長さのパスセージをできるだけ多く音読することで、表現力、速読・多読力、リスニング力を向上させ、文章構造が理解できるよう訓練する。本文に出て来た文法事項についても適宜解説したい。</p> <p>【到達目標】 やや長めの文章の構造を初見でも捉えて、スムーズに音読できるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	多湖純佳, 安田孝子, 石橋和代 <i>Let's Read Aloud!</i> (南雲堂, 2005)		
授業スケジュール	第1回 Unit 1-1, 1-2, 2-1 第2回 Unit 2-2, 3-1, 3-2 第3回 Unit 4-1, 4-2, 5-1 第4回 Unit 5-2, 6-1, 6-2 第5回 Unit 7-1, 7-2, 8-1 第6回 Unit 8-2, 9-1, 9-2 第7回 Unit 10-1, 10-2, 11-1 第8回 Unit 11-2, 12-1, 12-2 第9回 Unit 13-1, 13-2, 14-1 第10回 Unit 14-2, 15-1, 15-2 第11回 Unit 16-1, 16-2, 17-1 第12回 Unit 17-2, 18-1, 18-2 第13回 Unit 19-1, 19-2, 20-1 第14回 Unit 20-2, 21-1, 21-2 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業への積極的な参加度 (30%), 小テスト (30%), オーラル試験 (40%)		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	英語 I (C)	担当者	太田 一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実</p> <p>【概要】 (1)ビデオ教材の視聴による聴き取りの訓練, および会話表現等の学習</p> <p>ビデオ教材で日常の会話で使用される生の英語にふれ, 英語の音声 (プロソディ) に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。</p> <p>(2)シャドーイング, 音読による訓練によるスピーキング力の養成</p> <p>モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで, 英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材 (または副教材) を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。</p> <p>【到達目標】 日常場面で相手の考えを理解し, 情報を伝えることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) NEW HEADWAY VIDEO (Elementary) John Murphy 著 (Oxford University Press) (2) 授業中に適宜指示。		
授業スケジュール	第 1～2回 ガイダンスおよび練習法 (シャドーイングなど) の解説 第 3～4回 A New Neighbour 第 5～6回 To the Rescue 第 7～8回 Dinner for Two 第 9～10回 Change of a Dress 第 11～12回 A Long Weekend 第 13回 復習 第 14回 朗読試験 第 15回 まとめと試験 【注意】 LL 教室を使つての授業なので, 遅刻は厳禁です。		
成績評価の方法	平常点 30%と試験 70%。試験は朗読と筆記の二種類。		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語 I (C) ※火曜日 4限	担当者	小林 朋子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 特に基礎的な文法力修得に力点を置きながら, リスニング力, 発音力, 文法力を総合的に鍛えることで, スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】 英語のリスニング, 文法, 読解を総合的に学習することで, バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習, 基本的, 発展的な文法事項の確認, 「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法) を意識した速読理解の練習などを通して, 総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>【到達目標】 日常生活の様々な場面において, 相手の情報や考えを理解でき, プロソディー面は理解に支障がない発音で情報や考えを正確に表現できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Power-Up English <Basic> JACET リスニング研究会著 NAN'UN-DO (南雲堂) 刊 授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション 第 2回 Personal Correspondence (現在形・現在進行形) 第 3回 Biography (過去形・過去進行形) 第 4回 Events & Festivals (未来形) 第 5回 Directions & Locations (前置詞) 第 6回 Occupations (代名詞) 第 7回 Instructions (命令文) 第 8回 Health & Physical Condition (疑問文) 第 9回 Service Requests (現在完了) 第 10回 Money (疑問詞を用いた疑問文) 第 11回 Public Signs (助動詞 1) 第 12回 Sports (助動詞 2) 第 13回 History (受動態) 第 14回 Sightseeing (比較) 第 15回 期末試験		
成績評価の方法	筆記試験 (70%), 提出物 (10%), 授業への取り組み態度 (20%) で評価する。		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語 I (C) ※火曜日 5限	担当者	小林 朋子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語の基礎力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法)を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。また各種英語検定試験に対応できるよう補足資料で発展的な問題にも取り組みます。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、または馴染みのある文脈において、相手の情報や考えを理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で情報や考えを表現できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Power-Up English <Basic> JACET リスニング研究会著 NAN'UN-DO (南雲堂) 刊 授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション 第 2回 Personal Correspondence (現在形・現在進行形) 第 3回 Biography (過去形・過去進行形) 第 4回 Events & Festivals (未来形) 第 5回 Directions & Locations (前置詞) 第 6回 Occupations (代名詞) 第 7回 Instructions (命令文) 第 8回 Health & Physical Condition (疑問文) 第 9回 Service Requests (現在完了) 第 10回 Money (疑問詞を用いた疑問文) 第 11回 Public Signs (助動詞1) 第 12回 Sports (助動詞2) 第 13回 History (受動態) 第 14回 Sightseeing (比較) 第 15回 期末試験		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) , 提出物 (10%) , 授業への取り組み態度 (20%) で評価する。		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語 I (C)	担当者	土持 かおり
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この授業のテーマは、リスニングのコツを学びながら、ナチュラルスピードの口語英語に慣れ親しむとともに、日常会話で役立つ表現やフレーズを身につけていくことです。</p> <p>【概要】授業の前半では、洋楽を使ったエクササイズや、チャンツ・パラレルリーディングなどの発音練習で、楽しみながら英語の自然な音声変化やリズムに慣れ、「自然な発音を聞き取るコツ」・「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。授業の後半ではアメリカ旅行と留学を題材としたビデオ教材で、ナチュラルスピードの口語英語の聞き取りに徐々に慣れるとともに、日常会話で使われる英語表現やフレーズを場面ごとに学習していきます。さらにコースの後半では応用編として、映画を利用したリスニング演習を取り入れる予定です。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、またはなじみある場面において、相手の情報や考えを理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で、簡潔に対応できる英語力の習得を目標とする。</p>		
(1) テキスト	(1) Hiroto Ohyagi & Timothy Kiggell 著, <i>Viva! San Francisco</i> . 出版社: マクミラン・ランゲージハウス		
授業スケジュール	<毎回, LL 教室を使用> 第 1回: オリエンテーション / 授業内容と進め方について 第 2回: Do You Have a Reservation, Ma'am? / ホテルでのチェックインに使う表現 第 3回: Would You Like Soup or Salad? / レストランでの食事の注文に使う表現 第 4回: Where's the Fitting Room? / ショッピングに使う表現 第 5回: Good to See You! / 挨拶に使う表現 第 6回: I Enjoyed My Stay / ホテルでのチェックアウトに使う表現 第 7回: You Are One of the Family Now / ホームステイ先での会話表現 第 8回: I Want to Help! / 申し出る・申し出を受ける表現 第 9回: When Do I Have to Return This? / 図書館での本の貸し出しに使う表現 第 10回: Would You Like to Join Us? / 人を誘う・誘われる際の表現 第 11回: Let's Keep in Touch, OK? / 別れに使う表現 第 12回: 映画を利用したリスニング演習 (1) 第 13回: 映画を利用したリスニング演習 (2) 第 14回: 映画を利用したリスニング演習 (3) 第 15回: まとめと試験		
成績評価の方法	授業への取り組み (20%) + 復習のための小テスト (30%) + 定期試験 (50%)		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ (A)	担当者	アンネ ヨハンセン
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を話す・聞く自信と能力を身につける。</p> <p>【概要】 ペアワーク・ゲームなどの方法で、読む・聞く・書く・話す実用的な英語を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 日常生活で必要とされる英語のリスニング力とスピーキング力を向上させていく。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Donald Freeman, Kathleen Graves, Linda Lee 『ICON』 International Communication Through English, McGranhill ISBN 007-124406-9 税込 2,205 円		
授業スケジュール	第 1回 イン트로ダクション 自己紹介 コース説明 第 2回 Unit 1: Is Korean food spicy? 第 3回 Unit 2: Where is volleyball popular? 第 4回 Unit 3: The nightlife is great! 第 5回 Unit 4: It's terrific dance music 第 6回 Unit 5: I don't like horror movies 第 7回 Unit 6: Do you like to eat out? 第 8回 Unit 7: When do you have lunch? 第 9回 Unit 8: I never get enough sleep! 第 10回 Unit 9: Did you go to the gym? 第 11回 Unit 10: Is there an ATM around here? 第 12回 Unit 11: I want to buy a CD 第 13回 Unit 12: That's a nice jacket! 第 14回 Revision 第 15回 Oral test		
成績評価の方法	授業への参加状況 40% 授業態度 20% 会話テスト 40%		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ (A)	担当者	Simon Runswick
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The basic theme of this course is everyday communication in a wide variety of situations such as shopping, asking directions etc.</p> <p>【概要】 In this class the students will be introduced to a variety of everyday English for many basic communication needs. The students will practice the various language functions through different activities including pair work and role play.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to improve the overall communicative abilities of the students in everyday situations.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) <u>ENGLISH FIRSHAND 1</u> Marc Helgesen et al. Longman Asia ELT (2)		
授業スケジュール	第 1回 Introductions and Asking Questions 第 2回 Describing People 第 3回 Schedules and Frequency 第 4回 Describing locations 第 5回 Giving Directions 第 6回 Past activities 第 7回 Review 第 8回 Talking about the Past 第 9回 Getting Information 第 10回 Plans 第 11回 Predictions 第 12回 Shopping 第 13回 Following Instructions 第 14回 Personal Interests and Opinions 第 15回 Review		
成績評価の方法	This class will be assessed based on the weekly performance of students as they participate in activities and on a final oral test.		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ (A)	担当者	Brian Pedersen
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The theme of the course is to provide students with a solid grounding of English vocabulary in a wide variety of topics</p> <p>【概要】 Communicating in English requires a wide vocabulary. Students will be able to use this class to begin self-directed studies based around topics of interest and relevance. Students gain confidence with the support they initially receive in pair work with fellow students and they will also be able to work at their own pace to maximize their language development.</p> <p>【到達目標】 A successful outcome for this course would be students who take responsibility for their own learning outside of the class room having initially built up skills and confidence inside it.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Oxford Picture Dictionary Second Edition English/Japanese		
授業スケジュール	第 1回 Greetings and exchanging personal information 第 2回 Times dates and weather 第 3回 Prepositions and locations 第 4回 Describing people 第 5回 Families 第 6回 Daily routines and life events 第 7回 Mid-term self-study and/or review 第 8回 Food preparation and safety. Ordering. 第 9回 Health and wellness. 第 10回 City streets, maps, directions. 第 11回 Jobs and occupations 第 12回 Leisure and entertainment 第 13回 The wider world 第 14回 Review and/or self-study 第 15回 Final oral presentation		
成績評価の方法	Class participation 20% Class work 50% Final oral presentation 30%		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ (A)	担当者	James Scott
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Talking about one's own ideas and feelings</p> <p>【概要】 Students will share their ideas regarding a wide range of topics</p> <p>【到達目標】 To improve students' skills in communicating their ideas and feelings in English</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Active Skills for Communication by Chuck Sandy and Curtis Kelly. Publisher: Heinle (Cengage Learning)		
授業スケジュール	第 1回 Introduction to the course. 第 2回 Class Album 第 3回 Favorite Photos 第 4回 Personal Goals 第 5回 Self-Improvement Plan 第 6回 Believe It or Not 第 7回 Where I grew up 第 8回 Bargain Shopper 第 9回 Flea Market 第 10回 第 11回 第 12回 (Note: Each of the themes referred to above will probably take two class sessions) 第 13回 第 14回 第 15回		
成績評価の方法	Class participation, Oral Examination		

(注) 日本語日本文学専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ(B)	担当者	フィリップ アダメック
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語で鹿児島を紹介し、国際的なコミュニケーション力の養成。 Using English to introduce familiar aspects of life in Kagoshima and to enhance international communication skills.</p> <p>【概要】学生は日本とその文化、特に鹿児島での生活について学びたがっているアメリカ人 ペンパルとの会話をノートに書き留めていきます。 Students maintain notebooks as they develop a dialogue with an American pen pal who seeks to learn about Japan, its customs, and specifically life in Kagoshima.</p> <p>【到達目標】日常生活の様々な場面において、同世代のペンパルとのやりとりによって、意思疎通をスムーズに出来るようにする。情報や考えを理解でき、会話を続行させる方略(言い換え、繰り返し、強調等)をうまく用いて、沈黙をせずに相手と話し続けられる。To practice non-academic English and basic writing skills by developing a sustained dialogue with an English speaker of a similar age and interests. Grammar is studied in the context of a cultural exchange.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 無印良品ノート (21×14.5 cm) (2) 特になし		
授業スケジュール	第1回: 紹介 Introduction 第2回~第6回: リーディング, ディスカッション, 手紙の内容把握 第7回: 小テスト(文法問題や内容把握等) 第8回~第14回: リーディング, ディスカッション, 手紙の内容把握 15回: 小テスト(文法問題や内容把握等)		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の割合 (35%) Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%) Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ(B)	担当者	メアリー マクセイ
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語のコミュニケーション能力を向上する授業</p> <p>【概要】リスニングとスピーキングの練習を毎週ペアワークで行います。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、または馴染みのあるコンテキストにおいて、相手の情報や考えを理解でき、つなぎことばを用いるなどして(時には相手の援助を得て)、不自然な沈黙がない程度に相手と意思疎通がとれる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Buckingham & Whitney, <i>Passport to New Places</i> , Oxford University Press		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 Unit 1 第3回 Unit 2 第4回 Unit 3 第5回 Unit 4 第6回 Unit 5 第7回 Review unit 第8回 Unit 1-5 quiz 第9回 Unit 6 第10回 Unit 7 第11回 Unit 8 第12回 Unit 9 第13回 Unit 10 第14回 Review unit 第15回 Unit 6-10 quiz		
成績評価の方法	授業での参加の割合 (35%), クイズ/授業での発表 (65%)		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ(C)	担当者	Brian Pedersen
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The theme of this course is acquiring the language skills to function in a college setting, being able to explain to others one's situation and ask relevant questions of others to aid conversation.</p> <p>【概要】 Using topics centered around daily college life lessons are centered on a basic structure, allowing students to create many meaningful sentences. Students learn how to avoid making the kinds of mistakes which typically hinder conversation such as long silences and overly short answers.</p> <p>【到達目標】 A successful outcome for this course would be students with a good grounding in structures and vocabulary that are relevant to their situation, acquired through enjoyable and focused drilling.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Conversations in class New edition Alma publishing		
授業スケジュール	第1回 Introductions 第2回 Sounding natural- Silence and conversation 第3回 Daily life 第4回 University life 第5回 Directions 第6回 Skills 第7回 Mid-term Review and/or self-study 第8回 Family 第9回 Travel 第10回 Free time 第11回 Money 第12回 Hometown 第13回 Future 第14回 Review and/or self-study 第15回 Final oral presentation		
成績評価の方法	Class participation 70% Final oral presentation 30%		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ(C)	担当者	アンネ ヨハンセン
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を話す・聞く自信と能力を身につける。</p> <p>【概要】 ペアワーク・ゲームなどの方法で、実用的な英語を学ぶ授業をする。</p> <p>【到達目標】 日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、会話を続行させる方略(言い換え、繰り返し、強調等)をうまく用いて、沈黙をせずに相手と話し続けられる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Angela Buckingham Miles (Raven, David Williamson) 『GET REAL』 Macmillan ISBN 978-4-7773-6075-8 税込 2,400 円		
授業スケジュール	第1回 It's my birthday on July 3 rd 第2回 What do people do at Christmastime? 第3回 Why don't we have a party? 第4回 I'll have soup, please 第5回 I like jazz a lot. 第6回 I hate horror movies. 第7回 Review 1 第8回 How far is it to the airport? 第9回 How high is Mount Everest? 第10回 He went to Hollywood in 1996. 第11回 I got engaged in January. 第12回 How much rice do you want? 第13回 How much paper do you recycle? 第14回 Review 2 第15回 Oral test		
成績評価の方法	授業への参加状況 40% 授業態度 20% 会話テスト 40%		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ (C)	担当者	Simon Runswick
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The basic theme of this course is everyday communication in a wide variety of situations such as shopping, asking directions etc.</p> <p>【概要】 In this class the students will be introduced to a variety of everyday English for many basic communication needs. The students will practice the various language functions through different activities including pair work and role play.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to improve the overall communicative abilities of the students in everyday situations.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) <u>ENGLISH FIRSTHAND 1</u> Marc Helgesen et al. Longman Asia ELT (2)		
授業スケジュール	第1回 Introductions and Asking Questions 第2回 Describing People 第3回 Schedules and Frequency 第4回 Describing locations 第5回 Giving Directions 第6回 Past activities 第7回 Review 第8回 Talking about the Past 第9回 Getting Information 第10回 Plans 第11回 Predictions 第12回 Shopping 第13回 Following Instructions 第14回 Personal Interests and Opinions 第15回 Review		
成績評価の方法	This class will be assessed based on the weekly performance of students as they participate in activities and on a final oral test.		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	English II (C)	担当者	Andrew Daniels
	[履修年次] 1st year [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course aims to help students develop speaking strategies in basic English conversation situations. Working around units from a set textbook, students will be encouraged to give their own opinions as well as finding out the views of their classmates through participating in group discussions.</p> <p>【概要】 Students will work on listening and speaking skills to develop their confidence in familiar scenarios.</p> <p>【到達目標】 Emphasis will be on trying to reduce unnatural silence and practicing transitional or filler words to create natural, friendly conversations that students can reproduce easily.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Talk Time (Student Book 2) by Susan Stempleski (Oxford University Press) (2)		
授業スケジュール	第1回-第7回 Key topics from the first half of the textbook Jobs/Weekend activities/Music/ Vacations 第8回 Review Quiz 第9回-第14回 Key topics from later chapters of the textbook Clothes and Fashion/Cooking/ Places around Town 第15回 Final Oral Review		
成績評価の方法	In class short presentations 30% Short vocabulary tests 20% Mid Term Quiz 20% Final Oral Quiz 30%		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(A)	担当者	メアリー マクセイ
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 英語のコミュニケーション能力を向上する授業 【概要】 前期のつづきで、リスニングとスピーキングの練習を毎週ペアワークで行います。 【到達目標】 コミュニケーション能力の4つの要素（文法能力、社会言語能力、談話能力、方略的能力）をそれぞれ密接に絡めながら、日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力の向上を向上させていく。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Buckingham & Whitney, <i>Passport to New Places</i> , Oxford University Press		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 Unit 11 第3回 Unit 12 第4回 Unit 13 第5回 Unit 14 第6回 Unit 15 第7回 Review unit 第8回 Unit 11-15 quiz 第9回 Unit 16 第10回 Unit 17 第11回 Unit 18 第12回 Unit 19 第13回 Unit 20 第14回 Review unit 第15回 Unit 16-20 quiz		
成績評価の方法	授業での参加の度合（35%）、クイズ/授業での発表（65%）		

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ(B)	担当者	土持 かおり
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 この授業のテーマは、ショートドラマや映画を利用して、英語圏の人々が日常生活で使用している「生きた自然な英語」に触れながら、リスニングを中心にコミュニケーションに必要な英語力をつけていくことです。 【概要】 授業の前半では、洋楽を使ったエクササイズや、チャンツ（リズム練習）・パラレルリーディング（音声を聞きながらの音読）・シャドーイングなどの口頭練習で、楽しみながら英語の音声変化やリズム・イントネーションに慣れ、「自然な発音聞き取るコツ」・「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。 授業の後半では、ニューヨークに住む6人の男女が繰り広げるショートドラマによるリスニング演習で、ナチュラルスピードの口語英語の聞き取りに徐々に慣れるとともに、日常生活で役立つ会話表現や語彙を学習していきます。 さらにコースの後半では応用編として映画を利用したリスニング演習を取り入れ、ストーリーを楽しみながら、よりナチュラルな「生きた自然な英語」のリスニング演習に取り組みます。 【到達目標】 日常生活になじみのある場面において、ナチュラルスピードに近い自然な英語での発話の意図を理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で、簡潔に対応できる英語力の習得を目指します。		
(1) テキスト	Susan Stempleski 著, <i>World Link Video Course Intro</i> . 出版社: トムソン		
授業スケジュール	<毎回, LL 教室を使用> 第1回: オリエンテーション / 授業内容と進め方について 第2回: Please Call me Dave. / 自己紹介 第3回: Where is it? / 英語でゲーム 第4回: A Cool Gift / ショッピングで使う表現 (1) 第5回: Takeshi's Food Video / 食べ物・食習慣を英語で表現 第6回: Meals & Likes and Dislikes / 食習慣についての簡単なインタビューを聴く 第7回: Welcome to New York! / 住生活・友達との再会 第8回: Dear Mum and Dad / 日常生活を英語で表現 (1) 第9回: Mike's "Busy" Day / 日常生活を英語で表現 (2) 第10回: Times and Schedules / 日常生活についての簡単なインタビューを聴く 第11回: What do I wear to the party? / ショッピングで使う表現 (2) 第12回: 映画を利用したリスニング演習 (1) 第13回: 映画を利用したリスニング演習 (2) 第14回: 映画を利用したリスニング演習 (3) 第15回: まとめと試験		
成績評価の方法	授業への取り組み (20%) + 復習のための小テスト (30%) + 定期試験 (50%)		

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ(C)	担当者	塚崎 香織
		[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリスの暮らしと文化に関する読み物を通して、日英の文化の違いについて学ぶ。英語を読む際に必要なさまざまなスキルを身につけるとともに、各章のテーマに関連した語彙を習得する。リーディング、リスニング、ライティングに関連づけた活動を行う。</p> <p>【概要】主に、必要な情報を探して素早く英文を読む、概要・要点を大まかに把握する、パラグラフの構造を理解する、わからない単語の意味を推測するなどのスキルを練習する。</p> <p>【到達目標】英語を読む際に必要なさまざまなスキルを駆使して、英文の内容を把握できる。英文を聞いて、内容を把握できる。自分が伝えたいことを簡単な英文で表現できる。教科書のテーマごとに関連した語彙を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Terry O'Brien, Miwa Uhara and Hiroshi Kimura / <i>Gateway to Britain</i> (南雲堂) 特になし		
授業スケジュール	第1回 Check In and Work Out: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第2回 What Will the Weather Be Like?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第3回 A London without Red Buses?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第4回 Back to the Future: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第5回 Shop'n'Chat: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第6回 More Than Just a Post Office: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第7回 Off the Beaten Path: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第8回 Pubs in Decline: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第9回 Dining Out Diversity: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第10回 Afternoon Tea: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第11回 The Beatles Are Forever: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第12回 Football: Sport or Business?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第13回 The Royal Family or TV Melodrama?: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第14回 Preserving Britain: 語彙・内容理解・作文・リスニングの練習 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + 授業ごとに実施する小テスト・レポート等 (40%)		

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ(D)	担当者	太田 一郎
		[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語のリスニングおよびスピーキング力の発展・充実 (初中級～中級レベル)</p> <p>【概要】(1)ビデオ等の視聴による聴き取りの訓練, および会話表現等の学習 ビデオ教材等で日常の会話で使用される生の英語にふれ、英語の音声 (プロソディ) に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。</p> <p>(2)シャドーイング, 音読による訓練によるスピーキング力の養成 モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで、英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材及び副教材を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。</p> <p>【到達目標】日常場面で相手の考えを理解し、情報を伝えることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)プリント等による (2) 授業中に適宜指示する		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 第2～13回 シャドーイング等によるリスニング・スピーキングの訓練 第14回 朗読試験 第15回 まとめと試験 【注意】LL教室を使つての授業なので、遅刻は厳禁です。		
成績評価の方法	平常点30%と試験70%。試験は朗読と筆記の二種類		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(E)	担当者	ティムソン デイビット
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 Developing oral communication skills and learning to express ideas and opinions in English. 【概要】 アメリカ英語におけるスピーキングの修正とリスニング・アクティビティを主におこなう。このコースでは、生徒が自信を持って自分の考えや意見をペア・アクティビティやグループ・アクティビティで表現できるように、興味深い革新的で幅広いトピックを取り上げる。ネイティブ・スピーカーの自然な会話の録音をリスニングの教材として使用するリスニング・アクティビティにより、リスニングスキルを向上させる。 【到達目標】 4つのコミュニケイティブ・スキル (reading, writing, listening, speaking) を上達させる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定		
授業スケジュール	第1回 Interests and Hobbies 第2回 Health 第3回 Holidays 第4回 Shopping 第5回 Movies 第6回 Sports 第7回 Travel 第8回 Hotel 第9回 Social Issues 第10回 Culture 第11回 Appearances 第12回 Work 第13回 Memories 第14回 Restaurant 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス (80%) + 宿題, 授業中に行う小テストの成績 (20%)		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(F)	担当者	アンネ ヨハンセン
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 英語を話す・聞く自信と能力を身につける。 【概要】 ペアワーク・ゲームなどの方法で、実用的な英語を学ぶ授業をする。 【到達目標】 日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、会話を続行させる方略（言い換え、繰り返し、強調等）をうまく用いて、沈黙をせずに相手と話し続けられる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	Tom Kenny & Linda Woo 『Nice Talking With You I 』 ISBN 976-0-521-18808-1 Cambridge University Press 税込 2,100 円		
授業スケジュール	第1回 Introductions 第2回 Family 第3回 Shopping 第4回 Food 第5回 Music 第6回 Free time 第7回 Review 1 第8回 Travel 第9回 Sports 第10回 Friends 第11回 Work 第12回 Movies 第13回 Personal tech 第14回 Review 2 第15回 Oral test		
成績評価の方法	授業への参加状況 40% 授業態度 20% 会話テスト 40%		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(G)	担当者	James Scott
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 This class will focus almost exclusively on speaking and listening 【概要】 Students will spend most of their time telling and listening to stories about themselves and others. 【到達目標】 To improve students' speaking and listening skills		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) <u>Tell Me Your Stories</u> , by Bob Jones and David Coulson (2) Publisher: MacMillan Language House		
授業スケジュール	第1回 Introduction. 第2回 Talking about movies. 第3回 Talking about bad luck and minor accidents. 第4回 Describing our feelings about things that have happened. 第5回 Talking about happy events and achievements. 第6回 Showing interest and responding to other peoples stories. 第7回 Making comments while listening / adding a story of our own. 第8回 Talking about a time when one bad thing happened after another. 第9回 Talking about one' s childhood. 第10回 Telling interesting stories about people we know. 第11回 Adding interesting stories to conversation / Explaining words we don` t know. 第12回 (Each topic will probably require about one and a half class periods) 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法	Class participation, oral examination		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ(H)	担当者	小林 朋子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 多様な題材を扱った英文を精読することで, 英文を正確に速読する力を養う。 【概要】 英文を読むとき, 意味のまとまり (フレーズ) ごとに区切って, 前から後ろへと英語の語順で読解していく方法を「フレーズ・リーディング」といいます。英文を「戻り読み」せず, 「フレーズ・リーディング」することで, 意味のまとまりを意識し, より正確にまたより迅速に英文を読解することができるようになります。授業では「フレーズ・リーディング」を基本的読解法と位置付け, 身近な話題から時事問題までを扱った多種多様な英文を題材に, 幅広い語彙力を養いながら多読, 速読の技術を修得します。 【到達目標】 多様なジャンルの英文を, より迅速により深く読めることを目標とする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 田村朋子 他著 <i>Phrase Reading</i> (センテンス・リーディング) (2) 授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第1回 インタロダクション 第2回 Extreme Ironing 第3回 Food and Culture 第4回 Life after Death? 第5回 Addicted to the Mall 第6回 The Working Poor 第7回 A Child Hero 第8回 Don't Be Fooled Again 第9回 The Government Department of Dating and Marriage 第10回 Undercover Marketing 第11回 A Healthy Diet for Everyone 第12回 Anger around the World 第13回 Online Dating Goes Mainstream 第14回 リーディング力UP講座 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (80%), 提出物 (10%), 授業への取組み態度 (10%) で評価する。		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(A)	担当者	ジェイムズ スコット
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 テーマは、中級程度（レベルで言えば、TOEIC 500～650 英検 2 級）のコミュニケーション能力の育成にある。</p> <p>【概要】 このコースでは、英語で様々なトピックを議論するために必要とされる技能（スキル）を受講生が身に付けることができるようにする。そのために、受講生は自分自身の意見を英語で表明したり、英語で述べられる他者の意見を尊重したりして、大半の時間を英語での作業遂行活動に費やすことになる。</p> <p>【到達目標】 コミュニケーション能力の4つの要素（文法能力、社会言語能力、談話能力、方略的能力）をそれぞれ密接に絡めながら、日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力を向上させることを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) English Firsthand 2 (New Gold Edition), by Marc Helgesen, et. al. Publisher: Longman Asia ELT		
授業スケジュール	<p>第1回：Introduction to the Course--Discussing course objectives (導入ーコースの目標についての説明)</p> <p>第2回："Do you remember when?" --Talking about the past (1) (いつか覚えているかー過去についての話し合い(1))</p> <p>第3回："Do you remember when?" --Talking about the past (2) (いつか覚えているかー過去についての話し合い(2))</p> <p>第4回："Making plans"--Planning to do something (1) (計画の作成ー物事をするための計画(1))</p> <p>第5回："Making plans"--Planning to do something (2) (計画の作成ー物事をするための計画(2))</p> <p>第6回："What should I do?" --Asking for and giving advice (1) (何をすべきかー忠告を求め尋ねる方法(1))</p> <p>第7回："What should I do?" --Asking for and giving advice (2) (何をすべきかー忠告を求める方法と尋ねる方法(2))</p> <p>第8回："Tell me a story"--Storytelling (1) (物語の語り方ーその方法(1))</p> <p>第9回："Tell me a story"--Storytelling (2) (物語の語り方ーその方法(2))</p> <p>第10回："In my opinion"--Expressing opinions (1) (私の意見ではー意見の表明の仕方(1))</p> <p>第11回："In my opinion"--Expressing opinions (2) (私の意見ではー意見の表明の仕方(2))</p> <p>第12回："Looking ahead"--Talking about the future (1) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(1))</p> <p>第13回："Looking ahead"--Talking about the future (2) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(2))</p> <p>第14回："Looking ahead"--Talking about the future (3) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(3))</p> <p>第15回：定期試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + クラス活動への参加 (30%) を基準に、総合的に評価する。		

(注) 日本語日本文学専攻, 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅳ(B)	担当者	Simon Runswick
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The main theme of this class is listening and speaking skills in a variety of day-to-day interactions.</p> <p>【概要】 In this class the students will be presented with a range of listening and speaking activities in a variety of situations. The course will focus on developing the skills needed to successfully communicate in and comprehend day-to-day situations.</p> <p>【到達目標】 The basic aim of this course is to revise and improve the students listening and speaking skills.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) NORTH STAR Focus on Listening and Speaking – Basic L. Frazier and R. Mills Longman Asia ELT (2)		
授業スケジュール	<p>第1回 Jobs</p> <p>第2回 The Country</p> <p>第3回 The City</p> <p>第4回 Money</p> <p>第5回 Shopping</p> <p>第6回 Questioning styles</p> <p>第7回 Review</p> <p>第8回 Sports and Competition</p> <p>第9回 Male and Female Roles</p> <p>第10回 Food</p> <p>第11回 Vacations</p> <p>第12回 Polite Requests</p> <p>第13回 Staying Healthy</p> <p>第14回 Agreement and Disagreement</p> <p>第15回 Review</p>		
成績評価の方法	This class will be assessed based on the weekly performance of students as they participate in activities and on a final listening and oral test.		

(注) 日本語日本文学専攻, 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅳ(C)	担当者	ジェイムズ スコット
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】テーマは、中級程度（レベルで言えば、TOEIC 500～650 英検 2 級）のコミュニケーション能力の育成にある。</p> <p>【概要】このコースでは、英語で様々なトピックを議論するために必要とされる技能（スキル）を受講生が身に付けることができるようにする。そのために、受講生は自分自身の意見を英語で表明したり、英語で述べられる他者の意見を尊重したりして、大半の時間を英語での作業遂行活動に費やすことになる。</p> <p>【到達目標】コミュニケーション能力の4つの要素（文法能力、社会言語能力、談話能力、方略的能力）をそれぞれ密接に絡めながら、日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力を向上させることを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) English Firsthand 2 (New Gold Edition), by Marc Helgesen, et. al. Publisher: Longman Asia ELT		
授業スケジュール	<p>第1回：Introduction to the Course--Discussing course objectives (導入ーコースの目標についての説明)</p> <p>第2回："Do you remember when?" --Talking about the past (1) (いつか覚えているかー過去についての話し合い(1))</p> <p>第3回："Do you remember when?" --Talking about the past (2) (いつか覚えているかー過去についての話し合い(2))</p> <p>第4回："Making plans"--Planning to do something (1) (計画の作成ー物事をするための計画(1))</p> <p>第5回："Making plans"--Planning to do something (2) (計画の作成ー物事をするための計画(2))</p> <p>第6回："What should I do?" --Asking for and giving advice (1) (何をすべきかー忠告を求め尋ねる方法(1))</p> <p>第7回："What should I do?" --Asking for and giving advice (2) (何をすべきかー忠告を求める方法と尋ねる方法(2))</p> <p>第8回："Tell me a story"--Storytelling (1) (物語の語り方ーその方法(1))</p> <p>第9回："Tell me a story"--Storytelling (2) (物語の語り方ーその方法(2))</p> <p>第10回："In my opinion"--Expressing opinions (1) (私の意見ではー意見の表明の仕方(1))</p> <p>第11回："In my opinion"--Expressing opinions (2) (私の意見ではー意見の表明の仕方(2))</p> <p>第12回："Looking ahead"--Talking about the future (1) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(1))</p> <p>第13回："Looking ahead"--Talking about the future (2) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(2))</p> <p>第14回："Looking ahead"--Talking about the future (3) (将来の出来事や状況を判断ー将来についての話し合い(3))</p> <p>第15回：定期試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + クラス活動への参加 (30%) を基準に、総合的に評価する。		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(D)	担当者	土持 かおり
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この授業のテーマは、映画を利用して、英語圏の人々が日常生活で使用している「生きた自然な英語」にふれながら、リスニングとスピーキングを中心に英語でのコミュニケーションに必要な力をつけていくことです。</p> <p>【概要】映画を使った英語学習には、(1) ストーリーを楽しみながら英語を学べる、(2) オーセンティックな(本物の)英語のシャワーを受けながら英語学習ができる、(3) 会話表現・フレーズとそれを使う場面・状況をセットで学習できる、などの利点があります。</p> <p>授業では、1本の映画(『ゴースト』<サスペンス・ラブストーリー>)を14回に分けて使用し、ストーリーを楽しみながら、ナチュラルスピードの英語の聞き取り演習に取り組んでいくとともに、日常生活で使われる口語表現や語彙を学習していきます。さらに、英語のセリフをモデルとしたパラレルリーディング(音声を聞きながらの音読練習)やロールプレイで、英語らしいリズムやイントネーションで話せるように発音練習をしていきます。</p> <p>また、日・英セリフの対比や、英語セリフ・日本語セリフ作成演習を通して、ことばの表現力を高めていきます。</p> <p>【到達目標】日常生活のなじみのある場面において、ナチュラルスピードの自然な英語での発話の意図を理解できる英語力、それに簡潔に対応できる/自分の意思を表現できる英語力の習得を目標とします。</p>		
(1) テキスト	(1) 教師作成のプリントを毎回使用します。		
授業スケジュール	<p><毎回、LL教室を使用></p> <p>第1回：授業内容と進め方 / 映画を使った英語学習について</p> <p>第2回：The Loft / 友人同士の会話(新居)</p> <p>第3回：Unchained Melody / 同僚との会話(オフィス)</p> <p>第4回：Life After Death / 恋人との会話(路上)</p> <p>第5回：Willy Lopez / 友人との会話(自宅)</p> <p>第6回：Spiritual Adviser / 初対面の相手との会話(店内)</p> <p>第7回：The Truth / 初対面の相手との会話(店内)</p> <p>第8回：Molly's Apartment / 知人との会話(自宅)</p> <p>第9回：The Police Station / 警察官との会話(警察)</p> <p>第10回：Rita Miller / 顧客との会話(銀行)</p> <p>第11回：Revenge / 友人との会話(自宅)</p> <p>第12回：The Penny / 知人との会話(自宅)</p> <p>第13回：With All my Heart / 知人との会話(自宅)</p> <p>第14回：Last Chance / 恋人との会話</p> <p>第15回：まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業への参加と取り組み (20%) + 復習のための小テスト・セリフ作成課題など (40%) + 定期試験 (40%)		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(E)	担当者	アンネ ヨハンセン
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ビジネスで使える英語を学ぶ。</p> <p>【概要】 オフィスでの簡単な英会話から、電話の対応、FAX・電子メールのやり取りをアクティビティを通して学ぶ。</p> <p>【到達目標】 限定された、職場において必要とされる英語を理解し、日常の業務を適切に遂行できる英語力を養成する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Tae Kudo 『First Steps to Office English』 Cengage Learning, ISBN 978-4-86312-180-5 税込 2,205 円		
授業スケジュール	第 1回 インTRODクシヨN 自己紹介 コース説明 第 2回 It's nice to meet you. 第 3回 What does 'FYI' mean? 第 4回 May I speak to Mr.Yoshioka? 第 5回 May I take a message? 第 6回 I have a headache. 第 7回 I have another appointment at 9:30. 第 8回 Would you like something to drink? 第 9回 Let's go out for a drink. 第 10回 How was your weekend? 第 11回 The sales department is on the 3 rd floor. 第 12回 Turn right on Main Street. 第 13回 First, press the start button. 第 14回 I'd like to check in. 第 15回 Oral test		
成績評価の方法	授業への参加状況 40% 授業態度 20% 期末テスト 40%		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(F)	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 テーマは、TOEIC 500点以上の取得、英検2級取得を目指すように、学生の語彙力を増やし、英文法を再確認させ、長文読解のコツを身に付けさせて、英語学習への意欲を高める。</p> <p>【概要】 授業では、高校で学習した英文法の基礎知識を再確認させる。テキストは毎回2章ずつ進むので、予習が必要となる。また、授業中に語彙力・文法力・並べ換えによる作文力・メール文の読解力を高める問題に取り組みさせる(プリント学習)。担当者が解説を試み、間違った箇所をチェックさせることで、受講生の英語力のアップをはかり、学習意欲が高まるような工夫を凝らす。リスニング問題にも取り組めるようにLL教室を使用する。</p> <p>【到達目標】 受講生がTOEIC 500点以上の取得あるいは英検2級の取得を目指すような英語力を身に付けることを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 小池直己・佐藤誠司『5分間 実践英文法』南雲堂 適宜、プリントによる問題も配布する。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション (授業の進め方の説明) 第 2回 Unit 1~2 動詞 第 3回 Unit 3~4 不定詞 第 4回 Unit 5~6 分詞 第 5回 Unit 7~8 動名詞 第 6回 Unit 9~10 代名詞 第 7回 Unit 11~12 関係詞 第 8回 Unit 13~14 前置詞 第 9回 Unit 15~16 接続詞・時制 第 10回 Unit 17~18 形容詞 第 11回 Unit 19~20 副詞 第 12回 Unit 21~22 比較 第 13回 Unit 23~24 助動詞, 受動態 第 14回 Unit 25~26 仮定法, 語法 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (60%), 予習を含む授業への取り組み (40%)		

(注) 全専攻の学生が選択可能

授業科目	英語Ⅳ(G)	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 英文読解力と語彙力の養成 【概要】 4年制大学編入を視野に入れて、構文と論理の組み立てを追いながら、英文を正確に読む練習をする。 【到達目標】 構文と論理展開を手がかりにして英文を正確に読めるようになる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 英検2級・TOEFL 対策長文問題集, 吉田晴世, 吉田信介, 松柏社。その他参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 第2回 英文読解演習(1) 第3回 英文読解演習(2) 第4回 小テスト(1) 第5回 英文読解演習(3) 第6回 英文読解演習(4) 第7回 英文読解演習(5) 第8回 英文読解演習(6) 第9回 小テスト(2) 第10回 英文読解演習(7) 第11回 英文読解演習(8) 第12回 英文読解演習(9) 第13回 英文読解演習(10) 第14回 英文読解演習(11) 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	小テスト (40%) + 試験 (30%) + 授業への参加状況 (30%)		

(注) 全専攻の学生が選択可能

授業科目	異文化コミュニケーション (英語)	担当者	英語担当教員全員
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 通年 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジで研修を行う。授業は英語研修とアメリカ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。</p> <p>2010年度ハワイ研修の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/3(金)～9/19(日) ・参加者 14名 ・研修費用 約29万円(授業料, 往復航空券, 滞在費, 朝食と昼食の食費, 保険料) <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジの担当教員が指示		
授業スケジュール	<p>事前指導 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行う。ハワイ大学コミュニティカレッジでの研修内容の説明, 海外渡航に伴う種々の事柄の説明, 前もって課題(レポート作成)の指示。</p> <p>海外研修 9月を予定(約2週間), 現地の大学で午前中に英語の授業, 午後に文化に関する授業(フラダンス, レイ作り, ハワイの文化, ハワイの植物), その他学外授業としての見学。</p> <p>事後指導 帰国後に総括</p>		
成績評価の方法	担当教員が課した課題(研修日誌, 体験記)(50%)とハワイでの研修状況(50%)で評価する。		

授業科目	異文化コミュニケーション (中国語)	担当者	中国語担当教員全員
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 通年 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた中国語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は、わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は、中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中、基礎的な実用中国語を習得し、さらに、南京農業大学の学生と交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。</p> <p>※2010年度中国研修の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程: 8月28日(土)～9月11日(土) [15日間] ・参加者: 13名(文学科日本語日本文学専攻5名, 英語英文学専攻2名, 商経学科経済専攻3名, 経営情報専攻3名) ・費用: 約14万円(授業料, 往復航空券, 寮の滞在費, 南京市内・市外の見学費用) <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。		
授業スケジュール	<p>事前指導 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行います。</p> <p>[1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明, [2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明, [3] 課題(レポート作成)の指示などです。</p> <p>海外研修 9月の夏期休業期間に約2週間実施予定です。現地の大学で午前中に中国語の授業を受けます。午後はさまざまな活動を通じて、中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語学部の学生と交流します。</p> <p>事後指導 帰国後に総括します。</p>		
成績評価の方法	担当教員が課した課題, および中国での学習成果を基に成績を算出します。		

授業科目	ドイツ語Ⅰ	担当者	竹内 宏
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現在ヨーロッパでは、EU（ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一）という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また、ドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら、ドイツ語を学習します。</p> <p>【概要】ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが、「習うより慣れろ」をモットーに、授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。</p> <p>【到達目標】1年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 秋田静男 他『ドイツ語インフォメーション』朝日出版社 (2) 在間進他『アクセス独和辞典 第3版』三修社		
授業スケジュール	第1回 ドイツ（文化圏）とドイツ語について、文字・アルファベット 第2回 発音と綴り字 第3～5回 第0課 第6～8回 第1課 第9～10回 第2課 第11～13回 第3課 第14回 復習と試験準備 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験90%、授業への参加状況10%		

(注) 英語英文学専攻のみ

授業科目	ドイツ語Ⅱ	担当者	竹内 宏
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現在ヨーロッパでは、EU（ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一）という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また、ドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら、ドイツ語を学習します。</p> <p>【概要】ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが、「習うより慣れろ」をモットーに、授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。</p> <p>【到達目標】1年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 秋田静男 他『ドイツ語インフォメーション』朝日出版社 (2) 在間進他『アクセス独和辞典 第3版』三修社		
授業スケジュール	第1～3回 第4課 第4～6回 第5課 第7～9回 第6課 第10～12回 第7課 第13～14回 復習と試験準備 第15回 まとめと定期試験		
成績評価の方法	筆記試験90%、授業への参加状況10%		

(注) 英語英文学専攻のみ

授業科目	フランス語Ⅰ	担当者	小澤 晃
	[履修年次] 英語英文学専攻は1年次、生活科学科は2年次 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>フランス語は国際語としてきわめて重要な言語の一つであり、世界の各地で外国語として広く学習されている。系統的にはラテン語の子孫であるから、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語などは姉妹語の関係にあり、これらとは実際よく似ている。また11世紀に英語に多数の語彙をもたらしたため、英語ともきわめて類似点が多い。</p> <p>この授業ではゆっくりとしたスピードで、フランス語の発音・綴字の読み方、初歩的な文法と単語、日常的な会話表現などを学習する。それと並行して、フランスの社会や文化についても解説する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 「はじめてのバリー新・改訂版」, 大津俊克他著, 朝日出版社 (2) 特に必要としない		
授業スケジュール	第1回～第3回 あいさつの表現, 名詞, 冠詞, 縮約冠詞 第4回～第6回 主語人称代名詞, être, 所有形容詞 第7回～第9回 提示の表現, avoir, 形容詞 第10回～第12回 第一群規則動詞, 否定文 第13回～第14回 人称代名詞強勢形, il y a 第15回 試験		
成績評価の方法	筆記試験(期末試験) (100%)		

授業科目	フランス語Ⅱ	担当者	小澤 晃
	[履修年次] 英語英文学専攻は1年次、生活科学科は2年次 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>フランス語は国際語としてきわめて重要な言語の一つであり、世界の各地で外国語として広く学習されている。系統的にはラテン語の子孫であるから、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語などは姉妹語の関係にあり、これらとは実際よく似ている。また11世紀に英語に多数の語彙をもたらしたため、英語ともきわめて類似点が多い。</p> <p>この授業ではゆっくりとしたスピードで、フランス語の発音・綴字の読み方、初歩的な文法と単語、日常的な会話表現などを学習する。それと並行して、フランスの社会や文化についても解説する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 「はじめてのバリー新・改訂版」, 大津俊克他著, 朝日出版社(「フランス語Ⅰ」からの継続使用) (2) 特に必要としない		
授業スケジュール	第1回～第3回 指示形容詞, 疑問文, prendre 第4回～第6回 非人称構文, aller, venir, 疑問形容詞 第7回～第9回 中性代名詞, 命令法, faire, 疑問副詞 第10回～第12回 疑問代名詞, 補語人称代名詞, finir 第13回～第14回 複合過去形, 比較級, 最上級 第15回 試験		
成績評価の方法	筆記試験(期末試験) (100%)		

授業科目	中国語 I (A)	担当者	未定
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回		
成績評価の方法			

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 受講登録が 30 人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (B)	担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 中国語と中国について学ぶ (1) 【概要】 中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。 【到達目標】 中国語検定準 4 級程度 (後期終了時の目標)		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 尹景春・竹島毅著『中国語まじめの一步』(白水社) (2) 辞書などについては授業時に指示します。		
授業スケジュール	第 1回 インTRODクシヨン、声調、短母音 第 2回 子音、複合母音、-n、-ng を伴う母音 第 3回 簡単な挨拶、自分の名前を中国音で読む 第 4回 決まり文句 第 5回 第 1 課 (1) 第 6回 第 1 課 (2) 第 7回 第 2 課 (1) 第 8回 第 2 課 (2) 第 9回 第 3 課 (1) 第 10回 第 3 課 (2) 第 11回 第 4 課 (1) 第 12回 第 4 課 (2) 第 13回 第 5 課 (1) 第 14回 第 5 課 (2) 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への参加状況 (50%)		

(注) 日本語日本文学専攻、英語日本文学専攻

(注) 受講登録が 30 人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (C)	担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語と中国について学ぶ (1)</p> <p>【概要】 中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。</p> <p>【到達目標】 中国語検定準4級程度 (後期終了時の目標)</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 尹景春・竹島毅著『中国語はじめの一步』(白水社) (2) 辞書などについては授業時に指示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション、声調、短母音 第2回 子音、複合母音、-n, -ngを伴う母音 第3回 簡単な挨拶、自分の名前を中国語で読む 第4回 決まり文句 第5回 第1課 (1) 第6回 第1課 (2) 第7回 第2課 (1) 第8回 第2課 (2) 第9回 第3課 (1) 第10回 第3課 (2) 第11回 第4課 (1) 第12回 第4課 (2) 第13回 第5課 (1) 第14回 第5課 (2) 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への参加状況 (50%)		

(注) 経済専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (D)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】 中国語 I ではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。</p> <p>【到達目標】 中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 戸沼市子他『緑日はとてにもぎやか』(スリム版) (郁文堂)		
授業スケジュール	<p>第1回 発音篇 I~II 中国語の声調、単母音、複母音、-n, -ng 第2回 発音篇 III 中国語のそり舌音 z(i) c(i) s(i)の音 第3回 発音篇 IV 音節表—ピンイン読みのおさえどころ 声調変化 第4回 ~第5回 本文篇 第1課 庙会很热闹……………述語が形容詞の文 “吗”と“不” 第6回 ~第7回 本文篇 第2課 买东西……………動詞述語文、疑問詞疑問文 “…的” 第8回 ~第9回 本文篇 第3課 他们都是留学生……………“是”と所有の“有” 反復疑問文 量詞 第10回~第11回 本文篇 第4課 天坛在哪儿……………所在の“在”と存在の“有” 選択疑問文 “几”と“多少” 第12回~第13回 本文篇 第5課 他会开车……………助動詞—可能 願望 義務 連動文 第14回 まとめと映画鑑賞 第15回 試験</p> <p>*状況に応じてスケジュールを変更することがあります。</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業中に実施する小テスト (10%) + 授業での発言内容 (40%)		

(注) 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(E)	担当者	三木 夏華
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) (授業形態) 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 初めて中国語を学ぶ学生のための入門コース 【概要】 中国語で最も難しいとされる発音と声調をしっかりとマスターし、基本的な文法事項を学ぶことを目的とする。 【到達目標】 1 ビンインが読めるようになる。 2 自己紹介など簡単な会話能力を身につける。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 「始めよう!中国語」 白水社 南雲智, 趙暉 著 (2) 授業で紹介する		
授業スケジュール	第1回 発音 声調 第2回 〃 第3回 人称代名詞 指示代名詞 第4回 疑問詞 第5回 名詞判断文 第6回 動詞 助動詞 第7回 “的” について 第8回 形容詞述語文 第9回 助動詞 第10回 日付 曜日 時刻の言い方 第11回 “有” 構文 第12回 “在” 構文 第13回 比較文 第14回 反復疑問文 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験50% + 授業での発言内容, 復習・課題の状況 50%		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは, 人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(F)	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) (授業形態) 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 単語で作文Ⅰ 【概要】 1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい, それを使って作文をします。基本的に単純な文だけにして, 書かずに口頭で答えてみましょう。短い文がぱっと口から出るようになれば, 外国語もそれほど難しくはないものです。 もちろん外国語ですから最初は発音から入り, それから徐々に単語を増やしていきます。そのほか, 理解度を確認するため筆記の小テストを毎回実施します。 中国を知ろう, 中国に関わろうという気持ちを言葉で表わしたいとき, 中国語ははじめて生きてきます。この授業では中国のことをまず知ってもらうため, 中国文化を紹介したビデオを数回鑑賞します。 【到達目標】 中国語検定準4級, 漢語水平考試 HSK 基礎1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。前期はその前半部分の学習に当てます。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 関西大学中国語教員研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク		
授業スケジュール	第1回 授業の進め方について 第2回 発音 (1) 声調と母音 第3回 発音 (2) 子音 第4回 発音 (3) 発音のまとめ 第5回 発音 (4) 表記の規則 第6回 作文 (1) 名前 (1) 第7回 作文 (2) 名前 (2) 第8回 作文 (3) 数字 (1) 第9回 作文 (4) 数字 (2) 第10回 作文 (5) 簡単な動詞 (1) 第11回 作文 (6) 簡単な動詞 (2) 第12回 作文 (7) 意思表示 (1) 第13回 作文 (8) 意思表示 (2) 第14回 作文 (9) 意思表示 (3) 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	作文と小テスト50%, 定期試験50%		

(注) 食物栄養専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは, 人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (G)	担当者	中筋 健吉																																								
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式																																								
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】 中国語 I ではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。</p> <p>【到達目標】 中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>																																										
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 戸沼子子他『縁日はとてにぎやか』(スリム版) (郁文堂)																																										
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>発音篇</td><td>I~II</td><td>中国語の声調、単母音、複母音、-n, -ng</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>発音篇</td><td>III</td><td>中国語のそり舌音 z(i) c(i) s(i)の音</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>発音篇</td><td>IV</td><td>音節表—ピンイン読みのおさえどころ 声調変化</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>~第5回</td><td>本文篇</td><td>第1課 庙会很热闹………述語が形容詞の文 “吗”と“不”</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>~第7回</td><td>本文篇</td><td>第2課 买东西………動詞述語文、疑問詞疑問文 “…的”</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>~第9回</td><td>本文篇</td><td>第3課 他们都是留学生……“是”と所有の“有” 反復疑問文 量詞</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>~第11回</td><td>本文篇</td><td>第4課 天坛在哪儿………所在の“在”と存在の“有” 選択疑問文“几”と“多少”</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>~第13回</td><td>本文篇</td><td>第5課 他会开车………助動詞—可能 願望 義務 連動文</td></tr> <tr><td>第14回</td><td colspan="3">まとめと映画鑑賞</td></tr> <tr><td>第15回</td><td colspan="3">試験</td></tr> </table> <p>*状況に応じてスケジュールを変更することがあります。</p>			第1回	発音篇	I~II	中国語の声調、単母音、複母音、-n, -ng	第2回	発音篇	III	中国語のそり舌音 z(i) c(i) s(i)の音	第3回	発音篇	IV	音節表—ピンイン読みのおさえどころ 声調変化	第4回	~第5回	本文篇	第1課 庙会很热闹………述語が形容詞の文 “吗”と“不”	第6回	~第7回	本文篇	第2課 买东西………動詞述語文、疑問詞疑問文 “…的”	第8回	~第9回	本文篇	第3課 他们都是留学生……“是”と所有の“有” 反復疑問文 量詞	第10回	~第11回	本文篇	第4課 天坛在哪儿………所在の“在”と存在の“有” 選択疑問文“几”と“多少”	第12回	~第13回	本文篇	第5課 他会开车………助動詞—可能 願望 義務 連動文	第14回	まとめと映画鑑賞			第15回	試験		
第1回	発音篇	I~II	中国語の声調、単母音、複母音、-n, -ng																																								
第2回	発音篇	III	中国語のそり舌音 z(i) c(i) s(i)の音																																								
第3回	発音篇	IV	音節表—ピンイン読みのおさえどころ 声調変化																																								
第4回	~第5回	本文篇	第1課 庙会很热闹………述語が形容詞の文 “吗”と“不”																																								
第6回	~第7回	本文篇	第2課 买东西………動詞述語文、疑問詞疑問文 “…的”																																								
第8回	~第9回	本文篇	第3課 他们都是留学生……“是”と所有の“有” 反復疑問文 量詞																																								
第10回	~第11回	本文篇	第4課 天坛在哪儿………所在の“在”と存在の“有” 選択疑問文“几”と“多少”																																								
第12回	~第13回	本文篇	第5課 他会开车………助動詞—可能 願望 義務 連動文																																								
第14回	まとめと映画鑑賞																																										
第15回	試験																																										
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業中に実施する小テスト (10%) + 授業での発言内容 (40%)																																										

(注) 生活科学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (H)	担当者	陳 躍																														
	[履修年次] 1, 2年 (注)	[学期] 前期	[授業形態] 演習方式																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級、漢語水平考試HSK基礎1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる</p>																																
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 参考文献①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>我是上海人</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>我叫王平</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>这里是南京路</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>现在几点了?</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>今天是星期几?</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>你家有几口人?</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>没关系 (映画)</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>香港的夏天热吗? (映画)</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>四川菜很好吃</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>我经常散步</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>牌价是多少?</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>汉语难不难?</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>我没吃蒜</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>我想去超市</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>テスト</td></tr> </table>			第1回	我是上海人	第2回	我叫王平	第3回	这里是南京路	第4回	现在几点了?	第5回	今天是星期几?	第6回	你家有几口人?	第7回	没关系 (映画)	第8回	香港的夏天热吗? (映画)	第9回	四川菜很好吃	第10回	我经常散步	第11回	牌价是多少?	第12回	汉语难不难?	第13回	我没吃蒜	第14回	我想去超市	第15回	テスト
第1回	我是上海人																																
第2回	我叫王平																																
第3回	这里是南京路																																
第4回	现在几点了?																																
第5回	今天是星期几?																																
第6回	你家有几口人?																																
第7回	没关系 (映画)																																
第8回	香港的夏天热吗? (映画)																																
第9回	四川菜很好吃																																
第10回	我经常散步																																
第11回	牌价是多少?																																
第12回	汉语难不难?																																
第13回	我没吃蒜																																
第14回	我想去超市																																
第15回	テスト																																
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする																																

(注) 文学科・商経学科は1年次、生活科学科は2年次

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(A)	担当者	未定
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(B)	担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 中国語と中国について学ぶ (2) 【概要】 前期に引き続き、本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指して基本的な中国語を学習します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また、単に中国語を勉強するだけでなく、DVDの視聴などを通じて中国の文化・社会についての紹介もしていく予定です。 【到達目標】 中国語検定準4級程度 (後期終了時の目標)		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 尹景春・竹島毅著『中国語まじめの一步』(白水社) (2) 辞書などについては授業時に指示します。		
授業スケジュール	第1回 前期試験の解説など 第2回 第6課 (1) 第3回 第6課 (2) 第4回 第7課 (1) 第5回 第7課 (2) 第6回 第8課 (1) 第7回 第8課 (2) 第8回 第9課 (1) 第9回 第9課 (2) 第10回 第10課 (1) 第11回 第10課 (2) 第12回 第11課 (1) 第13回 第11課 (2) 第14回 第12課 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験 (50%) , 授業への参加状況 (50%)		

(注) 日本語日本文学専攻, 英語日本文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(C)	担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 中国語と中国について学ぶ(2) 【概要】 前期に引き続き、本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指して基本的な中国語を学習します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また、単に中国語を勉強するだけでなく、DVDの視聴などを通じて中国の文化・社会についての紹介もしていく予定です。 【到達目標】 中国語検定準4級程度(後期終了時の目標)		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 尹景春・竹島毅著『中国語まじめの一步』(白水社) (2) 辞書などについては授業時に指示します。		
授業スケジュール	第1回 前期試験の解説など 第2回 第6課(1) 第3回 第6課(2) 第4回 第7課(1) 第5回 第7課(2) 第6回 第8課(1) 第7回 第8課(2) 第8回 第9課(1) 第9回 第9課(2) 第10回 第10課(1) 第11回 第10課(2) 第12回 第11課(1) 第13回 第11課(2) 第14回 第12課 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験(50%)、授業への参加状況(50%)		

(注) 経済専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(D)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 初級中国語の学習を行います。 【概要】 中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画(1回)を鑑賞します。 【到達目標】 中国語検定準4級、漢語水平考試HSK基礎1級程度の中国語能力習得を目指します。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 戸沼市子他『縁日はとてもにぎやか』(スリム版)(郁文堂)		
授業スケジュール	第1回 前期の復習と後期のウォーミングアップ 第2回～第3回 本文篇 第6課 正在开会呢……進行と完了 前置詞“给” 二重目的語をとる動詞 第4回～第5回 本文篇 第7課 桃太郎没坐过飞机……経験 比較 前置詞“在”“离”“从一到一” 第6回～第7回 本文篇 第8課 二胡拉得很不错……状態の持続 様態の描写(様態補語) 第8回 中国文化紹介DVD & 中国茶会 第9回～第10回 本文篇 第9課 他的病治好了……方向・結果の複合動詞 前置詞“把” 第11回～第12回 本文篇 第10課 快要过年了……“快要…了” “是…的” 第13回 中国映画鑑賞 第14回 まとめと後期の復習 第15回 試験 *状況に応じてスケジュールを変更することがあります。		
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%)		

(注) 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(E)	担当者	三木 夏華
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 前期の中国語Ⅰに続く入門コース 【概要】 前期に引き続き、中国語の発音要領と中国語文法の基礎をマスターする。 同時に道のたずね方、買い物仕方など、日常生活で不可欠な表現を身につける。 【到達目標】 中国語検定準4級までを目標とする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 「始めよう!中国語」 白水社 南雲智, 趙暉 著 (2) 授業で紹介する		
授業スケジュール	第1回 前置詞1 第2回 完了表現 第3回 動詞の重ね型 第4回 様態補語 第5回 連動文 第6回 経験を表す表現 第7回 前置詞2 第8回 1～7回までの復習 第9回 選択疑問文 第10回 動詞の進行を表す表現 第11回 状態の持続を表す表現 第12回 結果補語 第13回 方向補語 第14回 9～13回までの復習 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験50% + 授業での発言内容、復習・課題の状況 50%		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは, 人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(F)	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 単語で作文Ⅱ 【概要】 1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい, それを使って作文をします。やや複雑な文にして, 基本的に書かず口頭で答えてみましょう。長い作文は文法的に間違えやすいですがそれは気にせず, 相手に気持ちを伝えることを大切にします。 作文のほか, 理解度を確認するため筆記の小テストを毎回実施します。 中国を知ろう, 中国に関わろうという気持ちを言葉で表わしたいとき, 中国語ははじめて生きてきます。この授業では中国のことをまず知ってもらうため, 中国文化を紹介したビデオを数回鑑賞します。 【到達目標】 中国語検定準4級, 漢語水平考試 HSK 基礎1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。後期はその後半部分の学習に当てます。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 関西大学中国語教員研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク		
授業スケジュール	第1回 作文 (1) 疑問詞 (1) 第2回 作文 (2) 疑問詞 (2) 第3回 作文 (3) “～の” (1) 第4回 作文 (4) “～の” (2) 第5回 作文 (5) 場所 (1) 第6回 作文 (6) 場所 (2) 第7回 作文 (7) 状態 (1) 第8回 作文 (8) 状態 (2) 第9回 作文 (9) 状況 (1) 第10回 作文 (10) 状況 (2) 第11回 作文 (11) 介詞 (1) 第12回 作文 (12) 介詞 (2) 第13回 作文 (13) 1年間の復習 (1) 第14回 作文 (14) 1年間の復習 (2) 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	作文と小テスト50%, 定期試験50%		

(注) 食物栄養専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは, 人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(G)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 初級中国語の学習を行います。 【概要】 中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画(1回)を鑑賞します。 【到達目標】 中国語検定準4級、漢語水平考試HSK基礎1級程度の中国語能力習得を目指します。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 戸沼市子他『緑日はとてもにぎやか』(スリム版) (郁文堂)		
授業スケジュール	第1回 前期の復習と後期のウォーミングアップ 第2回～第3回 本文篇 第6課 正在开会呢………進行と完了 前置詞“给” 二重目的語をとる動詞 第4回～第5回 本文篇 第7課 桃太郎没坐过飞机………経験 比較 前置詞“在”“离”“从一到一” 第6回～第7回 本文篇 第8課 二胡拉得很不错………状態の持続 様態の描写(様態補語) 第8回 中国文化紹介DVD & 中国茶会 第9回～第10回 本文篇 第9課 他的病治好了………方向・結果の複合動詞 前置詞“把” 第11回～第12回 本文篇 第10課 快要过年了………“快要…了” “是…的” 第13回 中国映画鑑賞 第14回 まとめと後期の復習 第15回 試験 *状況に応じてスケジュールを変更することがあります。		
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%)		

(注) 生活科学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(H)	担当者	陳 躍
	[履修年次] 1, 2年(注) [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 楽しい中国語会話 【概要】 中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。 【到達目標】 中国語検定準四級。漢語水平考試HSK基礎1級程度。後期はその後半部分の学習に当てる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 参考文献①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社		
授業スケジュール	第1回 来我家玩吧 第2回 我打算去旅行 第3回 没看过, 听过 第4回 我能参加 第5回 我记一下 第6回 我们边走边谈 第7回 好像借给小李了(中間テスト) 第8回 我不会打日文(映画) 第9回 你知道号码吗?(映画) 第10回 什么都可以 第11回 被谁偷走了呢? 第12回 让你久等了 第13回 有没有单间? 第14回 我说得不好 第15回 テスト		
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする		

(注) 文学科・商経学科は1年次、生活科学科は2年次

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅲ	担当者	未定
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

(注) 生活科学科を除く

授業科目	中国語Ⅳ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 単語で作文+長文読解 【概要】 作文と長文読解を組み合わせて、中国語の応用力を高めます。 作文、長文読解のほか、理解度を確認するため筆記の小テストを数回実施します。 中国を知ろう、中国に関わろうという気持ちを言葉で表わしたいとき、中国語がはじめて生きてきます。この授業では中国のことをまず知ってもらうため、中国文化を紹介したビデオを数回鑑賞します。 【到達目標】 中国語検定4級レベル、漢語水平考試 HSK 基礎2級程度に半年間の語学目標レベルを設定します。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策4級』アルク		
授業スケジュール	第1回 授業の進め方について 第2回 復習 (1) 第3回 復習 (2) 第4回 復習 (3) 第5回 長文読解 (1) 第6回 長文読解 (2) 第7回 作文 (1) 動作の方向 第8回 作文 (2) 強制と恩恵 第9回 長文読解 (3) 第10回 長文読解 (4) 第11回 作文 (3) 介詞いろいろ 第12回 作文 (4) やり方 第13回 長文読解 (5) 第14回 長文読解 (6) 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	作文と小テスト 50%、定期試験 50%		

(注) 生活科学科を除く

3 教養科目（スポーツ・健康科目）

授業科目	スポーツ・健康論	担当者	瀬戸口 照夫
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会において、健康問題が取り上げられているが、その原因を追求する。そして、人びとの運動不足が生活習慣病を引き起こす要因の一つになっていることをデータに基づいて確認する。そして、人間と身体活動の関係をスポーツ人類学的に理解することを旨とする。</p> <p>【概要】健康を維持する為にはいかなる方策があるかを講じ、運動不足が生活習慣病の原因の一つであることを講じる。また、スポーツがその原初形態において人類にとって必要不可欠なものであったことを講じる。</p> <p>【到達目標】健康な生活を維持する為の方策を理解すること。また、人類的にスポーツの原初形態が何であったかを理解すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) プリント		
授業スケジュール	第1回 健康とは何か 健康概念の変遷 第2回 健康問題と現代社会 第3回 運動と心の健康 第4回 スポーツの起源と伝播 第5回 スポーツと身体の文化 第6回 スポーツと神話・儀礼・宗教 第7回 スポーツと文化化・教育 第8回 まとめとテスト		
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + レポート (20%)		

(注) 食物栄養専攻を除く。7.5回。

授業科目	生涯スポーツ実習 I (A, B)	担当者	徳田 修司
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ラケットスポーツと健康づくり、仲間づくり</p> <p>【概要】ラケットスポーツとして本授業ではテニスを取りあげ、ダブルスのゲームが出来るようになることを目標として段階的に学習していく。このような学習課程の中で体力の必要性、仲間との上手な協力関係を学び、実生活でも応用できるようになることを目指す。</p> <p>【到達目標】ダブルスのゲームが出来ること。試合の進め方、ルールを覚える。ラケットスポーツを通じた、健康・体力づくり、仲間づくりの方法を修得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 特に必要なし (2) 必要なし ※必要に応じて、資料は郵付する。		
授業スケジュール	第1回：グループ分け。ボール投げとキャッチ。ラケットでのボール打ち。 第2回～4回：ボール投げとキャッチ。ペアでのボール出しとストローク（フォアとバック）。 第5回～7回：ラケット打ちとキャッチ。ペアでボール出しとボレー（フォアとバック）。 第8回～11回：ネットを挟んでのボール出しとストローク・ボレー（距離や強弱、正確性のコントロール技術）。 ※この段階からミニコートでの試合を経験する。 第12回：サーブを打ってみる。いろいろな打ち方で、正確に打つこと、サーブを正確にリターンすることなどを学ぶ。 第13回～14回：正式のコートの広さで、ルールに基づいてダブルスのゲームに挑戦する。審判が出来るようになる。 第15回：授業のまとめと評価		
成績評価の方法	技術の上達度 (60～80%)，出席状況や授業への取り組み状況 (20～40%)		

(注) 文学科

授業科目	生涯スポーツ実習 I (C, D, E, F)	担当者	瀬戸口 照夫・西迫 貴美代
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学生の身体運動の減少は、健康的な生活や好ましい身体の発達に悪影響を及ぼしかねない。したがって、将来にわたって実践しうる基礎的運動技術の習得が目標である。</p> <p>【概要】実技では、今まで実習したことのない種目を選定し、特に、ゴルフと硬式テニスを課す。</p> <p>【到達目標】ゴルフの打法とアプローチの実践ができること。、硬式テニスでは、サーブが確率的に高く入るゲームが出来るようになることが最終目標である。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 2 種目のビデオ, 指導教本や技術書の抜粋プリントと各種目のルール集		
授業スケジュール	第1回：ゴルフの概要 ・ゴルフの歴史やゲームの方法, 各クラブの機能の説明, 練習上の注意事項 第2回：ショートアイアの打法の解説と実践 ・9, 7 番アイアの打法とグリップの習得 第3回：ミドルアイアの打法の解説 ・前回のショートアイアの復習と5 番アイアの打法の解説と実践 第4回：フェアウェイクラブの打法 ・スプーンとクリークの打法の解説と実践 第5回：ドライバーの打法 ・今までのクラブの打法とドライバーの打法の違いの概説と実践 第6回：アプローチの実践 ・ショートアイアによる実践 第7回：アプローチのゲーム ・打数によるゲーム 第8回：テニスの概要 ・テニスの歴史とゲームに必要な打法の解説 第9回：フォアハンドストロークの解説と練習 ・グリップの説明。送り出されたボールをフォアサイドで打ち返す練習 第10回：バックハンドストロークの解説と練習 ・グリップの説明。送り出されたボールをバックサイドで打ち返す練習 第11回：サーブの練習 ・フォアハンド, バックハンドストロークの練習とアンダーサーブの練習 第12回：ダブルスゲームの解説とゲーム ・フォメーションの説明とゲーム 第13回：シングルスゲームの解説とゲーム ・フォメーションの説明とゲーム 第14回：ダブルスゲーム ・ 第15回：まとめと技術評価		
成績評価の方法	技術評価 (60%) + 練習ノート (40%) を基準に、総合的に評価する。		

(注) 生活科学科, 商経学科

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅱ (A, B, C, D)	担当者	瀬戸口 照夫・西迫 貴美代		
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 実習方式				
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学生の身体運動の減少は、健康的な生活や好ましい身体の発達に悪影響を及ぼしかねない。したがって将来にわたって実践しうる基礎的運動技術の習得を目標とする。</p> <p>【概要】卓球、バレーボール、バドミントン等の種目から一種目を選択し実習する</p> <p>【到達目標】卓球：カットサーブから始まるゲームができること、バドミントン：ショート、ロングサーブを使い分けてゲームができること バレーボール：誰もがアタックを打ち、チームフォーメーションが理解できること</p>				
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 各種目のビデオ (2)				
授業スケジュール	回数 /教材	卓球	バドミントン	バレーボール	
	1	オリエンテーション・準備、後片づけの確認 (安全な使用)	・グループ分け (リーダ決定, グループノート活用について)	・試しのゲーム	・次週の計画を立てる
	2	卓球に技術について (様々な打法の理解と上回転の練習)	バドミントンの技術について (様々な打法の理解とハイクリアーの練習)	バレーボールの技術について (Aアタックから:アタックのイメージの転換)	
	3	様々な打法の練習(1) 上回転と下回転の理解と練習・簡易ゲーム	様々な打法の学習と練習(1) (ハイクリアー・スマッシュ・簡易ゲーム)	Aクイックの習熟(1) トスの高さジャンプのタイミングを意識化→2:2→3:3	
	4	様々な打法の練習(2) (1)の練習に加えてスマッシュ練習・簡易ゲーム	様々な打法の学習と練習(2) (ハイクリアー・スマッシュ・ドロップ・簡易ゲーム)	Aクイックの習熟(2) (トスの場所の変化→2:2→3:3 簡易ゲーム)	
	5	様々な打法の練習(3) (2)の練習に加えてサーブの練習・簡易ゲーム	様々な打法の学習と練習-3 (ハイクリアー・スマッシュ・ドロップ・ドライブ・ヘアピン・簡易ゲーム)	Aクイックの習熟(3) (トスの場所, 高さの変化→2:2→3:3 簡易ゲーム)・投げられサーブ, キャッチングレシーブ	
	6	様々な打法の練習(4) (3)の練習に加えてカットサーブのリターン練習・ゲーム	シングルゲームの解説とゲーム (リーグ戦) →ゲーム結果をもとにチーム分け	アタックの習熟とブロックの解説と練習 (3:3→6:6 簡易ゲームへ)	
	7	シングルスゲームの解説とゲーム (1)	ダブルスゲーム解説とゲーム (二人のコンビネーションについての課題の発見) (1)	アタックレシーブの場所, アンダーパスの方法の解説 (3:3→6:6 簡易ゲームへ)	
	8	シングルスゲーム (2)	ダブルスゲーム (2)	ゲーム (ポジション決定)	
	9	ダブルスゲームの解説とゲーム (1)	コンビネーションの解説と練習→ダブルスゲーム (チーム内リーグ戦)	セッターの決定とアタックとサーブのレシーブの違いの解説と練習・サーブ練習	
	10	ダブルスゲーム (2)	チーム対抗ゲーム(1) (シングルス, ダブルス混合)	ゲーム ポジションの確認と作戦	
	11	チーム対抗ゲームの解説とゲーム (1)	チーム対抗ゲーム(2) データを元に作戦を立てる	フォーメーションの解説とチーム作戦を立てゲームをする	
	12	チーム対抗ゲーム(2)	チーム対抗ゲーム(3)	チーム対抗ゲーム(1)	
	13	チーム対抗ゲーム(3)	チーム対抗ゲーム(4)	チーム対抗ゲーム(2)	
	14	チーム対抗ゲーム(4)	チーム対抗ゲーム(5)	チーム対抗ゲーム(3)	
	15	まとめと技術評価	まとめと技術評価	まとめと技術評価	
成績評価の方法	技術評価 (60%) + 練習ノート (40%) を基準に、総合的に評価する。				

(注) 文学科, 生活科学科

	生涯スポーツ実習Ⅱ(E, F)	担当者	徳田 修司
授業科目	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修(注) 〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 スポーツと体力・運動能力づくり/健康づくり</p> <p>【概要】 前期の実習Ⅰを踏まえ、後期には前半7回と後半7回(まとめ:1回)の中で2種類の異なるスポーツを選択し、グループ学習を通して技術やゲームの進め方を学習する。卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボールなどの中から2種目選択し、ゲーム中心に進めていく。</p> <p>【到達目標】 選択したスポーツの基礎的な技術の習得と試合の進め方、戦術、作戦の立て方、パートナーやチームの協力のあり方などを学習し、楽しくより高度にゲームを進められるようになることを目指す。勝敗よりも楽しさや協力の大切さに主眼を置き、練習の過程とグループ(ペア)の協力の重要性を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 特に必要なし (2) 必要なし ※必要に応じて、資料は添付する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回: 1回目グループ編成。実習ノートと担当者の決定。セッティングの説明。</p> <p>第2回: 準備運動、種目による基礎技術の練習、試合の進め方、練習ゲーム。</p> <p>第3回: 準備運動、種目による基礎技術の練習、審判の行い方、練習ゲーム。</p> <p>第4回: 準備運動、種目による基礎技術の練習、シングルのゲーム。</p> <p>第5回: 準備運動、種目による応用技術の練習、ダブルスのゲーム。</p> <p>第6回: 準備運動、種目による応用技術の練習、正式のコート、ルールでのゲーム。</p> <p>第7回: 準備運動、ダブルスゲームによる総当たりのゲーム。</p> <p>第8回: 2回目のグループ編成(前半と異なる種目を選択すること)、実習ノートと担当者の決定、セッティング。</p> <p>第9回: 準備運動、種目による基礎技術の練習、試合の進め方、練習ゲーム。</p> <p>第10回: 準備運動、種目による基礎技術の練習、審判の行い方、練習ゲーム。</p> <p>第11回: 準備運動、種目による基礎技術の練習、シングルのゲーム。</p> <p>第12回: 準備運動、種目による応用技術の練習、ダブルスのゲーム。</p> <p>第13回: 準備運動、種目による応用技術の練習、正式のコート、ルールでのゲーム。</p> <p>第14回: 準備運動、ダブルスによる総当たりのゲーム。</p> <p>第15回: 授業のまとめと評価</p>		
成績評価の方法	技術の上達度・試合の進め方(60~80%)、出席状況や授業への取り組み状況(20~40%)		

(注) 商経学科

4 教養科目（情報科目）

授業科目	情報リテラシー I (A)	担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 パソコンの基本的な使い方をマスターする。</p> <p>【概要】 基本的な使い方から始まり、電子メール、インターネット、ワープロ、画像処理、プレゼンテーション等、学習やビジネスの場で広く使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】 取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンが身近なものとなる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回 電子メールにおける文書処理 (1) 第2回 授業前アンケート (パソコン使用歴、授業への希望など) 第3回 Windows パソコンの基本的な使い方 第4回 電子メールにおける文書処理 (2) 第5回 パソコンによる効率的な検索 第6回 MS-WORD によるワープロ実習 (1) 第7回 MS-WORD によるワープロ実習 (2) 第8回 画像ファイルの扱い方…ペイント 第9回 画像ファイルの扱い方…スキャナー・デジカメ 第10回 画像を利用した文書作り (1) 第11回 画像を利用した文書作り (2) 第12回 表計算ソフト Excel 第13回 プレゼンテーション・ソフトウェア PowerPoint 第14回 総復習 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	課題と試験 (1 : 1) の結果を合せて評価		

(注) 日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシー I (B)	担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 パソコンの基本的な使い方をマスターする。</p> <p>【概要】 基本的な使い方から始まり、電子メール、インターネット、ワープロ、画像処理、プレゼンテーション等、学習やビジネスの場で広く使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】 取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンが身近なものとなる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回 電子メールにおける文書処理 (1) 第2回 授業前アンケート (パソコン使用歴、授業への希望など) 第3回 Windows パソコンの基本的な使い方 第4回 電子メールにおける文書処理 (2) 第5回 パソコンによる効率的な検索 第6回 MS-WORD によるワープロ実習 (1) 第7回 MS-WORD によるワープロ実習 (2) 第8回 画像ファイルの扱い方…ペイント 第9回 画像ファイルの扱い方…スキャナー・デジカメ 第10回 画像を利用した文書作り (1) 第11回 画像を利用した文書作り (2) 第12回 表計算ソフト Excel 第13回 プレゼンテーション・ソフトウェア PowerPoint 第14回 総復習 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	課題と試験 (1 : 1) の結果を合せて評価		

(注) 英語英文学専攻

授業科目	情報リテラシー I (C)	担当者	青山 究
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ワードプロセッサソフト (Microsoft Word, 以下 Word) と表計算ソフト (Microsoft Excel, 以下 Excel) が使えるようになること</p> <p>【概要】Word, Excel が使えることは、いまや社会人の基本的な能力として要求される時代である。この授業ではこれらのソフトを使う上で基本となる Word を、実習を通して使えるようにする。</p> <p>【到達目標】高度な知識や能力を要求するわけではない、日常で必要となった時、利用した方が良い時に気軽にそして積極的に Word や Excel を利用できるようになって欲しい。つまり、各種ビラ、授業のレポート、あるいは卒業研究の報告所などを作成する際に必要に応じて Word や Excel を活用できようになることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 実教出版編集部著「30時間でマスター Windows7 対応 Word & Excel 2010」実教出版 USB フラッシュメモリを用意すること。</p> <p>(2) 特に指定しないが Word や Excel の入門書、解説書なら何でも参考になる。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 タッチタイピング；</p> <p>第2回 Windows 7 入門：画面構成、アプリケーションソフトの起動と終了、タスクバー、エクスプローラ</p> <p>第3回 日本語入力1：日本語入力設定、文字の入力、漢字変換</p> <p>第4回 Word 入門：起動と終了、画面構成</p> <p>第5回 日本語入力2：文章入力、入力の訂正</p> <p>第6回 日本語入力3：特殊な入力方法、各種辞書</p> <p>第7回 文書の作成1：ページ設定、ファイルの保存・読み込み、印刷のページ設定</p> <p>第8回 文書の作成2：複写、削除、移動</p> <p>第9回 文書編集：左右揃え、中央揃え、箇条書き</p> <p>第10回 文書編集：フォント・フォントサイズの変更、下線</p> <p>第11回 文書編集：表の作成、均等割付、文字の網掛け</p> <p>第12回 表の編集：行・列の挿入削除、セル結合</p> <p>第13回 ビジュアル：ワードアート、クリップアート、ページ罫線</p> <p>第14回 アプリケーション間のデータ活用：Word 文書への Excel データ活用、Web データ活用、新機能など</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業中に課される演習問題 (50%) + 実技試験 (50%)		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシー I (D)	担当者	遠矢 守
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>これからの高度情報化社会で必要とされる「情報活用技術」の修得</p> <p>【概要】</p> <p>現代人にとってコンピュータとインターネットなどは、情報の収集、分析 (解決)、情報の発信のための重要な道具となっている。本授業では、これらを利用した「情報活用技術」の基礎について実際にコンピュータを操作しながら学ぶことにする。</p> <p>コンピュータの仕組みや Windows の基本的事項の学習から始め、インターネット (メール、情報検索) や応用ソフト (ワープロ、表計算ソフト) に関して、これからの社会で生き抜く上で修得しておくべき事項について学習し体得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>現代人にとって必要とされるコンピュータとインターネットに関する知識や技能を獲得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし (ただし、必要に応じて授業資料ファイルを配布する。そのため USB メモリなどを毎回準備すること)</p> <p>(2) なし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション (授業の方針・目標、受講上の注意)、コンピュータの仕組みと簡単な操作</p> <p>第2回 タッチタイピング、Windows の基本的操作、保存メディア、ショートカットキー</p> <p>第3回 日本語入力 (部分確定・文節の切り替え、文字列の編集加工、単語登録、再変換など)、簡単なファイル処理</p> <p>第4回 Word による文書作成1 (Word の基礎)</p> <p>第5回 電子メールの仕組み、ファイル添付、メールに関する情報モラル</p> <p>第6回 Web を利用した情報検索の方法1、ブラウザの効果的操作方法</p> <p>第7回 Web を利用した情報検索の方法2、調査事項の文書化</p> <p>第8回 ネット犯罪とセキュリティ</p> <p>第9回 ペイント系ソフトの技法、絵入り文書の作成など</p> <p>第10回 Word による文書作成2 (図形描画ツールに関する技法)</p> <p>第11回 Word による文書作成3 (表、インデント、段組み、Word のショートカットキー)</p> <p>第12回 Excel の基礎1 (簡単な縦横計算)</p> <p>第13回 Excel の基礎2 (簡単なグラフ作成、Word 文書への表やグラフの貼り付け)</p> <p>第14回 簡単なファイルの整理 (ファイルの概念、フォルダの概念)</p> <p>第15回 期末試験</p>		
成績評価の方法	期末試験 (100%) の結果による。なお、課せられた宿題の全提出が期末試験の受験要件となる。		

(注) 生活科学専攻

授業科目	情報リテラシー I (E)	担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報機器を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】 情報機器を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。使用するアプリケーションソフトは「Microsoft Word」とし、Wordの基本操作も習得する。</p> <p>【到達目標】 タッチタイピングの習得、基本的な文書作成能力の習得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 富士通オフィス機器株式会社 (著) 『よくわかる初心者のためのWord 2007』FOM出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 パソコンの基本操作・・・概要説明、起動と終了、ウィンドウ操作、Wordの画面構成</p> <p>第2回 文字の入力・・・キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第3回 文章の入力・・・キータッチ練習、文章の入力(分節単位の変換、一括変換)</p> <p>第4回 文書の作成・・・ビジネス文書の構成について、ページ設定、文章の入力、コピーと移動、保存</p> <p>第5回 文書の編集・・・文書の書き方について、文字の配置、書式設定(フォント、サイズ変更、太字など)</p> <p>第6回 通知状の作成・・・課題文書作成(通知状)、印刷</p> <p>第7回 表の作成・・・文書管理について、表の挿入、表への文字入力、表の選択</p> <p>第8回 表の編集・・・行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、網掛け、線種変更</p> <p>第9回 表の活用・・・課題文書作成(表を含む文書)</p> <p>第10回 図形描画・・・図解について、図形描画を使った地図の作成</p> <p>第11回 案内状の作成・・・課題文書作成(案内状)</p> <p>第12回 画像の利用・・・クリップアートの挿入、ワードアートの挿入、図の挿入</p> <p>第13回 チラシの作成・・・課題文書作成(チラシ)</p> <p>第14回 総合復習・・・これまでに学習した機能を利用した文書作成</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	定期試験(知識科目20%+実技科目60%) + 授業ごとに実施する課題(20%)		

(注) 経済専攻

授業科目	情報リテラシー I (F)	担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報機器を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】 情報機器を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。使用するアプリケーションソフトは「Microsoft Word」とし、Wordの基本操作も習得する。</p> <p>【到達目標】 タッチタイピングの習得、基本的な文書作成能力の習得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 富士通オフィス機器株式会社 (著) 『よくわかる初心者のためのWord 2007』FOM出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 パソコンの基本操作・・・概要説明、起動と終了、ウィンドウ操作、Wordの画面構成</p> <p>第2回 文字の入力・・・キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第3回 文章の入力・・・キータッチ練習、文章の入力(分節単位の変換、一括変換)</p> <p>第4回 文書の作成・・・ビジネス文書の構成について、ページ設定、文章の入力、コピーと移動、保存</p> <p>第5回 文書の編集・・・文書の書き方について、文字の配置、書式設定(フォント、サイズ変更、太字など)</p> <p>第6回 通知状の作成・・・課題文書作成(通知状)、印刷</p> <p>第7回 表の作成・・・文書管理について、表の挿入、表への文字入力、表の選択</p> <p>第8回 表の編集・・・行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、網掛け、線種変更</p> <p>第9回 表の活用・・・課題文書作成(表を含む文書)</p> <p>第10回 図形描画・・・図解について、図形描画を使った地図の作成</p> <p>第11回 案内状の作成・・・課題文書作成(案内状)</p> <p>第12回 画像の利用・・・クリップアートの挿入、ワードアートの挿入、図の挿入</p> <p>第13回 チラシの作成・・・課題文書作成(チラシ)</p> <p>第14回 総合復習・・・これまでに学習した機能を利用した文書作成</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	定期試験(知識科目20%+実技科目60%) + 授業ごとに実施する課題(20%)		

(注) 経営情報専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(A)	担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】課題の探求・解決・表現(出力)のすべてにおいて重要なツールとなる情報処理能力を身につける。</p> <p>【概要】情報リテラシーは、専門教育を効率的かつ効果的にこなすための手法を学ぶとともに、セキュリティやマナー、ルールといった知識を学び、情報化社会に対応する能力を身につける科目である。</p> <p>IIでは、Iで学んだ基礎のうえにたち、その応用を図るとともに、ネットワークの基本的仕組みと役割、ネットワーク利用において被害者、加害者とならないためのセキュリティ知識、ネットワーク上のマナー、著作権・個人情報などに関する基本的コンプライアンス、情報化社会における社会とITの関わりやその問題点などの知識についても学ぶ。</p> <p>なお、教職課程に関連して、中学校の「情報基礎」教育と国語科・英語科での情報機器の取り扱いについても簡単に紹介する。</p> <p>【到達目標】情報機器を活用し、ネットを安全かつ効率的に利用することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社		
授業スケジュール	第1回 電子メールとネットワークセキュリティ、漢字コード 第2回 ネットの仕組みと情報検索、文字エンコード 第3回 マナーとコンプライアンス 第4回 表計算ソフト 関数の利用 第5回 表計算ソフト グラフの作成 第6回 表計算ソフトとワープロ文書の連携 第7回 表計算ソフトとプレゼンテーションソフトの連携 第8回 Webによる情報発信 ページの作成 第9回 Webによる情報発信 javascript とWeb2.0 第10回 Webによる情報発信 CSS、コンピュータでの色の扱い 第11回 Webによる情報発信 アクセシビリティ 第12回 中学校における情報教育について 第13回 オープンソースとは 第14回 オープンソースの教育利用 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	定期試験(パソコンを使ってレポートを作成し、電子メールで提出する)の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(B)	担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】課題の探求・解決・表現(出力)のすべてにおいて重要なツールとなる情報処理能力を身につける。</p> <p>【概要】情報リテラシーは、専門教育を効率的かつ効果的にこなすための手法を学ぶとともに、セキュリティやマナー、ルールといった知識を学び、情報化社会に対応する能力を身につける科目である。</p> <p>IIでは、Iで学んだ基礎のうえにたち、その応用を図るとともに、ネットワークの基本的仕組みと役割、ネットワーク利用において被害者、加害者とならないためのセキュリティ知識、ネットワーク上のマナー、著作権・個人情報などに関する基本的コンプライアンス、情報化社会における社会とITの関わりやその問題点などの知識についても学ぶ。</p> <p>なお、教職課程に関連して、中学校の「情報基礎」教育と国語科・英語科での情報機器の取り扱いについても簡単に紹介する。</p> <p>【到達目標】情報機器を活用し、ネットを安全かつ効率的に利用することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社		
授業スケジュール	第1回 電子メールとネットワークセキュリティ、漢字コード 第2回 ネットの仕組みと情報検索、文字エンコード 第3回 マナーとコンプライアンス 第4回 表計算ソフト 関数の利用 第5回 表計算ソフト グラフの作成 第6回 表計算ソフトとワープロ文書の連携 第7回 表計算ソフトとプレゼンテーションソフトの連携 第8回 Webによる情報発信 ページの作成 第9回 Webによる情報発信 javascript とWeb2.0 第10回 Webによる情報発信 CSS、コンピュータでの色の扱い 第11回 Webによる情報発信 アクセシビリティ 第12回 中学校における情報教育について 第13回 オープンソースとは 第14回 オープンソースの教育利用 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	定期試験(パソコンを使ってレポートを作成し、電子メールで提出する)の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 英語英文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (C)	担当者	青山 究
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ワードプロセッサソフト (Microsoft Word, 以下 Word) と表計算ソフト (Microsoft Excel, 以下 Excel) が使えるようになること</p> <p>【概要】Word, Excel が使えることは、いまや社会人の基本的な能力として要求される時代である。この授業ではこれらのソフトを使う上で基本となる Excel を、実習を通して使えるようにする。</p> <p>【到達目標】高度な知識や能力を要求するわけではない、日常で必要となった時、利用した方が良い時に気軽にそして積極的に Word や Excel を利用できるようになって欲しい。つまり、各種ビラ、授業のレポート、あるいは卒業研究の報告所などを作成する際に必要に応じて Word や Excel を活用できようになることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 実教出版編集部著「30時間でマスター Windows7 対応 Word & Excel 2010」実教出版 USB フラッシュメモリを用意すること。</p> <p>(2) 特に指定しないが Word や Excel の入門書、解説書なら何でも参考になる。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 タッチタイピング： 第 2 回 Windows 7 入門：コントロールパネル、フォルダ、右クリック、ガジェット、ファイル検索、Internet Explorer 第 3 回 日本語入力：日本語入力設定、文字の入力、漢字変換 第 4 回 Excel 入門：起動と終了、画面構成 第 5 回 データ入力：数値データの入力、文字列データの入力、ファイルの保存と読み込み 第 6 回 ワークシートの編集：セルの挿入・削除、移動、コピー、データ修正、連番データの入力、数式入力 第 7 回 ワークシートの書式設定：列幅・行高の変更、表示形式、文字の配置とフォント、罫線、塗りつぶし 第 8 回 グラフ：グラフの作成、棒グラフ、円グラフ 第 9 回 グラフ：系列の変更、数値軸目盛の変更、グラフ種類の変更、データ系列、軸ラベル、凡例、フォント、データラベル 第 10 回 関数の活用 1：最大値(MAX)、最小値(MIN)、個数(COUNT)、順位付け(RANK)、四捨五入(ROUND) 第 11 回 関数の活用 2：判定(IF)、条件集計(COUNTIF、SUMIF)、表の検索(VLOOKUP) 第 12 回 データベース機能 1：ソート、フィルタ、条件付き書式、テーブル 第 13 回 データベース機能 2：ピボットテーブル、クロス集計、レポートフィルタ 第 14 回 アプリケーション間のデータ活用：Word 文書への Excel データ活用、Web データ活用、新機能など 第 15 回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業中に課される演習問題 (50%) + 実技試験 (50%)		

(注) 食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (D)	担当者	遠矢 守
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 これからの高度情報化社会で必要とされる「情報活用技術」の修得</p> <p>【概要】 本科目は、情報リテラシーⅠから続くものでⅠと同じ授業方針で進める。 本科目Ⅱでは、Ⅰで学んだことをもとに、Ⅰより高度な Word や Excel のスキルの修得を目指す。さらに、デジタルプレゼンテーションやホームページ作成など情報発信に関するスキル修得を目指す。加えて、Word や Excel などオフィスソフトの機能を自分なりに拡張できるマクロプログラミング技法の基礎について紹介する。</p> <p>【到達目標】 現代人にとって必要とされるコンピュータとインターネットに関する知識や技能を獲得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし (ただし、必要に応じて授業資料ファイルを配布する。そのため USB メモリなどを毎回準備すること)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 前期の復習 第 2 回 PowerPoint によるデジタルプレゼンテーション 1 (文字だけのプレゼンテーション、テキストアニメーション) 第 3 回 PowerPoint によるデジタルプレゼンテーション 2 (図・表・動画の活用、図やグラフのアニメーション) 第 4 回 PowerPoint によるデジタルプレゼンテーション 3 (効果的プレゼンテーションとは) 第 5 回 Excel による縦横計算 1 (関数の利用 1) 第 6 回 Excel による縦横計算 2 (関数の利用 2, Excel のショートカットキー) 第 7 回 Excel による縦横計算 3 (演習) 第 8 回 Excel によるグラフ作成、グラフ入り文書の作成 1 第 9 回 Excel によるグラフ作成、グラフ入り文書の作成 2 第 10 回 Excel によるデータベース処理 1 第 11 回 Excel によるデータベース処理 2 第 12 回 エディタによるホームページの作成 第 13 回 ファイルの整理 (ファイルの圧縮/解凍)、OS の概念 第 14 回 マクロプログラミング入門 第 15 回 期末試験</p>		
成績評価の方法	期末試験 (100%) の結果による。なお、課せられた宿題の全提出が期末試験の受験要件となる。		

(注) 生活科学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(E)	担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】パソコンの基本的な使い方をマスターし、各種ソフトウェアに習熟する。</p> <p>【概要】情報リテラシーⅡ(E)と(F)は、授業開始前にパソコン使用経験に応じて両クラスを合せてクラス編成する。基本的な使い方から始まり、電子メール、インターネット、画像処理、ファイル変換等、学習やビジネスの場で使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】初心者クラスは、取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンが身近なものとなること。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、応用レベルまで使いこなせるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回 授業前アンケート(パソコン使用歴、授業への希望など) 第2回 Windows パソコンの基本的な使い方 第3回 電子メール 第4回 ファイルの基本操作 第5回 パソコンによる効率的な検索 第6回 インターネット検索 第7回 画像ファイルの扱い方…ペイント 第8回 画像ファイルの扱い方…スキャナー・デジカメ 第9回 画像ファイルの扱い方…画像の加工・編集 第10回 画像を利用したワープロ文書作り(1) 第11回 画像を利用したワープロ文書作り(2) 第12回 ファイルの応用的処理…圧縮・解凍 第13回 インターネットの活用 第14回 総復習 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	課題と試験(1:1)の結果を合せて評価		

(注) 経済専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ(F)	担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】パソコンの基本的な使い方をマスターし、各種ソフトウェアに習熟する。</p> <p>【概要】情報リテラシーⅡ(E)と(F)は、授業開始前にパソコン使用経験に応じて両クラスを合せてクラス編成する。基本的な使い方から始まり、電子メール、インターネット、画像処理、ファイル変換等、学習やビジネスの場で使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】初心者クラスは、取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンが身近なものとなること。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、応用レベルまで使いこなせるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回 授業前アンケート(パソコン使用歴、授業への希望など) 第2回 Windows パソコンの基本的な使い方 第3回 電子メール 第4回 ファイルの基本操作 第5回 パソコンによる効率的な検索 第6回 インターネット検索 第7回 画像ファイルの扱い方…ペイント 第8回 画像ファイルの扱い方…スキャナー・デジカメ 第9回 画像ファイルの扱い方…画像の加工・編集 第10回 画像を利用したワープロ文書作り(1) 第11回 画像を利用したワープロ文書作り(2) 第12回 ファイルの応用的処理…圧縮・解凍 第13回 インターネットの活用 第14回 総復習 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	課題と試験(1:1)の結果を合せて評価		

(注) 経営情報専攻

5 日本語日本文学専攻専門科目

授業科目	日本文学概論	担当者	木戸 裕子・岩本 晃代
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育、ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成を目的とする。</p> <p>【概要】大学での文学研究は高校の国語の授業の内容とは大きく違います。この授業では、1. 古典文学研究に必要な文献学、書誌学の初歩とくずし字の読み方、2. 主に近代文学研究に必要な文学理論の初歩、3. 大学生にふさわしい「書く力」「話す力」を身につけるためのレポート作成方法の三部構成で、日本文学を学ぶ学生に必要な知識と能力を習得できるようにします。</p> <p>【到達目標】日本の古典・近代文学に関する基礎的な知識を修得し、変体仮名(くずし字)の基本的な読み方を身につける。演習や2年次の卒業研究に必要なディスカッションの仕方、論理的なレポートの書き方を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 小島孝之『古筆切で読む くずし字練習帳』『字典かな』新典社(担当者:木戸)</p> <p>(2) 村松定孝『文学概論』双文社出版(担当者:岩本)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション。本学での日本文学関連の授業と高校の国語の授業の違い</p> <p>第2回 古典文学を学ぶとは 仮名史について くずし字の読み方1</p> <p>第3回 文献学(写本と板本)について くずし字の読み方2</p> <p>第4回 書誌学について くずし字の読み方3</p> <p>第5回 くずし字小テスト 物語・日記・随筆 古典文学の分類について</p> <p>第6回 古典における比較文学 中国古典文学との関わり1 くずし字の読み方4</p> <p>第7回 中国古典文学との関わり2 くずし字の読み方5</p> <p>第8回 前半のまとめと試験</p> <p>第9回 総論 近代文学とは何か</p> <p>第10回 小説について</p> <p>第11回 詩について</p> <p>第12回 短歌・俳句について</p> <p>第13回 文学批評について</p> <p>第14回 近代文学研究の方法・論文の書き方(後半のまとめ)</p> <p>第15回 後半のまとめと試験</p>		
成績評価の方法	<p>毎時間提出するミニレポート(感想文等)20% 講義期間中の提出課題又は小テスト30% まとめ試験50%の合計で評価する。</p>		

(注) 教職必修

授業科目	言語学概論	担当者	未定
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	<p>第1回</p> <p>第2回</p> <p>第3回</p> <p>第4回</p> <p>第5回</p> <p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>		
成績評価の方法			

授業科目	日本語学概論	担当者	望月 正道
		〔履修年次〕 日本語日本文学専攻は1年, 英語英文学専攻は2年	
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 日本語日本文学専攻は必修 (注), 英語英文学専攻は選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語に関する研究を行っていくうえで、また、日本文学（特に古典文学）を読んでいくためにも、必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】各研究分野について概観するが、特に、日本語で用いられる音声・音韻（音声言語）に関する事項と、それを書き表す文字・表記（アルファベットのみを用いる言語に比べて、複雑な文字体系を持つ日本語では、文字の問題は殊に重要である）について重点を置いて考察を行うこととする。なお、日本語の歴史については、別に「日本語史」の授業科目で扱う。</p> <p>この授業は「講義方式」であり、教室での90分の授業に対して180分の自学自習が義務づけられている。従って、各自事前にテキストを読んで疑問点を拾い出し、「学習課題」を考察してこよう。</p> <p>【到達目標】日本語学について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 仁田義雄 他著『改訂版 日本語要説』ひつじ書房		
授業スケジュール	第1回 日本語学(国語学)とは 第2回 現代語の音声・音韻論1:発音器官/国際音声字母 ※ 第3回 現代語の音声・音韻論2:母音 ※ 第4回 現代語の音声・音韻論3:子音 ※ 第5回 現代語の音声・音韻論4:韻律 ※ 第6回 文字・書記 :現代日本語の表記の特徴 ※ 第7回 前半のまとめ 第8回 現代語の文法・文法論1:テンスとアスペクト 第9回 現代語の文法・文法論2:待遇表現 第10回 現代語の語彙・語彙論1:語種 第11回 現代語の語彙・語彙論2:語彙の体系 第12回 社会言語学・方言学1 :国語(公用語)と方言 第13回 社会言語学・方言学2 :新方言/言語地理学 第14回 文章・談話 第15回 まとめと試験 ※印=パソコン教室で実施。		
成績評価の方法	筆記試験(テキスト・ノート・辞書等持ち込み可)の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 教職必修

授業科目	日本語教育概論	担当者	未定
		〔履修年次〕 日本語日本文学専攻は1年, 英語英文学専攻は2年	
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

授業科目	日本語史	担当者	望月 正道
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語の史的変遷について学ぶ</p> <p>【概要】古代から現代に至る各時代の日本語について、音韻・文字・文法など各分野にわたり、資料を読みながら、史的変遷を概観する。古典辞典いづれか1冊を毎回持参すること。</p> <p>テキストが分野別別の記述になっているので、各自、歴史年表の上に投影してみる。特に、日本史が苦手だというひとは、政治史や文化史などの復習も必要である。</p> <p>開放科目としての受講など「日本語学概論」を履修していない場合は、テキストのうち日本語史で扱わない部分についてよく読んでおくこと。</p> <p>【到達目標】日本語の歴史について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 仁田義雄 他著『改訂版 日本語要説』ひつじ書房		
授業スケジュール	第 1回 時代区分と資料 : 古辞書/古典文学作品 第 2回 表記の歴史 : 漢字の受容から仮名の誕生へ 第 3回 古代語の音韻・音韻史1 : 上代特殊仮名遣い/手習い歌・五十音図 第 4回 古代語の音韻・音韻史2 : 子音・母音の変遷 第 5回 古代語の音韻・音韻史3 : アクセントと仮名遣い 第 6回 古代語の語彙・語彙史1 : 形容詞 第 7回 古代語の語彙・語彙史2 : 代名詞/親族語彙 第 8回 古代語の語彙・語彙史3 : 語構成/借用語 第 9回 古代語の語彙・語彙史4 : 語形変化/語義変化/文体と位相 第 10回 古代語の文法・文法史1 : 品詞論 第 11回 古代語の文法・文法史2 : 形態論 第 12回 古代語の文法・文法史3 : 統語論 第 13回 社会言語学・方言学 : 共通語の成立と方言の消長 第 14回 日本語学史 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (テキスト・ノート・辞書等持ち込み可) の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 教職必修

授業科目	日本文法論	担当者	望月 正道
		[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】近代以降の主な文法学説について学び、日本語の文法について考察する</p> <p>【概要】中学校の国語の時間に習った(はずの)「口語文法」は、多くの生徒にとって、退屈だけで日常生活においてはほとんど役に立たない存在である。しかし、文法研究を一生の仕事とした人が少なからずいることを考えれば、意外に文法も面白いものかもしれない。</p> <p>また、日本語教育や外国語学習の場面では、より実態に近い(役に立つ)日本語文法理論をわきまえておくべきであろう。</p> <p>この講義では、毎年、日本語の文法について書かれた新書1冊を取り上げ、近代以降の主な文法学説についても概観しつつ、考察を加えていく。講義方式ではあるが、輪読形式や中学校の教育実習に関する話題も交えて進めていくので、気軽に参加してほしい。</p> <p>【到達目標】日本語の文法について書かれた新書を理解し、文法に関して議論ができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定		
授業スケジュール	第 1回 中学校国語「口語文法」のおさらい 第 2回 大槻文彦/国語元年, 山田孝雄/陳述 第 3回 松下大三郎/断句, 橋本進吉/文節 第 4回 時枝誠記/文章論, 三上章/主語発止論 第 5回 テキストについての検討(1) 第 6回 テキストについての検討(2) 第 7回 テキストについての検討(3) 第 8回 テキストについての検討(4) 第 9回 テキストについての検討(5) 第 10回 テキストについての検討(6) 第 11回 テキストについての検討(7) 第 12回 テキストについての検討(8) 第 13回 テキストについての検討(9) 第 14回 テキストについての検討(10) 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (テキスト・ノート・辞書等持ち込み可) の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%)を加えて判定する。		

授業科目	日本語学講義	担当者	望月 正道
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】韓国語（朝鮮語）の概要を学ぶことをとおして、日本語をより深く理解する</p> <p>【概要】日本では、6年以上勉強した英語と比較して「日本語は特殊だ」と思い込んでしまう人が多いように見受けられる。しかし、現代の英語は、例えば二人称代名詞が1つしかないなど、ある意味では西欧語の中でも「特殊」である。英語だけ（あるいは英語と中国語だけ）を見ていては、公平な判断ができない。そういうときに、文法構造や漢字の受容、敬語法などの面において、日本語によく似ている（が、微妙に違う）韓国語（朝鮮語）を知ると、目から鱗が落ちるはずだ。</p> <p>また、世間では「古代韓国語で万葉集を解説する」といったたぐいの本もある。が、実は古代の韓国語（朝鮮語）の姿はほとんどわかっていないのである。これら、日本語の歴史に関して考察する場合の韓国（朝鮮）資料の価値についても考える。</p> <p>なお、授業はK-Popsを視聴するなど楽しくすすめるつもりだが、ハングル字母のおおよその読み方は覚えてほしい。</p> <p>【到達目標】日本語と韓国語の似ている点・異なる点を指摘することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)プリント。		
授業スケジュール	第 1回 「ハングル」とは 第 2回 日本語と韓国語 漢字の音と訓 第 3回 " 漢語（漢字語）と外来語 第 4回 " 品詞分類、助詞 第 5回 " 助動詞（語尾）、サ変動詞・形容動詞（하다動詞・形容詞） 第 6回 " 代名詞、指示語 第 7回 " 擬声語・擬態語 第 8回 " 連濁とサイシオツ 第 9回 " 数詞、助数詞 第 10回 " 待遇表現（敬語、文体） 第 11回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」 記紀歌謡・万葉集と郷歌 第 12回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」 数詞 第 13回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」 トンデモ学説について 第 14回 日本語の起源についてどこまでわかっているか 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（簡単なハングルの読み書き、日本語との類似点・相違点、日本語の起源とのかわり等について出題する）の成績(80%)に、授業での発言や小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

授業科目	日本語学講義 I	担当者	松尾 弘徳
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語学の研究方法を学ぶ</p> <p>【概要】「日本語学」という学問分野がどんなことを問題として取り扱うのか、という基本的なスタンスをこの授業では学びます。受講生は毎回授業時までに予習課題を提出、授業時には学生が提出した回答や例文を引用しながら、日本語のしくみを考えます。授業は基本的に講義形式で進めますが、適宜グループディスカッションや質疑応答も行います。</p> <p>【到達目標】</p> <p>普段話したり書いたりしている日本語を客観的にながめることができるようになることが最終的な目標です。多くの具体的事例を取り上げ、日本語について深く考える場をしたいと思います。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキストは指定せず、毎回プリントを配布します。 参考文献も授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。		
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方の説明 第 2回 ことばの性差 第 3回 ことばの地域差 第 4回 比喩とはなにか 第 5回 比喩を考える 第 6回 意味用法の変化と若者語 第 7回 発音のしくみ 第 8回 音韻と音声のちがい 第 9回 鹿児島方言のアクセント 第 10回 テンス 第 11回 助詞 第 12回 ヴォイス 第 13回 ピジン・クレオール 第 14回 方言の共通語化 第 15回 まとめと試験 <p>以上の予定ですが、進行状況次第で変更の可能性があります。</p>		
成績評価の方法	評価基準は下の通り。 毎授業後に提出するレスポンスシート：20% メールによる予習課題の提出：20% 学期末試験：60% なお、初回授業時に詳しいガイダンスを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。		

授業科目	日本語学講読Ⅱ	担当者	松尾 弘徳
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代日本語にみられる諸現象を「歴史的に」考える</p> <p>【概要】ある言葉遣いを聞いたとき、ある人物像が頭に浮かぶ、ということがあります。これを「役割語」と呼ぶことにします。授業では小説やマンガ、あるいはアニメなどの用例を紹介しながら、役割語に関する考察をすすめてゆきます。学生の皆さんにも同様の調査を実際に行ってもらい、研究発表という形で報告していただきます。</p> <p>【到達目標】 教員による講義と、学生の研究発表を並行しながら、言葉と歴史の関わりを明らかにしてゆきたいと考えます。この授業を通じて、①歴史認識 ②日本語学の研究方法 ③プレゼンテーションスキルなどを学ぶことになります。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>テキストは指定せず、毎回プリントを配布します。</p> <p>参考文献も授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方の説明 第2回 「正しい日本語」とはなにもの？ 第3回 副詞の種類－2つの「とても」 第4回 副詞「全然」の語史 第5回 役割語とは何か 第6回 研究発表準備 第7回 「博士」のことば（研究発表①） 第8回 博士語の成立 第9回 標準語と非標準語（1） 第10回 標準語と非標準語（2） 第11回 「中国人」のことば（研究発表②） 第12回 異人たちのことば 第13回 さまざまな役割語（研究発表③） 第14回 役割語とステレオタイプ 第15回 予備日</p> <p>以上の予定ですが、受講人数・進行状況次第で変更の可能性があります。</p>		
成績評価の方法	<p>評価基準は下の通り。学期末の試験は行いません。</p> <p>毎授業後に提出するレスポンスシート：30% メールによる予習課題の提出：20% 研究発表と発表概要の提出：50%</p> <p>なお、初回授業時に詳しいガイダンスを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。</p>		

授業科目	日本語学演習Ⅰ,Ⅲ	担当者	望月 正道
	[履修年次] 演習Ⅰは1年、演習Ⅲは2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】キリシタン資料に見える中世末の日本語を読み、文法や語彙の変遷について考える</p> <p>【概要】大英図書館蔵『天草版 伊曾保物語』は、16世紀末のキリシタンたちによって編まれた中世日本語の教科書である。古代語から近代語に至る過渡期の日本語の姿が、ポルトガル語式のローマ字で書き留められている。本演習では、特に、待遇表現をはじめとする文法と清濁などの語形とに重点を置いて、順に担当者を決めて輪読していく。後期は、動物寓話を読む。</p> <p>【到達目標】ローマ字表記の本文を音読し、大意を説明できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)授業中に指示する。		
授業スケジュール	<p>第1回 底本の紹介と読み方（2年生が1年生に） 第2回 2年生担当の演習(1) 第3回 2年生担当の演習(2) 第4回 2年生担当の演習(3) 第5回 2年生担当の演習(4) 第6回 2年生担当の演習(5) 第7回 発表資料の作成指導（2年生が1年生に） 第8回 1年生担当の演習(1) 第9回 1年生担当の演習(2) 第10回 1年生担当の演習(3) 第11回 1年生担当の演習(4) 第12回 1年生担当の演習(5) 第13回 1年生担当の演習(6) 第14回 1年生担当の演習(7) 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	<p>担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績(40%)に、それ以外の授業中の発言(10%)および試験の成績(50%)を加えて判定する。</p>		

授業科目	日本語学演習Ⅱ	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 キリシタン資料に見える中世末の日本語を読み、文法や語彙の変遷について考える</p> <p>【概要】 大英図書館蔵『天草版 伊曾保物語』は、16世紀末のキリシタンたちによって編まれた中世日本語の教科書である。古代語から近代語に至る過渡期の日本語の姿が、ポルトガル語式のローマ字で書き留められている。本演習では、特に、待遇表現をはじめとする文法と清濁などの語形とに重点を置いて、順に担当者を決めて輪読していく。今年度前期は、エリボの生涯のことを読む。</p> <p>【到達目標】 ローマ字表記の本文を音読し、大意を説明できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)授業中に指示する。		
授業スケジュール	第 1回 底本の紹介と読み方（再確認、特に2年前期からの参加者に） 第 2回 学生による発表(1) 第 3回 学生による発表(2) 第 4回 学生による発表(3) 第 5回 学生による発表(4) 第 6回 学生による発表(5) 第 7回 学生による発表(6) 第 8回 学生による発表(7) 第 9回 学生による発表(8) 第 10回 学生による発表(9) 第 11回 学生による発表(10) 第 12回 学生による発表(11) 第 13回 学生による発表(12) 第 14回 学生による発表(13) 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績(40%)に、それ以外の授業中の発言(10%)および試験の成績(50%)を加えて判定する。		

授業科目	日本語学演習Ⅳ	担当者	未定
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回		
成績評価の方法			

授業科目	日本語表現法	担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ことば（音声言語および文章表現）によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ</p> <p>【概要】発表、面接、論文、エッセーなどの課題にグループで取り組みながら、ことば（音声言語および文章表現）によって、事実を正確に示し、意見を的確に伝える方法を考察する。 なお、表現の自由と人権の問題についても取り上げる予定である。 この授業は講義方式であるが、実際には後期の日本語表現法演習と一体として進めていくので、一部演習も織り込んでいく。その意味で、日本語表現法演習も併せて受講することが望ましい。</p> <p>【到達目標】簡単な口頭発表が適切にできる。また、原稿用紙を適切に使って簡単なレポートが書ける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 千葉正昭他編『日本語表現 演習と発展【改訂版】』明治書院 (2) 1500ページ以上ある国語辞典いづれか1冊（電子辞書でも可） 教科書体・筆順付きの国語表記ハンドブック類（電子辞書では不可）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 自己紹介/発音、姿勢、歩き方 第2回 自己アピールをする 第3回 口頭で道案内をする 第4回 ディスカッション 第5回 表現の自由と人権 第6回 口頭発表のまとめ 第7回 現代語表記と原稿のきまり 第8回 メールで問い合わせる 第9回 使いやすいマニュアルとは 第10回 企画や提案を出す(1)形式 第11回 企画や提案を出す(2)グループ討論を経て 第12回 資料を探す(1) 図書館で探す 第13回 資料を探す(2) インターネットで調べる 第14回 論理の展開とレトリック 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験の成績(50%)に、グループ討論や発表等の授業中の発言(30%)、随時行う表記に関する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

(注) 教職必修

授業科目	日本語表現法演習	担当者	望月 正道
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ことば（音声言語および文章表現）によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ</p> <p>【概要】日本語表現法の講義での学習を生かしながら、課題に対するレポートを作成し、口頭発表を行う。 この授業は演習方式であるが、実際には前期の日本語表現法と一体として進めていくので、一部講義も織り込んでいく。その意味で、日本語表現法と併せて受講することが望ましい。</p> <p>【到達目標】資料を調べて、口頭発表やレポート作成が適切にできる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 千葉正昭他編『日本語表現 演習と発展【改訂版】』明治書院 (2) 1500ページ以上ある国語辞典いづれか1冊（電子辞書でも可） 教科書体・筆順付きの国語表記ハンドブック類（電子辞書では不可）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 参考文献を読む 第2回 参考文献を引用する 第3回 プレゼンテーションとアクセシビリティ 第4回 課題レポート作成(1) 第5回 課題レポートの発表(1) 第6回 課題レポートに関する討論(1) 第7回 課題レポート作成(2) 第8回 課題レポートの発表(2) 第9回 課題レポートに関する討論(2) 第10回 課題レポート作成(3) 第11回 課題レポートの発表(3) 第12回 課題レポートに関する討論(3) 第13回 試験レポートのための資料収集 第14回 試験レポートのテーマに関する討論 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験の成績(50%)に、グループ討論や発表等の授業中の発言(30%)、随時行う表記に関する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

授業科目	対照言語学	担当者	未定
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

授業科目	日本文学講義 I	担当者	木戸 裕子
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 大江匡衡と赤染衛門～平安時代の家族像～ 【概要】 「丹波の守の北の方をば、宮、殿のわたりには匡衡衛門とぞいひまべる」と紫式部は『紫式部日記』に記しました。丹波の守とは一条朝を代表する学者であった大江匡衡、その北の方は藤原道長家の女房で、『栄花物語』の作者とも伝えられる赤染衛門です。 『源氏物語』などに描かれ物語の中る恋愛とは、実際の中流貴族の結婚とその後の生活については、両者の資料がそろっている場合が少なく実態を知ることは困難です。この二人の場合、それぞれの私家集『赤染衛門集』『匡衡集』が残っているほか、匡衡の詩文集『江吏部集』が残っており、生涯が比較的たどりやすくなっています。この二人を中心に平安時代の家族について考えていきたいと思ひます。 【到達目標】 大江匡衡と赤染衛門、それぞれの伝記を理解するとともに、平安時代の家族像について考察できるようにする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2)		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション 大江匡衡・赤染衛門について 第2回 『源氏物語』 「雨夜の品定め」に見る結婚観 第3回 赤染衛門の独身時代『赤染衛門集』から 第4回 大江匡衡の独身時代『匡衡集』『江吏部集』から 第5回～第6回 求婚と結婚 第7回～第9回 匡衡の求職活動『江吏部集』『本朝文料』から 第10回～第11回 子供たち 第12回～第13回 尾張守としての生活 第14回 匡衡の死とその後の赤染衛門 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート (100%)		

授業科目	日本文学講読Ⅰ	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔学期〕 後期 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 萬葉集巻8を読む</p> <p>【概要】 日本文学講読Ⅰは上代（奈良時代以前）の文学を対象とし、『萬葉集』を一巻ずつ読み進めている。本年は巻八を読む。巻八は、中学校の国語の教科書にも載る「石走る 垂水の上のさわらびの 萌えいづる春に なりにけるかも」で始まり、雑歌と相聞が四季別に分類された巻である。万葉人の季節感を味わいたい。</p> <p>基本的に受講生による輪読形式で読み進めていき、適宜、説明を補う。</p> <p>【到達目標】 萬葉集の歌の特徴を知り、上代文学に関する基礎的な知識を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 伊藤 博『万葉集釈注(四)』集英社文庫</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション。萬葉集について—諸本・読み方—</p> <p>第2回 巻八解説</p> <p>第3回 輪読担当の説明 春の雑歌講読</p> <p>第4回 春の雑歌輪読</p> <p>第5回 春の相聞輪読</p> <p>第6回～第7回 夏の雑歌輪読</p> <p>第8回 夏の相聞輪読</p> <p>第9回～第10回 秋の雑歌輪読</p> <p>第11回～第12回 秋の相聞輪読</p> <p>第13回 冬の雑歌輪読</p> <p>第14回 冬の相聞輪読</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	輪読担当（50%）、レポート（50%）		

授業科目	日本文学講読Ⅱ	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔学期〕 前期 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 伊勢物語を読む</p> <p>【概要】 高校の古典の授業でもおなじみの『伊勢物語』だが、「昔男」と俗称される主人公は、平安の昔から、ある時は雅やかな貴公子として、ある時は菩薩の生まれ変わりとして、またあるときは好色の神様として多くの人々に愛されてきた。本講義では、角倉素安と本阿弥光悦によって製作された、近世最初期の絵入り本である嵯峨本の影印（写真版）を用いて、昔男の恋と友情を読んでいく。また、『伊勢物語』は源氏物語や室町時代の謡曲など、後代のさまざまな文学作品にも影響を与えた。講義の中で、そのような『伊勢物語』の影響下に成立した作品にも触れていきたい。</p> <p>【到達目標】 くずし字（変体仮名）がよめるようになる。『伊勢物語』について、またその構成に及ぼした影響について理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 片桐洋一編『伊勢物語 慶長十三刊嵯峨本第1種（影印）』和泉書店</p> <p>(2) 石田穰二訳注『伊勢物語』角川日本古典文庫</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 伊勢物語について 昔男の変遷</p> <p>第2回 初段 昔男の登場 変体仮名の読み方</p> <p>第3回～第6回 二条の後 三段～六段</p> <p>第7回～第9回 東下り 七段～九段</p> <p>第10回～第11回 伊勢の斎宮 漢文学との関わり 六九段～七二段</p> <p>第12回～第14回 男の友情 一六・三八・四六・四八・八二・八三段</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	くずし字解説の小テスト2回（20%）、伊勢物語小テスト1回（10%）レポート（70%）		

授業科目	日本文学講読Ⅲ	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『源氏物語』「絵合（えあわせ）」を読む</p> <p>【概要】日本文学講読Ⅲは日本文学講読Ⅱと同様に中古の文学を対象とする。本講読では『源氏物語』から「絵合」巻を読む。テキストは江戸時代に広く読まれた「首書-かしらがき-」（頭注）付き板本の影印（写真）である。現代の物語解釈とは違う、江戸時代以前の源氏物語解釈を参考にすることで、千年の寿命を保ってきた『源氏物語』の享受史をも考えたい。受講生の輪読の形で、首書を参考にしながら、翻刻・解釈していく予定である。</p> <p>【到達目標】源氏物語について基本的な文学史的事項（享受史含む）を理解する。『源氏物語』の巻名を覚える。「絵合」巻の内容を知り、『源氏物語』全体の中での位置づけを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 清水婦久子『首書源氏物語 絵合・松風（影印）』和泉書店 (2) 角川文庫ビギナーズクラシック『源氏物語』</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 作品概説『源氏物語』について 第2回 「絵合」巻について 輪読担当説明 第3回 「絵合」輪読 第4回 第1回小テスト「絵合」輪読 第5回～第9回 「絵合」輪読 第10回 第2回小テスト「絵合」輪読 第11回～第14回 「絵合」輪読 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>輪読担当（50%） 源氏物語巻名小テスト（10%） 筆記試験（40%）</p>		

授業科目	日本文学講読Ⅳ	担当者	橋口 晋作
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中世の文学作品『平家物語』覚一本原本を、学生が中心になって読み取り、解釈し、鑑賞して行く。</p> <p>【概要】覚一本『平家物語』で鬼界が島に流された俊寛達の事件の経緯を読み、鑑賞する。学生が、原文を翻訳し、注釈した資料を作成し、発表しながら、全員で鑑賞して行く。</p> <p>【到達目標】本講読での学生の到達目標は、次ぎの3点である。先ず、先行研究を利用して原文を読み、解釈する力をつけることである。次ぎに、担当した部分の発表資料を作成し、発表の準備をする力をつけることである。最後に、全員の前で、資料によりながら、担当した部分を読んで、注釈をつけ、授業する発表力をつけることである。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 新日本古典文学大系『平家物語 上』岩波書店</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 中世の文学と『平家物語』について 第2回 『徒然草』の『平家物語』作者説 第3回 一 成親の任官執着 1 第4回 同 2 第5回 同 3 第6回 二 多田行綱の裏切り 1 第7回 同 2 第8回 同 3 第9回 三 重盛の苦悩 1 第10回 同 2 第11回 四 康頼、成経の祈願 1 第12回 同 2 第13回 同 3 第14回 同 4 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験（60%）+授業での発表内容（40%）</p>		

授業科目	日本文学演習Ⅰ・Ⅲ	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 1年, 2年 (注) 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代私家集の解釈と鑑賞</p> <p>【概要】本演習は、前期の日本文学演習Ⅱの続きである。 新たに1年生が加わり、日本文学演習Ⅰと2年生の日本文学演習Ⅲを合同で行なうことにより、2年生には1年生に説明することで、いっそう作品に対する理解が深まることを期待する。また、1年生には、2年生の担当を通して、調査、発表の仕方を学んで欲しい。取り扱う作品については、日本文学演習Ⅱを参照されたい。</p> <p>【到達目標】演習Ⅰ 平安時代の私家集について理解する。日本古典文学の注釈に必要な資料の調べ方、まとめ方を身につける。 演習Ⅲ 四条宮下野集について理解を深める。わかりやすいプレゼンテーションの仕方を工夫する。 演習Ⅰ・Ⅲ共通 討論の仕方を身につけ、実際に討論して結論を導くことができるようにする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 岩波新日本古典文学大系『平安私家集』他		
授業スケジュール	第1回 2年生によるオリエンテーション 演習の進め方について 辞書・牽引の引き方、資料の探し方、その他注意事項 第2回 2年生による模範演習 第3回～第14回 各担当者による演習 第15回 まとめ		
成績評価の方法	演習Ⅰ：演習時の発言、態度 (50%) レポート (50%) 演習Ⅲ：演習担当 (50%) 演習時の発言、態度 (50%)		

(注) 1年生は演習Ⅰ, 2年生は演習Ⅲ

授業科目	日本文学演習Ⅱ	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代私家集の解釈と鑑賞</p> <p>【概要】日本文学演習Ⅰ～Ⅲは古典文学の演習である。本年度は平安時代の私家集を読む。私家集とは個人の歌集であり、その編集の仕方はさまざまだが、本演習では昨年度に引き続き、日記的な性格を持つ私家集『四条宮下野集』を読む。本演習では、冷泉家時雨亭本を用い、各担当者が歌の配列や詞書を参考にしながら、歌の解釈をしていき、『四条宮下野集』全体の構成を読み解いていく。</p> <p>【到達目標】平安時代の私家集について理解する。プレゼンテーションと討論の仕方を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 岩波新日本古典文学大系『平安私家集』他		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション 演習の進め方 第2回 四条宮下野集輪読1 第3回 四条宮下野集輪読2 第4回 四条宮下野集輪読3 第5回 四条宮下野集輪読4 第6回 四条宮下野集輪読5 第7回 四条宮下野集輪読6 第8回 四条宮下野集輪読7 第9回 四条宮下野集輪読8 第10回 四条宮下野集輪読9 第11回 四条宮下野集輪読10 第12回 四条宮下野集輪読11 第13回 四条宮下野集輪読12 第14回 四条宮下野集輪読13 第15回 まとめ		
成績評価の方法	演習担当 (50%), 演習時の発言、態度 (50%)		

授業科目	日本文学史・近代Ⅰ 日本文学史Ⅰ	担当者	岩本 晃代
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 明治以降の文学を各時代の社会的、文化的背景と関連づけて概観する。</p> <p>【概要】 日本文学史・近代Ⅰは、明治期から大正期までの文学を対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、特に文学的影響の大きな作品については、実際に作品本文を紹介し、社会や文化的な関わりをも含めて、その史的意義が明らかになるように講じる。</p> <p>【到達目標】 近代日本の文学史上の基礎的な知識の習得。文学作品を、社会的、文化的背景と関連付けて考察することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 久保田淳監修『日本文学史』おうふう、プリント。</p> <p>(2) 日本近代文学館編『日本近代文学大事典』講談社、他、授業中に適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 近代の文学 (明治・大正) 概観</p> <p>第2回 近代化と文学 近代の特質</p> <p>第3回 近代化と文学 〈私〉の構造</p> <p>第4回 明治の文学 明治初期の文学表現</p> <p>第5回 明治の文学 書き言葉の改革</p> <p>第6回 明治の文学 文学の改良</p> <p>第7回 明治の文学 近代文学の改良</p> <p>第8回 明治の文学 言文一致体小説</p> <p>第9回 明治の文学 写実主義と写生説</p> <p>第10回 明治の文学 浪漫主義の小説と詩歌</p> <p>第11回 明治の文学 自然主義の革新 (小説)</p> <p>第12回 明治の文学 自然主義の革新 (詩歌)</p> <p>第13回 大正の文学 大正文壇の概観</p> <p>第14回 大正の文学 大正文壇と私小説</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験 70%</p> <p>授業ごとに実施するミニレポート 30%</p>		

(注) 英語英文学専攻は「日本文学史Ⅰ」として選択

授業科目	日本文学史・近代Ⅱ 日本文学史Ⅱ	担当者	岩本 晃代
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 明治以降の文学を各時代の社会的、文化的背景と関連づけて概観する。</p> <p>【概要】 日本文学史・近代Ⅱは、昭和期 (大正末期をふくむ) から現在までの文学を対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、特に文学的影響の大きな作品については、実際に作品本文を紹介し、社会や文化的な関わりをも含めて、その史的意義が明らかになるように講じる。</p> <p>【到達目標】 近代日本の文学史上の基礎的な知識の習得。文学作品を、社会的、文化的背景と関連付けて考察することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 久保田淳監修『日本文学史』おうふう、プリント。</p> <p>(2) 日本近代文学館編『日本近代文学大事典』講談社、他、授業中に適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 日本近代文学 (大正末から現在まで) 概観</p> <p>第2回 昭和の文学 新感覚派・前衛詩</p> <p>第3回 昭和の文学 主知主義文学</p> <p>第4回 昭和の文学 プロレタリア文学</p> <p>第5回 昭和の文学 文芸復興の時代1</p> <p>第6回 昭和の文学 文芸復興の時代2 四季派の抒情その1</p> <p>第7回 昭和の文学 文芸復興の時代3 四季派の抒情その2</p> <p>第8回 昭和の文学 戦争文学と日本回帰</p> <p>第9回 昭和の文学 戦後混乱期の表現</p> <p>第10回 昭和の文学 近代的表現の行方</p> <p>第11回 昭和の文学のまとめ</p> <p>第12回 現代の文学 昭和30年代</p> <p>第13回 現代の文学 昭和40年代</p> <p>第14回 現代の文学 昭和50年以降現在まで</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験 70%</p> <p>授業ごとに実施するミニレポート 30%</p>		

(注) 英語英文学専攻は「日本文学史Ⅱ」として選択

授業科目	日本文学講義Ⅱ	担当者	岩本 晃代
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 昭和の代表的な詩人とその作品について、社会的、文化的背景を視野に入れつつ講義する。</p> <p>【概要】 萩原朔太郎・西脇順三郎・三好達治・立原道造・田中冬二・村野四郎・丸山薫・蔵原伸二郎ら代表的な昭和の詩人と、その具体的な作品を取り上げて講義する。また、それらを対象とした批評・論文を読むことによって、日本文学概論、日本文学講義、日本文学演習で培った作品の鑑賞・分析の力をさらに向上させるとともに、各詩人の文学史における位置づけを意識させる。</p> <p>【到達目標】 昭和の詩人についての知識を深め、詩を鑑賞・分析する力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 岩本晃代『昭和詩の抒情』双文社出版、他、適宜授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 昭和詩の概観 第2回 萩原朔太郎とその作品 第3回 西脇順三郎とその作品 第4回 四季派とは何か1 第5回 四季派の詩人 三好達治とその作品 第6回 四季派の詩人 立原道造とその作品 第7回 四季派の詩人 田中冬二とその作品 第8回 四季派の詩人 村野四郎とその作品 第9回 四季派の詩人 丸山薫とその作品1 第10回 四季派の詩人 丸山薫とその作品1 第11回 四季派の詩人 丸山薫とその作品1 第12回 四季派の詩人 蔵原伸二郎とその作品1 第13回 四季派の詩人 蔵原伸二郎とその作品1 第14回 四季派とは何か2 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>レポート70% 授業中ごとに実施するミニレポート30%</p>		

授業科目	日本文学講義Ⅴ	担当者	丹羽 謙治
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 赤穂事件と文学 (1)</p> <p>【概要】 元禄14年～16年(1701～03)に起こった、いわゆる「赤穂事件」は当時の社会に大きな影響を及ぼした。事件はすぐに芝居や文学の世界に取り込まれ、虚構や趣向を加えられながら様々な作品が作られていった。この授業では、赤穂事件の概要を押さえた上で、作品を鑑賞し、どのように形で事件が文学に取り込まれていったかについて考察する。</p> <p>【到達目標】 「赤穂事件」の概要を把握する。 赤穂事件を取り込んだ文学作品の鑑賞を通して江戸の人々の感性や思考法を把握する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント配布 (2) 『浄瑠璃集』(新潮古典文学集成, 1985年)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 導入 文学史における近世 第2回 赤穂事件について(1) 第3回 赤穂事件について(2) 第4回 赤穂事件について(3) 第5回 赤穂事件に取材した芝居(1) 第6回 赤穂事件に取材した芝居(2) 第7回 赤穂事件に取材した芝居(3) 第8回 赤穂事件に取材した浮世草子(1) 第9回 赤穂事件に取材した浮世草子(2) 第10回 赤穂事件に取材した浮世草子(3) 第11回 赤穂事件に取材した浮世草子(4) 第12回 赤穂事件を描いた実録(1) 第13回 赤穂事件を描いた実録(2) 第14回 赤穂事件を描いた実録(3) 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	<p>平常点(30%), 筆記試験(70%)</p>		

授業科目	日本文学講読Ⅶ	担当者	丹羽 謙治
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 赤穂事件と文学（2）</p> <p>【概要】 元禄14年～16年（1701～03）に起こった、いわゆる「赤穂事件」は当時の社会に大きな影響を及ぼした。事件はすぐに芝居や文学の世界に取り込まれ、虚構や趣向を加えられながら様々な作品が作られていった。この授業では、歌舞伎と浄瑠璃、および戯作文学の作品を鑑賞し、どのように形で事件が文学に取り込まれていったかを把握するとともに、ジャンルによる特徴について考察する。</p> <p>【到達目標】 赤穂事件を取り込んだ文学作品の鑑賞を通して江戸の人々の感性や思考法を把握する。 歌舞伎、浄瑠璃に関する知識を得る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント配布</p> <p>(2) 『浄瑠璃集』（新潮古典文学集成、1985年）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 『仮名手本忠臣蔵』の成立</p> <p>第2回 『仮名手本忠臣蔵』大序（1）</p> <p>第3回 『仮名手本忠臣蔵』大序（2）</p> <p>第4回 『仮名手本忠臣蔵』三段目（1）</p> <p>第5回 『仮名手本忠臣蔵』三段目（2）</p> <p>第6回 『仮名手本忠臣蔵』四段目</p> <p>第7回 『仮名手本忠臣蔵』五段目・六段目（1）</p> <p>第8回 『仮名手本忠臣蔵』五段目・六段目（2）</p> <p>第9回 『仮名手本忠臣蔵』五段目・六段目（3）</p> <p>第10回 『仮名手本忠臣蔵』七段目（1）</p> <p>第11回 『仮名手本忠臣蔵』七段目（2）</p> <p>第12回 『仮名手本忠臣蔵』八～十一段目</p> <p>第13回 戯作と『忠臣蔵』（1）</p> <p>第14回 戯作と『忠臣蔵』（2）</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	平常点（30%）、筆記試験（70%）		

授業科目	日本文学講読Ⅶ	担当者	岩本 晃代
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本近代文学における代表的な長編小説、夏目漱石の『こころ』を講読する。</p> <p>【概要】</p> <p>『こころ』を高等学校で習った学生も多いと思われる。また、全編を読んだことがある学生もいるだろう。だが、この科目においては、あくまでも研究的視点から作品を読んでいく。『こころ』の「上 先生と私」と「中 両親と私」を丁寧に注釈しながら輪読し、当時の文化的背景を意識しつつ、その文学的評価を試みる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>文学作品を対象に、注釈する力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 夏目漱石『こころ』岩波文庫</p> <p>(2) 夏目漱石『漱石全集』岩波書店、他、適宜授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 夏目漱石について</p> <p>第2回 注釈の方法と実践</p> <p>第3回 発表資料の作成について</p> <p>第4回 「上 先生と私」（1）</p> <p>第5回 「上 先生と私」（2）</p> <p>第6回 「上 先生と私」（3）</p> <p>第7回 「上 先生と私」（4）</p> <p>第8回 「上 先生と私」（5）</p> <p>第9回 「上 先生と私」（6）</p> <p>第10回 「上 先生と私」のまとめ</p> <p>第11回 「中 両親と私」（1）</p> <p>第12回 「中 両親と私」（2）</p> <p>第13回 「中 両親と私」（3）</p> <p>第14回 「中 両親と私」のまとめ</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	口頭発表（質疑応答等含む）70% レポート30%		

授業科目	日本文学講読Ⅷ	担当者	岩本 晃代
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 日本近代文学における代表的な長編小説、夏目漱石の『こころ』を講読する。 【概要】 『こころ』の「下 先生と遺書」は、全編中において問題の多い部分である。これを丁寧に注釈しながら輪読し、当時の文化的背景を意識しつつ主題を考察し、その文学的評価を試みる。 【到達目標】 文学作品を対象に、注釈する力および問題点について議論する力を身につける。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 夏目漱石『こころ』岩波文庫 (2) 夏目漱石『漱石全集』岩波書店。他、適宜、授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション 「上 先生と私」「中 両親と私」の概要 第2回 注釈の方法と実践 第3回 発表資料の作成について 第4回 「下 先生と遺書」(1) 第5回 「下 先生と遺書」(2) 第6回 「下 先生と遺書」(3) 第7回 「下 先生と遺書」(4) 第8回 「下 先生と遺書」(5) 第9回 「下 先生と遺書」(6) 第10回 「下 先生と遺書」(7) 第11回 「下 先生と遺書」(8) 第12回 「下 先生と遺書」(9) 第13回 「下 先生と遺書」(10) 第14回 「下 先生と遺書」のまとめ 第15回 まとめ		
成績評価の方法	口頭発表(質疑応答等含む) 70% レポート等 30%		

授業科目	日本文学講読Ⅸ	担当者	古閑 章
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 文学作品に描かれた鹿児島女性の女性像を通して自己の生き方を探る。 【概要】 宮尾登美子著「天璋院篤姫」と中村きい子著「女と刀」の主人公を取り上げ、時代の枠を超えて輝き続ける鹿児島女性の女性および女性一般の生き方を考える。手続きとしては、宮尾文学のアウトラインや中村きい子の伝記にも注目しながら、両作品の内容を丁寧に辿ることになる。 【到達目標】 時代や社会・文化構造の違いを理解し、その持つ意味や価値を現代社会と対比しながら把握する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 古閑 章『天璋院篤姫と権領司キラー時代を超えた薩摩おごじょー』(2008・6, 南方新社) (2)		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 第2回 自立する女性の相貌 第3回 宮尾登美子略歴 第4回 「天璋院篤姫」の世界(1) 第5回 「天璋院篤姫」の世界(2) 第6回 「天璋院篤姫」の世界(3) 第7回 「天璋院篤姫」の世界(4) 第8回 「天璋院篤姫」の世界(5) 第9回 中村きい子略歴 第10回 「女と刀」の世界(1) 第11回 「女と刀」の世界(2) 第12回 「女と刀」の世界(3) 第13回 「女と刀」の世界(4) 第14回 「女と刀」の世界(5) 第15回 まとめ		
成績評価の方法	前後1～2回のレポート(1,000字程度)による。(100%)		

授業科目	日本文学演習Ⅳ,Ⅵ	担当者	岩本 晃代
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 近代詩史のうえで主要な小説家および詩人の作品を取り上げ鑑賞する。</p> <p>【概要】 1年生はテキストの中から、近代詩史上代表的な詩人の作品を題材にして、それぞれの担当が、注釈・鑑賞を試みる。 2年生は、関心のある作家の作品を対象にして、研究発表を行う。 毎回の授業で口頭発表し、参加者全員で問題点について議論する。</p> <p>【到達目標】 作品を分析する力、および問題点について議論する力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 吉田弥壽夫・萬田務編『展望 近代詩 その歴史と作品』双文社出版 (2) 伊藤信吉他編『現代詩鑑賞講座』角川書店、伊藤信吉他編『日本の詩歌』中央公論社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、演習の方法の説明 第2回 作品研究の方法について 第3回 発表資料の作成について 第4回 2年生口頭発表(1) 第5回 2年生口頭発表(2) 第6回 2年生口頭発表(3) 第7回 2年生口頭発表(4) 第8回 2年生口頭発表(5) 第9回 前半のまとめと詩の鑑賞の方法について 第10回 1年生口頭発表(1) 第11回 1年生口頭発表(2) 第12回 1年生口頭発表(3) 第13回 1年生口頭発表(4) 第14回 1年生口頭発表(5) 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>口頭発表(質疑応答等含む) 70% レポート等 30%</p>		

(注) 1年生は演習Ⅳ, 2年生は演習Ⅵ

授業科目	日本文学演習Ⅴ	担当者	岩本 晃代
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 近代における代表的な文学作品を対象にした、論文作成の方法の習得と、その実践。</p> <p>【概要】 現代文学史のうえで代表的な作品を各学生が自主的に選定し、先行研究の分析、論点の提出、注釈および解釈を行い、その報告をもとに受講者全員で議論する。主に戦後から現代までの文学作品を対象とする。 口頭発表、参加者全員の議論をふまえて、小論文を作成する。</p> <p>【到達目標】 文学作品を研究的視点でとらえ、論文を作成する力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 日本現代文学史の概観 第2回 演習方法について 対象とする作品の選定 第3回 発表資料の作成について 第4回 口頭発表(1) 第5回 口頭発表(2) 第6回 口頭発表(3) 第7回 口頭発表(4) 第8回 口頭発表(5) 第9回 口頭発表(6) 第10回 口頭発表(7) 第11回 口頭発表(8) 第12回 小論文の書き方その1 第13回 小論文の書き方その2 第14回 小論文の書き方その3 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	<p>口頭発表(質疑応答等含む) 40% レポート 60%</p>		

授業科目	南九州の文学Ⅱ	担当者	三嶽 公子
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 南九州の文学に見る風土の豊かさ、そして希望 南九州を舞台とした文学作品を読みながら、離島を含む南九州の風土の豊かさ、その土地で生きることへの希望を汲み取る。南九州における自然と人間のかかわり、真実、物語について学習する。</p> <p>【概要】 南九州の文学作品ベスト15を読む 南九州を舞台とした文学作品をできるだけ広範囲に、各地域ごとに読みこなす。作品そのものに深く触れ、そこから立ち上がる風景や人々の生き方について味わい、考える。同時に、21世紀を生きる、これからの生き方へのヒントを探る。</p> <p>【到達目標】 「わたしの好きな鹿児島1冊」ができるように。 南九州ゆかりの文学作品に触れることで、自分の感受性を耕し、心に残る物語や言葉を自分の宝物にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 「みたけきみこと読む かごしまの文学」(K&Yカンパニー 2007年) (2) 「向田邦子 かごしま文学散歩」(K&Yカンパニー 2003年) (3) 「屋久島文学散歩」(K&Yカンパニー 2005年) 授業ごとに作成したプリントを配布。		
授業スケジュール	第1回 鹿児島県の文学マップを読む 第2回 向田邦子「鹿児島感傷旅行」と城山・天保山 第3回 林芙美子「浮雲」と屋久島 第4回 棕鳩十「片耳の大鹿」と屋久島 第5回 山尾三省「アニミズムという希望」と屋久島 第6回 島尾敏雄「出発は遂に訪れず」と奄美 第7回 梅崎春生「桜島」と「幻化」の坊津 第8回 桜島句碑めぐり 第9回 海音寺潮五郎「二本の銀杏」と大口 第10回 一色次郎「青幻記」と干刈あがた「島唄」の沖永良部 第11回 森瑤子「アイランド」と与論島 第12回 やしまたろうの絵本「村の樹」「道草いっぱい」「からすたろう」の根占三部作 第13回 中村きい子「女と刀」と横川 第14回 与謝野晶子・寛夫妻と「霧島の歌」 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業ごとのレポート(50%) + 学期末提出のレポート(50%)		

授業科目	中国文学史Ⅰ	担当者	土肥 克己
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国の文学と社会</p> <p>【概要】2年次は中国文学が社会に果たした役割を概説します。 今でこそ文学は娯楽に過ぎませんが、昔の中国においては社会人として生きていくために必要な技能であり、その能力が人生を左右することもありました。毎回テーマを設定して当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。唐詩や『三国志』など、中国文学の主要なジャンルについても社会との関連を意識しながら紹介していきます。 理解度を確認するため小論文形式のテストを数回実施します。</p> <p>【到達目標】中国文学の存在意義を理解すると同時に、講義内容を文章でまとめる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方について</p> <p>第2回 儒教</p> <p>第3回 神話</p> <p>第4回 思想</p> <p>第5回 皇帝</p> <p>第6回 庶民と貴族</p> <p>第7回 道教</p> <p>第8回 知識人</p> <p>第9回 生活</p> <p>第10回 遊び</p> <p>第11回 文言と白話</p> <p>第12回 芸能</p> <p>第13回 道楽</p> <p>第14回 学問</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	小テスト50%、定期試験50%		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学史Ⅱ	担当者	土肥 克己
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文化の活用</p> <p>【概要】三国志をはじめ、中国文化は日本人にとって今でも価値を持ちつづけています。不思議となくならないこの価値について、伝統的な漢詩文のほか書画・仏教、そしてサブカルチャーまで見渡し、日本人の価値観の一部としての中国文化を再確認します。 理解度を確認するため小論文形式のテストを数回実施します。</p> <p>【到達目標】日本人が無意識に利用している中国文化を再認識すると同時に、講義内容を文章でまとめる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方について</p> <p>第2回 文字と文章 (1)</p> <p>第3回 文字と文章 (2)</p> <p>第4回 文学とかな (1)</p> <p>第5回 文学とかな (2)</p> <p>第6回 書 (1)</p> <p>第7回 書 (2)</p> <p>第8回 画 (1)</p> <p>第9回 画 (2)</p> <p>第10回 仏教 (1)</p> <p>第11回 仏教 (2)</p> <p>第12回 文学 (1)</p> <p>第13回 文学 (2)</p> <p>第14回 文学 (3)</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	小テスト50%、定期試験50%		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学講読Ⅰ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 中国の文学と生活Ⅰ 【概要】 1年次は中国人の生活に取材した中国の古典文学を読みます。漢文という特殊な文体に慣れることも大切ですが、中国人のものの考え方や生活感を同時に伝えていくつもりです。質疑応答によってみなさんの読解力を養いながら授業を進めます。理解度を確認するため小テストを数回実施します。 【到達目標】 教職で求められるレベルを目安にして、漢文の基本的な構文を習得する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。		
授業スケジュール	第1回 授業の進め方について 第2回 家族 (1) 第3回 家族 (2) 第4回 家族 (3) 第5回 家族 (4) 第6回 家族 (5) 第7回 家族 (6) 第8回 友人と恋人 (1) 第9回 友人と恋人 (2) 第10回 友人と恋人 (3) 第11回 友人と恋人 (4) 第12回 友人と恋人 (5) 第13回 友人と恋人 (6) 第14回 友人と恋人 (7) 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	小テスト50%、定期試験50%		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学講読Ⅱ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 中国の文学と生活Ⅱ 【概要】 1年次は中国人の生活に取材した中国の古典文学を読みます。漢文という特殊な文体に慣れることも大切ですが、中国人のものの考え方や生活感を同時に伝えていくつもりです。質疑応答によってみなさんの読解力を養いながら授業を進めます。理解度を確認するため小テストを数回実施します。 【到達目標】 教職で求められるレベルを目安にして、漢文の基本的な構文を習得する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。		
授業スケジュール	第1回 授業の進め方について 第2回 風物 (1) 第3回 風物 (2) 第4回 風物 (3) 第5回 風物 (4) 第6回 風物 (5) 第7回 風物 (6) 第8回 娯楽 (1) 第9回 娯楽 (2) 第10回 娯楽 (3) 第11回 娯楽 (4) 第12回 娯楽 (5) 第13回 娯楽 (6) 第14回 娯楽 (7) 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	小テスト50%、定期試験50%		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学演習Ⅰ,Ⅲ	担当者	土肥 克己
	〔履修年次〕 1年, 2年(注) 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 鹿児島県の漢文資料</p> <p>【概要】 郷土にゆかりのある漢文を読みます。 漢文は日本人にとって昔も今も異質な存在ですが、そのため威厳を示すオモテの顔として重宝されました。郷土の人や組織の誇りを代弁する資料を題材に選んで、漢文読解の訓練をします。 全員で読んでいくので十分に予習をしてきてください。質疑応答によってみなさんの読解力を養いながら授業を進めます。</p> <p>【到達目標】 返り点・送り仮名のない白文の読解力、歴史・社会的事項の調査能力を習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。		
授業スケジュール	第1回 授業の進め方について 第2回 鹿児島県の漢文資料 (1) 第3回 鹿児島県の漢文資料 (2) 第4回 鹿児島県の漢文資料 (3) 第5回 鹿児島県の漢文資料 (4) 第6回 鹿児島県の漢文資料 (5) 第7回 鹿児島県の漢文資料 (6) 第8回 鹿児島県の漢文資料 (7) 第9回 鹿児島県の漢文資料 (8) 第10回 鹿児島県の漢文資料 (9) 第11回 鹿児島県の漢文資料 (10) 第12回 鹿児島県の漢文資料 (11) 第13回 鹿児島県の漢文資料 (12) 第14回 鹿児島県の漢文資料 (13) 第15回 まとめ		
成績評価の方法	予習と質疑応答 100%。定期試験は実施しません。		

(注) 1年生は演習Ⅰ, 2年生は演習Ⅲ

授業科目	中国文学演習Ⅱ	担当者	土肥 克己
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国文学に関する報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問</p> <p>【概要】 中国文学に関する文献を素材にして、素材選択から調査、分析、構想、発表までの一連のステップを訓練します。 発表は文章による報告書、説得を重視するプレゼンテーション、質問への対応にしばった口頭試問からなり、総合的な表現力向上を図ります。 どのステップも社会人に必要な技術であることを常に意識して演習を進めます。</p> <p>【到達目標】 中国文学に限らず、社会人一般に求められている企画力の充実を目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布します。		
授業スケジュール	第1回 授業の進め方について (1) 第2回 授業の進め方について (2) 第3回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (1) 第4回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (2) 第5回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (3) 第6回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (4) 第7回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (5) 第8回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (6) 第9回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (7) 第10回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (8) 第11回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (9) 第12回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (10) 第13回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (11) 第14回 報告書作成とプレゼンテーション, 口頭試問 (12) 第15回 まとめ		
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。		

授業科目	卒業研究Ⅰ,Ⅱ	担当者	専攻教員全員																														
	[履修年次] 2年 [単位] 各1単位	[学期] 前期,後期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】卒業論文の作成</p> <p>【概要】卒業論文は2年間の学習の集大成となる授業です。日本語日本文学専攻の学生は、日本語学演習・日本文学演習・中国文学演習のいずれかを選択したあと、それぞれの分野で自主的に課題を設けて研究し、成果を卒業論文として提出します。 1年次にこの分野で卒業論文を書くかをまず選択し、2年次前期に卒業論文作成に向けた準備を整えて中間報告にまとめ、冬期には、卒業論文を完成させたうえで専攻全体の卒業研究発表会に備えます。 教員は演習と連動させながら卒業研究課題の絞り込みを助け、みなさんの研究の進捗状況に応じて適宜指導します。</p> <p>【到達目標】卒業論文の完成とその口頭発表</p>																																
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 授業中に紹介します。</p> <p>(2) 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書</p>																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>I 第1回 卒業論文の進め方</td> <td>II 第1回 論文作成(1)</td> </tr> <tr> <td>第2回 論文作成(1)</td> <td>第2回 論文作成(2)</td> </tr> <tr> <td>第3回 論文作成(2)</td> <td>第3回 論文作成(3)</td> </tr> <tr> <td>第4回 論文作成(3)</td> <td>第4回 論文作成(4)</td> </tr> <tr> <td>第5回 論文作成(4)</td> <td>第5回 論文作成(5)</td> </tr> <tr> <td>第6回 論文作成(5)</td> <td>第6回 論文作成(6)</td> </tr> <tr> <td>第7回 論文作成(6)</td> <td>第7回 論文作成(7)</td> </tr> <tr> <td>第8回 論文作成(7)</td> <td>第8回 論文作成(8)</td> </tr> <tr> <td>第9回 論文作成(8)</td> <td>第9回 論文作成(9)</td> </tr> <tr> <td>第10回 論文作成(9)</td> <td>第10回 論文作成(10)</td> </tr> <tr> <td>第11回 論文作成(10)</td> <td>第11回 論文作成(11)</td> </tr> <tr> <td>第12回 論文作成(11)</td> <td>第12回 発表準備(1)</td> </tr> <tr> <td>第13回 論文作成(12)</td> <td>第13回 発表準備(2)</td> </tr> <tr> <td>第14回 論文作成(13)</td> <td>第14回 発表準備(3)</td> </tr> <tr> <td>第15回 中間報告</td> <td>第15回 口頭発表</td> </tr> </table>			I 第1回 卒業論文の進め方	II 第1回 論文作成(1)	第2回 論文作成(1)	第2回 論文作成(2)	第3回 論文作成(2)	第3回 論文作成(3)	第4回 論文作成(3)	第4回 論文作成(4)	第5回 論文作成(4)	第5回 論文作成(5)	第6回 論文作成(5)	第6回 論文作成(6)	第7回 論文作成(6)	第7回 論文作成(7)	第8回 論文作成(7)	第8回 論文作成(8)	第9回 論文作成(8)	第9回 論文作成(9)	第10回 論文作成(9)	第10回 論文作成(10)	第11回 論文作成(10)	第11回 論文作成(11)	第12回 論文作成(11)	第12回 発表準備(1)	第13回 論文作成(12)	第13回 発表準備(2)	第14回 論文作成(13)	第14回 発表準備(3)	第15回 中間報告	第15回 口頭発表
I 第1回 卒業論文の進め方	II 第1回 論文作成(1)																																
第2回 論文作成(1)	第2回 論文作成(2)																																
第3回 論文作成(2)	第3回 論文作成(3)																																
第4回 論文作成(3)	第4回 論文作成(4)																																
第5回 論文作成(4)	第5回 論文作成(5)																																
第6回 論文作成(5)	第6回 論文作成(6)																																
第7回 論文作成(6)	第7回 論文作成(7)																																
第8回 論文作成(7)	第8回 論文作成(8)																																
第9回 論文作成(8)	第9回 論文作成(9)																																
第10回 論文作成(9)	第10回 論文作成(10)																																
第11回 論文作成(10)	第11回 論文作成(11)																																
第12回 論文作成(11)	第12回 発表準備(1)																																
第13回 論文作成(12)	第13回 発表準備(2)																																
第14回 論文作成(13)	第14回 発表準備(3)																																
第15回 中間報告	第15回 口頭発表																																
成績評価の方法	<p>I : 中間報告 100%</p> <p>II : 卒業論文 75%, 口頭発表 25%</p>																																

授業科目	英文学史	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 必修(注)	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】18世紀～20世紀における「小説」の流れを概観する。</p> <p>【概要】まず、文学史という科目に潜んでいる問題点を考える。次に、18世紀～20世紀における主要な作家と作品を取り上げて、「小説」の流れを概観し、18世紀の特徴、19世紀の特徴、20世紀の特徴を理解させる。この場合、受講者がイギリス文学に親しみを持ち、文学に面白味を感じるように、できる限りビデオを活用して解説を試みる。また、受講者にはイギリス文学に親しんでもらうために、指定した映像作品を鑑賞してもらい、「映画作品から親しむイギリス文学」というレポートを課す。</p> <p>【到達目標】18世紀の小説の特徴、19世紀の小説の特徴、20世紀の小説の特徴を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 川崎寿彦著『イギリス文学史』成美堂</p> <p>(2) サブテキストは講義中に指定する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション(講義方式の説明, 文学史の科目に潜む問題点の探究)</p> <p>第2回 18世紀の小説(その一): 18世紀の小説とその周辺に関する諸問題</p> <p>第3回 18世紀の小説(その二): 18世紀の小説におけるH. フィールドینگ, L. スターン, T. スモレットの役割</p> <p>第4回 18世紀の小説(その三): 18世紀後半のゴシック小説</p> <p>第5回 18世紀の小説(その四): G. オースティンの小説</p> <p>第6回 18世紀の小説に関する小テスト, 19世紀の小説(その一): 19世紀(ヴィクトリア朝)小説の特徴</p> <p>第7回 19世紀の小説(その二): C. ディケンズの小説</p> <p>第8回 19世紀の小説(その三): W. M. サッカレーの小説, ブロンテ姉妹の小説</p> <p>第9回 19世紀の小説(その四): ダーウィニズムの影響, 19世紀後半(ヴィクトリア朝後期)の小説</p> <p>第10回 19世紀の小説に関する小テスト, 20世紀の小説(その一): 20世紀小説の特徴</p> <p>第11回 20世紀の小説(その二): V. ウルフの小説, H. ジェイムズの小説, E. M. フォスターの小説</p> <p>第12回 20世紀の小説(その三): D. H. ロレンスの小説</p> <p>第13回 20世紀の小説(その四): H. G. ウェルズの小説</p> <p>第14回 20世紀の小説に関する小テスト, 映像課題に関する発表会</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(60点), 講義中の小テスト/授業への取り組み(30点), 課題レポート(10点)</p>		

(注) 日本語日本文学専攻は選択

授業科目	米文学史	担当者	フィリップ アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Race relations in modern American literary history. アメリカの文学と歴史を著名なアメリカの人物と作家の文章を通して学習します。</p> <p>【概要】 The course will alternate between lectures and group presentations. Students will be asked to analyze one part of a course text. Four quizzes will test reading comprehension.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to practice literary analysis while raising historical consciousness of the modern literary, social, and cultural history of race relations in the United States.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) <u>Martin Luther King</u> , Coleen Degnan-Veness (Penguin, 2003) (2) Mark Twain 著 『The United States of Lyncherdom』 Martin Luther King Jr. による演説 (抜粋), Adamek 編集		
授業スケジュール	第1回～第3回 Introduction. “The United States of Lyncherdom,” Mark Twain 第4回 Review (Quiz 20%) 第5回～第8回 “The United States of Lyncherdom,” Mark Twain 第9回 Review (Quiz 20%), Introduction to <u>Martin Luther King</u> , Coleen Degnan-Veness (pages 5-7; 2-4) 第10回 <u>Martin Luther King</u> , Coleen Degnan-Veness (14; 8-13) 第11回 Review (Quiz 20%) (15-28) 第12回 <u>Martin Luther King</u> , Coleen Degnan-Veness (29-32) 第13回 <u>Martin Luther King</u> , Coleen Degnan-Veness (36-41) 第14回 Review (Quiz 40%) 第15回 Discussion of quiz results and general review		
成績評価の方法	授業への参加(50%); 小テスト(50%)。		

(注) 日本語日本文学専攻は選択

授業科目	比較文化	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 異文化理解・異文化コミュニケーションとは何か。</p> <p>【概要】 異文化理解・異文化コミュニケーションについて学ぶ。講義を通して単に知識を得るだけでなく、毎回個人あるいはグループによるワークを織り交ぜながら、異文化と接したときにどう対処すべきなのかを具体的に考えてみる。</p> <p>【到達目標】 国際的視野から異文化を正しく理解し、コミュニケーションする方法を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布		
授業スケジュール	第1回 イントロダクション 第2回 文化・異文化とは？ 第3回 コミュニケーションとは？ 第4回 言語・非言語コミュニケーション1 第5回 言語・非言語コミュニケーション2 第6回 言語・非言語コミュニケーション3 第7回 ステレオタイプと偏見 第8回 価値観 第9回 文化・文明の衝突 第10回 異文化の理解 第11回 カルチャーショックと異文化適応 第12回 翻訳と通訳 第13回 異文化コミュニケーションの方法 第14回 多文化共生 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度 (40%), 筆記試験 (60%)		

(注) 英語英文学専攻は教職必修

授業科目	書道Ⅰ	担当者	松元 徳雄
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 楷書・行書・かなの特徴と書法</p> <p>【概要】 書道は文字を素材とする芸術である。その文字の姿もさまざまな形があり、実に興味深い。しかし、現代において文字はまさに書く時代ではなく打つ時代であるが、筆を執って文字を書くすばらしさと大切さを実感してもらいたい。 本講座では、書体の変遷について概要を学び、実技へと移行する。まず、書の重要な書体である楷書の基本点画を学習してから行書、さらにはかなの基本へと進む。</p> <p>【到達目標】 楷書・行書・かなの書き方を習得する</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第1回 書について (書体の特徴とその変遷) 第2回 楷書の特徴とその書法 (基本点画の書き方) 第3回 " " 第4回 " " 第5回 " (細字の書き方) 第6回 " " 第7回 行書の特徴とその書法 (基本点画の書き方) 第8回 " " 第9回 " " 第10回 " (細字の書き方) 第11回 " " 第12回 かなの特徴と書き方 (いろは単体) 第13回 " " 第14回 " (連綿とその応用) 第15回 " "		
成績評価の方法	授業における清書作品 (70%) + 添削の回数 (30%)		

(注) 教職必修

授業科目	書道Ⅱ	担当者	松元 徳雄
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 楷書・行書の古典学習及び草書の特徴と書法</p> <p>【概要】 本講座では、楷書・行書と草書の学習に終始する。 書の基本となる書体は楷書であり、日常生活において最も多用される文字は行書である。それらの古典を学ぶことにより、運筆の要領を習得し、文字造形の特徴を把握することに努める。 草書は芸術性が重視される書体で、日常ではその文字がほとんど目にしないが、書の知識を広げ、書のすばらしさを理解していくためには不可欠な書体である。</p> <p>【到達目標】 楷書・行書の古典の特徴を把握し、草書の特徴と書き方を習得する</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第1回 楷書の古典 (九成宮醜泉銘) 第2回 " " 第3回 " (始平公造像記) 第4回 " " 第5回 行書の古典 (蘭亭叙) 第6回 " " 第7回 " (苕溪詩卷) 第8回 " (吳昌碩詩稿) 第9回 " (風信帖) 第10回 " " 第11回 草書の特徴とその書法 (基本点画の書き方) 第12回 " " 第13回 草書の古典 (書譜) 第14回 " " 第15回 " (擬山園帖)		
成績評価の方法	授業における清書作品 (70%) + 添削の回数 (30%)		

(注) 教職必修

授業科目	書道Ⅲ	担当者	松元 徳雄
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 隷書・篆書の特徴と書法</p> <p>【概要】 書道Ⅲでは隷書と篆書を中心に学習する。 隷書は今から1800年前の漢時代に生まれた書体であるが、その文字は現代でも紙幣等に使用されて生きている。 隷書の技法を学び、造型のおもしろさを実感してもらう。 篆書は中国最古の文字。金文と小篆のユニークな字形や筆法を学習する。</p> <p>【到達目標】 隷書・篆書の特徴とその書き方を習得する</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第1回 隷書の特徴とその書法 (基本点画の書き方) 第2回 " " 第3回 " " 第4回 隷書の古典 (曹全碑の臨書) 第5回 " " 第6回 " " 第7回 " (礼器碑の臨書) 第8回 " " 第9回 篆書の特徴とその書法 (基本点画の書き方) 第10回 " " 第11回 篆書の古典 (散氏盤の臨書) 第12回 " " 第13回 " (石鼓文の臨書) 第14回 " " 第15回 " (趙之謙篆書対聯)		
成績評価の方法	授業における清書作品 (70%) + 添削の回数 (30%)		

授業科目	書道Ⅳ	担当者	松元 徳雄
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 かなの古典学習と作品制作</p> <p>【概要】 日本の書を代表するかな (古筆) の学習を通して、その芸術性と文字の特徴を学ぶ。 かなは漢字がくずされて発生したものであるが、日本人が独自に創出した文字である。その真の姿を追求したい。 後半は書道学習の集大成として創作にチャレンジする。自用印を刻し、創作作品に押印して総仕上げとする。 書の楽しさと魅力を味わってもらうことも目的である。</p> <p>【到達目標】 かなの古典を習得することと創作作品が書けるようになること</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第1回 かなの古典 (高野切第1種) 第2回 " " 第3回 " (高野切第3種) 第4回 " " 第5回 " (寸松庵色紙) 第6回 " " 第7回 作品制作 (篆刻—自用印) 第8回 " " 第9回 " " 第10回 " " 第11回 " (漢字作品—4字熟語) 第12回 " " 第13回 " " 第14回 " (調和体作品) 第15回 " "		
成績評価の方法	授業における清書作品 (60%) + 添削の回数 (40%)		

6 英語英文学専攻専門科目

授業科目	スタディスキルズ	担当者	遠峯 伸一郎・中谷 彩一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義方式 (一部演習)		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育，ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成</p> <p>【概要】 大学での専門的「勉強」は，受動的に知識を吸収するだけでは不十分で，あるテーマについて疑問を持ち（批判的検討能力），それについて論理的に議論を展開し，自らその問題に対して「解答」を与えること（問題解決能力）が求められます。この講義では，その種の能力に達するために必要な基礎的学習技術－「聴く」「読む」「調べる」「整理する」「まとめる」「書く」「伝える」－を段階的に学んでいき，あるテーマについて論理的な論述を展開したレポートを作成できるようにします。</p> <p>【到達目標】 与えられたテーマについて自らの意見を持ち，その意見を論理的に展開できるようにする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 学習技術研究会『知へのステップ 改訂版－大学生からのスタディ・スキルズ』くろしお出版		
授業スケジュール	第1回 イン트로：「生徒」から「学生」へ 第2回 「聴く」と「読む」：積極的な聞き手と読み手になるために 第3回 「深く読む」：論旨や要点を整理して分析的に読む 第4回 「調べる」と「整理する」：大学図書館とインターネットを用いた効率的な情報検索の仕方 第5回 「まとめる」と「書く」(その一)：レポート作成のための効果的なアカデミック・ライティング 第6回 「まとめる」と「書く」(その二)：パソコンによるライティング・スキル (レポート作成術) 第7回 「表現する」と「伝える」：自分の意見をわかりやすく表現して伝える 第8回 まとめ		
成績評価の方法	レポート (50%) + 授業時の取り組み (50%)		

授業科目	言語学概論	担当者	未定
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

授業科目	オーラルコミュニケーション I	担当者	フィリップ アダメック
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 Oral communication 【概要】 Students practice asking and answering questions on a variety of topics. Students must note words and ideas that they know how to say in Japanese but do not at first know how to say in English. Students will also propose language-learning tasks that respond to their personal interests. To practice pronunciation, we will perform a song together for students in other sections of Oral Communication I. 【到達目標】 The aim is to increase fluency in English. Students will be made familiar with ways of asking and responding to questions posed about new information.		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) Song lyrics, distributed in class		
授業スケジュール	第1～2回 Topics 1 and 2 第17～18回 Topics 17 and 18 第3～4回 Topics 3 and 4 第19～20回 Topics 19 and 20 第5～6回 Topics 5 and 6 第21～22回 Topics 21 and 22 第7～8回 Topics 7 and 8 第23～24回 Topics 23 and 24 第9～10回 Topics 9 and 10 第25～26回 Topics 25 and 26 第11～12回 Topics 11 and 12 第27～28回 Topics 27 and 28 第13～14回 Topics 13 and 14 第29回 Topic 27 第15～16回 Topics 15 and 16 第30回 実践		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (35%) Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%) Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)		

授業科目	オーラルコミュニケーション I	担当者	メアリー マクセイ
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 This is a practical course for students to improve their basic English listening and speaking skills. 【概要】 Class time will be centered on the study of basic language patterns and strategies for everyday conversation. Pair practice will be an integral part of classroom practice. 【到達目標】 The goal of this course is to help students comprehend and communicate in English more spontaneously, independently, and confidently.		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) McCarthy / McCarten / Sandiford, <i>Touchstone 2</i> , Cambridge University Press (2)		
授業スケジュール	第1週 Introduction, Unit 1 第2週 Unit 1 第3週 Unit 2 第4週 Unit 2 第5週 Unit 3 第6週 Unit 3 第7週 Review 1-3, evaluation 第8週 Unit 4 第9週 Unit 4 第10週 Unit 5 第11週 Unit 5 第12週 Unit 6 第13週 Unit 6 第14週 Review 4-6, evaluation 第15週 復習と筆記小テスト/オーラル・テスト/オーラル・レポート		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (35%), Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%), Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅠ	担当者	ジョン デグルシー
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>Theme. Oral communication on a variety of topics. Summary. Students will communicate in pairs and groups, asking and answering questions and role-playing. The emphasis is on speaking and listening, but some reading and grammar study will help increase vocabulary and develop natural fluency Aim. The aim is to build vocabulary and confidence for English communication.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Smart Choice 3, by Ken Wilson		
授業スケジュール	<p>Week 1: Introduction</p> <p>Weeks 2-12: We will proceed chapter by chapter through the text, completing each chapter in approximately three classes. Due to time limitations, one or two chapters may be skipped.</p> <p>Weeks 13-15: Extra time is allocated to review, short tests, presentations, and a final oral interview.</p>		
成績評価の方法	Class participation (40%); short written review quizzes after every two chapters (30%); final oral interview (30%).		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ	担当者	フィリップ アダメック																																
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式																																
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Oral communication</p> <p>【概要】 Students ask and answer questions on a variety of topics. The students will keep notebooks to record the main ideas of our discussions.</p> <p>【到達目標】 The aim is to increase fluency in English and bring students to think critically about their own study of the language. Fluent pronunciation will be practiced in part by means of singing a single song as a class. Other elements to be practiced will be direct and indirect speech, question formation, and stating personal views.</p>																																		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) なし																																		
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1～2回</td> <td>Introduction</td> <td>第17～18回</td> <td>Topic 6</td> </tr> <tr> <td>第3～4回</td> <td>Introduction</td> <td>第19～20回</td> <td>Review and interview</td> </tr> <tr> <td>第5～6回</td> <td>Topic 1</td> <td>第21～22回</td> <td>Topic 7</td> </tr> <tr> <td>第7～8回</td> <td>Topic 2</td> <td>第23～24回</td> <td>Topic 8</td> </tr> <tr> <td>第9～10回</td> <td>Topic 3</td> <td>第25～26回</td> <td>Topic 9</td> </tr> <tr> <td>第11～12回</td> <td>Review and interview</td> <td>第27～28回</td> <td>Topic 10</td> </tr> <tr> <td>第13～14回</td> <td>Topic 4</td> <td>第29回</td> <td>Topic 11</td> </tr> <tr> <td>第15～16回</td> <td>Topic 5</td> <td>第30回</td> <td>Review and interview</td> </tr> </table>			第1～2回	Introduction	第17～18回	Topic 6	第3～4回	Introduction	第19～20回	Review and interview	第5～6回	Topic 1	第21～22回	Topic 7	第7～8回	Topic 2	第23～24回	Topic 8	第9～10回	Topic 3	第25～26回	Topic 9	第11～12回	Review and interview	第27～28回	Topic 10	第13～14回	Topic 4	第29回	Topic 11	第15～16回	Topic 5	第30回	Review and interview
第1～2回	Introduction	第17～18回	Topic 6																																
第3～4回	Introduction	第19～20回	Review and interview																																
第5～6回	Topic 1	第21～22回	Topic 7																																
第7～8回	Topic 2	第23～24回	Topic 8																																
第9～10回	Topic 3	第25～26回	Topic 9																																
第11～12回	Review and interview	第27～28回	Topic 10																																
第13～14回	Topic 4	第29回	Topic 11																																
第15～16回	Topic 5	第30回	Review and interview																																
成績評価の方法	<p>Class participation 授業での参加の割合 (35%)</p> <p>Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%)</p> <p>Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)</p>																																		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ	担当者	メアリー マクセイ
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for students to further improve their basic English listening and speaking skills.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice will be an integral part of classroom work.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students further comprehend and communicate in English spontaneously, independently, and confidently.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Dale Fuller / Corey Fuller, <i>Face to Face, Second Edition</i> , Macmillan Language House (2)		
授業スケジュール	第1週 Unit 1A, Unit 1B 第2週 Speech 1, Unit 2A 第3週 Unit 2B, Speech 2 & Quiz 1-2 第4週 Unit 3A, Unit 3B 第5週 Speech 3, Unit 4A 第6週 Unit 4B, Speech 4 & Unit 5A 第7週 Unit 5B, Speech 5 & Quiz 3-5 第8週 Unit 6A, Unit 6B 第9週 Speech 6, Unit 7A 第10週 Unit 7B, Speech 7 & Quiz 6-7 第11週 Unit 8A, Unit 8B 第12週 Speech 8, Unit 9A 第13週 Unit 9B, Speech 9, Unit 11A 第14週 Unit 11B, Speech 11 & Quiz 8, 9, 11 第15週 復習と筆記小テスト/オーラル・テスト/オーラル・レポート		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (35%), Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%), Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ	担当者	ジョン デグルシー
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p><u>Theme.</u> Oral communication on a variety of topics.</p> <p><u>Summary.</u> Students will communicate in pairs and groups, asking and answering questions and role-playing. The emphasis is on speaking and listening, but some reading and grammar study will help increase vocabulary and develop natural fluency.</p> <p><u>Aim.</u> The aim is to build vocabulary and confidence for English communication.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<u>Smart Choice 3</u> , by Ken Wilson		
授業スケジュール	Week 1: Introduction Weeks 2-12: We will proceed chapter by chapter through the text, completing each chapter in approximately three classes. Due to time limitations, one or two chapters may be skipped. Weeks 13-15: Extra time is allocated to review, short tests, presentations, and a final oral interview.		
成績評価の方法	Class participation (40%); short written review quizzes after every two chapters (30%); final oral interview (30%).		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ	担当者	フィリップ アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 Oral communication 【概要】 Students complete textbooks exercises and practice asking and answering questions relating to the conversation topics. 【到達目標】 The aim is to increase fluency by practicing vocabulary and notions that are important to today's students and citizens. We will integrate brainstorming, reading, listening, writing, and role playing in accordance with Greg Goodmacher's outline.		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Stimulating Conversation, Greg Goodmacher (Intercom Press, 2008). (2) なし		
授業スケジュール	第1回 インTRODクシヨン 第2回 リーディングとディスカッション Unit 1 第9回 リーディングとディスカッション Unit 8 第3回 リーディングとディスカッション Unit 2 第10回 リーディングとディスカッション Unit 9 第4回 リーディングとディスカッション Unit 3 第11回 リーディングとディスカッション Unit 10 第5回 リーディングとディスカッション Unit 4 第12回 リーディングとディスカッション Unit 11 第6回 リーディングとディスカッション Unit 5 第13回 リーディングとディスカッション Unit 12 第7回 リーディングとディスカッション Unit 6 第14回 実践 (面接) 第8回 リーディングとディスカッション Unit 7 第15回 実践		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (35%) Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%) Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ	担当者	メアリー マクセイ
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 This is a course aimed at developing the students' vocabulary and ability to communicate their ideas spontaneously and independently. 【概要】 Class time will be centered on listening, speaking, and vocabulary work leading to discussions of interesting, pertinent topics. 【到達目標】 The goal of this course is to help students increase their vocabulary and become spontaneous in understanding and expressing themselves in English. They should become able to carry on a discussion with confidence.		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Margaret Brooks, <i>Q: Skills for Success, Listening & Speaking 2</i> , Oxford University Press (2)		
授業スケジュール	第1回 Unit 1 第2回 Unit 1 第3回 Unit 1 第4回 Unit 2 第5回 Unit 2 第6回 Unit 2 第7回 Unit 3 第8回 Unit 3 第9回 Unit 3 第10回 Unit 4 第11回 Unit 4 第12回 Unit 4 第13回 Unit 5 第14回 Unit 5 第15回 筆記小テスト/オーラル・プレゼンテーション		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (35%) , Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%) , Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)		

授業科目	Oral CommunicationⅢ	担当者	Andrew Daniels
	[履修年次] 2 nd Year [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course will focus on a number of interesting topics from the textbook and allow students the chance to express themselves in pairs and group situations.</p> <p>【概要】 Students will work on listening skills, speaking skills and develop their ability to give impromptu short speeches on topics from the text by using key vocabulary patterns.</p> <p>【到達目標】 The aim is to help students become more fluent in the way they express themselves on a wide variety of current issues which may have relevance to their own lives.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Impact Issues Student Book 3 (Longman Publications Richard R Day et al) (2)		
授業スケジュール	第1回-第6回 Key topics from the first half of the textbook based on students own interests 第7回 Review Quiz of first half of semester 第8回-第14回 Key topics from the units in the second half of the textbook 第15回 Final Quiz		
成績評価の方法	In class presentations 30% Vocabulary and short quizzes 40% Final Quiz 30%		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅣ	担当者	メアリー マクセイ
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an advanced course aimed at polishing the students' listening and speaking ability.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on (1) a study of English idiomatic expressions using natural dialogs, conversation practice, and listening practice; and (2) speech work.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students increase their vocabulary and become confident in expressing their ideas in a more formal way through speeches.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Barry Ward, <i>Idioms from Square One</i> , Macmillan Language House/ プリント (2)		
授業スケジュール	第1回 Introduction & Idioms, Unit 1 第2回 Idioms, Unit 2 & speech Unit 1A 第3回 Idioms, Unit 3 & speech Unit 1B 第4回 Idioms, Unit 4 & speech Unit 1C 第5回 Idioms, Unit 5 & speech assignment #1 第6回 Idioms, Unit 6 & speech Unit 2 第7回 Idioms, Unit 7 & 8 第8回 Idioms, Unit 9 & speech assignment #2 第9回 Idioms, Unit 10 & speech Unit 3 第10回 Idioms, Unit 11 & 12 第11回 Idioms, Unit 13 & speech assignment #3 第12回 Idioms, Unit 14 & 15 第13回 Idioms, Unit 16 & 17 第14回 Idioms, Unit 18 & 19 第15回 筆記テスト/オーラル・プレゼンテーション		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (35%), Quizzes / in-class presentations クイズ/授業での発表 (35%), Final evaluation 最終のテスト/レポート/プレゼンテーション (30%)		

授業科目	Oral CommunicationⅣ	担当者	Andrew Daniels
	〔履修年次〕 2 nd Year 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is designed to allow students to express themselves on a wide range of topics, and help them develop strategies for making clear precise and interesting presentations in English.</p> <p>【概要】 Focus will be on key aspects of presentation skills such as eye contact, intonation, note cards, content and visual aids. Students will use these devices to present their information to the class.</p> <p>【到達目標】 The aim is to help students become more fluent in the way they express themselves on a wide variety of current issues which may have relevance to their own lives.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第1回-第4回 Fashion, Global Youth Culture and Generation Gap 第5回-第6回 World Music and expressing opinions about it 第7回 Review Week 第8回-第11回 Health, Diets and the Pressures of the Mass Media 第12回-第14回 Travel and plans for the future 第15回 Final Quiz		
成績評価の方法	In class presentations 30% Vocabulary and short quizzes 40% Final Quiz 30%		

授業科目	LL演習 I	担当者	久木田 美枝子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 総合的な英語運用能力の育成を図り、1年前期では、自然な英語をそのまま聴き取る基礎的力の養成に力点を置きながら、簡単な英語でのプレゼンテーション能力を培う。LL教室使用</p> <p>【概要】 21世紀に入って、意外な変容を呈しているアメリカ社会・文化の様々な側面を紹介したテキストを軸に、国際交流の基礎となる異文化理解を狙いとし、バランスのとれた基礎的英語運用能力を培う。 LL教室使用。</p> <p>【到達目標】 自然な英語の聴解力とともに、簡単な英語でのプレゼンテーションに慣れる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Akira Morita 他著, <i>Kaleidoscope U.S.A.</i> , 成美堂 David E. Bramley 他著, <i>Score Goals in TOEIC® Test Listening 500</i> , 松柏社 (2) John Lander 著, <i>American Voyager</i> ,		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 Hot Dogs Firefighter 第3回 Firefighter The Sounds of Bluegrass 第4回 The Sounds of Bluegrass Harlem Reborn 第5回 Harlem Reborn 第6回 Islam in America 第7回 UFO Fever 第8回 The Teddy Bear 第9回 At-Home Dads 第10回 Big Wave Rider 第11回 Historic Route 66 第12回 Cheerleader 第13回 Pets in America 第14回 Native American Olympics 第15回 Summarization		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (40%) , レポート (60%) で評価する。		

授業科目	LL演習Ⅱ	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】総合的な英語運用能力の育成を図り、1年後期では、中級程度の自然な英語をそのまま聞き取る力の養成に力を置きながら、簡単な英語でのプレゼンテーション能力を培う。</p> <p>【概要】NHK衛星放送のWhat's on Japan と News Today 30 Minutes から採択し、日本社会及び近隣諸国の最近の動向を完結にまとめたテキストを軸に、バランスのとれた中級程度の英語運用能力を培う。LL教室使用。</p> <p>【到達目標】自然な英語の聴解力とともに、簡単な英語でのプレゼンテーションに慣れるとともに、数々のトピックに関して自分の考えを英語で表現する能力をも培う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Tatsuroh Yamasaki 他著, <i>What's on Japan 3</i> , 金星堂 David E. Bramley 他著, <i>Score Goals in TOEIC® Test Listening 600</i> , 松柏社 (2) Steve Lia 他著, <i>Australia, Here We Come!</i> , 朝日出版		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 "Hashi" of Your Own 第3回 Things for Free 第4回 Phone "Book" 第5回 Metabolic Syndrome 第6回 Citizen Judges 第7回 Eyes on Tokyo 第8回 World Heritage Site 第9回 Pollen Nation 第10回 Ninety-year-old Champion 第11回 Saving Caps Saves Lives 第12回 Branding Japan 第13回 Nation Tested 第14回 Japanese Doctor in Myanmar 第15回 Summarization		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (40%) , レポート (60%) で評価する。		

授業科目	LL演習Ⅲ	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】総合的な英語運用能力の育成を図り、2年前期では、多様性のある自然な英語の聴解力の養成に力を置きながら、より高度な英語でのプレゼンテーション能力を培う。</p> <p>【概要】前半は、海外で活躍する人々にインタビューした録音素材を基に、話の内容を速解し自分の英語で要約を書いた後、英語でディスカッションする。</p> <p>後半は、ABC放送のテレビニュース番組 "World News Today" を録画したテキストを基に、揺れ動くアメリカと世界の「現在」を学びながら、バランスのとれた高度な総合的英語運用能力を培う。LL教室使用。</p> <p>【到達目標】比較的高速な自然な英語の聴解力とともに、高度な英語でのプレゼンテーションに慣れるとともに、数々のトピックに関して自分の考えを英語で表現する能力をも培う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Shigeru Yamane 他著, <i>ABC World News 10</i> , 金星堂 David E. Bramley 他著, <i>Score Goals in TOEIC® Test Listening 700</i> , 松柏社 (2) 随時プリント		
授業スケジュール	第1回 Introduction 第2回 E-mail Addicts 第3回 Teenage Drivers: Cameras in the Car 第4回 Key to the World: Kiribati 第5回 Person of the Week: Virginia Tech 第6回 Olympic Reunion 第7回 Beyond Beauty 第8回 A Closer Look: College Costs 第9回 Clock Alarm: Daylight Saving Time 第10回 A Closer Look: Coming to America 第11回 Health Benefits 第12回 Signing Off: No E-mail Fridays 第13回 Back to School: New Amish School 第14回 Creative Retirement Community 第15回 Summarization		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (40%) , レポート (60%) で評価する。		

授業科目	コミュニケーション概論	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】多文化共生の現代国際社会における、国際理解と英語コミュニケーションについて考察し、望ましい積極的異文化受容の基本的姿勢についても考察する。</p> <p>【概要】世界各地から日本にやってきた留学生が、それぞれの文化的背景をもちながら、どのように現代日本と関わっているかを扱ったビデオを基に、これからの国際的日本人としてどのような点が重要かも考えていきたい。</p> <p>【到達目標】積極的異文化受容の基本的姿勢を培うとこと同時に、基本的な異文化コミュニケーションの基本的姿勢をも培う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) David K. Groff 他著, <i>The "I" in Identity</i> , 南雲堂 (2) 随時プリント		
授業スケジュール	第1回 国際語としての英語 Unit 1 第2回 " Unit 2 第3回 " Unit 3 第4回 国際理解と英語コミュニケーション Unit 4 第5回 " Unit 5 第6回 英語社会の言語コミュニケーション Unit 6 第7回 " Unit 7 第8回 英語を聴くコミュニケーション Unit 8 第9回 " Unit 9 第10回 英語を話すコミュニケーション Unit 10 第11回 " Unit 11 第12回 英語を読むコミュニケーション Unit 12 第13回 英語を書くコミュニケーション Unit 13 第14回 " Unit 14 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (40%) , レポート (60%) で評価する。		

(注) 教職必修

授業科目	ビジネス英語	担当者	霧島 S. 怜
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ビジネスの成果とコミュニケーション能力</p> <p>【概要】学生の皆さん, "Roma meravigliosa non era costruita durante una notte"(素晴らしいローマは一夜にしてならず)という有名なイタリアの諺が言うように、誰も一晩や「有名な先生」の指導によって突然、完璧なウクライナ語、英語やタイ語で喋り始めたのではない!! 外国語を学ぶ具体的な目標 (例えば、将来の仕事) や動機 (例えば、素敵な彼氏・彼女の為ならスペイン語も「簡単さ」) というものが極めて効果的である。...では、楽しく、大生らしく、勉学に励もう!!</p> <p>【到達目標】演習内容の75%以上理解すること (詳細は演習の冒頭に説明する)。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第1回 演習の内容, 勉学方法, 教科書使用, 単位取得条件と成績についての説明とミニ演習。 第2回 Unit 2. Application Letter.(英和訳, 読解等 <>) 第3回 同題 (教官と共に内容まとめとコミュニケーション練習 ◎) 第4回 Unit 4. A Job Interview. (<>) 第5回 同題 ◎ 第6回 Unit 5. Job Offer. (<>) 第7回 同題 ◎ 第8回 Unit 7. Preparing to Work. (<>) 第9回 同題 ◎ 第10回 Unit 9. Taking A Message by Phone. (<>) 第11回 同題 ◎ 第12回 Unit 11. Visiting A Client (<> and ◎) 第13回 Unit 21. The First Business Trip. (<> and ◎) 第14回 受講生が選択したテーマの学習 第15回 まとめと期末テスト ★ 参加者の言語的力量と上達の速度に応じて内容の増減が有り得る。		
成績評価の方法	予習度合い 30%, 演習参加の積極性と発言内容 40% と 期末テスト 30% の合計		

授業科目	通訳入門	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代の国際化社会に必要とされる通訳の世界について、歴史と現状、将来の展望について概説し、高められた英語運用能力を前提としながら、英日・日英逐次通訳及び同時通訳等の理論と手法を習得する。</p> <p>【概要】通訳理論を概説した後、プロ通訳養成の手法を取り入れ、様々な状況で、具体的な通訳訓練法：リスニング、音読、リピーティング、シャドーイング、スラッシュ・リーディング、スラッシュ・リスニング、順送り訳、メモ取り/メモ化、サイト・トランスレーション、同時サイトトランスレーション、メモリーレッスン、リプロダクション、サマライゼーション、同時通訳、逐次通訳、要約通訳などの手法を習得する。</p> <p>【到達目標】高められた英語運用能力を、実践的な通訳手法に反映させ、「より自然な英語」及び「より自然な日本語」の表現を体得すると同時に、ボランティア通訳などの可能性も探る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 日本通訳協会編、『英語通訳への道』、大修館書店 (2) 柴田パネッサ監修、『通訳トレーニング入門』、アルク		
授業スケジュール	第1回 はじめに 第2回 通訳の現場から 第3回 通訳の世界 第4回 通訳の基礎訓練 第5回 困っている人を助ける 第6回 茶道のいろは 第7回 留守番電話に入った伝 第8回 特別ゲストを迎えて 第9回 ビジネスの国際化が進む中… 第10回 英語で日本を紹介する 第11回 今日のプレゼンテーションは… 第12回 英語習得の必要性 外国人学生と英語の習得 第13回 ニュースの通訳に挑戦 第14回 〃 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (50%) , レポート (50%) で評価する。		

授業科目	英語学概論	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語学の諸分野(形態論、意味論、統語論)の入門</p> <p>【概要】形態論(語の内部構造)、意味論、統語論(文の構造)の各分野を概観する。</p> <p>【到達目標】形態論、統語論、意味論について基礎的な知識を得ること、英語を分析的に見る力を養うことを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス、英語学とは何か 第2回 語の成り立ち-形態論(1) 語の語尾変化と接辞-屈折と派生 第3回 語の成り立ち-形態論(2) 複数の語を合わせて1つの語を作る-複合、内心複合語と外心複合語 第4回 語の成り立ち-形態論(3) 語形を変化させずに品詞を変化させる-転換 第5回 形態論小テスト、ことばの意味について考える-意味論(1) 上位語・下位語、含意、同義・反義 第6回 ことばの意味について考える-意味論(2) メタファー 第7回 意味と文法の関係について-意味論(3) 意味役割、選択制限 第8回 意味と文法の関係について-意味論(4) 二重目的語構文に見られる構文と意味の関係 第9回 意味と文法の関係について-意味論(5) 受動態に見られる構文と意味の関係 第10回 意味論小テスト、文の構造-統語論(1) 五文型と文構造の分析-五文型との違い 第11回 文の構造-統語論(2) 補部、付加部-五文型との違い 第12回 統語論小テスト 第13回 音声学・音韻論 音素と異音 第14回 ことばの使用状況と意味の関係-語用論 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	試験 (35%) + 小テスト (50%) + 宿題と授業への参加状況 (15%)		

(注) 教職必修

授業科目	英文法	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 英語の記述文法 【概要】 時制, 相, 名詞, 冠詞, 不定詞, 動名詞の各分野について記述文法を詳しく学ぶ。 【到達目標】 英文法の学習を通して英語を分析的に見る力を養い, 英語の理解力・表現力を向上させることを目標とする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) Murphy, R. and W. R. Smalzer, <i>Grammar in Use: Intermediate</i> , Cambridge University Press, 久野暉・高見健一, 『謎解きの英文法』, くろしお出版。その他の参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス, 英文法を学ぶ意義—「なぜ」を説明できるために 第 2回 時制・相(1) 現在形と現在進行形を理解する 第 3回 時制・相(2) 過去形と現在完了形を理解する 第 4回 時制・相(3) 現在完了進行形を理解する 第 5回 さまざまな未来の表現 第 6回 小テスト1, 名詞の種類, 可算名詞と不可算名詞を理解する 第 7回 定冠詞と不定冠詞の用法を理解する 第 8回 総称の表現を理解する 第 9回 複合語を理解する 第 10回 小テスト2, 動詞の補語に現れる動名詞を理解する 第 11回 動詞の補語に現れる不定詞を理解する 第 12回 不定詞付き対格を理解する 第 13回 不定詞と動名詞の使い分けを理解する 第 14回 小テスト3, 原形不定詞を理解する 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	試験 (40%) + 小テスト (40%) + 宿題と授業への参加状況 (20%)		

(注) 教職必修

授業科目	英語史	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 英語の歴史 【概要】 英語という言語は約1500年の歴史を持つ。この授業では, 英語の歴史について, 英語が使われる社会の歴史 (外面史) と英語そのものの史的変化 (内面史) の両面から講義する。 【到達目標】 英語史を学ぶことで現代の英語をより深く理解することを目標とする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 児馬修, 『ファンダメンタル英語史』ひつじ書房 (第1章から第9章), 寺澤盾, 『英語の歴史』中公新書1971, 宇賀治正朋, 『現代の英語学シリーズ8 英語史』, 開拓社。その他の参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス, 現代の英語に見られる英語史の反映 第 2回 英語史の概観 第 3回 ケルト人とアングロ・サクソン 第 4回 father と parent—インド・ヨーロッパ祖語 第 5回 キリスト教の伝来とアルファベットの成立 第 6回 古英語を読む (アルフリッチの聖者伝から) 第 7回 古英語の豊富な屈折一名詞と冠詞を中心に 第 8回 デーン人の侵攻と古ノルド語 第 9回 印欧祖語～デーン人・古ノルド語小テスト, ノルマン征服 第 10回 ノルマン征服 (続き) 第 11回 中英語期のフランス語からの借用語 第 12回 中英語を読む (『カンタベリー物語』から) 第 13回 綴りと発音の不一致—大母音推移と印刷術の発達 第 14回 英国ルネッサンスと近代英語期の語彙の増大 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	試験 (50%) + 小テスト (40%) + 宿題と授業への参加状況 (10%)		

授業科目	英語音声学	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の音声</p> <p>【概要】日本語の音声との相違点に注意を向けながら英語の音声が作られるしくみを学習し、発音練習する。</p> <p>【到達目標】英語の音声がどのように作られるか理解すること、発音技能とリスニング能力を高めることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 参考文献 毎回紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、音声学とは何か、リスニング力診断</p> <p>第2回 前舌母音 日本語との違いを理解し、発音・聴解練習する</p> <p>第3回 後舌母音 日本語との違いを理解し、発音・聴解練習する</p> <p>第4回 中央母音 日本語との違いを理解し、発音・聴解練習する</p> <p>第5回 小テスト、二重母音 二重母音の特徴を学ぶ</p> <p>第6回 発音器官、子音の性質と分類、鼻音 発音の仕組み、子音の分類法を学ぶ。鼻音の練習をする</p> <p>第7回 閉鎖音、音素と異音 音素と異音の概念を理解する。閉鎖音の詳細を学び、練習する</p> <p>第8回 摩擦音、破擦音 日本語との違いを理解し、発音・聴解練習する</p> <p>第9回 接近音、子音連結 /l/と/h/の区別を学ぶ、日本語では許容されない子音の連結を練習する</p> <p>第10回 小テスト、複合語アクセント 句アクセントと複合語アクセントの違いを学び、練習する</p> <p>第11回 音縮小 英語のリズムを作り出す上で重要な機能語の音変化を学び、練習する</p> <p>第12回 小テスト</p> <p>第13回 同時調音 周囲の環境による音変化を学び、練習する</p> <p>第14回 イントネーション イントネーションと意味の関係を学び、練習する</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	試験 (30%) + 小テスト (40%) + 宿題 (30%)		

(注) 教職必修

授業科目	英語表現法 I	担当者	メアリー マクセイ
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a basic English writing course focused on the fundamentals of effective sentence and paragraph writing.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study of the importance of proper paragraph organization, including central idea, topic sentence, supporting sentences, and paragraph conclusion. Students will become familiar with the forms and functions of outlines. Practice of important grammar points will be integrated into the lessons. Freewriting assignments and unit composition assignments will aim at leading students to greater fluency and accuracy.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students learn the organizational principles of English writing and improve their sentence accuracy.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Savage & Shafiei, <i>Effective Academic Writing 1 (The Paragraph)</i>, Oxford University Press</p> <p>Paterson / Harrison / Coe, <i>Grammar Spectrum 3</i>, Oxford University Press</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Unit 1A (begin discussing paragraph organization)</p> <p>第3回 Unit 1B</p> <p>第4回 Unit 1C</p> <p>第5回 Unit 1D</p> <p>第6回 Unit 1 Composition assignment, first draft</p> <p>第7回 Unit 1 Composition assignment, second draft</p> <p>第8回 Unit 2A</p> <p>第9回 Unit 2B</p> <p>第10回 Unit 2 Composition assignment, first draft</p> <p>第11回 Unit 2 Composition assignment, second draft</p> <p>第12回 Unit 3A</p> <p>第13回 Unit 3B</p> <p>第14回 Unit 3 composition assignment, first draft</p> <p>第15回 Unit 3 composition assignment, second draft</p>		
成績評価の方法	Composition assignments (作文) 90%, Class participation (授業時の取り組み) 10%		

授業科目	Eigo Hyogen Ho I	担当者	Patrick Gorham
	[履修年次] 1 st year [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	This is a basic writing course which takes students from writing a sentence to paragraphs. Students will learn to recognize and write a topic sentence. They also will be able to write introductory, supporting and concluding paragraphs. Students will be required to complete regular assignments.		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Effective Academic Writing (The Paragraph), by Savage and Shafiei Publisher: Oxford University Press (2) Grammar Spectrum 3, by Norman Coe, Oxford University Press		
授業スケジュール	The lesson will proceed through the textbook.		
成績評価の方法	Students' marks will be based on class participation 15%, freewriting 15%, two in-class compositions 30% and a final examination 40%.		

授業科目	英語表現法Ⅱ	担当者	メアリー マクセイ
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a continuation of a paragraph writing course. The course will emphasize the organizational principles of good paragraph writing and the step-by-step thinking and writing process.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on grammar, sentence level, rhetoric, and paragraph structure practice. Students will gradually progress toward multi-paragraph essays, and freewriting will be continued.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students further master the organizational principles of English writing and polish their sentence accuracy.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Savage & Shafiei, <i>Effective Academic Writing 1 (The Paragraph)</i> , Oxford University Press Paterson / Harrison / Coe, <i>Grammar Spectrum 3</i> , Oxford University Press		
授業スケジュール	第1回 Review 第2回 Unit 4A 第3回 Unit 4B 第4回 Unit 4 composition assignment, first draft 第5回 Unit 4 composition assignment, second draft 第6回 Discussion of essay writing 第7回 Unit 5A 第8回 Unit 5B 第9回 Unit 5 composition assignment, first draft 第10回 Unit 5 composition assignment, second draft 第11回 Unit 6A 第12回 Unit 6B 第13回 Unit 6 composition assignment, first draft 第14回 Unit 6 composition assignment, second draft 第15回 Grammar Quiz		
成績評価の方法	Composition assignments (作文) 90%, Class participation (授業時の取り組み) 10%		

授業科目	Eigo Hyogen Ho II	担当者	Patrick Gorham
	[履修年次] 1 st year [単位] 1 単位	[学期] 後期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	This is a basic writing course which takes students from writing a sentence to paragraphs. Students will learn to recognize and write a topic sentence. They also will be able to write introductory, supporting and concluding sentences. Students will be required to complete regular assignments.		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Effective Academic Writing (The Paragraph), by Savage and Shafiei Publisher: Oxford University Press (2) Grammar Spectrum 3, by Norman Coe, Oxford University Press		
授業スケジュール	The lesson will proceed through the textbook.		
成績評価の方法	Students' marks will be based on class participation 10%, freewriting assignments 15% and three in-class compositions 75%.		

授業科目	英語表現法Ⅲ	担当者	メアリー マクセイ
	[履修年次] 2年 [単位] 1 単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an English writing course focused on the fundamentals of effective multi-paragraph essay writing.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study of the importance of proper essay organization and the step-by-step thinking and writing process. Students will become familiar with the forms and functions of outlines. This will include grammar, sentence level, rhetoric, and paragraph structure practice. Freewriting assignments and composition assignments will aim at leading students to greater fluency and accuracy.</p> <p>【到達目標】 The goal of this course is to help students learn the organizational principles of English multi-paragraph essay writing and improve their sentence accuracy.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント, Paterson/Harrison/Coe, <i>Grammar Spectrum 3</i> , Oxford University Press (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction, discussion of the five-paragraph essay 第 2 回 Continue discussion of the five-paragraph essay and classification writing 第 3 回 Classification essay, first draft 第 4 回 Classification essay, second draft 第 5 回 Discuss cause and effect writing 第 6 回 Cause and Effect essay, first draft 第 7 回 Cause and Effect essay, second draft 第 8 回 Grammar work 第 9 回 Grammar work 第 10 回 Grammar work 第 11 回 Grammar work 第 12 回 Discuss argumentative writing 第 13 回 Argumentative essay, first draft 第 14 回 Argumentative essay, second draft 第 15 回 Evaluative composition		
成績評価の方法	Composition assignments (作文) 90%, Class participation (授業時の取り組み) 10%		

授業科目	Eigo Hyogen Ho III	担当者	Patrick Gorham
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	Eigo Hyogen Ho III is an advanced level writing course in which students will be required to write multi-paragraph essays. Students will be required to write regular freewriting assignments, complete various grammatical exercises, three in-class writing assignments and a final exam. Although this course is for writing, students will be required to work in pairs and groups to assist one another in learning.		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Grammar Spectrum 3, by Norman Coe, Oxford University Press (2) Handouts provided in class		
授業スケジュール	We will work through the grammar textbook lesson by lesson from Unit 24.		
成績評価の方法	Students' marks will be based on class participation 10%, freewriting assignments 15% and three in-class compositions 75%.		

授業科目	英語学演習 I (久木田)	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を科学的に考察する基本姿勢を培いながら、現代の英語学及び英語教育の抱えている問題点を平易に解説し、ディスカッションをヲ通して、各自が何らかの新しい発見ができるようにする。</p> <p>【概要】言語獲得理論及びバイリンガル理論などを、特に、第一言語獲得理については、英語を母語とする子供がどのような過程を経て大人の言語知識をもつようになるかを考察し、だしに言語獲得理論については、第二言語の獲得過程に影響を与える種々の要因、第一言語の影響等を考察し、英語教育との関連についても検討していきたい。なお、小学校英語教育及び通訳理論を取り入れた英語教育についても、様々な角度から考察していく。</p> <p>【到達目標】現代の英語学及び英語教育に関する事象について、各自が科学的論理的考察ができることを目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Colin Baker, <i>Foundations of Bilingual Education and Bilingualism</i> 3rd Edition, Multilingual Matters Ltd. (2) 滝沢広人著、『アメリカンスクールではどう英語を教えているか』、はまの出版 ジグリッド塩谷著、『アメリカの子供は英語をどう覚えるか』、はまの出版		
授業スケジュール	第1回～第2回 Introduction 第3回～第4回 English Acquisition as Mother Tongue 第5回～第6回 English Acquisition as Second Language 第7回～第14回 Careful reading: <i>Foundations of Bilingual Education and Bilingualism</i> 第15回 Summarization		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (50%) , レポート (50%) で評価する。		

授業科目	英語学演習 I	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語学</p> <p>【概要】英語学（意味論）の解説書を精読することによって、意味論でどのような研究がなされているのか学ぶ。</p> <p>【到達目標】実例を通して英語学の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようになる。テキストの精読を通して、英語学の論文を読む技術を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Th. R. Hoffman, 影山太郎, 『10 日間意味旅行』, ひつじ書房 (第 1 章～第 4 章) (2) 参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 1 Markedness 第 3 回 1 Markedness (続き) 第 4 回 1 Markedness 問題演習 第 5 回 2 Opposites & Negatives 第 6 回 2 Opposites & Negatives (続き) 第 7 回 2 Opposites & Negatives 問題演習 第 8 回 3 Deixis 第 9 回 3 Deixis (続き) 第 10 回 3 Deixis 問題演習 第 11 回 4 Orientations 第 12 回 4 Orientations (続き) 第 13 回 4 Orientations (続き) 第 14 回 4 Orientations 問題演習 第 15 回 まとめ		
成績評価の方法	授業への取り組み (50%) + レポート (50%)		

授業科目	英語学演習 II (久木田)	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を科学的に考察する基本姿勢を培いながら、現代の英語学及び英語教育の抱えている問題点を平易に解説し、ディスカッションを通して、各自が何らかの新しい発見ができるようにする。</p> <p>【概要】英語学演習 I を基礎とし、更に卒業研究に必要な英文資料で共通している資料を精読する。</p> <p>【到達目標】卒業研究が、「仮説」「文献検索」「実証」「結論」と進むためのベースとなるように、各自の理論展開に必要なことについて習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Colin Baker, Foundations of Bilingual Education and Bilingualism 3rd Edition, Multilingual Matters Ltd. (2) 随時プリント		
授業スケジュール	第 1 回～第 2 回 Introduction 第 3 回～第 4 回 Reference 1, 2 第 5 回～第 6 回 Reference 3, 4 第 7 回～第 8 回 Reference 5, 6 第 9 回～第 15 回 Summarization		
成績評価の方法	授業ごとの理解度と発言内容 (50%) , レポート (50%) で評価する。		

授業科目	英語学演習Ⅱ	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語学</p> <p>【概要】英語学（主に統語論）の解説書を精読することによって、統語論でどのような研究がなされているか学ぶ。</p> <p>【到達目標】実例を通して英語学の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようになる。テキストの精読を通して、英語学の論文を読む技術を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) Th. R. Hoffman, 影山太郎, 『10日間意味旅行』, ひつじ書房 (第6章～第10章)</p> <p>(2) 参考文献 毎回紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 6 Time: Tense and Aspect 第2回 6 Time: Tense and Aspect (続き) 第3回 6 Time: Tense and Aspect 問題演習 第4回 7 Aspect in Verbs 第5回 7 Aspect in Verbs (続き) 第6回 7 Aspect in Verbs 問題演習 第7回 8 Words to Sentences 第8回 8 Words to Sentences (続き) 第9回 8 Words to Sentences 問題演習 第10回 9 Meaning & Context 第11回 9 Meaning & Context (続き) 第12回 9 Meaning & Context 問題演習 第13回 10 Combining Sentences 第14回 10 Combining Sentences 問題演習 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業への取り組み (50%) + レポート (50%)		

授業科目	英文学概論	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリス文学の作品を読んで考える。</p> <p>【概要】高校生までに海外の文学作品に親しんだ者は少ない。そこで、外国文学を学ぶ初心者がイギリス文学に関心を抱けるように、担当者は「映像作品から学ぶ英文学」「大衆文化における英文学」を意識して講義を行う。第1回目で講義の展開の仕方と文学に関する基本的な事項を説明し、第2～3回目で大衆文化からも英文学を学べることを説明する。第4回目から「詩」「演劇」「小説」という文学のジャンルについて、具体的に作品を取り上げながら鑑賞し、問題点を探究していく。</p> <p>【到達目標】「詩」「劇」「小説」の作品を読み、作品に潜む問題点を考える能力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 榊井迪夫訳『完訳 カンタベリー物語』(上) 岩波文庫 W.シェイクスピア作 小田島雄志訳『リア王』白水Uブックス W.シェイクスピア作 小田島雄志訳『マクベス』白水Uブックス エミリー・ブロンテ作 鴻巣友季子『嵐が丘』新潮文庫 厨川文夫・圭子編訳『アーサー王の死』ちくま文庫</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション (授業の概要説明, 英文学のジャンル, 英文学に関する用語, 使用された言語などの解説)</p> <p>第2回 マス・メディアから学ぶイギリス文学 (その一): 「アーサー王伝説」, 『リア王』, 『嵐が丘』</p> <p>第3回 マス・メディアから学ぶイギリス文学 (その二): 「アーサー王伝説」, 『リア王』, 『嵐が丘』</p> <p>第4回 比較文学に基づく作品の鑑賞 (文学と映像): 『マクベス』と黒澤明監督の映画『蜘蛛巣城』</p> <p>第5回 詩の鑑賞と問題点の探究 (その一): 『カンタベリー物語』のプロローグにおける作者の人間観察術 (皮肉) の考察</p> <p>第6回 詩の鑑賞と問題点の探究 (その二): 『カンタベリー物語』のプロローグにおける作者の人間観察術 (皮肉) の考察</p> <p>第7回 劇の鑑賞と問題点の探究 (その一): 『リア王』における裏切りの行く末</p> <p>第8回 劇の鑑賞と問題点の探究 (その二): 『リア王』における裏切りの行く末</p> <p>第9回 劇の鑑賞と問題点の探究 (その三): 『リア王』における裏切りの行く末</p> <p>第10回 劇の鑑賞と問題点の探究 (その四): 『リア王』における裏切りの行く末</p> <p>第11回 劇の鑑賞と問題点の探究 (その五): 『リア王』における裏切りの行く末</p> <p>第12回 小説の鑑賞と問題点の探究 (その一): 『嵐が丘』における愛と復讐</p> <p>第13回 小説の鑑賞と問題点の探究 (その二): 『嵐が丘』における愛と復讐</p> <p>第14回 小説の鑑賞と問題点の探究 (その三): 『嵐が丘』における愛と復讐</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (60点), 課題提出・予習を含む授業への取り組み (40点)		

(注) 教職必修

授業科目	英文学史	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】18世紀～20世紀における「小説」の流れを概観する。</p> <p>【概要】まず、文学史という科目に潜んでいる問題点を考える。次に、18世紀～20世紀における主要な作家と作品を取り上げて、「小説」の流れを概観し、18世紀の特徴、19世紀の特徴、20世紀の特徴を理解させる。この場合、受講者がイギリス文学に親しみを持ち、文学に面白味を感じるように、できる限りビデオを活用して解説を試みる。また、受講者にはイギリス文学に親しんでもらうために、指定した映像作品を鑑賞してもらい、「映画作品から親しむイギリス文学」というレポートを課す。</p> <p>【到達目標】18世紀の小説の特徴、19世紀の小説の特徴、20世紀の小説の特徴を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 川崎寿彦著『イギリス文学史』成美堂 (2) サブテキストは講義中に指定する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション (講義方式の説明、文学史の科目に潜む問題点の探究) 第2回 18世紀の小説 (その一) : 18世紀の小説とその周辺に関する諸問題 第3回 18世紀の小説 (その二) : 18世紀の小説におけるH. フィールド、L. スターン、T. スモレットの役割 第4回 18世紀の小説 (その三) : 18世紀後半のゴシック小説 第5回 18世紀の小説 (その四) : G. オースティンの小説 第6回 18世紀の小説に関する小テスト、19世紀の小説 (その一) : 19世紀 (ヴィクトリア朝) 小説の特徴 第7回 19世紀の小説 (その二) : C. ディケンズの小説 第8回 19世紀の小説 (その三) : W. M. サッカーレーの小説、ブロンテ姉妹の小説 第9回 19世紀の小説 (その四) : ダーウィニズムの影響、19世紀後半 (ヴィクトリア朝後期) の小説 第10回 19世紀の小説に関する小テスト、20世紀の小説 (その一) : 20世紀小説の特徴 第11回 20世紀の小説 (その二) : V. ウルフの小説、H. ジェイムズの小説、E. M. フォスターの小説 第12回 20世紀の小説 (その三) : D. H. ロレンスの小説 第13回 20世紀の小説 (その四) : H. G. ウェルズの小説 第14回 20世紀の小説に関する小テスト、映像課題に関する発表会 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (60点)、講義中の小テスト/授業への取り組み (30点)、課題レポート(10点)		

(注) 日本語日本文学専攻は選択

授業科目	米文学史	担当者	フィリップ アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】Race relations in modern American literary history. アメリカの文学と歴史を著名なアメリカの人物と作家の文章を通して学習します。</p> <p>【概要】The course will alternate between lectures and group presentations. Students will be asked to analyze one part of a course text. Four quizzes will test reading comprehension.</p> <p>【到達目標】The aim of the course is to practice literary analysis while raising historical consciousness of the modern literary, social, and cultural history of race relations in the United States.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) <u>Martin Luther King</u> , Coleen Degnan-Veness (Penguin, 2003) (2) Mark Twain 著『The United States of Lyncherdom』 Martin Luther King Jr. による演説 (抜粋), Adamek 編集		
授業スケジュール	第1回～第3回 Introduction. “The United States of Lyncherdom,” Mark Twain 第4回 Review (Quiz 20%) 第5回～第8回 “The United States of Lyncherdom,” Mark Twain 第9回 Review (Quiz 20%), Introduction to <u>Martin Luther King</u> , Coleen Degnan-Veness (pages 5-7; 2-4) 第10回 <u>Martin Luther King</u> , Coleen Degnan-Veness (14; 8-13) 第11回 Review (Quiz 20%) (15-28) 第12回 <u>Martin Luther King</u> , Coleen Degnan-Veness (29-32) 第13回 <u>Martin Luther King</u> , Coleen Degnan-Veness (36-41) 第14回 Review (Quiz 40%) 第15回 Discussion of quiz results and general review		
成績評価の方法	授業への参加(50%)；小テスト(50%)。		

(注) 教職必修

授業科目	英米文学講読Ⅰ	担当者	小林 潤司
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】シェイクスピアとその時代（『リア王』への道程）</p> <p>【概要】エリザベス時代のロンドンは未曾有の人口増加の過程にあった。いわゆる「エリザベス朝演劇」とは、この都市の膨張に伴って生じた、娯楽の新規需要を背景にして栄えた芸能であった。「千万の心」をもって普遍的な人間性の真実を描いたと称えられるシェイクスピアは、同時に、当時のロンドン市民の好尚に合う新しい芸能を担った、興行資本家であり役者であり脚本作者だったのだ。本講では、この「<時代の落とし>にして<世界の文豪>」を準備した演劇的風土を、周辺の劇作家群像をも視野に入れながら、できる限り立体的に論じてみたい。</p> <p>【到達目標】初期近代イングランドの演劇と文化の歴史的な背景を簡潔に説明することができる。ルネサンス、人文主義、宗教改革について、現代の世界のありかたと関連づけて、概略を説明することができる。シェイクスピアの伝記と作品の概要を説明することができる。□</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 大場建治（編注）『リア王』（対訳・注解研究社シェイクスピア選集9）</p> <p>(2) 今西雅章ほか（編）『シェイクスピアを学ぶ人のために』（世界思想社）G. Lブルック『シェイクスピアの英語』（松柏社）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 世界の拡大</p> <p>第2回 ルネサンス観の多様性</p> <p>第3回 人文主義</p> <p>第4回 宗教改革と国民国家の形成</p> <p>第5回 ストラットフォードからロンドンへ</p> <p>第6回 歴史劇・詩</p> <p>第7回 初期・中期の喜劇</p> <p>第8回 初期の悲劇</p> <p>第9回 『ハムレット』</p> <p>第10回 『マクベス』と『オセロー』</p> <p>第11回 『リア王』概説</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回 予備日</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業参加状況（予習の状況および授業時間中の発表と発言）30%□ 学期末試験 70%□		

授業科目	英米文学講読Ⅱ	担当者	小林 潤司
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】シェイクスピア『リア王』講読</p> <p>【概要】「天才の作った最も恐ろしい作品」（スウィンバーン）、「シェイクスピアの最も偉大な作品と思われるが、しかし最も優秀な戯曲とは思われない」（A.C.ブラッドレー）、「シェイクスピアの形而上学の最高の達成であり、かつて書かれた劇のなかで最も偉大であるのみならず、かつて着想されたなかで最も恐ろしい哲学的信条表明のひとつ」（ロバート・ブルースティーン）など、『リア王』をめぐる評価の通り相場は、「単なる<文学作品>の枠を越えているから、他の作品と単純な比較ができない」、「見る（読む）人を驚かせ、並外れた畏れや恐怖を与える」というところにあるらしい。いつもは冷静な批評家・研究者の血を急に頭にのぼらせ、その超越性や偉大さ、恐ろしさについて、ひときわ甲高い調子で論じさせてしまう稀有な要素が、この劇の一体どこに、どのようなかたちで内在しているのかを探ってみたい。</p> <p>【到達目標】『リア王』の構造、その成立に関する主要な仮説について概略を説明できる。『リア王』から任意のパスセージを、作品の主題との関連、修辞などの表現形式の両面から分析、評釈することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 大場建治（編注）『リア王』（対訳・注解研究社シェイクスピア選集9）</p> <p>(2) 今西雅章ほか（編）『シェイクスピアを学ぶ人のために』（世界思想社）G.Lブルック『シェイクスピアの英語』（松柏社）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 『リア王』1.1</p> <p>第2回 『リア王』1.1(続き)～1.3</p> <p>第3回 『リア王』1.4</p> <p>第4回 『リア王』1.4(続き)～2.2</p> <p>第5回 『リア王』2.2(続き)～2.4</p> <p>第6回 『リア王』2.4(続き)</p> <p>第7回 『リア王』2.5～3.4</p> <p>第8回 『リア王』3.4(続き)～3.7</p> <p>第9回 『リア王』3.7(続き)～4.2</p> <p>第10回 『リア王』4.2(続き)～4.6</p> <p>第11回 『リア王』4.6(続き)</p> <p>第12回 『リア王』4.7～5.3</p> <p>第13回 『リア王』5.3(続き)</p> <p>第14回 予備日</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業参加状況（予習の状況および授業時間中の発表と発言）30%□ 学期末試験 70%□		

授業科目	英米文学講読Ⅲ	担当者	轟 義昭
		[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 イギリス文学作品に親しむ</p> <p>【概要】 ペンギンリーダーズのテキストを利用して、C.ディケンズの『オリヴァー・ツイスト』（英文学）とH.ジェームズの『ある貴婦人の肖像』（英文学）を読む。ペンギンリーダーズのテキストは注釈（Notes）が詳しいので、文学作品および物語を英語で読もうとする初心者にも読みやすい。授業は速読形式で進め、章ごとに内容と問題点を確認していく。両作品は映画化されているので、プロットと背景が理解できるようにビデオを活用したい。</p> <p>【到達目標】 作品の内容を理解し、作品全体を通して読者に訴えかける作者の主張を読み解く。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Charles Dickens, <i>Oliver Twist</i> (ペンギンリーダーズ) 南雲堂フェニックス H. James, <i>The Portrait of a Lady</i> (ペンギンリーダーズ) 南雲堂フェニックス		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション (授業の進め方の説明), イギリス文学作品への知識の確認, 映像作品『オリヴァー・ツイスト』の鑑賞 第2回 映像作品『オリヴァー・ツイスト』の鑑賞 (続き) と解説, テキストの第1章を読む 第3回 第2章～第5章を読む 第4回 第6章～第8章を読む 第5回 第9章～第11章を読む 第6回 第12章～第16章を読む 第7回 第17章～第21章を読む 第8回 C.ディケンズの作品研究 第9回 映画『ある貴婦人の肖像』の鑑賞 第10回 映画『ある貴婦人の肖像』の鑑賞 (続き) 第11回 テキストの第1章～第6章を読む 第12回 第7章～第11章を 第13回 第12章～第15章 第14回 H.ジェームズの作品研究 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	レポート (60点), 予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容 (40点)		

授業科目	英米文学講読Ⅳ	担当者	轟 義昭
		[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 アメリカ文学作品に親しむ。</p> <p>【概要】 2300語レベルに編集されたペンギンリーダーズのテキストを利用して、スティーブン・キングの <i>The Body</i> (米文学) を読む。ペンギンリーダーズのテキストは注釈 (Notes) が詳しいので、文学作品および物語を英語で読もうとする初心者にも読みやすい。授業はプリント学習と速読形式で進めていく。この作品は映画化されているので、プロットと背景が理解できるようにビデオ『スタンド・バイ・ミー』を活用したい。</p> <p>【到達目標】 作品の内容を理解し、作品全体を通して読者に訴えかける作者の主張を読み解く。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) Stephen King, <i>The Body</i> (ペンギンリーダーズ) 英潮社フェニックス		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション (授業の進め方の説明), 映像作品『スタンド・バイ・ミー』の鑑賞 第2回 映像作品『スタンド・バイ・ミー』の鑑賞 (続き) と解説 + 第1章 The Hardest Things to Say 第3回 第2章 The Tree House Gang～第4章 A Jar of Pennies 第4回 第5章 Making Plans～第7章 The Gun 第5回 第8章 The Railway～第10章 Milo and Chopper 第6回 第11章 Night-Sweats～第12章 The Bridge 第7回 第13章 The Loser's Life 第8回 第14章 Darkness in the Forest～第15章 A Dream of Deep Water 第9回 第16章 The Deer～第19章 A Serious Matter 第10回 第20章 The Body 第11回 第21章 Ace Merrill～第22章 Hailstones 第12回 第23章 A Twenty-Year-Old Dream～第27章 Tears for a Friend 第13回 テキスト <i>The Body</i> の学習理解度テスト 第14回 スティーブン・キングと彼の作品について 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	レポート (60点), 小テスト (10点), 予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容 (30点)		

授業科目	英米文学演習Ⅰ (アダメック)	担当者	フィリップ アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 学術論文を英語で書く 【概要】 受講者は指導者によって選ばれた題材について2ページの論文を書きます。論文は授業で話し合った英語でのライティング手本に必ず沿っていることとします。 【到達目標】 受講者がライティングによって自分の意見を深め、英語での学術論文の書き方、自分の興味がある研究課題を理解し、創作的で自主的な学習スキルを演習することを目標とします。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) なし		
授業スケジュール	スケジュール: 第1週-第3週: 授業とテキストの紹介 第4週-第10週: リサーチ方法について 第11週-第30週: リサーチの実践		
成績評価の方法	授業への参加状況 (30%) , 授業内での発言 (20%) , 総まとめ (30%) , 作品集 (20%)。		

授業科目	英米文学演習Ⅱ (轟)	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 E.M.フォスターの作品研究と映像作品から学ぶイギリス文学 【概要】 前半のE.M.フォスターの作品研究では、ネルソン・リーダーズテキストを利用して『眺めのいい部屋』を読み、階級意識に焦点をあてながら、異なる文化間の人間関係の対比を考察する。後半は映画化されたイギリス文学作品のなかから学生に研究したい作者と作品を選択させ、作者の文学史上の位置付け、社会に対する作者の視点、作品のテーマなどを各自に分析させて発表させる。 【到達目標】 各人が問題点を探出し、各人がそれに対する見解・意見を導き出せるようにする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) E.M.フォスターの『眺めのいい部屋』はプリント		
授業スケジュール	第1回 映画『眺めのいい部屋』の鑑賞 第2回 映画『眺めのいい部屋』の鑑賞(続き)、テキスト『眺めのいい部屋』の第1章～第4章を読む 第3回 第5章～第8章を読む 第4回 第9章～第12章を読む 第5回 第13章～第17章を読む 第6回 E.M.フォスターの作品研究 第7回～第14回 映画化されたイギリス文学作品の研究で、以下の作者と作品から各自で研究していく。 J. オースティン 『エマ』 『分別と多感』 『高慢と偏見』 / E. M. フォスター 『眺めのいい部屋』 『インドへの道』 『ハワーズ・エンド』 / C. ディケンズ 『オリヴァー・ツイスト』 『クリスマス・キャロル』 『大いなる遺産』 / T. ハーディ 『日陰者ジュード』 『テス』 / H. G. ウェルズ 『タイムマシン』 『透明人間』 『宇宙戦争』 『月に一番乗りした男たち』 / H. ジェイムズ 『鳥の翼』 『ある貴婦人の肖像』 『黄金の杯』 / G. オーウェル 『1984』 『動物農場』 / G. グリーン 『第3の男』 『情事の終わり』 / V. ウルフ 『ダロウエイ夫人』 『オルランド』 / D. H. ロレンス 『虹』 『恋する女たち』 『チャタレー夫人の恋人』 第15回 プレゼンテーション		
成績評価の方法	プレゼンテーション+作品研究の発表 (70点), 授業への取り組み (30点)		

授業科目	英米文学演習Ⅱ (アダメック)	担当者	フィリップ アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学術論文を英語で書く</p> <p>【概要】 自分で選んだ題材に、前期習得したライティング技術に応用します。指導者との話し合いによって卒業論文のテーマを絞り込み、毎週リサーチとライティングを行います。受講者は教務課によって定められた、卒業論文の最終期限までいくつかの下書きを提出し、推敲を重ねます。</p> <p>【到達目標】 受講者がライティングによって自分の意見を深め、英語での学術論文の書き方、自分の興味がある研究課題を理解し、創造的で自主的な学習スキルを演習することを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) なし		
授業スケジュール	スケジュール: 第1週-第3週: 授業とテキストの紹介 第4週-第10週: リサーチ方法について 第11週-第30週: リサーチの実践		
成績評価の方法	授業への参加状況 (30%) , 授業内での発言 (20%) , 総まとめ (30%) , 作品集 (20%)。		

授業科目	比較文学	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 比較文学とは何か</p> <p>【概要】 比較文学は現在も発展しつづけている分野であり、その定義も一様ではない。本講義では「比較」という手法を通して、文学作品を考える新たな視点を発見することを目標とする。本年度は古代ギリシア・ローマの神話・文学と英米文学の関係を軸にして、影響関係、翻訳という媒介者、テーマに基づく対比、芸術等とのジャンルを越えた比較など、さまざまな角度から比較文学的手法をみていくことにしたい。また、他のヨーロッパ文学でも押さえておいて欲しい作家・作品については、適宜触れることができればと考えている。</p> <p>【到達目標】 比較文学的な手法を学び、多角的な視点から文学テキストを分析できるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布 トマス・ブルフィンチ『完訳 ギリシア・ローマ神話』上下 (角川文庫, 2004)		
授業スケジュール	第1回 インTRODクシヨン 第2回 比較文学とは? 第3回 ギリシア・ローマ文学概観1 第4回 ギリシア・ローマ文学概観2 第5回 影響の研究1 第6回 影響の研究2 第7回 影響の研究3 第8回 翻訳という媒介者 第9回 対比研究1 第10回 対比研究2 第11回 対比研究3 第12回 文学と芸術1 第13回 文学と芸術2 第14回 文学と芸術3 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度 (30%) , レポート (70%)		

授業科目	比較文化	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーションとは何か。</p> <p>【概要】異文化理解・異文化コミュニケーションについて学ぶ。講義を通して単に知識を得るだけでなく、毎回個人あるいはグループによるワークを織り交ぜながら、異文化と接したときにどう対処すべきなのかを具体的に考えてみる。</p> <p>【到達目標】国際的視野から異文化を正しく理解し、コミュニケーションする方法を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布		
授業スケジュール	第1回 インTRODクシヨソ 第2回 文化・異文化とは？ 第3回 コミュニケーションとは？ 第4回 言語・非言語コミュニケーション1 第5回 言語・非言語コミュニケーション2 第6回 言語・非言語コミュニケーション3 第7回 ステレオタイプと偏見 第8回 価値観 第9回 文化・文明の衝突 第10回 異文化の理解 第11回 カルチャーショックと異文化適応 第12回 翻訳と通訳 第13回 異文化コミュニケーションの方法 第14回 多文化共生 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度 (40%) , 筆記試験 (60%)		

(注) 英語英文学専攻は教職必修

授業科目	比較文化講読	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】比較文化とは何か</p> <p>【概要】ファッションをキーワードに14世紀から19世紀のイギリスの文学作品、雑誌記事、風刺、肖像画などを読み解くことで、それぞれのファッションが表す時代時代の価値観や特質を比較したり、時にはフランスのファッションと比較したりしながら、比較文化的な物の見方を学んでいく。輪読形式を取るため、予習は必須である。</p> <p>【到達目標】速読・多読力を向上させると同時に、比較文化の方法を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	Yuko Hosokawa with Keith Adams, <i>Fashionable England</i> (開文社, 2010)		
授業スケジュール	第1回 Chapter 1: The Troubled Kings 第2回 Chapter 2: <i>The Spectator</i> Speaks to Decent Citizens 第3回 Chapter 3: <i>The Spectator</i> Fights a Fashion War 第4回 Chapter 4: <i>Pamela</i> and Anglomania 第5回 Chapter 5: Hogarth, an Iconoclast 第6回 Chapter 6: Hogarth's Aesthetic Reconstruction 第7回 Chapter 7: A New English Tradition 第8回 Chapter 8: <i>Mary Graham</i> – A Sensation 第9回 Chapter 9: A Costume Battle 第10回 Chapter 10: Women and Men in English Nature 第11回 Chapter 11: The Dandy 第12回 Chapter 12: Worth, an Entrepreneur 第13回 Chapter 13: Tissot in the Age of Worth 第14回 Chapter 14: The Art of Surface 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業への積極的な参加度 (35%) , 筆記試験 (65%)		

授業科目	イギリス事情	担当者	ジョン トレマーコ
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 British Culture, Modern and Traditional</p> <p>We will embark on a different approach this year. Instead of following a textbook, we will endeavour to extend the project theme we have carried out in previous years; it will no longer simply supplement the textbook, it will act as a replacement and form the core element of the course with a view to making a presentation at the conclusion of the term. The project theme has proved very successful in not only motivating the students throughout the year, but also in improving their communicative competence. The theme of the project will be decided upon by the students: it will be chosen according to the aptitude and number of students. The themes available will include: Music (classical and modern); Food; Education; Literature; History; Geography.</p> <p>【概要】 Utilizing the four basic skills, students will explore a number of British cultural features ranging from its history, education system and modern Britain.</p> <p>【到達目標】 The main emphasis will be on speaking and listening with a view to having the students make a presentation at the end of the course.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	All materials provided by the teacher		
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction & Orientation: Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. コース, 授業についての説明</p> <p>第2回 Choosing the Project theme</p> <p>第3回 - 13回 Planning and implementation of Project</p> <p>第14回 Final Examination (presentation)</p> <p>第15回 Course Review</p> <p>* NB: The above is a guide only, the pace, range and choice of topics may well differ from those set out above depending on the characteristics of the class.</p>		
成績評価の方法	<p>A willingness to participate in class is more important than test results. Evaluation will be on class participation, 'group' assignments. There will also be an examination at the end of the course. Assessment criteria: Group work 40%, Class participation 20% and Final Presentation Test 40%.</p> <p>授業に積極的に参加することが、テスト結果より重視される。評価は、グループテストや宿題のような授業態度により決定される。また、このコースの最後に試験も行う。</p> <p>最終テスト= 40 % グループワーク & 小テスト= 40 % 授業出席&貢献 (予習課題発表や、授業中の発言・質問等含む) = 20 %</p>		

授業科目	アメリカ事情	担当者	フィリップ アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Documenting in film American society and its problems: the perspectives of Michael Moore.</p> <p>【概要】 We will view two documentaries of filmmaker Michael Moore.</p> <p>【到達目標】 The aims of the course are to raise awareness of various political and cultural aspects of the United States through the lens of filmmaker Michael Moore and to introduce students to the variety of American media news organizations. Students will analyze an interview with the filmmaker and investigate the media organization that hosts the interview.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) <i>Sicko</i> and <i>Capitalism: A Love Story</i>, DVDs.</p> <p>(2) Interviews, online resources. Adamek 編集</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction to Michael Moore</p> <p>第2回 <i>Sicko</i> viewing, discussion</p> <p>第3回 <i>Sicko</i> viewing, discussion</p> <p>第4回 <i>Sicko</i> viewing, discussion</p> <p>第5回 <i>Sicko</i> viewing, discussion</p> <p>第6回 <i>Sicko</i> viewing, discussion</p> <p>第7回 Media analysis</p> <p>第8回 Media analysis</p> <p>第9回 <i>Capitalism: A Love Story</i> viewing, discussion</p> <p>第10回 <i>Capitalism: A Love Story</i> viewing, discussion</p> <p>第11回 <i>Capitalism: A Love Story</i> viewing, discussion</p> <p>第12回 <i>Capitalism: A Love Story</i> viewing, discussion</p> <p>第13回 <i>Capitalism: A Love Story</i> viewing, discussion</p> <p>第14回 Media analysis</p> <p>第15回 Discussion of original documentary proposals</p>		
成績評価の方法	授業への参加 (50%); media analysis and original documentary proposal (50%).		

授業科目	ヨーロッパ事情	担当者	中谷 彩一郎
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ヨーロッパ統合にいたる歴史</p> <p>【概 要】 現在、ヨーロッパはEU加盟国の増加やリスボン条約の発効によって、ますます統合の度合いを強めつつある。その一方、ギリシアの経済危機など、さまざまな問題も抱えている。本講義では、ヨーロッパの長い統合と分裂の歴史について、文化・文明を中心にして概観する。参考文献にあげたル・ゴフの著書は、全体の流れをおおまかにつかむのによい。ただし、フランスの子供向けなので、本講義では、日本の大学生向けにさらに説明に肉付けすると共に、現代についても詳しく講ずる予定である。</p> <p>【到達目標】 ヨーロッパの歴史とその統合の意義について理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	ジャック・ル・ゴフ (前田耕作監訳・川崎万里訳) 『子どもたちに語るヨーロッパ史』 ちくま学芸文庫 (筑摩書房, 2009)		
授業スケジュール	第 1回 イン트로ダクション 第 2回 ギリシア・ローマ1 第 3回 ギリシア・ローマ2 第 4回 中世1 第 5回 中世2 第 6回 中世からルネサンスへ 第 7回 ルネサンス1 第 8回 ルネサンス2 第 9回 17, 8世紀1 第 10回 17, 8世紀2 第 11回 19世紀1 第 12回 19世紀2 第 13回 現代1 第 14回 現代2 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度 (30%), 筆記試験 (70%)		

授業科目	比較文化演習 I	担当者	中谷 彩一郎
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 比較文学・比較文化</p> <p>【概 要】 本演習では 異性装をキーワードにして古今東西のさまざまな文藝を扱ったテキストを精読することを通して、比較することが文学や文化の研究にどのように役立つのかを具体的に学ぶ。一人当たり四回ほど発表してもらい、次の三段階が徐々にできるようになるよう訓練する。英米豪の作品に関しては、英語の原典にも触れるようにしたい。</p> <p>(1) 担当箇所をまとめたハンドアウトの作成・発表。 (2) (1)に加えて、論文に言及された原典 (たとえば、シェイクスピアや映画など) に目を通し、補足説明をおこなえるようになる。 (3) (2)に加えて、テキストを批判的に読むクリティカル・リーディングができるようになる。</p> <p>毎回全員に意見を求めるので、テキストをしっかりと読んでくること。</p> <p>【到達目標】 比較文学・比較文化の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようにする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	佐伯順子『「女装」と「男装」の文化史』 講談社選書メチエ 450 (講談社, 2009)		
授業スケジュール	第 1回 イン트로ダクション 第 2回 発表の仕方と見本 『古事記』 第 3回 『青砥橋花紅彩画』 『三人吉三巴白浪』 第 4回 『ルーキー』 『毛皮のマリー』 第 5回 『霸王別姫』 『お・こ・げ』 第 6回 『ミセス・ダウトファイア』 『トツツイー』 第 7回 『プリシラ』 『ビリー・エリオット』 第 8回 『リボンの騎士』 『ベルサイユのばら』 第 9回 『ムーラン』 『ヴェニス商人』 第 10回 『お気に召すまま』 『十二夜』 第 11回 『井筒』 『松風』 『道成寺』 第 12回 『花ざかりの君たちへ』 『風光る』 第 13回 『オサマ』 『ボーイズ・ドント・クライ』 第 14回 『とりかへばや物語』 『オーランドー』 第 15回 まとめ 演習 II への橋渡し		
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション (60%), 演習全体への参加態度 (40%)		

授業科目	比較文化演習Ⅱ	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】比較文学・比較文化</p> <p>【概要】比較文化演習Ⅰで学んだことを踏まえて、比較文学・比較文化に関連する幅広い分野の論文をできるだけ多く読みこなしていく。なお、読む論文は参加者の希望や関心を訊いた上で決定する。できるだけ各人の卒業研究と関係のある論文を割り当てるようにしたい。毎回担当者を決めて（一回あたり二人、一人あたり四回ほど担当予定）、読んだ論文について発表し、討論する形式を取る。他の参加者も論文をあらかじめ読み、疑問点等を考えてくること。</p> <p>【到達目標】卒業研究につながる比較文学・比較文化の様々な研究方法を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布		
授業スケジュール	第1回 インTRODクシヨン 第2回 発表一巡目と討論 第3回 発表一巡目と討論 第4回 発表一巡目と討論 第5回 発表一～二巡目と討論 第6回 発表二巡目と討論 第7回 発表二巡目と討論 第8回 発表二巡目と討論 第9回 発表三巡目と討論 第10回 発表三巡目と討論 第11回 発表三巡目と討論 第12回 発表三～四巡目と討論 第13回 発表四巡目と討論 第14回 発表四巡目と討論 第15回 発表四巡目と討論、まとめ		
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション (60%) , 討論への参加態度 (40%)		

授業科目	日本語学概論	担当者	望月 正道
	[履修年次] 日本語日本文学専攻は1年, 英語英文学専攻は2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 日本語日本文学専攻は必修, 英語英文学専攻は選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語に関する研究を行っていくうえで、また、日本文学（特に古典文学）を読んでいくためにも、必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】各研究分野について概観するが、特に、日本語で用いられる音声・音韻（音声言語）に関する事項と、それを書き表す文字・表記（アルファベットのみを用いる言語に比べて、複雑な文字体系を持つ日本語では、文字の問題は殊に重要である）について重点を置いて考察を行うこととする。なお、日本語の歴史については、別に「日本語史」の授業科目で扱う。</p> <p>この授業は「講義方式」であり、教室での90分の授業に対して180分の自学自習が義務づけられている。従って、各自事前にテキストを読んで疑問点を拾い出し、「学習課題」を考察してくること。</p> <p>【到達目標】日本語学について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 仁田義雄 他著『改訂版 日本語要説』ひつじ書房		
授業スケジュール	第1回 日本語学（国語学）とは 第2回 現代語の音声・音韻論1：発音器官/国際音声字母 ※ 第3回 現代語の音声・音韻論2：母音 ※ 第4回 現代語の音声・音韻論3：子音 ※ 第5回 現代語の音声・音韻論4：韻律 ※ 第6回 文字・書記：現代日本語の表記の特徴 ※ 第7回 前半のまとめ 第8回 現代語の文法・文法論1：テンソとアスペクト 第9回 現代語の文法・文法論2：待遇表現 第10回 現代語の語彙・語彙論1：語種 第11回 現代語の語彙・語彙論2：語彙の体系 第12回 社会言語学・方言学1：国語（公用語）と方言 第13回 社会言語学・方言学2：新方言/言語地理学 第14回 文章・談話 第15回 まとめと試験 ※印=パソコン教室で実施。		
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート・辞書等持ち込み可）の成績(80%)に、随時実施する小テストの成績(20%)を加えて判定する。		

授業科目	日本語教育概論	担当者	未定
	[履修年次] 日本語日本文学専攻は1年, 英語英文学専攻は2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

授業科目	対照言語学	担当者	未定
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
成績評価の方法			

授業科目	日本文学史・近代Ⅰ 日本文学史Ⅰ	担当者	岩本 晃代
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修(注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 明治以降の文学を各時代の社会的、文化的背景と関連づけて概観する。</p> <p>【概要】 日本文学史・近代Ⅰは、明治期から大正期までの文学を対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、特に文学的影響の大きな作品については、実際に作品本文を紹介し、社会や文化的な関わりをも含めて、その史的意義が明らかになるように講じる。</p> <p>【到達目標】 近代日本の文学史上の基礎的な知識の習得。文学作品を、社会的、文化的背景と関連付けて考察することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 久保田淳監修『日本文学史』おうふう、プリント。</p> <p>(2) 日本近代文学館編『日本近代文学大事典』講談社、他、授業中に適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 近代の文学(明治・大正) 概観</p> <p>第2回 近代化と文学 近代の特質</p> <p>第3回 近代化と文学 〈私〉の構造</p> <p>第4回 明治の文学 明治初期の文学表現</p> <p>第5回 明治の文学 書き言葉の改革</p> <p>第6回 明治の文学 文学の改良</p> <p>第7回 明治の文学 近代文学の改良</p> <p>第8回 明治の文学 言文一致体小説</p> <p>第9回 明治の文学 写実主義と写生説</p> <p>第10回 明治の文学 浪漫主義の小説と詩歌</p> <p>第11回 明治の文学 自然主義の革新(小説)</p> <p>第12回 明治の文学 自然主義の革新(詩歌)</p> <p>第13回 大正の文学 大正文壇の概観</p> <p>第14回 大正の文学 大正文壇と私小説</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験 70%</p> <p>授業ごとに実施するミニレポート 30%</p>		

(注) 英語英文学専攻は「日本文学史Ⅰ」として選択

授業科目	日本文学史・近代Ⅱ 日本文学史Ⅱ	担当者	岩本 晃代
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修(注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 明治以降の文学を各時代の社会的、文化的背景と関連づけて概観する。</p> <p>【概要】 日本文学史・近代Ⅱは、昭和期(大正末期をふくむ)から現在までの文学を対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、特に文学的影響の大きな作品については、実際に作品本文を紹介し、社会や文化的な関わりをも含めて、その史的意義が明らかになるように講じる。</p> <p>【到達目標】 近代日本の文学史上の基礎的な知識の習得。文学作品を、社会的、文化的背景と関連付けて考察することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 久保田淳監修『日本文学史』おうふう、プリント。</p> <p>(2) 日本近代文学館編『日本近代文学大事典』講談社、他、授業中に適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 日本近代文学(大正末から現在まで) 概観</p> <p>第2回 昭和の文学 新感覚派・前衛詩</p> <p>第3回 昭和の文学 主知主義文学</p> <p>第4回 昭和の文学 プロレタリア文学</p> <p>第5回 昭和の文学 文芸復興の時代1</p> <p>第6回 昭和の文学 文芸復興の時代2 四季派の抒情その1</p> <p>第7回 昭和の文学 文芸復興の時代3 四季派の抒情その2</p> <p>第8回 昭和の文学 戦争文学と日本回帰</p> <p>第9回 昭和の文学 戦後混乱期の表現</p> <p>第10回 昭和の文学 近代的表現の行方</p> <p>第11回 昭和の文学のまとめ</p> <p>第12回 現代の文学 昭和30年代</p> <p>第13回 現代の文学 昭和40年代</p> <p>第14回 現代の文学 昭和50年以降現在まで</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験 70%</p> <p>授業ごとに実施するミニレポート 30%</p>		

(注) 英語英文学専攻は「日本文学史Ⅱ」として選択

授業科目	英文文書処理	担当者	アンネ ヨハンセン
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 基本的なコンピューターの操作が、英語でできるようになる。 【概要】 Word/Excel を使って、与えられた課題を処理する。 ビジネスレター作成、インターネット、E-mail など。 【到達目標】 基本的なコンピューターの操作が、英語でできるようになる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント メモリースティック、辞書を持参する。		
授業スケジュール	第 1 回 インTRODクシヨン 自己紹介 コース説明 第 2 回 What you can do on a computer 第 3 回 What you can do on a computer 第 4 回 What you can do on a computer 第 5 回 Software and hardware 第 6 回 How to use the Internet 第 7 回 Making your own business card 第 8 回 Using the Internet 第 9 回 Using the Internet 第 10 回 Using the Internet 第 11 回 Using the Internet 第 12 回 E-mail 第 13 回 How to write business letters 第 14 回 A little bit of everything 第 15 回 English written test		
成績評価の方法	授業への参加状況 40% 授業態度 20% 筆記(英語)テスト 40%		

授業科目	国際関係論	担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。 【概要】 本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史的変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。 【到達目標】 国際社会の現在の諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。 (2) 原彬久編『国際関係学講義』（有斐閣、2006年）。		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス：講義の目的、方法 第 2 回 国際関係論の基礎 1：国内社会と国際社会は何が違うのか 第 3 回 国際関係論の基礎 2：行為体と争点の多様化 第 4 回 国際関係のなりたち 1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦 第 5 回 国際関係のなりたち 2：アジアにおける冷戦の拡大 1 第 6 回 国際関係のなりたち 3：アジアにおける冷戦の拡大 2 第 7 回 国際関係のなりたち 4：朝鮮戦争とベトナム戦争 第 8 回 国際関係のなりたち 5：大国の支配とナショナリズム 第 9 回 国際関係のなりたち 6：冷戦後の世界秩序 第 10 回 国際社会における諸問題 1：グローバル化と貧困問題 第 11 回 国際社会における諸問題 2：貧困と開発 第 12 回 国際社会における諸問題 3：環境問題、人権、予防外交 第 13 回 国際社会における諸問題 4：9.11 以後の世界 第 14 回 国際社会における諸問題 5：グローバルガバナンス 第 15 回 まとめと試験		
成績評価の方法	試験によって評価する。(100%)		

授業科目	国際経済論	担当者	野村 俊郎
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化～トヨタのSPSと日系ブラジル人 【概要】 グローバル化が加速する21世紀の世界経済について、その制度的な枠組みをWTO, FTA, EPAを中心に、バラッサの経済統合の理論を参照しながら説明する。そのうえで、日本企業の急速な海外生産の拡大を量的な面から外観するとともに、海外工場に最新のモノづくりの技術が導入される一方で、国内マザー工場のイノベーションが停滞している現状をみていく。 【到達目標】 21世紀のグローバル化の現状を制度面と、その制度を活用する民間企業の活動の両面から理解する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	授業中に指示する。		
授業スケジュール	第1回 21世紀のグローバル化の二つの方向：外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化 第2回 WTOの仕組み：最恵国待遇、内国民待遇、数量制限の禁止、ドーハラウンド 第3回 FTAとバラッサの5段階説：EU 第4回 進展するFTAとEPAの限界：東アジア共同体か、TPPか、NAFTA、メルコスル。日本のEPA戦略の意義と限界 第5回 海外工場から始まる最新のモノづくり（中国1）：広汽トヨタにおけるSPSとリーマン化の進展 第6回 同上（中国2）：SPSと労働過程の変容～ネオテイラー主義からウルトラテイラー主義へ～ 第7回 同上（中国3）：サプライヤーパーク内専用道開拓：JITからJISへの進化と負担転嫁 第8回 同上（中国4）：日系自動車メーカーと中国金型産業 第9回 同上（中国5）：中国金型産業の発展と限界 第10回 同上（タイ）：トヨタモータータイランドにおけるコンベア同期台車式SPS 第11回 同上（台湾）：国瑞汽車におけるAGV牽引同期台車式SPS 第12回 同上（インドネシア）：TMMINにおけるハンガー式SPS 第13回 内に向かうグローバル化：リーマンショックと生産のフレキシビリティ 第14回 同上：リーマンショックと雇用のフレキシビリティ 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	卒業研究（久木田）	担当者	久木田 美枝子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 英語を科学的に考察する基本姿勢を培いながら、現代の英語学及び英語教育の抱えている問題点を平易に解説し、ディスカッションを通して、各自が何らかの新しい発見をし、卒業論文の作成にあたる。 【概要】 英語学演習Ⅰ、Ⅱ受講者を対象とし、新言語学/英語学/英語教育のなかで、各自研究テーマを決めて個別指導を受けながら、卒業論文の作成にあたる。 【到達目標】 英語での卒業論を作成する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 随時プリント (2) 随時プリント		
授業スケジュール	第1回～第2回 Introduction 第3回～第4回 Basic understanding about English linguistics for finding the theme 第5回～第7回 Tutorial for writing the paper (content) 第8回～第9回 Midterm presentation 第10回～第14回 Tutorial for writing the paper (writing) 第15回 Reading paper		
成績評価の方法	卒業論文(80%), プレゼンテーション(20%)で評価する。		

授業科目	卒業研究 (轟)	担当者	轟 義昭
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】各人がテーマを設定して研究を進めていく。</p> <p>【概要】映像文学という視点に立って、各人が、興味のある英米文学作品に関連した映画、外国文化等に関連した映画のなかで、テーマを設定して研究を進めていく。 *卒業研究論文は日本語で作成してもよい。この場合、350語程度の英語の要約(summary)を添付することとする。勿論、英語での作成が望ましい。</p> <p>【到達目標】各人のテーマで、「課題探求・解決能力」の集大成として、卒業研究論文を完成させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) なし		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション(卒業論文とは何かの説明、卒業論文作成のスケジュール等の確認) 第2回 テーマの選定と絞り込みの指導(過去の事例の紹介) 第3回 図書館およびインターネット検索による文献収集の指導 第4回 テーマの確認、卒業論文の書き方(論の展開の仕方)の指導 第5回 「はじめに」の書き方の指導 第6回 進行状況の確認(一部分の発表)とアドバイス(その一) 第7回 進行状況の確認(一部分の発表)とアドバイス(その二) 第8回 進行状況の確認(一部分の発表)とアドバイス(その三) 第9回 中間発表(その一) 第10回 中間発表(その二) 第11回 個別指導:提出論文の添削・推敲(その一) 第12回 個別指導:提出論文の添削・推敲(その二) 第13回 個別指導:提出論文の添削・推敲(その三) 第14回 提出前の最終指導(レイアウト、目次、参考文献などの確認、英語でSummaryを書くことの指導) 第15回 発表会(プレゼンテーション)用の配布資料作り		
成績評価の方法	卒業研究論文の提出物(80点)、プレゼンテーション(20点)		

授業科目	卒業研究	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語学</p> <p>【概要】受講者は各自、英語学の分野から研究テーマを選び、授業でプレゼンテーションをしたり、個別指導を受けながら、卒業論文を作成する。</p> <p>【到達目標】卒業研究を完成させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス(卒業研究作成のスケジュールの確認、言語事実収集、参考文献の探し方の指導) 第2回 各自の研究テーマ発表とディスカッション(1) 第3回 各自の研究テーマ発表とディスカッション(2) 第4回 テーマ設定と内容について個別指導(1) 第5回 テーマ設定と内容について個別指導(2) 第6回 テーマ設定と内容について個別指導(3) 第7回 中間発表(1) 第8回 中間発表(2) 第9回 中間発表(3) 第10回 内容について個別指導(4) 第11回 内容について個別指導(5) 第12回 内容について個別指導(6) 第13回 卒業研究確定版の発表(1) 第14回 卒業研究確定版の発表(2) 第15回 卒業研究確定版の発表(3)		
成績評価の方法	授業への取り組み(40%) + 卒業研究(60%)		

授業科目	卒業研究	担当者	中谷 彩一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】比較文学・比較文化研究の実践</p> <p>【概要】自らテーマを選び、比較文化演習で学んできた手法を生かして、卒業研究をおこなう方法を学ぶ。研究の進捗状況を定期的に発表し、お互いに講評し合いながら、書き直していく。なお、夏期休業中にあらかじめ卒業研究の元になるレポートを作成してもらう。</p> <p>【到達目標】卒業論文を作成する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書、2009）		
授業スケジュール	第 1回 各人の卒論テーマ発表 第 2回 資料の探し方 第 3回 資料の探し方 第 4回 中間発表1 第 5回 論文の構成1 第 6回 論文の構成2 第 7回 論文の構成3 第 8回 中間発表2 第 9回 論文の書き方1 第 10回 論文の書き方2 第 11回 論文の書き方3 第 12回 最終発表 第 13回 パワーポイントを使った発表の仕方1 第 14回 パワーポイントを使った発表の仕方2 第 15回 卒業研究発表会の練習		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度（20%），発表（30%），論文（50%）		

授業科目	卒業研究（アダメック）	担当者	フィリップ アダメック
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカとヨーロッパの文化と文学について</p> <p>【概要】本、インタビュー、インターネット等の方法を用いて、卒業論文を推敲、作成します。卒業発表会に向けての準備もします。</p> <p>【到達目標】英語で学術論文を書くことを教授し、情報の寄せ集めであるレポートと卒業論文の違いを明確にすることが目標です。このゼミでは卒業論文を「反対意見を持つ読者が存在する可能性もありうるが、厳選した事実に基づいたオリジナルの意見」と定義します。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) なし		
授業スケジュール	スケジュール: 第1週 授業紹介 第2～第15週 リサーチ、ライティング、校正演習		
成績評価の方法	授業への参加状況(60%)、授業内での発言(40%)。		

7 生活科学科共通科目

授業科目	生活科学概論	担当者	倉元 綾子・多々良 尊子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラン教育、ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成を目的とする。</p> <p>【概要】 中学・高校における技術・家庭の学習内容をふまえ、さらに生活科学への展開を図る。生活科学の対象、目的、研究方法を学び、個人・家族の生活の現状と課題について理解を深める。前半は、生活の機能、生活にかかわる政策、世界の家政学、家政学・生活学の歴史などに焦点をあて、生活科学の基本を学ぶ。後半は、生活のしくみをどのようにとらえるのか、具体的な事例に基づいて解説する。それにより、生活全体をグローバルに俯瞰するだけでなく、逆に個人として見つめ、生活科学の構造を理解する。</p> <p>【到達目標】 生活科学とは何かを理解し、生活を科学的な視点で把握し、生活にかかわる課題に主体的に関与できるようにする。それにより、各自が生活科学科で勉学する意義を探究して欲しい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) ヴィンセンティ著、倉元綾子訳『アメリカ・ホーム・エコノミクス哲学の歴史』近代文芸社 ステイジ、ヴィンセンティ編著、倉元綾子監訳『家政学再考』近代文芸社 西村敬子、加藤祥子、早瀬和利『生活を科学する』開隆堂出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回～第2回 生活とは何か、私たちの生活はどうなっているか（個人・家族の生活の現状） 第3回～第4回 生活科学/家政学の対象、目的、体系・領域 第5回～第7回 生活科学/家政学の歴史（日本、アメリカ合衆国、世界）、生活科学/家政学の将来 第8回～第9回 生活の基本は人間関係から：家族で生活すること、地域・社会の一員であること 第10回～第11回 生活を環境としてとらえる：＜人体－衣服－住居－社会＞のつながりと相互作用 第12回～第13回 生活をデザインする：もののデザイン、生き方のデザイン、社会のデザイン 第14回 生活科学は社会的な課題にどのようにアプローチするか 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	倉元担当分（50%）、多々良担当分（50%）：レポートおよび授業時間内の課題による		

授業科目	生活経営学	担当者	倉元 綾子・多々良 尊子
	[履修年次] 食専専攻は2年、生活専攻は1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 食専専攻は選択、生活専攻必修 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生活の質を高めるために、生活の実態と課題を把握し、主体的な生活経営力を身につける。</p> <p>【概要】 [第1回～第7回] 生活の価値・規範とは何かを考える。それに基づき、生活者自身の意思で、様々な生活資源を管理し、それぞれが思い描くライフスタイルを具体化し、社会参加していくプロセスを学ぶ。生活に必要なものやサービス、金銭、時間、人の能力やエネルギー、人間関係など様々な資源をマネージメント（経営）していく力を育成する。[第8回～第15回] 家庭生活にかかわる課題について考える。個人・家族・地域社会においては様々な課題が生じている。その背景、問題点を明らかにするとともに、課題解決のために必要な知識とスキルを学ぶ。</p> <p>【到達目標】 就労による経済的な自立、健康で豊かな生活、多様な生き方や価値観が認められる社会を目指し、将来の生活像を描き、生き方を選択し、実現していくことを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント 神原文子・杉井潤子・竹田美知編著『よくわかる現代家族』ミネルヴァ書房、2,625円 (2) 日本家政学会生活経営部会『暮らしをつくりかえる生活経営力』朝倉書店 日本家政学会家政教育部会「家族生活支援の理論と実践」 その他、適宜指示する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 生活の価値・規範とは何か 第2回 生活経営の主体、生活の単位、生活経営力とは何か 第3回 マネージメントするもの (1) 生活者自身の健康・知識・経験・生活技術など 第4回 マネージメントするもの (2) 人間関係、家族、親戚、友人、知人、地域 第5回 マネージメントするもの (3) ものやサービス、資産・収入、時間、情報 第6回 ワークライフバランス：働くこと、結婚すること、社会参加すること 第7回 自己実現のための生活設計 第8回 現代社会と個人・家族・地域社会の課題1 第9回 現代社会と個人・家族・地域社会の課題2 第10回 家族とは何か 第11回 ジェンダーと個人・家族・地域社会 第12回 子どもであること 第13回 夫になること、妻になること、親になること 第14回 高齢期の家族 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	倉元担当分（50%）、多々良担当分（50%）：レポートおよび授業時間内の課題による		

授業科目	社会福祉論	担当者	未定
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回		
成績評価の方法			

(注) 栄養士必修, 教職必修

8 食物栄養専攻専門科目

授業科目	食品学Ⅰ	担当者	釜田 忠
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品中の成分について、物理化学的な性質、成分の反応、栄養的特性、食品の物性ならびに食品成分より見た食品の特性について学ぶ。</p> <p>【概要】食品中には様々な成分が含まれている。本講義では、健康な日常生活を営むために必要不可欠な栄養素である、タンパク質、脂質、炭水化物、食物繊維、ビタミンについて、化学構造を含めた基礎的な化学と特徴について理解することに始まり、これらの成分の変化、各種反応、栄養の効果について学習していく。</p> <p>【到達目標】栄養士に必要とされる基礎的な知識である食品中に含まれている各種成分の特徴、性質、栄養効果について基本的な知識を理解することを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 加藤保子, 中山勉共著「食品学Ⅰ 食品の化学・物性と機能性」南江堂 加藤保子, 中山勉共著「食品学Ⅱ 食品の分類と利用法」南江堂</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回: イントロダクション ・食品の分類</p> <p>第2回: 水分 ・水の化学 生理作用 食品中の水の状態</p> <p>第3回: 炭水化物1 ・単糖類の化学と性質</p> <p>第4回: 炭水化物2 ・オリゴ糖・多糖類の化学と性質</p> <p>第5回: 炭水化物3 ・炭水化物の栄養効果 食物繊維の特性ならびに栄養効果</p> <p>第6回: タンパク質1 ・アミノ酸の化学と性質 タンパク質の化学</p> <p>第7回: タンパク質2 ・タンパク質の性質と変化</p> <p>第8回: タンパク質3 ・タンパク質の栄養効果・機能</p> <p>第9回: 脂質1 ・脂質の分類 脂肪酸の化学と性質</p> <p>第10回: 脂質2 ・脂質の変化・反応 (自動酸化など)</p> <p>第11回: 脂質3 ・脂質の栄養効果</p> <p>第12回: ビタミン1 ・ビタミンの歴史 脂溶性ビタミンの化学と生理機能</p> <p>第13回: ビタミン2 ・水溶性ビタミンの化学と生理機能1</p> <p>第14回: ビタミン3 ・水溶性ビタミンの化学と生理機能2</p> <p>第15回: まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 小テスト (30%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	食品学Ⅱ	担当者	釜田 忠
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品中の成分について、物理化学的な性質、成分の反応、栄養的特性、食品の物性ならびに食品成分より見た食品の特性について学ぶ。</p> <p>【概要】食品中に含まれる成分であるミネラルについての化学・栄養効果、食品中の嗜好成分 (色素, 呈味成分, 香り成分) について物理化学的な性質、食品中での変化・反応、栄養効果について学ぶとともに、食品中の有害物質、食品の物性について学習する。植物性食品 (穀類, 野菜類, 果実類など), 動物性食品 (畜肉類, 魚介類, 乳製品, 卵など) の特性について学習する。</p> <p>【到達目標】食品中の成分の特性、栄養効果について理解するとともに、植物性食品、動物性食品の特性を理解することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 加藤保子, 中山勉共著「食品学Ⅰ 食品の化学・物性と機能性」南江堂 加藤保子, 中山勉共著「食品学Ⅱ 食品の分類と利用法」南江堂</p>		
授業スケジュール	<p>第1回: ミネラル1 ・ミネラルの栄養効果と機能1</p> <p>第2回: ミネラル2 ・ミネラルの栄養効果と機能2</p> <p>第3回: ミネラル3 ・ミネラルの栄養効果と機能3</p> <p>第4回: 食品色素1 ・クロロフィル, ミオグロビンの化学的性質と食品中での変化・反応</p> <p>第5回: 食品色素2 ・カロテノイド, フラボノイドの化学的性質と変化</p> <p>第6回: 食品色素3 ・酵素的褐変反応, 非酵素的褐変反応</p> <p>第7回: 呈味成分 ・呈味成分の特性</p> <p>第8回: 香り成分 ・食品中の香り成分の特性</p> <p>第9回: 食品中の有害物質</p> <p>第10回: 食品の物性 ・コロイドの化学, 弾性, 粘弾性</p> <p>第11回: 植物性食品1 ・穀類とイモ類の特性</p> <p>第12回: 植物性食品2 ・野菜類と果実類</p> <p>第13回: 動物性食品1 ・畜肉類と魚介類</p> <p>第14回: 動物性食品2 ・牛乳と乳製品</p> <p>第15回: まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 小テスト (30%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	食品学実験	担当者	釜田 忠																												
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実験方式																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品中の成分について実験を通して、これら成分の物理化学的性質を学ぶ。</p> <p>【概要】化学実験では多種多様の薬品、実験器具を使用するため正確な操作を誤ると大きな事故につながる危険性を常にはらんでいる。本実験では講義で学んだ食品成分の性質について実験を通して理解を深めていく。同時に、化学実験に対する取り組み、各種薬品、器具等の正確な操作法、安全対策など化学実験に必要とされる基礎的知識を習得する。</p> <p>【到達目標】食品に含まれる各種成分の性質・特性について基本的な知識を習得するとともに、化学実験についての基礎的知識を習得することを目標とする。</p>																														
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2)																														
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回: ガイダンス</td> <td>・実験概要の説明</td> </tr> <tr> <td>第2回: 実験の基本操作1</td> <td>・各種実験器具の操作法</td> </tr> <tr> <td>第3回: 実験の基本操作2</td> <td>・天秤、顕微鏡の取り扱い</td> </tr> <tr> <td>第4回: 試薬作成</td> <td>・実験で使用する試薬作成と各種薬品の取り扱い方</td> </tr> <tr> <td>第5回: 滴定</td> <td>・0.1規定水酸化ナトリウムの作成・評定、市販食酢中の酢酸の定量</td> </tr> <tr> <td>第6回: 糖質1</td> <td>・単糖類と二糖類の定性実験</td> </tr> <tr> <td>第7回: タンパク質1</td> <td>・アミノ酸、タンパク質の定性実験</td> </tr> <tr> <td>第8回: 無機質</td> <td>・煮干し、きな粉に含まれるカルシウム、リン、鉄の検出</td> </tr> <tr> <td>第9回: 糖質2</td> <td>・多糖類に関する定性実験</td> </tr> <tr> <td>第10回: 糖質3</td> <td>・市販果汁中の還元糖の定量 (ベルトラン法)</td> </tr> <tr> <td>第11回: 油脂</td> <td>・油脂の定性実験、ケンカ価、ヨウ素価</td> </tr> <tr> <td>第12回: タンパク質2</td> <td>・酵素によるタンパク質の消化実験</td> </tr> <tr> <td>第13回: 牛乳</td> <td>・市販牛乳中のカゼインと乳脂肪分の定量</td> </tr> <tr> <td>第14回: 実験の総括</td> <td>・水溶性ビタミンの化学と生理機能2</td> </tr> </table>			第1回: ガイダンス	・実験概要の説明	第2回: 実験の基本操作1	・各種実験器具の操作法	第3回: 実験の基本操作2	・天秤、顕微鏡の取り扱い	第4回: 試薬作成	・実験で使用する試薬作成と各種薬品の取り扱い方	第5回: 滴定	・0.1規定水酸化ナトリウムの作成・評定、市販食酢中の酢酸の定量	第6回: 糖質1	・単糖類と二糖類の定性実験	第7回: タンパク質1	・アミノ酸、タンパク質の定性実験	第8回: 無機質	・煮干し、きな粉に含まれるカルシウム、リン、鉄の検出	第9回: 糖質2	・多糖類に関する定性実験	第10回: 糖質3	・市販果汁中の還元糖の定量 (ベルトラン法)	第11回: 油脂	・油脂の定性実験、ケンカ価、ヨウ素価	第12回: タンパク質2	・酵素によるタンパク質の消化実験	第13回: 牛乳	・市販牛乳中のカゼインと乳脂肪分の定量	第14回: 実験の総括	・水溶性ビタミンの化学と生理機能2
第1回: ガイダンス	・実験概要の説明																														
第2回: 実験の基本操作1	・各種実験器具の操作法																														
第3回: 実験の基本操作2	・天秤、顕微鏡の取り扱い																														
第4回: 試薬作成	・実験で使用する試薬作成と各種薬品の取り扱い方																														
第5回: 滴定	・0.1規定水酸化ナトリウムの作成・評定、市販食酢中の酢酸の定量																														
第6回: 糖質1	・単糖類と二糖類の定性実験																														
第7回: タンパク質1	・アミノ酸、タンパク質の定性実験																														
第8回: 無機質	・煮干し、きな粉に含まれるカルシウム、リン、鉄の検出																														
第9回: 糖質2	・多糖類に関する定性実験																														
第10回: 糖質3	・市販果汁中の還元糖の定量 (ベルトラン法)																														
第11回: 油脂	・油脂の定性実験、ケンカ価、ヨウ素価																														
第12回: タンパク質2	・酵素によるタンパク質の消化実験																														
第13回: 牛乳	・市販牛乳中のカゼインと乳脂肪分の定量																														
第14回: 実験の総括	・水溶性ビタミンの化学と生理機能2																														
成績評価の方法	実験レポート (70%) + 実験への取組姿勢 (30%)																														

(注) 栄養士必修, 教職必修

	食品衛生学	担当者	村山 恵美子																														
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式																																
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の安全について、その問題点と注意点、予防策と解決策を学び、衛生観念を身につける。</p> <p>【概要】近年、食中毒の大規模化、輸入野菜中の残留農薬、新しい感染症や食品汚染物質の増加、偽称表示等、食品の安全性を脅かす多くの問題が生じている。これらに対処するため、法律や規格の制定や改正が行われているが、全面解決に至っていないのが現状である。この講義では、その原因となる微生物や自然毒、化学物質、食品添加物等に対する認識を深め、健康かつ安心・安全な食生活を営めるよう、食中毒や食品の変質、変敗の予防法、食品衛生行政、食品衛生管理等を学ぶ。</p> <p>【到達目標】日常の生活の中で、衛生に関心を持つようになる。</p>																																
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 小栗重行他著「イラスト食品の安全性」東京教学社 (2) 中村好志・西島基弘編著「食品安全学」同文書院、細貝祐太郎他編「新訂原色食品衛生図鑑第2版」建帛社																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>食品衛生行政と法規 (衛生行政の対象、関連法規、表示、食品衛生監視員、コーデックス)</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>食品の変質 (微生物学の基礎、食品の腐敗・変質・油脂の酸敗の予防)</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>食中毒総論 (食中毒の定義、種類と発生状況等)</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>細菌性食中毒 (サルモネラ属、腸炎ビブリオ、腸管出血性大腸菌、カンピロバクター等)</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>ウイルス性、原虫性食中毒 (ノロウイルス、その他のウイルス、クリプトスポリジウム等)</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>自然毒食中毒 (動物性、植物性)</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>食品による感染症 (消化器系感染症、人獣共通感染症)</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>食品から感染する寄生虫症 (魚介類、獣肉類、飲料水、野菜類)</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>化学性食中毒と食品汚染化学物質 (農薬、カビ毒、動物用医薬品、その他の汚染物質)</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>食品衛生管理 (HACCP、食品工場・給食施設における一般衛生管理、家庭における衛生管理)</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>食品の器具と容器包装 (プラスチック、金属、ゴム、紙等)</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>食品添加物 (概要、表示方法、安全性評価等)</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>食品添加物 (種類と用途)</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>その他の食品の安全性問題 (有機栽培、遺伝子組み換え、放射線照射、牛海綿状脳症等)</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめと試験</td></tr> </table>			第1回	食品衛生行政と法規 (衛生行政の対象、関連法規、表示、食品衛生監視員、コーデックス)	第2回	食品の変質 (微生物学の基礎、食品の腐敗・変質・油脂の酸敗の予防)	第3回	食中毒総論 (食中毒の定義、種類と発生状況等)	第4回	細菌性食中毒 (サルモネラ属、腸炎ビブリオ、腸管出血性大腸菌、カンピロバクター等)	第5回	ウイルス性、原虫性食中毒 (ノロウイルス、その他のウイルス、クリプトスポリジウム等)	第6回	自然毒食中毒 (動物性、植物性)	第7回	食品による感染症 (消化器系感染症、人獣共通感染症)	第8回	食品から感染する寄生虫症 (魚介類、獣肉類、飲料水、野菜類)	第9回	化学性食中毒と食品汚染化学物質 (農薬、カビ毒、動物用医薬品、その他の汚染物質)	第10回	食品衛生管理 (HACCP、食品工場・給食施設における一般衛生管理、家庭における衛生管理)	第11回	食品の器具と容器包装 (プラスチック、金属、ゴム、紙等)	第12回	食品添加物 (概要、表示方法、安全性評価等)	第13回	食品添加物 (種類と用途)	第14回	その他の食品の安全性問題 (有機栽培、遺伝子組み換え、放射線照射、牛海綿状脳症等)	第15回	まとめと試験
第1回	食品衛生行政と法規 (衛生行政の対象、関連法規、表示、食品衛生監視員、コーデックス)																																
第2回	食品の変質 (微生物学の基礎、食品の腐敗・変質・油脂の酸敗の予防)																																
第3回	食中毒総論 (食中毒の定義、種類と発生状況等)																																
第4回	細菌性食中毒 (サルモネラ属、腸炎ビブリオ、腸管出血性大腸菌、カンピロバクター等)																																
第5回	ウイルス性、原虫性食中毒 (ノロウイルス、その他のウイルス、クリプトスポリジウム等)																																
第6回	自然毒食中毒 (動物性、植物性)																																
第7回	食品による感染症 (消化器系感染症、人獣共通感染症)																																
第8回	食品から感染する寄生虫症 (魚介類、獣肉類、飲料水、野菜類)																																
第9回	化学性食中毒と食品汚染化学物質 (農薬、カビ毒、動物用医薬品、その他の汚染物質)																																
第10回	食品衛生管理 (HACCP、食品工場・給食施設における一般衛生管理、家庭における衛生管理)																																
第11回	食品の器具と容器包装 (プラスチック、金属、ゴム、紙等)																																
第12回	食品添加物 (概要、表示方法、安全性評価等)																																
第13回	食品添加物 (種類と用途)																																
第14回	その他の食品の安全性問題 (有機栽培、遺伝子組み換え、放射線照射、牛海綿状脳症等)																																
第15回	まとめと試験																																
成績評価の方法	筆記試験 (80%)、授業中の小テスト (20%)																																

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	食品衛生学実験	担当者	釜田 忠																														
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実験方式																															
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日常の食生活から食品の安全性を確保するために必要な知識を実験を通して認識する。</p> <p>【概要】 本実験は微生物実験と化学実験から構成される。微生物実験では、身の回りのあらゆる環境に病原性微生物を始め多くの微生物が存在することを確認することによって、消毒、滅菌等の意義を理解し、食品の安全性の確保のために必要な衛生観念を理解する。 一方、化学実験では、食品添加物の使用実態、鮮度判定、水質検査などを通して、日常の食生活に潜む問題点を認識し、安全な食生活について理解する。</p> <p>【到達目標】 身の回りに潜む危険から、安心・安全な食生活を営むために不可欠な衛生に関する知識を習得することを目的とする。</p>																																
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回：ガイダンス1</td> <td>・微生物実験の概要説明と実験器具の洗浄ならびに実験室の清掃</td> </tr> <tr> <td>第2回：微生物基礎実験1</td> <td>・器具の滅菌と培地作成(斜面培地、高層培地、平板培地)</td> </tr> <tr> <td>第3回：微生物基礎実験2</td> <td>・菌(4種類)の接取・培養、グラム染色による菌の観察</td> </tr> <tr> <td>第4回：微生物基礎実験3</td> <td>・菌の形態観察</td> </tr> <tr> <td>第5回：布巾・まな板の衛生検査</td> <td>・洗い落とし法、拭取り法による総菌数、大腸菌の確認</td> </tr> <tr> <td>第6回：大腸菌群の定量実験</td> <td>・最少数法による大腸菌の定量</td> </tr> <tr> <td>第7回：サルモネラ菌</td> <td>・市販ひき肉、鶏肉からサルモネラ菌の検出</td> </tr> <tr> <td>第8回：ブドウ球菌</td> <td>・おにぎり中のブドウ球菌の検出、ブドウ球菌の人体付着検査</td> </tr> <tr> <td>第9回：耐熱性・紫外線抵抗試験</td> <td>・加熱、紫外線の殺菌効果の測定</td> </tr> <tr> <td>第10回：ガイダンス2</td> <td>・化学実験の概要説明、実験器具の洗浄、微生物実験に使用した器具の後片付け</td> </tr> <tr> <td>第11回：合成着色料の検出</td> <td>・合成タール試験法による市販食品中に含まれる合成着色料の検出</td> </tr> <tr> <td>第12回：発色剤の定量</td> <td>・市販ハム中の発色剤(亜硝酸)の検出ならびに定量</td> </tr> <tr> <td>第13回：タンパク質の変敗試験</td> <td>・市販魚肉中の揮発性塩基窒素の測定による鮮度判定</td> </tr> <tr> <td>第14回：水質検査</td> <td>・家庭用飲料水の理化学試験(平常試験)</td> </tr> <tr> <td>第15回：実験の総括</td> <td></td> </tr> </table>			第1回：ガイダンス1	・微生物実験の概要説明と実験器具の洗浄ならびに実験室の清掃	第2回：微生物基礎実験1	・器具の滅菌と培地作成(斜面培地、高層培地、平板培地)	第3回：微生物基礎実験2	・菌(4種類)の接取・培養、グラム染色による菌の観察	第4回：微生物基礎実験3	・菌の形態観察	第5回：布巾・まな板の衛生検査	・洗い落とし法、拭取り法による総菌数、大腸菌の確認	第6回：大腸菌群の定量実験	・最少数法による大腸菌の定量	第7回：サルモネラ菌	・市販ひき肉、鶏肉からサルモネラ菌の検出	第8回：ブドウ球菌	・おにぎり中のブドウ球菌の検出、ブドウ球菌の人体付着検査	第9回：耐熱性・紫外線抵抗試験	・加熱、紫外線の殺菌効果の測定	第10回：ガイダンス2	・化学実験の概要説明、実験器具の洗浄、微生物実験に使用した器具の後片付け	第11回：合成着色料の検出	・合成タール試験法による市販食品中に含まれる合成着色料の検出	第12回：発色剤の定量	・市販ハム中の発色剤(亜硝酸)の検出ならびに定量	第13回：タンパク質の変敗試験	・市販魚肉中の揮発性塩基窒素の測定による鮮度判定	第14回：水質検査	・家庭用飲料水の理化学試験(平常試験)	第15回：実験の総括	
第1回：ガイダンス1	・微生物実験の概要説明と実験器具の洗浄ならびに実験室の清掃																																
第2回：微生物基礎実験1	・器具の滅菌と培地作成(斜面培地、高層培地、平板培地)																																
第3回：微生物基礎実験2	・菌(4種類)の接取・培養、グラム染色による菌の観察																																
第4回：微生物基礎実験3	・菌の形態観察																																
第5回：布巾・まな板の衛生検査	・洗い落とし法、拭取り法による総菌数、大腸菌の確認																																
第6回：大腸菌群の定量実験	・最少数法による大腸菌の定量																																
第7回：サルモネラ菌	・市販ひき肉、鶏肉からサルモネラ菌の検出																																
第8回：ブドウ球菌	・おにぎり中のブドウ球菌の検出、ブドウ球菌の人体付着検査																																
第9回：耐熱性・紫外線抵抗試験	・加熱、紫外線の殺菌効果の測定																																
第10回：ガイダンス2	・化学実験の概要説明、実験器具の洗浄、微生物実験に使用した器具の後片付け																																
第11回：合成着色料の検出	・合成タール試験法による市販食品中に含まれる合成着色料の検出																																
第12回：発色剤の定量	・市販ハム中の発色剤(亜硝酸)の検出ならびに定量																																
第13回：タンパク質の変敗試験	・市販魚肉中の揮発性塩基窒素の測定による鮮度判定																																
第14回：水質検査	・家庭用飲料水の理化学試験(平常試験)																																
第15回：実験の総括																																	
成績評価の方法	実験レポート(70%) + 実験への取組姿勢(30%)																																

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	食品加工学	担当者	釜田 忠																														
		[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義・実習方式																															
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 食品保存、加工についての概念、基本的な知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 「食品加工」は食品の加工、保蔵、包装・表示など加工食品だけでなく保蔵食品、包装食品を作ることである。生活様式の変化に伴い、多種多様の食品が生産利用され、需要が高まってきていると同時に安全性の問題など新たな問題も生じ、加工食品に対する正しい知識が求められている。本講義では食品の特性を理解したうえで、加工食品の原理や食品保蔵に関する基礎的知識を理解し習得する。</p> <p>【到達目標】 食品加工の基本的知識を理解し、日常の食生活で加工食品を上手に取り入れることによって食生活の改善に役立てる事</p>																																
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 露木英男・田島 眞編「食品加工学—加工から保蔵まで—」共立出版 (2)																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回：イントロダクション</td> <td>・食品加工の基本理念</td> </tr> <tr> <td>第2回：食品加工の原理</td> <td>・物理的操作と化学的操作</td> </tr> <tr> <td>第3回：食品保蔵の原理1</td> <td>・低温保存と水分制御による保存</td> </tr> <tr> <td>第4回：食品保蔵の原理2</td> <td>・浸透圧の利用、pH、燻煙</td> </tr> <tr> <td>第5回：食品保蔵の原理3</td> <td>・殺菌による保存、環境ガス</td> </tr> <tr> <td>第6回：食品の加工1</td> <td>・農産物</td> </tr> <tr> <td>第7回：食品の加工2</td> <td>・農産物</td> </tr> <tr> <td>第8回：食品の加工3</td> <td>・畜産物</td> </tr> <tr> <td>第9回：食品の加工4</td> <td>・水産物</td> </tr> <tr> <td>第10回：食品の加工5</td> <td>・乳製品、卵</td> </tr> <tr> <td>第11回：包装と包装食品</td> <td>・包装の意義、食品の包装</td> </tr> <tr> <td>第12回：実習1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回：実習2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回：実習3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめと試験</td> <td></td> </tr> </table>			第1回：イントロダクション	・食品加工の基本理念	第2回：食品加工の原理	・物理的操作と化学的操作	第3回：食品保蔵の原理1	・低温保存と水分制御による保存	第4回：食品保蔵の原理2	・浸透圧の利用、pH、燻煙	第5回：食品保蔵の原理3	・殺菌による保存、環境ガス	第6回：食品の加工1	・農産物	第7回：食品の加工2	・農産物	第8回：食品の加工3	・畜産物	第9回：食品の加工4	・水産物	第10回：食品の加工5	・乳製品、卵	第11回：包装と包装食品	・包装の意義、食品の包装	第12回：実習1		第13回：実習2		第14回：実習3		第15回：まとめと試験	
第1回：イントロダクション	・食品加工の基本理念																																
第2回：食品加工の原理	・物理的操作と化学的操作																																
第3回：食品保蔵の原理1	・低温保存と水分制御による保存																																
第4回：食品保蔵の原理2	・浸透圧の利用、pH、燻煙																																
第5回：食品保蔵の原理3	・殺菌による保存、環境ガス																																
第6回：食品の加工1	・農産物																																
第7回：食品の加工2	・農産物																																
第8回：食品の加工3	・畜産物																																
第9回：食品の加工4	・水産物																																
第10回：食品の加工5	・乳製品、卵																																
第11回：包装と包装食品	・包装の意義、食品の包装																																
第12回：実習1																																	
第13回：実習2																																	
第14回：実習3																																	
第15回：まとめと試験																																	
成績評価の方法	筆記試験(60%) + レポート(40%)																																

授業科目	調理学	担当者	山下 三香子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の調理過程における科学的現象</p> <p>【概要】調理の基礎から応用までの調理を具体的に調理操作や調理条件が及ぼす食品の特性を科学的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】嗜好を満足させ、健康を維持するために、おいしく調理する作業を再現でき、また、調理や食物選択が理にかなったものにする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 金谷昭子著『食べ物と健康, 調理学』 医歯薬出版</p> <p>(2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表 2011』女子栄養大学出版部 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準 2010 年版』 第一出版</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 調理学の意義と目的</p> <p>第 2回 調理と栄養とライフステージ</p> <p>第 3回 調理操作 加熱操作</p> <p>第 4回 " 非加熱操作</p> <p>第 5回 " その他の調理操作</p> <p>第 6回 調理法 米</p> <p>第 7回 " 小麦粉</p> <p>第 8回 " 芋及び豆類</p> <p>第 9回 " 野菜及び果実類</p> <p>第 10回 " 食肉類</p> <p>第 11回 " 魚介類</p> <p>第 12回 " 卵類及び乳類</p> <p>第 13回 " 油脂類及び砂糖類</p> <p>第 14回 " その他 (冷凍食品・市販食品), まとめ</p> <p>第 15回 試験とまとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (50%) ・授業態度及び出席・小テスト (50%) を考慮		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	調理学実習 I	担当者	山下 三香子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の特徴を生かす調理法と基礎的調理技術</p> <p>【概要】一食の献立として学習出来るよう、様々な食品の利用法、料理の歴史・文化的特徴を、食事のマナーや常識を踏まえ、和洋中その他諸外国の基礎的な料理を網羅しながら基本的な調理技術を習得できるようなカリキュラム</p> <p>【到達目標】調理の見方、考え方を確立させ、器具や食品の扱いを含め、栄養学的に望ましい食事作りができる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部</p> <p>(2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表 2011』女子栄養大学出版部</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 調理機器の使い方, 調味の割合,</p> <p>第 2回 和食喫食法: 炊飯, 鰹と昆布のだしの取り方と利用法, 魚の焼き物, 即席漬物</p> <p>第 3回 日本料理: 煮干だし, 魚の煮付け, お浸し (下洗い), 上新粉の扱い</p> <p>第 4回 西洋風朝食: 卵の扱い, トマトの湯剥き, 洋風スープ (鶏がらの扱い), パンケーキ</p> <p>第 5回 中華喫食法: 中華の鶏がらスープ, 中華素材と器具の扱い, 寒天の扱い, (大量調理)</p> <p>第 6回 日本料理: 炊きおこわ, 炒め煮, 乱切り, あく抜き, わらび粉</p> <p>第 7回 洋食喫食法: 洋風炊き込み, たまねぎの扱い, 冷製魚の扱い, ラビゴット (ヴィネグレット) ソース, ゼラチンの扱い</p> <p>第 8回 中華料理: コーンスープ, 春巻き, えびの扱い, 油通し, タピオカ・ココナッツの扱い</p> <p>第 9回 日本料理: ソーメン, 焼魚 (器具と化粧塩, 鮎の食べ方), いら豆腐, 和え物, 水ようかん</p> <p>第 10回 西洋料理: 冷製スープ, 果物のサラダ, ひき肉の扱い, カスタードプリン</p> <p>第 11回 中華料理: 中華麺の扱い, 焼売, 香辛料, 中華風の漬物, 白玉粉の扱い</p> <p>第 12回 郷土料理: 具沢山の炊き込みご飯 (具の量と調味), ささがき, 寄せ卵, 白和え, ふくれ菓子</p> <p>第 13回 お盆料理: かものこ汁, 落花生豆腐, にがごりの扱い</p> <p>第 14回 まとめ</p> <p>第 15回 調理実技試験とまとめ</p>		
成績評価の方法	調理技術試験 40%, 調理実習ノート 30%, 実習態度及び出席 30%を考慮		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	調理学実習Ⅱ	担当者	山下 三香子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】調理学実習Ⅰの基礎的調理技術の応用</p> <p>【概要】和食、洋食、中華料理を交互に、個人の食事はもちろん給食施設における食事作りへの応用を考慮したカリキュラム</p> <p>【到達目標】献立作成、衛生観念を身につけ、給食への応用ができる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版社</p> <p>(2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表2011』女子栄養大学出版社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 夏のお盆料理の報告</p> <p>第2回 日本料理：栗の扱い、さんまの扱い、茶碗蒸し、なます、十五夜団子</p> <p>第3回 西洋料理：カレー粉の扱い、ブイヨン（牛肉）スープ、マヨネーズの作り方、レアチーズケーキ</p> <p>第4回 日本料理：行楽弁当（いなり、出し巻き卵、きじ焼き、酢蓮根、高野豆腐の含め煮）、土瓶蒸し、小倉ケーキ</p> <p>第5回 スチームコンベクション料理：焼き魚（ドライモード）、焼きそば（コンビ）、温野菜（スチーム）、りんごのコンポート</p> <p>第6回 日本料理：さつますもじ（ちらし寿司）、青のりの汁、芋のそぼろあんかけ、抹茶饅頭</p> <p>第7回 中華料理：八宝菜、いかの扱い（花いか）、くらげの扱い、中国粥、さつま芋のあめがらめ、点心について</p> <p>第8回 日本料理：霜降りの方法と役目、かつら剥き魚の三枚おろし、魚のだし</p> <p>第9回 正月料理：おせち料理の意味と重箱の詰め方、雑煮、飾り切り</p> <p>第10回 クリスマス料理、ビーフストロガノフ（ブラウンソース）、プッシュドノエル</p> <p>第11回 西洋料理：（ホワイトソース）、フルーツバウンドケーキ</p> <p>第12回 中国の行事食：春節の意味と代表料理、皮</p> <p>第13回 西洋料理：パンとジャム、コーヒーの入れ方</p> <p>第14回 テーブルマナー（会席料理）、懐石料理とは</p> <p>第15回 調理技術試験</p>		
成績評価の方法	調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習態度及び出席 30%を考慮		

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	調理学実習Ⅲ	担当者	山下 三香子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】調理学実習Ⅱの調理技術の応用から上級レベル</p> <p>【概要】和食、洋食、中華料理の給食施設における食事作りへの応用を考慮し、食材の持つ特徴（糊化作用、凝固作用、膨張作用など）を十分活かした調理実習カリキュラム</p> <p>【到達目標】おいしく調理するための科学的根拠を実践的に理解できる力を養う</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版社</p> <p>(2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表2011』女子栄養大学出版社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 大量調理の応用 ～5回 和食の応用、郷土料理</p> <p>第7回 自作の献立 調理への応用 ～10回</p> <p>第11回 正月料理：おせち料理 ～13回 西洋料理の応用：クリスマス：ローストチキン、ショートケーキ イタリア料理：パスタ、ピザ 東・東南アジア地区の料理</p> <p>第14回 テーブルマナー（洋食）</p> <p>第15回 調理技術試験</p>		
成績評価の方法	調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習態度及び出席 30%を考慮		

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	栄養学総論	担当者	倉元 綾子
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養学とはなにか。</p> <p>【概要】健康な生活を営むためには、適切な栄養摂取が必要である。日本人の食生活は食料不足の時代から飽食の時代へと急速に変化し、国民の栄養摂取状況も大きく変化した。とはいえ、栄養素欠乏症は克服されたが、栄養素の過剰やアンバランスが顕著になり、生活習慣病のような代謝性疾患が増加している。食料の生産・加工・流通のしくみの変化・発達、生活環境の変化、科学技術の発達、情報化の進展なども著しい。このように、健康と栄養、食をとりまく問題は、大きな広がりや深さをもっている。栄養学領域を全体的に把握し、栄養学の本質や基本的考え方を学ぶ。各回の講義の導入部では、食生活の現状についてのトピックスにも触れる。</p> <p>【到達目標】栄養学の基礎的事項を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 奥恒行, 高橋正倫編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己, 三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税</p> <p>(2) 『栄養学辞典』同文書院 『管理栄養士国家試験キーワード集』女子栄養大学出版部, カーゾン『沈黙の春』新潮文庫 NHK取材班『NHKサイエンススペシャル驚異の小宇宙・人体1～6別巻1,2』日本放送出版協会 各3,200円</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 栄養と食生活, 栄養学の歴史(世界, 日本)</p> <p>第2回 栄養と食生活, 栄養学の歴史(世界, 日本)</p> <p>第3回 栄養と食生活, 栄養学の歴史(世界, 日本)</p> <p>第4回 「消化吸収の妙—胃・腸」</p> <p>第5回 栄養補給, 消化, 吸収, 栄養素の人体への取り入れ,</p> <p>第6回 エネルギー代謝, 水分代謝,</p> <p>第7回 非栄養成分と人体, (小テスト)</p> <p>第8回 「壮大な化学工場—肝臓」</p> <p>第9回 栄養素とその機能,</p> <p>第10回 糖質の栄養と代謝,</p> <p>第11回 脂質の栄養, (小テスト)</p> <p>第12回 タンパク質の栄養</p> <p>第13回 ビタミンの栄養</p> <p>第14回 無機質の栄養</p> <p>第15回 まとめとテスト</p>		
成績評価の方法	小テスト・レポート(50点), テスト(50点)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養学各論	担当者	鉦之原 昌
		[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】小児栄養学</p> <p>【概要】小児期の成長と発達を学び、乳児期、幼児期、学童期、思春期の特徴を理解し、各期の栄養の概説を述べる。また、各期の病気も学びその治療と栄養の関係について理解を深める</p> <p>【到達目標】小児の特徴を理解し、小児栄養の成長や発達における影響を把握し、小児が将来長生きできる成人になるように栄養法を考えられることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>堤ちはる, 土井正子編著『子育て・子育てを支援する小児栄養』 萌文書林, 2520円</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 人の健康と小児の特徴, 小児期の分類</p> <p>第2回 小児栄養の特徴, 小児栄養の必要性</p> <p>第3回 小児期における栄養素の特性と栄養所要量</p> <p>第4回 小児栄養特に母乳栄養について</p> <p>第5回 幼児および学童期栄養</p> <p>第6回 小児保健と病気</p> <p>第7回 小児期の栄養障害, 生活習慣病の予防</p> <p>第8回 テスト</p>		
成績評価の方法	筆記試験(100%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養学各論	担当者	吉田 泰与
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ライフステージ別の健康と栄養及び病態栄養療法</p> <p>【概要】 日本人の食事摂取基準を基に食と健康のかかわりについて学習する。エネルギー及び栄養素摂取量の多少に起因する健康障害は欠乏症または摂取不足によるものだけでなく、過剰によるものも存在する。又栄養素摂取量の多少が生活習慣病の予防に関与する場合もある。これらに対応することを目的とした各ライフステージの健康と栄養の理解を深めさらに病態栄養療法をも学ぶ。</p> <p>【到達目標】 個々に必要なエネルギー、たんぱく質等の栄養素摂取量算出及び栄養ケア・マネジメントの立案ができるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 日本病態栄養学会編 『改定第3版 認定病態栄養専門師のための病態栄養ガイドブック』 メディカルレビュー社 3500円＋税</p> <p>厚生労働省策定 『日本人の食事摂取基準 2010年版』 第一出版 2800円＋税</p> <p>(2) 日本糖尿病協会 『糖尿病食事療法のための食品交換表』 文光堂 900円＋税</p> <p>食品成分研究調査会編 『五訂増補日本食品成分表』 医歯薬出版 1500円＋税 (女子栄養大学出版部でも可)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 食事摂取基準による個々の推定エネルギー算出</p> <p>第2回 同上 たんぱく質及び他の栄養素算出</p> <p>第3回 ライフステージ別の栄養 成人期の生活活動 メタボリック・シンドローム 特定健診 特定保健指導</p> <p>第4回 同上 思春期 妊娠・授乳期 高齢期</p> <p>第5回 病態栄養と栄養療法 消化器疾患 代謝疾患 呼吸器疾患</p> <p>第6回 同上 循環器疾患 腎疾患</p> <p>第7回 同上 血液疾患 他 周産期医療 外科術前術後</p> <p>第8回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) , レポート (40%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養学実習	担当者	山下 三香子
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ライフステージ別の健康と疾病予防, 臨床を対象とした栄養学の実践から応用</p> <p>【概要】 妊娠, 乳幼児・・高齢期に至るまでの健康保持・疾病予防, 疾病の臨床的な栄養管理, つまり食品の選択から食品構成, 献立作成, 調理, 供食までを実際に行う。</p> <p>【到達目標】 ライフステージごとの食形態, 疾病により異なる栄養素配分の献立, 常食からの展開ができる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『臨床栄養学実習書』, 『ライフステージ実習栄養学』 医歯薬出版 糖尿病食事療法のための『食品交換表』 日本糖尿病協会・文光堂, 『腎臓病食品交換表』 医歯薬出版</p> <p>(2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表2011』女子栄養大学出版部 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準2010年版』第一出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 成長期 (乳児期, 幼児期, 学童期) の栄養的特徴</p> <p>第2回 妊娠, 授乳期の栄養学的特徴</p> <p>第3回 高齢期の栄養的特徴, 実習 (骨粗鬆症, 咀嚼嚥下困難食)</p> <p>第4回 //</p> <p>第5回 成人期の臨床栄養 (エネルギーコントロール食: 糖尿病食演習, 実習)</p> <p>第6回 //</p> <p>第7回 成人期の臨床栄養 (たんぱく質コントロール食: 腎臓病食演習, 実習)</p> <p>第8回 //</p> <p>第9回 成人期の臨床栄養 (ナトリウムコントロール食: 高血圧食演習, 実習)</p> <p>第10回 //</p> <p>第11回 成人期の臨床栄養 (脂質コントロール食: 脂質異常症食演習, 実習)</p> <p>第12回 //</p> <p>第13回 易消化食の特徴</p> <p>第14回 経腸栄養の特徴</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート50%, 出席50%		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	解剖生理学	担当者	倉元 綾子
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人体の構造と機能</p> <p>【概要】食物栄養の専門知識においては、食物や栄養のことばかりでなく、消化・吸収・排泄などの機能を担う人体についても深く理解しておくことが重要である。人体を構成している各種臓器、組織、細胞を構造的、形態的、機能的な側面から総合的に学ぶ。使用するテキストやビデオ、プリントなどをとおして、それらの形態と機能の有機的関連を理解することに重点を置く。関連する生化学、栄養学への関心を高めるようにする。主要事項についてのプリントの要約や小テストを通して、理解を深めたい。また、解剖生理学のトピックスにも触れる。</p> <p>【到達目標】人体の構造と機能を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント、講談社『からだの地図帳』講談社 3,883 円 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4,000 円</p> <p>(2) NHK 取材班『NHK サイエンススペシャル驚異の小宇宙・人体1～6別巻1,2』日本放送出版協会 各 3,200 円 『驚異の小宇宙・人体II 脳と心1～6』NHK出版 各 3,200 円</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 「生命誕生」人体の構造と機能 (人体の概要、細胞、組織、器官と器官系、個体発生と系統発生) ,</p> <p>第2回 人体の構造と機能 (人体の概要、細胞、組織、器官と器官系、個体発生と系統発生)</p> <p>第3回 生殖系 (生殖器とその機能) , (小テスト)</p> <p>第4回 「しなやかなポンプー心臓・血管」循環系 (構成、血液、リンパ系、生理) ,</p> <p>第5回 循環系 (構成、血液、リンパ系、生理) ,</p> <p>第6回 呼吸系 (構成、生理) , (小テスト)</p> <p>第7回 「なめらかな連携プレーー骨・筋肉」骨格系 (形状と構造、主要骨格とその連結、生理)</p> <p>第8回 筋系 (形状と構造、主要骨格筋、生理) , (小テスト)</p> <p>第9回 「生命を守るー免疫」内分泌系 (内分泌腺の構造と機能)</p> <p>第10回 内分泌系 (内分泌腺の構造と機能) ,</p> <p>第11回 免疫系 (小テスト)</p> <p>第12回 「脳の構造と機能 (記憶、再生)」神経系 (神経系の概要、中枢神経系の構造と機能)</p> <p>第13回 神経系 (末梢神経系の構造と機能、自律神経系の構造と機能)</p> <p>第14回 感覚系 (感覚の種類、視覚器の構造と機能、聴覚器の構造と機能、味覚および嗅覚、体性感覚・内臓感覚、皮膚と体温調節 (皮膚の構造、皮膚の機能、体温の調節)</p> <p>第15回 まとめとテスト</p>		
成績評価の方法	小テスト・レポート (50点) , テスト (50点)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	解剖生理学実験	担当者	倉元 綾子
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実験方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人体の構造と機能</p> <p>【概要】人体を構成している各種臓器、組織、細胞についての解剖生理学的知識を、実験・観察・スケッチなどを通して、体得し深める。また、食品学実験における定性実験を基礎に、生体における健康の指標である血液などの各種成分の定量的分析を行う。これらを通じて、正確さ、根拠強さ、コミュニケーション能力などを養う。(なお、時間割などから授業スケジュールを変更する場合もある。)</p> <p>【到達目標】実験、観察を通して、人体の構造と機能を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 奥恒行,高橋正倫編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己,三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税 講談社『からだの地図帳』講談社 3,883 円 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4,000 円 川村一男『新訂解剖生理学実験』建帛社 1,785 円 林 淳三『新訂生化学実験』建帛社 1,785 円</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 実験の予備知識、実験の進め方、レポートの書き方、器具洗浄</p> <p>第2回 骨格観察 (肥満解説)</p> <p>第3回 骨格観察</p> <p>第4回 骨格観察</p> <p>第5回 人体モデル観察 (各種臓器) (腎臓解説)</p> <p>第6回 人体モデル観察 (各種臓器)</p> <p>第7回 人体モデル観察 (各種臓器)</p> <p>第8回 人体モデル観察 (各種臓器)</p> <p>第9回 組織観察 (肝臓、腎臓、脾臓、胃)</p> <p>第10回 血液(1)赤血球数算定、白血球数算定</p> <p>第11回 血液(2)ヘモグロビン量、ヘマトクリット値</p> <p>第12回 血液(3)血糖定量、血中タンパク質定量</p> <p>第13回 血液(4)血清コレステロール測定</p> <p>第14回 ラットの解剖</p> <p>第15回 器具洗浄、そうじ、まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート (70点) , 予習の状況、実験への取り組み状況 (30点)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	生化学Ⅰ	担当者	倉元 綾子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】脂質、糖質、タンパク質の生化学</p> <p>【概要】栄養とは、生物が体外から物質を取り入れ、それらを生命の維持と自己再生産に利用する生命現象である。その基礎は体外から取り入れる物質（主に栄養素）の体内における化学変化、すなわち物質代謝である。この物質代謝の速度と方向は、必要に応じて調節され、変化する。物質代謝とその調節は生化学の取り扱う分野の一つであり、この分野は栄養という生命現象に直結している。／以上のように、生化学は、食物栄養の専門知識に必須の基礎的分野で、人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。既習の栄養学の基礎を踏まえ、さらに、生体内成分とその代謝に関わる主要成分のうち、脂質、糖質、タンパク質などを中心に、より深く、多面的に学習する。／主要事項についてのプリントの要約や小テストを通して、理解を深める。また、講義の最初には生化学のトピックスにも触れる。</p> <p>【到達目標】脂質、糖質、タンパク質の生化学を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 奥恒行,高橋正侑編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己,三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税</p> <p>(2) 『からだの地図帳』講談社 3,883 円 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4,000 円</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 生化学を学ぶ意義1 第 2回 生化学を学ぶ意義2 第 3回 エネルギー生産と利用 (ATP, エネルギーの生成など) 第 4回 エネルギー生産と利用 (ATP, エネルギーの生成など) 第 5回 エネルギー生産と利用 (ATP, エネルギーの生成など), (小テスト) 第 6回 アミノ酸の代謝 (アミノ基転移と脱アミノ, 尿素回路) 第 7回 アミノ酸の代謝 (アミノ酸の炭素骨格の代謝, 尿素以外の窒素化合物の代謝) 第 8回 アミノ酸の代謝 (アミノ酸代謝格論), (小テスト) 第 9回 タンパク質の代謝 (DNA, RNA, タンパク質の合成, 分解, 代謝調節) 第 10回 タンパク質の代謝 (DNA, RNA, タンパク質の合成, 分解, 代謝調節), (小テスト) 第 11回 糖質の代謝 (解糖, TCA回路など) 第 12回 糖質の代謝 (解糖, TCA回路など) 第 13回 糖質の代謝 (解糖, TCA回路など) 第 14回 糖質の代謝 (解糖, TCA回路など) 第 15回 まとめとテスト</p>		
成績評価の方法	小テスト・レポート (50点), テスト (50点)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	生化学Ⅱ	担当者	倉元 綾子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】脂質、核酸、生体機能の調節の生化学</p> <p>【概要】栄養とは、生物が体外から物質を取り入れ、それらを生命の維持と自己再生産に利用する生命現象である。その基礎は体外から取り入れる物質（主に栄養素）の体内における化学変化、すなわち物質代謝である。この物質代謝の速度と方向は、必要に応じて調節され、変化する。物質代謝とその調節は生化学の取り扱う分野の一つであり、この分野は栄養という生命現象に直結している。／以上のように、生化学は、食物栄養の専門知識に必須の基礎的分野で、人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。既習の栄養学の基礎を踏まえ、さらに、生体内成分とその代謝に関わる主要成分のうち、脂質、糖質、タンパク質などを中心に、より深く、多面的に学習したい。／主要事項についてのプリントの要約や小テストを通して、理解を深めたい。また、講義の最初には生化学のトピックスにも触れる。</p> <p>【到達目標】脂質、核酸、生体機能の調節の生化学を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 奥恒行,高橋正侑編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己,三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税</p> <p>(2) 講談社『からだの地図帳』講談社 3,883 円 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4,000 円</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 脂質の代謝 (トリグリセリドの分解, 脂肪酸の酸化) 第 2回 脂質の代謝 (不飽和脂肪酸の酸化, ケトン体の生成・代謝) 第 3回 脂質の代謝 (脂肪酸の生合成など), (小テスト) 第 4回 核酸の代謝 (プリン塩基<ヌクレオチド>の合成と分解) 第 5回 核酸の代謝 (ピリミジン塩基<ヌクレオチド>の合成と分解) 第 6回 核酸の代謝 (核酸の合成と分解), (小テスト) 第 7回 生体機能の調節 (ホルモンの構造と化学) 第 8回 生体機能の調節 (ホルモンの構造と化学) 第 9回 生体機能の調節 (ホルモンの構造と化学), (小テスト) 第 10回 生体機能の調節 (ビタミン) 第 11回 生体機能の調節 (ビタミン) 第 12回 生体機能の調節 (ミネラル) (小テスト) 第 13回 生体機能の調節 (水), 血液, 尿 第 14回 生体機能の調節 (水), 血液, 尿 第 15回 まとめ, テスト</p>		
成績評価の方法	小テスト・レポート (50点), テスト (50点)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	生化学実験	担当者	倉元 綾子
		[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実験方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生体成分, 栄養成分の定量的分析</p> <p>【概要】生化学は, 食物栄養の専門知識に必須の基礎的分野で, 人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。講義で学んだ事項と生化学的基礎の重要性について, 栄養成分の定量分析, 尿, ホルモンなどの実験を通してさらに理解を深める。実験を通じて, 正確さ, 根拠強さ, コミュニケーション能力などを養う。(なお, 時間割などから授業スケジュールを変更する場合もある。)</p> <p>【到達目標】実験を通して, 生体成分, 栄養成分の生化学を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 林 淳三『新訂生化学実験』建帛社 1,785 円 奥恒行,高橋正伸編『栄養・健康科学シリーズ生化学』南江堂 2500 円+税 遠藤克己,三輪一智『生化学ガイドブック』南江堂 3200 円+税 講談社『からだの地図帳』講談社 3,883 円 山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 4,000 円</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 実験の予備知識, 実験の進め方, レポートの書き方, 器具洗浄</p> <p>第 2 回 灰分, 脂肪, 食物繊維の定量 (解説)</p> <p>第 3 回 水分の定量 (解説, 実験)</p> <p>第 4 回 ステロイドホルモンの分離定性 (解説, 実験)</p> <p>第 5 回 アミラーゼによる酵素実験 (解説, 実験)</p> <p>第 6 回 ビタミン B₂ の定性 (解説, 実験)</p> <p>第 7 回 ビタミン B₁ の定量 (解説, 実験)</p> <p>第 8 回 タンパク質の定量 (解説, 実験)</p> <p>第 9 回 タンパク質の定量 (実験)</p> <p>第 10 回 タンパク質の定量 (実験)</p> <p>第 11 回 カルシウムの定量 (解説, 実験)</p> <p>第 12 回 尿 (1) クレアチニン, カルシウム・マグネシウムの定量 (解説, 実験)</p> <p>第 13 回 尿 (2) ウロペーパー, タンパク, 糖, アセトン体</p> <p>第 14 回 器具洗浄</p> <p>第 15 回 まとめ, そうじ</p>		
成績評価の方法	レポート (70 点), 予習の状況, 実験への取り組み状況 (30 点)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	健康と運動	担当者	瀬戸口 照夫
		[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】テーマは, 現代社会において, 健康問題が取り上げられているが, その原因を追求する。そして, 人びとの運動不足が生活習慣病を引き起こす要因の一つになっていることをデータに基づいて確認する。生活習慣病を予防し, 健康を維持するため運動がどのような貢献ができるかを学ぶことである。</p> <p>【概要】講義では, 「現代社会の特徴と健康状態」, 「健康とは何か, 健康概念の変遷」, 「これまでの健康づくりとこれからの健康づくり」, 「運動による健康づくり」, 「健康づくりに適切な運動」, 「運動処方」, 「健康と心の健康」, 「健康生活と運動・スポーツ」, 「高齢化社会での運動・スポーツ」を講じていく。</p> <p>【到達目標】自分自身が, 測定で認識した自己の運動作業能力を今以上に高めるための方法を習得することと, 健康的な生活を送るための知識を獲得することを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 九州大学健康科学センター編『健康と運動の科学』大修館書店 1999 年 適宜, プリントによる資料も配布する。		
授業スケジュール	<p>第 1 回: 現代社会の特徴と健康状態</p> <p>第 2 回: 健康とは何か, 健康概念の変遷</p> <p>第 3 回: これまでの健康づくりとこれからの健康づくり (1)</p> <p>第 4 回: これまでの健康づくりとこれからの健康づくり (2)</p> <p>第 5 回: これまでの健康づくりとこれからの健康づくり (3)</p> <p>第 6 回: 運動による健康づくり (1)</p> <p>第 7 回: 運動による健康づくり (2)</p> <p>第 8 回: 運動による健康づくり (3)</p> <p>第 9 回: 運動による健康づくり (4)</p> <p>第 10 回: 健康づくりに適切な運動</p> <p>第 11 回: 運動処方</p> <p>第 12 回: 運動と心の健康</p> <p>第 13 回: 健康生活と運動・スポーツ</p> <p>第 14 回: 高齢化社会での運動とスポーツ</p> <p>第 15 回: まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + ミニレポート (40%) を基準に, 総合的に評価する。		

(注) 教職必修

授業科目	健康管理概論	担当者	森口 哲史
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】健康を維持増進するために、病気の予防法について学ぶ</p> <p>【概要】人口統計及び疾病統計の現状について把握し、疾病の予防、健康維持増進の方法についての知識を習得することで、健康についての科学的な考え方や理解を養う</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康の概念について説明できる 2) 健康指標の意義について説明できる 3) 疾病の予防法について列挙できる 4) 主な感染症について、微生物と感染経路について列挙できる 5) 人口統計および疾病統計について把握し、健康維持の具体的方法について説明できる 6) 身の周りの生活環境や労働環境による健康障害について説明できる 		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 松元秀明 よくわかる公衆衛生 金原出版</p> <p>(2) 国民衛生の動向など</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 健康の概念、</p> <p>第 3回 健康の指標 1</p> <p>第 4回 健康の指標 2</p> <p>第 5回 疾病予防</p> <p>第 6回 感染症予防 1</p> <p>第 7回 感染症予防 2</p> <p>第 8回 健康の現状 1 人口統計</p> <p>第 9回 健康の現状 2 疾病統計</p> <p>第 10回 健康増進の施策</p> <p>第 11回 健康増進の実際 1</p> <p>第 12回 健康増進の実際 2</p> <p>第 13回 環境と健康障害</p> <p>第 14回 労働と健康障害</p> <p>第 15回 期末試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	公衆衛生学	担当者	波多野 浩道
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】公衆衛生学およびその実践である公衆衛生の昨日、今日、明日</p> <p>【概要】人間の健康擁護のための学的体系つまり公衆衛生学とその実践つまり公衆衛生を理解する上で、基本となる疫学方法論の修得及び保健統計の読み方、主要な概念を修得する。</p> <p>過去に起こった公衆衛生上の出来事や現在のトピックを素材に、公衆衛生リテラシーを獲得できるように、講義と一部演習を取り入れる。</p> <p>【到達目標】公衆衛生学の主要な概念を用いることができる。保健統計の意味を解説できる。新聞報道等の公衆衛生トピックを理解することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 国民衛生の動向 2010/2011 年版, 厚生統計協会</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 公衆衛生とは; 新田粉ミルク事件, Winslow C. E. A. の定義</p> <p>第 2回 公衆衛生史と New Public Health : WHO の理念と戦略を中心として</p> <p>第 3回 疫学 1 : Snow と記述疫学</p> <p>第 4回 疫学 2 : 分析疫学, 介入疫学 (高木兼寛)</p> <p>第 5回 保健統計 1 : 人口現象と生命表</p> <p>第 6回 保健統計 2 : 健康指標とヘルスケアシステム評価</p> <p>第 7回 環境保健 1 ; 生態学的環境論と 4 大公害</p> <p>第 8回 環境保健 2 : 地球環境保健と新興・再興感染症</p> <p>第 9回 地域保健活動 1 基本理念とヘルスサービスの構造</p> <p>第 10回 地域保健活動 2 母子保健, 学校保健</p> <p>第 11回 地域保健活動 3 : 産業保健, 老人保健, 精神保健</p> <p>第 12回 地域保健活動 4 : 感染症, 健康危機管理</p> <p>第 13回 公衆衛生行政 1 : 健康づくり施策と医療計画</p> <p>第 14回 公衆衛生行政 2 : 医療制度改革と社会保障</p> <p>第 15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (80%), 小論文 (20%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	運動生理学	担当者	森口 哲史
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 身体活動による人体機能の変化について学ぶ</p> <p>【概要】 人体の生理機能を基礎とし、運動を行った際の人体機能の変化を習得することで、運動習慣の必要性に関する科学的根拠を学ぶ</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 骨格筋の構造を把握し、筋線維タイプ、筋収縮様式、エネルギー供給系について説明できる 2) 神経系の分類を把握し、ニューロンと興奮伝導、反射について説明できる 3) 運動と酸素摂取、エネルギー代謝について説明できる 4) 運動時の中心・末梢循環について説明できる 5) 運動と各種栄養素・水分摂取との関わりについて説明できる 6) 運動処方原則について説明できる 7) 運動と暑熱環境、運動と高所環境など、環境変化に伴う運動時の生理変化について説明できる 		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 勝田茂 運動生理 20 講 朝倉書店、朝山正巳 「運動生理学」 東京教学舎 (2) オストランド運動生理学、スポーツ栄養学、高所医学、など		
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 健康と運動 第 3 回 筋肉 1 第 4 回 筋肉 2 第 5 回 神経 1 第 6 回 神経 2 第 7 回 呼吸 第 8 回 エネルギー代謝 第 9 回 循環 第 10 回 運動と栄養 1 第 11 回 運動と栄養 2 第 12 回 運動処方 1 第 13 回 運動と生活習慣病 第 14 回 運動と環境 第 15 回 期末試験		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	給食管理	担当者	山下 三香子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 特定多数の人に継続的に食事を供給する給食施設において、対象者の目的に応じた栄養管理と効率的な運用について</p> <p>【概要】 食事計画から栄養計画、献立作成、衛生・安全管理、作業管理、設備管理、労務管理、原価管理など効率のよい経営と満足度の高い給食について、給食の目的、方法、評価を明らかにできる方法を学ぶ</p> <p>【到達目標】 給食の運営管理できる力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『栄養士のための給食計画論』、『栄養士のための給食実務論』 学建書院 (2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表 2011』女子栄養大学出版社 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準 2010 年版』第一出版		
授業スケジュール	第 1 回 給食の意義と目的 (特定給食施設、役割)、給食関連法規と行政指導 第 2 回 経営・作業・人事管理 第 3 回 施設・設備管理 第 4 回 食材・原価管理 第 5 回 大量調理 第 6 回 衛生・安全管理 第 7 回 // 第 8 回 栄養管理 第 9 回 給食施設の種類と特性 第 10 回 献立作成 第 11 回 // 第 12 回 // 第 13 回 調査・研究、栄養教育 第 14 回 まとめ 第 15 回 試験とまとめ		
成績評価の方法	レポート 30%、試験 40%、出席 30%		

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	給食管理実習Ⅰ	担当者	山下 三香子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期・後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 学内実習 本学学生を主要対象とした給食サービス 【概要】 給食としての食事計画・献立作成・運営計画・評価の一連の実習を本学学生を対象として実際に大量調理を行う。帳票類の作成・まとめを行い、栄養教育の方法、評価を行う。 【到達目標】 給食施設でのすべての業務を理解、計画、実施できる力を養う。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『栄養士のための給食計画論』、『栄養士のための給食実務論』 学建書院 『給食運営管理 実習テキスト』 第一出版 (2) 香川芳子監修『五訂増補食品成分表2011』女子栄養大学出版社 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準2010年版』第一出版		
授業スケジュール	オリエンテーション(実習の概要) 献立計画・食事計画・栄養計画のもと、期間献立計画および日別献立計画を作成し栄養価計算・原価計算をし、調整する。 食材購入計画・市場調査・食材利用計画・発注書作成を行う。 運営計画・大量調理機器を考慮した作業工程表を作成し、実施日の運営計画を立案する。 試作・試食・献立に忠実に正確な分量による料理を試作し、盛り付け方法・食器の選択・試食を行い、最終的な調整をする 衛生管理計画・給食における安全ポイントを確認し、衛生検査計画をたてる。 実験調査計画・評価のための調査計画を立案する。 栄養教育計画・対象者にとって必要と考えられる給食内容に関連したテーマで栄養教育計画を立案し、栄養教育媒体を作成する。 供食サービス・計画に従って、喫食者が満足できるサービスを実施する。 評価・実習後のデータ整理・総合評価・まとめ(報告発表)		
成績評価の方法	実習ノート(30%)、報告発表(10%)、実習態度及び出席(60%)		

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	給食管理実習Ⅱ	担当者	山下 三香子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期集中 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 学外実習 給食施設(事業所、福祉施設など)での栄養士の給食業務 【概要】 学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学習する。 【到達目標】 給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『栄養士のための給食計画論』、『栄養士のための給食実務論』 学建書院 実習ノート (2) 『ライフステージ実習栄養学』医歯薬出版 香川芳子監修『五訂増補食品成分表2011』女子栄養大学出版社 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準2010年版』第一出版		
授業スケジュール	各施設による特徴 1, 給食施設の概要 2, 給食業務の流れ 3, 給食組織と業務分担および栄養士業務 4, 栄養教育 5, 献立内容 6, 大量調理の技術 7, 食材管理 8, 衛生管理 9, 各調査と評価 10, 実習終了後、学内で報告発表を行う。		
成績評価の方法	実習ノート(30%)、報告発表(10%)、実習態度および出席(60%)		

(注) 栄養士必修 ※栄養教諭二種免許を取得しない者のみ履修できる。

授業科目	給食管理実習Ⅲ	担当者	山下 三香子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期集中 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学外実習 給食施設 (学校) での栄養士の給食業務</p> <p>【概要】学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学習する。</p> <p>【到達目標】給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『栄養士のための給食計画論』, 『栄養士のための給食実務論』 学建書院 実習ノート (2) 『ライフステージ実習栄養学』医歯薬出版 香川芳子監修『五訂増補食品成分表 2011』女子栄養大学出版社 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準 2010 年版』 第一出版		
授業スケジュール	各施設による特徴 1, 給食施設の概要 2, 給食業務の流れ 3, 給食組織と業務分担および栄養士業務 4, 栄養教育 5, 献立内容 6, 大量調理の技術 7, 食材管理 8, 衛生管理 9, 各調査と評価 10, 実習終了後、学内で報告発表を行う。		
成績評価の方法	実習ノート (30%) , 報告発表 (10%) , 実習態度および出席 (60%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修 ※栄養教諭二種免許を取得する者のみ履修できる。

授業科目	栄養教育論	担当者	町田 和恵
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法</p> <p>【概要】栄養教育は、対象とする個人や集団のQOLを高めるため適正な食生活を営み、望ましい健康状態を維持・増進できるよう、単なる栄養知識の伝達に終わることなく教育的手段を用いて、好ましい食行動の実践と習慣化をさせること、また、生活習慣病の増加に対応するためには、栄養・食生活上問題のある人々を対象として、その栄養状態を改善することを目的とした教育的働きかけである。</p> <p>【到達目標】 対象の実態とニーズに沿って、健康やQOLの向上につながる健康・栄養教育の理論と方法を習得させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 大里進子他著『演習栄養教育』医歯薬 (2) 日本栄養士会編 『平成22年版 栄養士必携』 第一出版		
授業スケジュール	第1回 栄養教育の概念 (目的, 対象, 栄養教育の場, 法的根拠) , 栄養教育の歴史 第2回 食行動変容と栄養教育 (行動科学, 個人・集団の態度, 社会の行動変容に関する理論) 第3回 食行動変容と栄養教育の実践 (保育園) 第4回 食行動変容と栄養教育の実践 (学校) 第5回 栄養教育のためのアセスメント, 栄養教育の方法 第6回 栄養教育マネジメント (栄養アセスメント, 栄養ケア, 栄養教育プランニング, 栄養教育の評価など) 第7回 栄養教育におけるカウンセリング 第8回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験の成績 (80%) , 小テスト (20%) を加え総合的に評価する。		

(注) 栄養士必修, 教職必修 7.5回

授業科目	栄養指導論	担当者	町田 和恵
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕 通年	
テーマ及び概要	〔単位〕 4単位	〔必修/選択〕 必修 (注)	〔授業形態〕 講義方式
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>【テーマ】 栄養学的基礎理論に基づいた対象者の自らの行動変容に導く栄養指導</p> <p>【概要】 本講義では、対象とする個人や集団の食生活の問題点や環境に対して、その食習慣を形づくった背景を正しく理解して、指導を受けた人が自らの意思で食生活の改善に取り組み、問題解決を図ることができるように支援するための栄養指導の理論と方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 対象者の食生活の問題点や環境を正しく理解させ、食生活の改善を積極的に行うための正しい知識や方法を習得させる。</p> <p>(1) 未定 (2) 第一出版編集部編『日本人の食事摂取基準 (2010年版)』第一出版 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病学会・文光堂 日本栄養士会編『平成23年版 管理栄養士 i 栄養士必携』第一出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 栄養指導の目的、栄養指導の歴史</p> <p>第2回 食事栄養摂取基準 (身体活動指数, エネルギー)</p> <p>第3回 食事栄養摂取基準 (各栄養素)</p> <p>第4回 食品構成 (各栄養素の基準量)</p> <p>第5回 食品構成 (栄養比率)</p> <p>第6回 栄養価の算定 (日本食品標準成分表の活用とその留意点)</p> <p>第7回 各種調査による実態把握 (身体状況)</p> <p>第8回 各種調査による実態把握 (生活時間)</p> <p>第9回 各種調査による実態把握 (栄養調査)</p> <p>第10回 各種調査による実態把握 (食生活調査)</p> <p>第11回 栄養指導の基本的な進め方 (個別指導と集団指導)</p> <p>第12回 栄養指導の基本的な進め方 (栄養状態の評価)</p> <p>第13回 栄養指導の基本的な進め方 (運動)</p> <p>第14回 栄養指導の基本的な進め方 (休養)</p> <p>第15回 まとめと試験</p> <p>第16回 ライフステージと栄養指導 (妊産婦)</p> <p>第17回 ライフステージと栄養指導 (乳・幼児期)</p> <p>第18回 ライフステージと栄養指導 (学童期)</p> <p>第19回 ライフステージと栄養指導 (思春期・青年期)</p> <p>第20回 ライフステージと栄養指導 (壮年期)</p> <p>第21回 ライフステージと栄養指導 (高齢期)</p> <p>第22回 ライフスタイルと栄養指導 (生活習慣病)</p> <p>第23回 ライフスタイルと栄養指導 (生活習慣病 肥満症)</p> <p>第24回 ライフスタイルと栄養指導 (生活習慣病 高血圧症)</p> <p>第25回 ライフスタイルと栄養指導 (生活習慣病 糖尿病)</p> <p>第26回 ライフスタイルと栄養指導 (生活習慣病 脂質異常症)</p> <p>第27回 学校給食と栄養指導</p> <p>第28回 病院給食と栄養指導</p> <p>第29回 事業所給食と栄養指導, 福祉施設給食と栄養指導</p> <p>第30回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験の成績 (70%), 小テスト (10%), 授業中に提示する課題 (20%) を加え総合的に評価する。		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養指導論実習Ⅰ	担当者	町田 和恵
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法 【概要】 栄養指導論で得た基本的に必要なとする指導内容や方法ならびに具体的な技術を統合し、個人や集団を対象として、そのニーズに応じた実用的栄養教育実施のために、栄養アセスメント、栄養指導プログラムの立案、教育媒体・資料の作成、栄養指導の実施・評価を想定し、その実際を学び、栄養指導が実践できるように技術を習得することを目的とする。特に栄養指導論実習Ⅰでは、事業所、学校での栄養指導・教育のシミュレーションを展開し、体験学習により栄養指導・教育に対する理解を深めると共に栄養指導・教育技能の向上を図る。 【到達目標】 対象者（幼児、学童、生徒）への的確な栄養アセスメント、指導案の作成、媒体の選択、プレゼンテーションのスキルを習得する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 大里進子他著『演習栄養教育』医歯薬「プリント」 (2) 日本栄養士会編『平成23年版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版		
授業スケジュール	第1回 栄養指導実習の意義と目的 第2回 栄養指導の基礎知識（食事摂取基準） 第3回 栄養指導の基礎知識（食品構成の作成） 第4回 実態把握の方法⑤食品構成の算定実習（その1） 第5回 実態把握の方法⑥食品構成の算定実習（その2） 第6回 栄養指導の基礎知識（献立作成、食生活指針） 第7回 実態把握の方法 栄養・食事調査 第8回 実態把握の方法 生活調査 第9回 実態把握の方法 身体状況調査 第10回 実態把握の方法 体力測定 第11回 指導案の作成（基本） 第12回 指導案の作成（実践用） 第13回 プレゼンテーションの資料・媒体作成 その1 第14回 プレゼンテーションの資料・媒体作成 その2 第15回 発表		
成績評価の方法	授業中に指示する課題（40%）、発表（50%）、出席状況（10%）を加え総合的に評価する。		

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	栄養指導論実習Ⅱ	担当者	町田 和恵
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法 【概要】 栄養指導論で得た基本的に必要なとする指導内容や方法ならびに具体的な技術を統合し、個人・集団を対象として、そのニーズに応じた実用的栄養教育実施のために、栄養アセスメント、栄養指導プログラムの立案、教育媒体・資料の作成、栄養指導の実施・評価を想定し、その実際を学び、栄養指導が実践できるように、技術を習得することを目的とする。特に栄養指導論実習Ⅱでは、病院での栄養指導のシミュレーションを展開し、体験学習により栄養指導に対する理解を深めると共に栄養指導・教育技能の向上を図る。 【到達目標】 (1) 対象者に対する的確な栄養アセスメントが出来る。 (2) 対象に応じた指導案の作成、媒体の選択が出来る。 (3) 対象に応じたプレゼンテーションが出来る。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 大里進子他著『演習栄養教育』医歯薬「プリント」 (2) 日本栄養士会編『平成23年版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版		
授業スケジュール	第1回 集団を対象とした栄養指導の方法 栄養指導内容の作成① 第2回 集団を対象とした栄養指導の方法 栄養指導内容の作成② 第3回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その1 第4回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その2 第5回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その3 第6回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その4 第7回 個別対症の栄養指導の基本的な考え方 第8回 個別対症の栄養指導の方法 栄養指導計画の作成 第9回 個別対症の栄養指導の方法 栄養指導計画の作成 第10回 個別対症の栄養指導の方法 (病院) プレゼンテーション その1 第11回 個別対症の栄養指導の方法 (病院) プレゼンテーション その2 第12回 個別対症の栄養指導の方法 (病院) プレゼンテーション その3 第13回 個別対症の栄養指導の方法 (病院) プレゼンテーション その4 第14回 個別対症の栄養指導の方法 (病院) プレゼンテーション その5 第15回 個別対症の栄養指導の方法 (病院) プレゼンテーション その6とまとめ		
成績評価の方法	発表（60%）、授業中に指示する課題と小テスト（30%）、出席状況（10%）を加え総合的に評価する。		

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	公衆栄養学	担当者	米盛 麻美
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式,実技 (発表形式)		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】公衆栄養学は、国民の疾病予防と生涯にわたる健康の保持増進を目的に、臨床栄養学、生化学の知識をとりいれながら、地域社会の実践に必要な理論と方法を研究する実践科学である。</p> <p>本講義では、現在、日本や世界で起こっている栄養学に関わる問題を認識しながら、現代の公衆栄養学上の問題点と栄養学的解決の糸口を考える。</p> <p>【概要】日本の栄養摂取状況の変化にともなう、生活習慣病の対策において、栄養士として取り組んでいく方法を具体的に統計調査表などを読むからをつけながら学んでいく。</p> <p>【到達目標】公衆栄養学をとりいれて栄養指導を行う方法を学び、実践で役立てるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『公衆栄養学』講談社 山本茂・森口博・中原澄男編 第3版 (購入必須) (2) 『日本人の食事摂取基準 (2005年版)』第一出版 『日本人の食事摂取基準の活用』第一出版 『栄養カウンセリング論』・『栄養教育論』 講談社		
授業スケジュール	第1回 公衆栄養学の概念 第2回 公衆栄養学の歴史 第3回 わが国の食生活と栄養問題の変遷と現状 第4回 わが国の栄養問題の現状と課題 第5回 食生活とがん・貧血・骨粗鬆症・アレルギー 第6回 食事摂取基準 (1) 第7回 食事摂取基準 (2) 第8回 わが国の栄養政策 (1) 第9回 わが国の栄養政策 (2) 第10回 地域栄養学 第11回 実技 (発表形式) 第12回 栄養疫学 第13回 公衆栄養学で必要な統計 第14回 国際栄養 第15回 定期試験		
成績評価の方法	筆記試験 (80%) , 質問に対する回答内容 (10%) , 授業中に課した課題 (10%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養情報処理	担当者	町田 和恵
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養士が健康・栄養状態、食行動、食環境に関する情報の収集・分析、それを総合的に判断する能力を養う。</p> <p>【概要】栄養士には、集めた情報を統計学的に処理し、客観的に評価することが求められている。そのためには、コンピュータを使用し、短時間で必要な情報をできる限り集め、分析するといったことが必要である。そこで、実践に沿った具体的な情報収集・分析の方法はどのようなものがあるかを学ぶ。</p> <p>【到達目標】本実習は、栄養士業務にかかわる情報処理の基礎ならびにアンケート集計の基礎を学び、これからの栄養士に望まれる栄養情報処理の基礎を身につけることを目的とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 「プリント」		
授業スケジュール	第1回 栄養教育とコンピュータ コンピュータの役割、機能、実際 第2回～第6回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方 ・第2回 度数分布表、ヒストグラム ・第3回 平均値、標準偏差 ・第4回 棒・円・折れ線グラフ ・第5回 散布図・相関係数 ・第6回 回帰直線 第7回～第12回 データ変換によるデータ集計のまとめ方 ・第7回 単純集計 ・第8回 クロス集計 (オッズ比) ・第9回 確立分布 ・第10回 区間推定 (母平均の区間推定, 比率の区間推定) ・第11回 仮定の検定 (平均の差の検定, 比率の検定) ・第12回 クロス集計 (独立性の検定) 第13回～第14回 コンピュータによる献立作成, 栄養計算 ・第13回 コンピュータによる献立作成 ・第14回 コンピュータによる栄養計算 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) , レポート (30%) , 出席状況 (10%) を加えて総合的に評価する。		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	臨床栄養学Ⅰ	担当者	堀内 正久
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 1. 頻度の高い (将来経験するであろう) 疾患の病態生理を理解すること 2. 病態生理に基づき、栄養の重要性の理解を深めること</p> <p>【概要】 講義を中心に授業を進める。疾患の病態生理を学習することで、各種疾患の検査データの読み方や栄養学的なアプローチの基本的な考え方を理解する。</p> <p>【到達目標】 主要な疾患 (消化管疾患、肝疾患、代謝性疾患) の病態生理を説明でき、疾患の発症と栄養との関連を認識できること</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 後藤昌義ら 新しい臨床栄養学 南江堂 山口和克 病気の地図帳 講談社 著者多数 病気がみえる メディックメディア社		
授業スケジュール	第1回: 病態生理に基づく疾患の理解1 第2回: 病態生理に基づく疾患の理解2 第3回: 消化管疾患1 第4回: 消化管疾患2 第5回: 消化管疾患3 第6回: 消化管疾患4 第7回: 肝疾患1 第8回: 肝疾患2 第9回: 肝疾患3 第10回: 肝疾患4 第11回: 代謝性疾患1 第12回: 代謝性疾患2 第13回: 代謝性疾患3 第14回: 代謝性疾患4 第15回: まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + 授業ごとに実施する小テスト (20%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	臨床栄養学Ⅱ	担当者	堀内 正久
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 1. 頻度の高い (将来経験するであろう) 疾患の病態生理を理解すること 2. 病態生理に基づき、栄養の重要性の理解を深めること</p> <p>【概要】 講義を中心に授業を進める。疾患の病態生理を学習することで、各種疾患の検査データの読み方や栄養学的なアプローチの基本的な考え方を理解する。</p> <p>【到達目標】 主要な疾患 (循環器疾患、腎疾患、呼吸器疾患など) の病態生理を説明でき、疾患の発症と栄養との関連を認識できること</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 後藤昌義ら 新しい臨床栄養学 南江堂 山口和克 病気の地図帳 講談社 著者多数 病気がみえる メディックメディア社		
授業スケジュール	第1回: 循環器疾患1 第2回: 循環器疾患2 第3回: 循環器疾患3 第4回: 腎疾患と体液調節1 第5回: 腎疾患と体液調節2 第6回: 腎疾患と体液調節3 第7回: 呼吸器疾患1 第8回: 呼吸器疾患2 第9回: 内分泌疾患1 第10回: 内分泌疾患2 第11回: 血液疾患 第12回: 免疫とアレルギー 第13回: 発熱・感染症 第14回: 小児と妊産婦と臨床検査他 第15回: まとめと試験		
成績評価の方法	成績評価の方法: 筆記試験 (80%) + 授業ごとに実施する小テスト (20%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	臨床栄養学実習	担当者	山下 三香子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期集中 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 学外実習 病院での栄養士全般の業務による実習 【概要】 県内外の医療現場での2週間の実習で献立作成、給食業務と同様以下のような内容を学ぶ。 1, 医療に携わる他職種と連携を図ったチーム7医療の中で、専門職として栄養士の実情を把握。 2, 対象者の臨床成績を把握し、的確な食事計画や栄養管理、臨床栄養指導。 3, 対象者の心理を理解し信頼を得る。 【到達目標】 医療現場で提供されている治療食の実態を把握し、実際に遂行されている栄養士の栄養管理業務の習得		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 臨床栄養学実習ノート (2) 『臨床栄養学実習書』 医歯薬出版 香川芳子監修『五訂増補食品成分表2011』女子栄養大学出版部 『厚生労働省策定の日本人の食事摂取基準2010年版』第一出版		
授業スケジュール	各施設による特徴 1, 院内における栄養部門の位置と役割 2, 病院給食管理業務の実際 3, 供食状況の実際 4, 病態栄養管理業務の実際 5, 栄養指導業務の実際 6, 栄養教育用媒体および指導評価の方法 実習終了後、報告発表を行う。		
成績評価の方法	実習ノート (30%) , 報告発表 (10%) , 実習態度および出席 (60%)		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	病理学	担当者	山田 博久
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義形式		
テーマ及び概要	【テーマ】 人体等における病気の成り立ち。 【概要】 1. ヒトの代表的な疾患について基本的な理解を持つこと。 2. 学生の知識や理解度に応じて授業内容は変化します。また学習効果を上げるために一つの項目を繰り返して授業することもあります。 【到達目標】 管理栄養士国家試験勉強に必要な基本知識を得ること。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 系統看護学講座 専門基礎4 病理学 (2) 特に定めませんが、さまざまな分野の書物を多量に読むことは学生の基本であることを心得ておくこと。		
授業スケジュール	第1回 病理学で学ぶこと 第2回 炎症, 免疫, 感染症 第3回 循環障害, 循環器, 呼吸器系の疾患 第4回 消化器系, 腎泌尿器系, 神経系, 内分泌系の疾患 第5回 先天異常, 遺伝子異常, 代謝障害, 腫瘍, 血液の疾患, 老化と死 第6回 補足, (症例など) 第7回 補足, (症例など) 第8回 試験(筆記試験)		
成績評価の方法	筆記試験の成績に加え授業中の発言や学生からの質問を併せて評価する。(質問や発言は高く評価することもあります。)		

※ 7.5回

授業科目	学校栄養教育論	担当者	町田 和恵・木場 幸子
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学校における食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法</p> <p>【概要】学校での年間指導計画の下に学校給食の時間や学級活動、総合的な学習の時間などにおいて、学級担任や教科担任と連携しつつ食に関する指導を行うことが大切である。児童・生徒の栄養に関する指導及び学校給食の管理をつかさどる栄養教諭は、これらを一体的に担う職員として、教育的資質と栄養に関する専門性を併せ有する必要がある。学校給食を生きた教材として活用し、効果的な指導を行うために、栄養教諭の役割や職務内容、食文化、食に関する指導方法等について学ぶ。</p> <p>【到達目標】児童生徒の心理や発達段階に配慮した指導や学校教育全体に参画し、学級担任や養護教諭、学校外関係者と連携して食に関する教育を行うために、実践を兼ねた演習を行い、知識や方法を修得させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 金田雅代『栄養教諭論』建帛社 (2) 坂本元子『こどもの栄養・食教育ガイド』医歯薬出版 山本公弘『気がるにできる総合学習・体験学習ー新しい栄養指導3』東山書房 文部科学省「食生活学習教材」</p>		
授業スケジュール	<p>第1回～4回 栄養教諭の役割及び職務内容 (担当：町田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 児童・生徒に対する栄養指導と栄養管理の意義、現状と課題 (児童・生徒の食事に関する実態把握、分析等に必要事項を含む) ・第2回 栄養教諭の職務内容、使命、役割 ・第3回 学校給食の意義、役割等 ・第4回 児童・生徒の栄養の指導及び管理に係る社会的事情、法令及び諸制度 <p>第5回 幼児・児童・生徒の栄養に係る諸課題 (担当：町田)</p> <p>第6回 児童・生徒の栄養に係る諸課題 (国民の栄養をめぐる諸事情の理解を含む) (担当：木場)</p> <p>第7回 食生活に関する歴史的及び文化的事項 (担当：町田)</p> <p>第8回～11回 食に関する指導の方法 (対象実態把握等) (担当：木場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第8回 食に関する指導に係る全体的な計画の作成 (計画・実施・評価) 給食の時間における食に関する指導 (地場産品の活用含む) 栄養教諭が行う授業の特性、発達に応じた食に関する指導 食生活学習教材の活用 ・第9回 教科における食に関する指導 (家庭科、技術・家政科、体育科、保健体育科、その他の教科) 効果的な栄養教諭の授業参画 ・第10回 道徳、特別活動における食に関する指導 生活科、総合的な学習の時間における食に関する指導 ・第11回 食物アレルギー等食に関する特別な指導等を要する児童・生徒、他の児童・生徒への指導上の配慮 <p>第12回～14回 児童・生徒への指導上の配慮 (担当：木場・町田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第12回 食に関する指導の指導案作り ・第13回 学生が作成した指導案の発表、相互批評等 ・第14回 模擬授業、指導効果の評価 学校、家庭、地域と連携した食に関する指導 <p>第15回 まとめと試験 (担当：木場・町田)</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + 小テスト・レポート (20%) により評価する。		

(注) 教職必修

授業科目	有機化学概論	担当者	釜田 忠
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 自然界の物質や人工的に合成された物質の構造、性質、変化学・科学の基礎知識について理解を深める。</p> <p>【概要】 食物栄養専攻の専門科目や実験・実習を学んでいく上で化学の知識が要求される。本講義では化学の基礎的な知識を習得するために、原子、化学反応、化学結合、有機化学の基礎的な知識を学習する。</p> <p>【到達目標】 食物栄養専攻で履修する専門科目の基礎科目であることを念頭に、「化学」という学問に親しみを感じる。そして、専門科目に必要な基礎的な知識を習得し、これから学んでいく専門科目の理解を一層深める手助けとなることを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2)		
授業スケジュール	<p>第1回: ガイダンス ・有機化学概論の概要説明</p> <p>第2回: 原子の構造 ・電子構造と混成軌道</p> <p>第3回: 化学結合 ・共有結合, イオン結合, 配位結合, 水素結合</p> <p>第4回: 化学反応 ・化学反応と反応式</p> <p>第5回: 酸化・還元</p> <p>第6回: 溶液の濃度 ・溶液の濃度, 中和反応</p> <p>第7回: 有機化合物 ・有機化合物の特徴, 分子式と構造式</p> <p>第8回: 異性体 ・構造異性体, 立体異性体, 光学異性体</p> <p>第9回: 有機化合物の種類と反応1 ・脂質化合物</p> <p>第10回: 有機化合物の種類と反応2 ・アルコール, エーテル, エステル</p> <p>第11回: 有機化合物の種類と反応3 ・カルボニル化合物とカルボン酸</p> <p>第12回: 有機化合物の種類と反応4 ・芳香族化合物と複素環式化合物</p> <p>第13回: 有機化合物の反応</p> <p>第14回: 生体高分子 ・炭水化物とタンパク質</p> <p>第15回: まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + ホテスト (30%)		

授業科目	生物概論	担当者	茅田 司
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生命科学を学ぶための基礎となる生物学の概念と考え方を系統的に理解する。</p> <p>【概要】 生物を構成する物質の化学構造と特徴についての理解から始まって、細胞の構造や機能、生命維持のためのエネルギー代謝の仕組み、さらに遺伝についての基本的概念を学習し、最後に動物の生殖と体の成り立ち、恒常性の維持や刺激に対する応答について学習を進める。また、それぞれのテーマに関するいろいろな話題を取り上げて、生物に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】 食物栄養専攻で学習するさまざまな専門科目の基礎となる基幹科目であることを念頭に、生命現象や生活現象を基礎的、原理的な面から理解できるようになること、特に高校で生物を履修していなかった学生が、生命や生活の機構の精緻さに興味を持ち、これから学ぶ専門科目をさらに深く理解できるようになることを到達目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 大島泰郎 監修『生命科学のための基礎シリーズ 生物』実教出版 2007年 適宜、プリントによる資料も配付する。</p> <p>(2) あれば講義中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス: 生物概論を学習するにあたって</p> <p>第2回 分子から細胞へ: 生体を構成する分子</p> <p>第3回 細胞の構造と機能: 生物の体の成り立ちについて</p> <p>第4回 細胞分裂と細胞周期: 体細胞分裂と核の変化</p> <p>第5回 生命活動とエネルギー代謝: 同化, 異化</p> <p>第6回 生命活動とエネルギー代謝: 解糖系, TCA 回路, 電子伝達系</p> <p>第7回 生命活動とエネルギー代謝: 光合成</p> <p>第8回 遺伝と遺伝情報: メンデルの法則とセントラルドグマ</p> <p>第9回 遺伝情報とその複製: 遺伝子の本体 DNA</p> <p>第10回 遺伝情報の発現: 遺伝情報からタンパク質合成へ</p> <p>第11回 生殖と発生: 減数分裂と性の決定</p> <p>第12回 生殖と発生: 配偶子形成と受精, 発生</p> <p>第13回 個体の構造と機能: 内分泌系と中枢神経系</p> <p>第14回 個体の構造と機能: 生体防御</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 小テスト (30%) により評価する。		

9 生活科学専攻専門科目

授業科目	衣生活学	担当者	多々良 尊子
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活における衣服の役割を、ファッション、消費性能、環境、生活文化など多様な視点から考える。</p> <p>【概要】衣服は常に人体の近くにあり、第二の皮膚と言われる。衣服を着ることによって生じる人と衣服の相互作用、社会と衣服の相互作用を基本として、合理的で快適な衣生活を営むために必要な知識と感性について複合的に解説する。</p> <p>【到達目標】現在の衣生活について、近接環境としての衣服、自己表現としての衣服、生活文化としての衣服など多面的にアプローチして論じることができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 田村照子『衣環境の科学』建帛社 文化服装学院『アパレル品質論』文化服装学院教科書出版部</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 近接環境としての衣服：空気を着る、光を着る</p> <p>第2回 衣服の機能(1)：人体の構造と衣服の構成</p> <p>第3回 衣服の機能(2)：人体保護、気候調整、清潔</p> <p>第4回 衣服の成り立ち(1)：日本服飾史、和服の構成の特徴</p> <p>第5回 衣服の成り立ち(2)：西洋服飾史、立体構成の特徴</p> <p>第6回 自己表現としての衣服(1)：デザインとコーディネート、イメージマップ、外見と評価</p> <p>第7回 自己表現としての衣服(2)：ファッション、モード、スタイル、プレタポルテ、既製服</p> <p>第8回 自己表現としての衣服(3)：流行のメカニズム、ブランドの価値</p> <p>第9回 衣服の生産：繊維メーカー、テキスタイルメーカー、アパレルメーカー、生産システム</p> <p>第10回 衣服の流通：アパレル卸売業、小売業、ファッション情報</p> <p>第11回 衣服の消費：アパレル商品の分類と名称、品質管理と消費性能、価格</p> <p>第12回 衣服の取り扱い(1)：洗濯の条件、洗濯機器、クリーニング</p> <p>第13回 衣服の取り扱い(2)：洗剤・仕上げ加工剤の種類と特徴、保存</p> <p>第14回 衣生活にかかわる環境問題：資源・エネルギー問題、化学物質のリスク、生態系に及ぼす影響</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	定期試験 (80%) , ノート作成 (20%)		

(注) 教職必修

授業科目	衣造形論	担当者	多々良 尊子
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】衣服の造形に必要なことは何か。服飾文化の歴史を知ること、感性をみがくこと、人体構造を理解すること、衣服製作のために必要な技術を身につけること。</p> <p>【概要】衣服の造形は、単に「衣服の形を作る」だけではない。自分の個性を表現し、地域生活文化を活かし、安全で快適な近接環境を形成することが求められる。多様な価値観を反映させるために、衣服造形の基礎的な理論と実践方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】衣服造形に必要な知識を理解し、衣服造形実習での応用につなげる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 三吉満智子『服装造形学 理論編 I』文化出版局 千村典生『ファッションの歴史』平凡社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 衣服造形学の内容：服飾デザイン、パターンメイキング、テキスタイルデザイン、縫製、消費科学、服装社会学など</p> <p>第2回 衣服の種類と名称</p> <p>第3回 西洋服飾史(1)：古代から中世まで</p> <p>第4回 西洋服飾史(2)：近世から現代まで</p> <p>第5回 日本服飾史(1)：和服の成立と染織工芸の歴史</p> <p>第6回 日本服飾史(2)：和服から洋服へ</p> <p>第7回 人体の構造と人体計測</p> <p>第8回 衣服のパターン(1)：平面構成と立体構成</p> <p>第9回 衣服のパターン(2)：原型の種類と作図法</p> <p>第10回 衣服のパターン(3)：パターンの展開とシルエット</p> <p>第11回 衣服のサイズ：年齢・性別・体型によるサイズ展開</p> <p>第12回 ファッションブランド：オートクチュールからファストファッションまで</p> <p>第13回 ファッションデザイナーの個性</p> <p>第14回 ファッションイメージと自己表現</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	定期試験 (80%) , 製図やデザインなどの課題 (20%)		

授業科目	繊維と染織	担当者	坂上 ちえ子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 衣服（被服）の素材である布や繊維とそれらを装飾する染織について学ぶ。</p> <p>【概要】 衣服（被服）は私たちの最も身近な環境であるにもかかわらず、その特性は十分に知られていない。この科目では被服材料と染織の2つの方向から衣服に対する理解を深めていく。いずれについても、物理的、化学的基礎事項を消費科学的視点から捉え、試料の観察や簡単な実験なども行い把握していく。染織についてはさらに、その歴史や文化、伝統技法も取り上げる。</p> <p>【到達目標】 基礎事項を修得し、さらに修得した内容を今後の衣服選択や購入に反映できるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 随時紹介		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション 第2回 被服材料 繊維の種類と構造 第3回 被服材料 糸と織物・編物 第4回 被服材料 消費性能(1)―外観的性能 第5回 被服材料 消費性能(2)―物理的性能 第6回 被服材料 新素材と機能性付与素材 第7回 被服材料 繊維製品の表示と取り扱い 第8回 染織 化学染料の種類とメカニズム 第9回 染織 天然染料の種類とメカニズム 第10回 染織 テキスタイルの製造工程 第11回 染織 染織の歴史と文化 第12回 染織 日本の伝統染織技法(1)―織り 第13回 染織 日本の伝統染織技法(2)―染め 第14回 染織 鹿児島島の染織―大島紬 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + 授業での活動内容 (20%)		

授業科目	衣生活学実習	担当者	多々良 尊子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】衣生活における消費者の視点は、量から質へ、機能性から感性へと変化している。素材や加工剤の多様化、感性重視の商品開発が行なわれる中で、安全・安心な衣生活を営むためには、消費科学的知識が不可欠である。社会的な問題を抽出し、それを解決するための要因を整理して、今後の課題をまとめる。</p> <p>【概要】衣服の機能性を調べる実験や消費者問題にかかわる演習を行ない、衣生活の安全・安心について考える。また、鹿児島島の衣生活文化について調査する。</p> <p>【到達目標】衣生活にかかわる社会的な課題に主体的に取り組み、解決することができる。鹿児島島の衣生活文化について理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。 (2) 田中直人・箕寺貞子『ユニバーサルファッション』中央法規 日下部信幸『衣生活のものの作りと科学実験』家政教育社		
授業スケジュール	第1回 衣生活の安全・安心にかかわる課題 第2回 衣服の消費性能試験(1) 織物・編物の構造 第3回 衣服の消費性能試験(2) 保温性 第4回 衣服の消費性能試験(3) 吸湿性 第5回 衣服の消費性能試験(4) 織物・編物の製作 第6回 衣服の品質表示の規程と問題点 第7回 衣服のサイズ表示の規程と問題点 第8回 せっけん・洗剤類の表示規程と問題点 第9回 ユニバーサルファッション(1) 動作、姿勢、障がいと衣服の構成、加齢による体型変化とサイズ対応 第10回 ユニバーサルファッション(2) 生活を楽しみ、社会参加を促進するデザイン 第11回 ドレーピングの基礎(1) ピンワーク 第12回 ドレーピングの基礎(2) 素材別のドレーピング 第13回 鹿児島島の衣生活の歴史 第14回 鹿児島島の伝統的な衣生活について聞き取り調査 第15回 プレゼンテーション		
成績評価の方法	レポート3回 (60%) , プレゼンテーション (20%) , グループワークにおける貢献度 (20%)		

授業科目	衣造形実習Ⅰ	担当者	多々良 尊子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 基礎的な縫製技術の習得とブラウスの製作</p> <p>【概要】 衣服製作をするために縫製技術の習得は不可欠である。合理的で美しい縫い方を身につけることにより、造形の幅を広げる。ブラウスの製作を行うことにより、採寸・製図・裁断・仮縫い・縫製の流れを把握し、人体と衣服の形態について考察する。</p> <p>【到達目標】 縫製器具・機器の使用法を理解し、衣服の製作過程を経験する。製図を立体化するイメージをつかむ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。 (2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾造形講座3 ブラウス・ワンピース』文化服装学院教科書出版部 八角節子『わかりやすい写真でマスターする 縫い方の基礎の基礎』文化出版局		
授業スケジュール	第1回 洋裁用具・機器の種類と扱い方 第2回 基礎縫い(1) 運針、まつり縫い(普通まつり、奥まつり、たてまつり、流しまつり)、丈夫で美しい縫い方 第3回 基礎縫い(2) ボタンつけ、スナップつけ、かがり縫い 第4回 基礎縫い(3) ミシンとロックミシンの練習 第5回 人体計測と製図法 第6回 ブラウスのデザインと製図 第7回 ブラウスの裁断と印つけ 第8回 仮縫い、試着、補正 第9回 身頃の縫製 第10回 衿：衿つくりと衿つけ 第11回 袖：袖下とカフス 第12回 袖つけ 第13回 身返しとボタンホール 第14回 ボタンつけと仕上げ 第15回 コーディネートの提案		
成績評価の方法	製作技術 (50%) , 作業の着実性 (30%) , プレゼンテーション (20%)		

(注) 教職必修

授業科目	衣造形実習Ⅱ	担当者	多々良 尊子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 スカートの製作とコーディネート</p> <p>【概要】 スカートは、女性の服飾の歴史の中で最も古く、また、年令にかかわらずに広く着用されている基本的な衣服である。シルエットやスカート丈により、様々なデザインを展開することができ、個性を表現するコーディネートにおける重要なアイテムである。スカートのデザインの特徴について学び、裏布つきスカートの製作実習を行なう。</p> <p>【到達目標】 実習を通して、スカートの製図、裁断、ウエストまわりの構成、ファスナーつけ、裏布の取り扱いなどを習得する。スカートを基本とするコーディネートを提案する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。 (2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾造形講座2 スカート・パンツ』文化出版局 笠井フジノ『わかりやすい写真でマスターする スカート&パンツの縫い方の基礎』文化出版局		
授業スケジュール	第1回 スカートの機能とデザイン 第2回 体型と製図 第3回 表布の裁断、印つけ 第4回 仮縫い 第5回 試着、補正 第6回 裏布の裁断、印つけ 第7,8回 表布の縫製 第9回 ファスナーつけ 第10,11回 裏布の縫製 第12回 表布と裏布のまとめ 第13回 ウエストまわりの縫製 第14回 仕上げ 第15回 コーディネートの提案		
成績評価の方法	製作技術 (50%) , 作業の着実性 (30%) , プレゼンテーション (20%)		

授業科目	衣造形実習Ⅲ	担当者	森田 寛子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 和服一平面構成の基礎と実際― 【概要】 和服の歴史的背景を探り、日本の民族衣装としての伝統を受け継ぎながら、さらに時代に即応した新しいきものについて理解を深める。 女物単衣長着の製作を通して、基礎的事項を把握し、能率的にすすめる技術を習得する。 【到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・和服全般の基礎知識を深める。 ・ゆかたの完成および美しい着付けの習熟をはかる。 		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 田京てる子著「和裁の基礎」衣生活研究会		
授業スケジュール	第1回 和服総論 第2回 基礎技法 第3回 女物ひとえ長着理論 第4回 女物ひとえ長着製作、柄合わせ 第5回 裁ち方 第6回 袖づくり 第7回 身ごろ標つけ、背縫い 第8回 居敷当・肩当て 第9回 衤の標つけ、衤つけ 第10回 衤づくり 第11回 衤つけ 第12回 脇縫い 第13回 袖つけ、裾ぐけ 第14回 着つけ実習 第15回 和服礼法		
成績評価の方法	作品評価（60％）、実習への取り組み（20％）、着付け（20％）		

授業科目	住生活学	担当者	揚村 固
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 人間の生活行為と住空間の関連について学ぶ。 【概要】 今日の課題について考えるときに必要な、住居の果たすべき役割を理解し、設計に必要な計画学的思考法を知る。 【到達目標】 住居のありかたと選択・取得・設計の際に注意すべきことを修得する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 内藤ほか「設計に活かす建築計画」朝国者 2010 ISBN978-4-7615-2484-5 (2) 小原二郎ほか「インテリアの計画と設計」朝国社		
授業スケジュール	第1回 住居計画学1：住居の成立条件とプロセス 第2回 住居計画学2：計画と設計の実際 第3回 建築と住居1：住居存在 第4回 建築と住居2：集合住宅 第5回 建築と住居3：福祉施設と医療施設 第6回 建築と住居4：公共施設と学校 第7回 建築と住居5：図書館 博物館 第8回 高齢者と居住：高齢者の特質と住空間 第9回 計画・設計：手法と表現の基礎 第10回 平面計画1：空間の性質とゾーニング 第11回 平面計画2：アクティビティとシーケンス 第12回 平面計画3：ユニバーサルデザインと住居・建築 第13回 住宅問題：住環境問題 住宅政策 第14回 我々はどう住むか 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	試験（100％）による。		

(注) 教職必修、二級建築士(木造建築士)受験資格取得必修科目、インテリアプランナー登録資格取得選択必修A科目(学生便覧参照)

授業科目	住居史	担当者	揚村 固
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 現代住居を理解するうえで日本居住史の理解が欠かせない。 【概要】 日本固有の伝統のうえに成り立っている日本の住居の歴史とその特質を知る。 【到達目標】 講義では日本建築史を学びながら現代住居との関連でその姿を概括し、世界の住居とも比較しながら検討の材料とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) コンパクト版建築史 日本・西洋 「建築史」編集委員会編著 ISBN9784-4-395-00876-6		
授業スケジュール	第1回 建築史序説 : 歴史と住居 上古の住まい方 竪穴式住居と高床式住居 第2回 古代建築 : 神社建築と住居 仏教建築と住居 貴族住居・都城の成立 第3回 中世の建築と住居1 : 浄土建築 大仏様 禅宗様 主殿造り) 第4回 中世の建築と住居2 : 和洋 折衷様 中世住居から書院の成立 第5回 近世の建築と住居1 : 座敷と玄関の成立 第6回 近世の建築と住居2 : 茶室と数寄屋 第7回 近世の建築と住居3 : 民家 町家と農家 第8回 近代の建築と住居4 : 洋風住宅と近代化 第9回 西洋建築史概論1 : エジプト オリエン特 ギリシャ 第10回 西洋建築史概論2 : ローマ 初期キリスト教 ビザンチン ロマネスク 第11回 西洋建築史概論3 : ゴシック ルネッサンス バロック リヴァイバル 第12回 西洋建築史概論4 : 産業革命と近代建築 第13回 アジアの住居と集落 : 中国(台湾) 朝鮮半島 インドネシア 第14回 現代の建築と住居 : モダニズム ポストモダニズム 日本現代建築 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	レポート (100%) による。		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得必修科目, インテリアプランナー登録資格取得選択必修A科目(学生便覧参照)

授業科目	住居・インテリア設計学	担当者	宍戸 克実
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 住居とインテリアの設計と表現・プレゼンテーション手法 【概要】 住空間を構成する様々なインテリア・エクステリア要素について学習するとともに、計画・設計に際して必要となるエスキースについて理解する。また、作図課題を通し、住空間を平面的・立体的に表現する作図手法を習得する。 【到達目標】 設計条件を整理し、合理的な間取りを検討し、それを平面的・立体的に表現し、他者に対し理論的・視覚的にプレゼンテーションする一連の「設計プロセス」を理解することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 授業中に指示 (2) 渡辺秀俊編『インテリア計画の知識』朝国社		
授業スケジュール	第1回 設計の実務 : 設計の業務内容とプロセス 第2回 様々な図面表現1 : 配置図・平面図・立面図 第3回 様々な図面表現2 : 断面図・展開図・天井伏図 第4回 透視図1 : 一点透視図 第5回 透視図2 : 二点透視図 第6回 透視図3 : アイソメ図・アクソメ図 第7回 身体寸法と単位空間 : 校内フィールドサーベイ 第8回 インテリアエレメント1 : 照明・家具・他 第9回 インテリアエレメント2 : 床・壁・開口部・他 第10回 エクステリアエレメント : 外構(庭)計画・敷地図 第11回 住居設計エスキース1 : 設計条件の整理と設定・各所要室の大きさ 第12回 住居設計エスキース2 : アプローチと玄関・各室との関係・ゾーニング 第13回 住居設計エスキース3 : 畳グリッドを用いた間取りプランニング 第14回 建築空間プレゼンテーション : プレゼンテーションテクニック 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業中の作図課題 (60%) + レポート (40%)		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得必修科目, インテリアプランナー登録資格取得選択必修B科目(学生便覧参照)

授業科目	設計製図Ⅰ	担当者	揚村 固
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】 設計製図Ⅰは住居を計画・設計するときに必要な図法と表現法を習得する。 【概要】 実習は設計製図法の基礎から始め、単位空間から住居空間にいたる計画・設計を行う。 【到達目標】 小住宅の設計に必要な図面製作と模型製作の方法を習得して発表する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2)		
授業スケジュール	第1回 製図基礎1 : 線の種類と意味 模写 第2回 製図基礎2 : 平面記号の練習 模写 第3回 作品研究プレゼンテーション : プレゼンテーション 第4回 小空間の計画 : 平面図 立面図の製作 第5回 小空間の製作 : 断面図 その他の製作 第6回 模型による表現 : 模型表現基礎 第7回 小住宅の計画と設計1 : 作品構想プレゼンテーション 第8回 小住宅の計画と設計2 : 平面計画と平面図1 第9回 小住宅の計画と設計3 : 平面計画と平面図2 第10回 模型製作1 : 模型製作 第11回 模型製作2 : 模型製作 第12回 模型製作3 : 模型製作 第13回 プレゼンテーション製作 : プレゼンテーションボードの製作 第14回 成果発表 : プレゼンテーション 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	成果物(100%)の評価による		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得必修科目, インテリアプランナー登録資格取得選択必修C科目(学生便覧参照)

授業科目	設計製図Ⅱ	担当者	揚村 固
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	【テーマ】 各種詳細図の表現法を習得したうえで、小住宅を計画・設計する。模型を製作してこれを完成させる。 【注】 住居・インテリア設計学の履修が望ましい。 【概要】 3世代住宅の計画と設計を行い、図面と模型でこれを表現し、発表する。 【到達目標】 詳細図の表現を修得し、住宅設計の成果をわかりやすくプレゼンテーションする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2)		
授業スケジュール	第1回 平面詳細図1 : 真壁と大壁 第2回 平面詳細図2 : 開口部:ドア 第3回 平面詳細図3 : 開口部:窓 第4回 平面詳細図4 : 開口部:和室建具 第5回 平面詳細図5 : 開口部:木造平面図 第6回 断面詳細図1 : 断面図 第7回 断面詳細図2 : 矩計詳細図 第8回 断面詳細図3 : 計詳細図 第9回 住宅の計画と設計 第10回 住宅の計画と設計 第11回 住宅の計画と設計 第12回 住宅の計画と設計 第13回 住宅の計画と設計 第14回 住宅の計画と設計 第15回 プレゼンテーション : 成果発表		
成績評価の方法	成果物(100%)の評価による		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得必修科目, インテリアプランナー登録資格取得選択必修C科目(学生便覧参照)

授業科目	住居構造学Ⅰ	担当者	徳富 久二
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 住居を主とする建築物を構成する要素とその特徴および構築するための構造方式について学ぶ 【概要】 建物にはたらく力 木造, 鉄骨造, 鉄筋コンクリート造, 基礎などの概要と特徴について講ずる。 【到達目標】 さまざまな構造形式に対応した構工法など建築全般について, 知識として蓄積する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	図説 やさしい建築一般構造, 今村仁美・田中美都, 学芸出版社		
授業スケジュール	第1回 建物にはたらく力 …… 建物にはたらく力 第2回 木構造 1 …… 木材の特徴と性質 第3回 2 …… 木構造の構造形式 第4回 3 …… 在来工法 枠組壁工法 第5回 鉄骨造 1 …… 鋼材の特徴と性質 第6回 2 …… 鉄骨造の接合と各部の構法 第7回 鉄筋コンクリート造 1 …… 鉄筋とコンクリートの特徴と性質 第8回 2 …… 鉄筋コンクリート造の原理と構造形式 第9回 3 …… 鉄筋の配筋, 各部の構法 第10回 4 …… 壁式鉄筋コンクリート造 第11回 その他の構造 …… 鉄骨鉄筋コンクリート造 プレストレストコンクリート造 基礎 第12回 下地と仕上げ 1 …… 屋根, 壁, 床 第13回 2 …… 天井 防水 第14回 3 …… 開口部 階段 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + レポート (40%)		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得必修科目, インテリアプランナー登録資格取得選択必修B科目(学生便覧参照)

授業科目	住居構造学Ⅱ	担当者	徳富 久二
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 構造物の安全性と力学との関わりについて学ぶ 【概要】 構造物に作用する力によって, 構造物の柱, はりなどの部材に生じる力を求め, 安全性を検討する。 【到達目標】 静定構造物, トラスの応力を求め, 変形を求める基本的な手法, 不静定構造物の基本的考え方を理解する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	やさしい建築の構造力学, 山田 修 著, オーム社		
授業スケジュール	第1回 構造物の安全性 …… 講義の概要 構造物の安全性を検討するには 第2回 力の釣合 1 …… 表現, 記号と単位, 第3回 2 …… 力の合成と分解, 構造物の支持状態 第4回 3 …… 構造物の反力, 静定と不静定, 安定と不安定 第5回 片持まり, 単純まり 1 …… 応力 力の釣合と軸方向力, せん断力, モーメントと曲げモーメント 第6回 2 …… 応力図(軸方向力図, せん断力図, 曲げモーメント図) 第7回 門型静定ラーメン …… 図式解法と数式解法 第8回 静定構造物の演習 …… 各種静定構造物の応力図 第9回 トラス骨組の解析 …… 力の釣合の表現 切断法 第10回 材料の試験 応力度 …… 応力度とひずみ度 断面内の応力 第11回 断面の性質 …… 断面1次モーメント 断面2次モーメント 第12回 曲げモーメント, せん断力による応力 曲げ応力度, せん断応力度 第13回 柱の圧縮 …… 短柱の圧縮 長柱の圧縮(座屈) 第14回 不静定構造物(1次不静定) …… 不静定構造物の考え方 1次不静定構造物の解法 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + レポート (40%)		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得必修科目, インテリアプランナー登録資格取得選択必修B科目(学生便覧参照)

授業科目	住居環境学	担当者	曾我 和弘
	[履修年次] 2年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 快適で環境に優しい住いや建築物の計画</p> <p>【概要】 居住者が健康で快適に生活できる居住環境を構築するためには、建築環境（熱・光・音・空気・水環境）をバランスよく適切に調整しなければならない。この講義では、適切な建築環境を実現するために必要な環境計画の考え方と手法、さらに設備計画の考え方と手法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 建築の環境計画と設備計画の基本的な考え方を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 三浦昌生 著、基礎力が身につく建築環境工学、森北出版株式会社		
授業スケジュール	第1回 気候と建築環境 第2回 建築環境と建築設備 第3回 光環境計画 第4回 照明設備計画 第5回 熱環境計画1 第6回 熱環境計画2 第7回 空調設備計画 第8回 住まいと結露	第9回 音環境計画1 第10回 音環境計画2 第11回 空気環境計画1 (室内空気汚染) 第12回 空気環境計画2 (通風、換気) 第13回 換気設備計画 第14回 給排水設備計画 第15回 定期試験	
成績評価の方法	筆記試験 (80%) とレポート (20%) で評価する。		

(注) 二級建築士 (木造建築士) 受験資格取得必修科目、インテリアプランナー登録資格取得選択必修B科目 (学生便覧参照)

授業科目	住居環境学演習	担当者	曾我 和弘
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 身近な居住環境の快適性や健康性の測定</p> <p>【概要】 居住環境の物理環境（熱・光・音・空気など）の測定を行い、測定データに基づいて、居住環境の快適性や健康性の評価を行う。測定を通して物理環境の測定法を修得すると同時に、データ処理にはパソコンの表計算ソフトなどを活用しパソコンの利用技術を養う。また、気候と住居形態、環境共生住宅に関する調査を通して、環境にやさしい住居に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】 身近な居住環境の熱・光・音・空気環境の基本的な測定・評価方法を習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 三浦昌生 著、基礎力が身につく建築環境工学、森北出版株式会社およびプリント		
授業スケジュール	第1回 クリモグラフィの作成と 気候に適した住居形態調査 第2回 日影図の作成と日照環境の 評価 第3回 教室の照度分布測定 第4回 照明計算 第5回 レポート発表会 第6回 屋外気候の測定 第7回 室内気候の測定	第8回 定常結露計算 第9回 交通騒音測定 第10回 教室の騒音測定 第11回 レポート発表会 第12回 CO ₂ 濃度等の測定と評価 第13回 HCHO及び揮発性有機化合物の濃度測定及び評価 第14回 環境共生住宅に関する調査 第15回 レポート発表会	
成績評価の方法	演習や実験への取り組み態度、レポートの内容及び発表内容を総合的に評価する。		

(注) 二級建築士 (木造建築士) 受験資格取得必修科目、インテリアプランナー登録資格取得選択必修B科目 (学生便覧参照)

授業科目	建築材料学	担当者	迫田 順一
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 住居を中心とした建築物を構成する様々な材料とその特質 【概要】 どのような材料がどのような特質を持ち、どのように使われて建築物が構築されているのかについて可能な限り現物を見ながら学ぶ。 【到達目標】 講義では建築材料の特質と建築の各種構造方式と仕上工事の関係について、工種毎に理解することを目標とする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 松本進 「図説 やさしい 建築材料」 学芸出版社 (2) 建築学会編 「建築材料用教材」 彰国社		
授業スケジュール	第1回 構法と建築材料 第2回 主要構造部材と仕上材 第3回 木材1 特性 第4回 木材2 用法 第5回 木材3 種類と用法 第6回 コンクリート1 特性 第7回 コンクリート2 配合と強度 第8回 コンクリート3 製作 第9回 鉄材1 鉄筋 第10回 鉄材2 鉄骨と接合 第11回 その他の主要材料 (石・左官・ガラス・建具) 第12回 材料の力学 (曲がりにくさ) 第13回 環境にやさしい 建築材料 第14回 材料の積算 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

(注) 二級建築士 (木造建築士) 受験資格取得必修科目, インテリアプランナー登録資格取得選択必修B科目 (学生便覧参照)

授業科目	建築生産	担当者	迫田 順一
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 各種建築構造方式の生産過程について学ぶ。 【概要】 住居を中心とした建築の企画設計から施工そして運営管理にいたる一連のプロセスの中で、建築物がどのように生産されているのか総合的に理解する。 【到達目標】 講義では建築の各種構造方式の施工手順について、工種と工程に沿って理解することを目標とする。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 今村仁美, 田中美都 「図説 やさしい 建築一般構造」 学芸出版社 (2) 久富洋, 古澤忠正 「図説 建築施工入門」 彰国社		
授業スケジュール	第1回 構法と施工過程 第2回 木構造と木工事 第3回 鉄筋コンクリート造と鉄筋・型枠・コンクリート工事 第4回 鉄骨構造 その他の構造 第5回 建具・ガラス・屋根・防水工事・その他の仕上げ工事 第6回 施工計画と管理 第7回 契約と実行 第8回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

(注) 二級建築士 (木造建築士) 受験資格取得必修科目, インテリアプランナー登録資格取得選択必修B科目 (学生便覧参照) ※7.5回

授業科目	建築法規	担当者	西菌 幸弘																																
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式																																		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 建築物の安全や衛生を守り、都市の防災対策や街並みを形成するための基準である建築基準法</p> <p>【概要】 建築物は、人間の生活や社会活動の基盤であり、社会資本でもある。建築物は、建築基準法など建築法規に適合させる必要がある。建築物の構造安全性、防火規定、室内環境、避難規定、集団規定など建築物の基本法としての建築基準法について、解説する。</p> <p>【到達目標】 建築物、特に住宅を建築する際、必要な建築法規の基礎を理解する。</p>																																		
(1) テキスト (2) 参考文献	超入門 建築基準法—イラスト解説による—																																		
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第 1回 建築基準法の基礎</td> <td>1 建築基準法の目的と構成</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2 法規を理解するための用語、面積や高さの算定方法等</td> </tr> <tr> <td>第 2回 構造耐力に関する規定</td> <td>1 荷重や外力に対し安全性を確保するための構造計算に関する規定</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2 木造、鉄筋コンクリート造等の構造方法に関する規定</td> </tr> <tr> <td>第 3回 防火に関する規定</td> <td>1 耐火建築物等しなければならない特殊建築物</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2 火災の拡大を防止する防火区画</td> </tr> <tr> <td>第 4回 室内環境に関する規定</td> <td>1 室内の環境を守る採光・換気</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2 シックハウス対策等</td> </tr> <tr> <td>第 5回 避難に関する規定</td> <td>1 安全に避難するための内装制限、廊下や直通階段等</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2 排煙設備、非常用照明設備等</td> </tr> <tr> <td>第 6回 位置や形状に関する規定</td> <td>1 都市計画区域内の道路と敷地</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2 用途制限</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3 容積率、建ぺい率、高さ制限等の形態規制</td> </tr> <tr> <td>第 7回 その他の関係法令</td> <td>1 建築基準法に基づく手続き</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2 建築士法、都市計画法の建築関連法</td> </tr> <tr> <td>第 8回 まとめと試験</td> <td></td> </tr> </table>			第 1回 建築基準法の基礎	1 建築基準法の目的と構成		2 法規を理解するための用語、面積や高さの算定方法等	第 2回 構造耐力に関する規定	1 荷重や外力に対し安全性を確保するための構造計算に関する規定		2 木造、鉄筋コンクリート造等の構造方法に関する規定	第 3回 防火に関する規定	1 耐火建築物等しなければならない特殊建築物		2 火災の拡大を防止する防火区画	第 4回 室内環境に関する規定	1 室内の環境を守る採光・換気		2 シックハウス対策等	第 5回 避難に関する規定	1 安全に避難するための内装制限、廊下や直通階段等		2 排煙設備、非常用照明設備等	第 6回 位置や形状に関する規定	1 都市計画区域内の道路と敷地		2 用途制限		3 容積率、建ぺい率、高さ制限等の形態規制	第 7回 その他の関係法令	1 建築基準法に基づく手続き		2 建築士法、都市計画法の建築関連法	第 8回 まとめと試験	
第 1回 建築基準法の基礎	1 建築基準法の目的と構成																																		
	2 法規を理解するための用語、面積や高さの算定方法等																																		
第 2回 構造耐力に関する規定	1 荷重や外力に対し安全性を確保するための構造計算に関する規定																																		
	2 木造、鉄筋コンクリート造等の構造方法に関する規定																																		
第 3回 防火に関する規定	1 耐火建築物等しなければならない特殊建築物																																		
	2 火災の拡大を防止する防火区画																																		
第 4回 室内環境に関する規定	1 室内の環境を守る採光・換気																																		
	2 シックハウス対策等																																		
第 5回 避難に関する規定	1 安全に避難するための内装制限、廊下や直通階段等																																		
	2 排煙設備、非常用照明設備等																																		
第 6回 位置や形状に関する規定	1 都市計画区域内の道路と敷地																																		
	2 用途制限																																		
	3 容積率、建ぺい率、高さ制限等の形態規制																																		
第 7回 その他の関係法令	1 建築基準法に基づく手続き																																		
	2 建築士法、都市計画法の建築関連法																																		
第 8回 まとめと試験																																			
成績評価の方法	筆記試験 (100%)																																		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得必修科目、インテリアプランナー登録資格取得選択必修B科目(学生便覧参照) ※7.5回

授業科目	生活化学	担当者	井余田 秀美																														
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義方式																																
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身の回りの化学物質について学び、生活の様式や環境との関わりについて考える。</p> <p>【概要】多くの人が豊かで快適に暮らすために化学の果たす役割は大きい。人はこれまで、自然の物をうまく利用したり、自然にはない有益な物を作り出して、生活のために活用してきた。しかしながら一方で、人工の有害物質や生活や生産活動に伴う大量の廃棄物等が、人の生活や自然環境を損なってきた。本講義では、生活の中の化学物質について学ぶ。</p> <p>【到達目標】衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。</p>																																
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 環境と人にやさしい「化学」田中春彦著(陪風館)をテキストとして使用する。 (2)																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1回</td><td>空気</td></tr> <tr><td>第 2回</td><td>燃焼</td></tr> <tr><td>第 3回</td><td>金属の利用</td></tr> <tr><td>第 4回</td><td>水と水溶液</td></tr> <tr><td>第 5回</td><td>結晶</td></tr> <tr><td>第 6回</td><td>洗剤</td></tr> <tr><td>第 7回</td><td>光と物質</td></tr> <tr><td>第 8回</td><td>セラミックス</td></tr> <tr><td>第 9回</td><td>合成高分子</td></tr> <tr><td>第 10回</td><td>天然高分子</td></tr> <tr><td>第 11回</td><td>微量栄養素</td></tr> <tr><td>第 12回</td><td>化学物質と生体・環境</td></tr> <tr><td>第 13回</td><td>資源とエネルギー</td></tr> <tr><td>第 14回</td><td>放射能の利用</td></tr> <tr><td>第 15回</td><td>まとめと試験</td></tr> </table>			第 1回	空気	第 2回	燃焼	第 3回	金属の利用	第 4回	水と水溶液	第 5回	結晶	第 6回	洗剤	第 7回	光と物質	第 8回	セラミックス	第 9回	合成高分子	第 10回	天然高分子	第 11回	微量栄養素	第 12回	化学物質と生体・環境	第 13回	資源とエネルギー	第 14回	放射能の利用	第 15回	まとめと試験
第 1回	空気																																
第 2回	燃焼																																
第 3回	金属の利用																																
第 4回	水と水溶液																																
第 5回	結晶																																
第 6回	洗剤																																
第 7回	光と物質																																
第 8回	セラミックス																																
第 9回	合成高分子																																
第 10回	天然高分子																																
第 11回	微量栄養素																																
第 12回	化学物質と生体・環境																																
第 13回	資源とエネルギー																																
第 14回	放射能の利用																																
第 15回	まとめと試験																																
成績評価の方法	試験またはレポート																																

授業科目	生活コロイド学	担当者	井余田 秀美
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活の中で出会う様々なコロイドや界面の現象について理解する。</p> <p>【概要】コロイドや界面の学問的基礎を説明し、次に日常の事柄、特に洗濯や染色について詳しく述べる。更に、生活や環境での関連する事柄を取り上げ、最後に、生体に関する事に触れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 界面とコロイドの基礎 2 環境とコロイド 3 生活とコロイド 4 生体とコロイド <p>【到達目標】コロイドや界面の現象と日常生活との関わりについて理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 北原文雄, 「界面・コロイド化学の基礎」講談社 水野上与志子他編, 「被服整理学」建帛社		
授業スケジュール	第 1~3 回 界面とコロイドの基礎 界面とコロイドとは 界面現象 コロイド(ミセル, 高分子, 粒子コロイド) 第 4~13 回 生活とコロイド 繊維, 染色, 洗濯 食品とコロイド 化粧品 第 14 回 環境とコロイド, 産業とコロイド, 生体とコロイド 第 15 回 まとめと試験		
成績評価の方法	試験またはレポート		

(注) 教職必修

授業科目	生活化学実験	担当者	井余田 秀美
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 実験方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活の中の化学物質について理解し、その正しい取り扱いができるようにする。</p> <p>【概要】衣食住や生活環境に関する実験を行う</p> <p>【到達目標】衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリントを配布する		
授業スケジュール	第 1 回 実験全般の説明 第 2~11 回 衣食住の実験 染色 水の硬度 洗剤および洗剤水溶液 漂白剤 吸水性樹脂 食品の塩分濃度 第 12~15 回 生活環境の実験 pH の測定(生活, 土壌, 酸性雨) 脱酸素剤と使い捨てカイロ 木炭やシリカゲルと吸着		
成績評価の方法	レポート (100%)		

授業科目	生活デザイン学	担当者	丸山 容爾
		〔履修年次〕 1年 〔単位〕 2単位	〔学期〕 後期 〔必修/選択〕 必修 (注)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人間が作り出してきたもの（食器、文具、家具・・・等）のデザインに焦点を当てて鑑賞・考察し、それを基に今後のデザインの方向性を探究する。</p> <p>【概要】産業革命から現代に至るまでのデザインの変遷と、社会生活への影響を時代ごとの代表的な作品を通して学ぶ。</p> <p>【到達目標】講義を通して、身の周りのデザイン作品の「用と美」を探究する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) テキストは、プリントしたものを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は、講義中に適時示す。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 「導入」 講義方式の説明と資料配布</p> <p>第2回 「産業革命前後のデザイン」 イギリス産業革命時にデザインの世界に何が起こったか</p> <p>第3回 「シノワズリーとジャポニスム」 欧州にシノワズリーとジャポニスムが広まった要因</p> <p>第4回 「産業革命と万国博」 ロンドン万国博覧会と水晶宮</p> <p>第5回 「ウィリアム・モリスの仕事」 ウィリアム・モリスの商会における仕事とプライベート・プレス</p> <p>第6回 「ウィリアム・モリスの仕事とアーツ&クラフツ運動」 ウィリアム・モリス後のデザインの変遷</p> <p>第7回 「アール・ヌーヴォー1」 欧州に流行したアール・ヌーヴォーとその時代背景</p> <p>第8回 「アール・ヌーヴォー2」</p> <p>第9回 「アール・ヌーヴォー3」</p> <p>第10回 「アール・デコ」 アール・デコの時代とデザイン。</p> <p>第11回 「アメリカ・マシエイジ」 アメリカが大国に成長していく中の機械時代</p> <p>第12回 「バウハウス」 バウハウスの歴史と活動</p> <p>第13回 「欧米の現代デザイン」 欧米の現代デザイン作品を参考にしての鑑賞と考察</p> <p>第14回 「日本の現代デザイン」 日本の現代デザイン作品を参考にしての鑑賞と考察</p> <p>第15回 「まとめと試験、あるいはレポート」</p>		
成績評価の方法	出席と授業態度 (30%) , 試験あるいはレポート (70%) で評価		

(注) インテリアプランナー登録資格取得選択必修A科目 (学生便覧参照)

授業科目	色彩学	担当者	丸山 容爾
		〔履修年次〕 1年 〔単位〕 2単位	〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 選択 (注)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】色彩の性質、知覚のメカニズム、色の働き等、色彩の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】我々がモノの色をどのようにして知覚しているのか。本講義では、色彩とは何か、色彩の心理、色彩の調和、色彩計画等を学ぶ。</p> <p>【到達目標】色彩の不思議を実感し、最終的に色彩検定3級、カラーコーディネーター検定試験3級程度の色彩に関する知識を身につけ、実践的にファッションやインテリアのカラーコーディネート等に活用できるよう、発展させていく。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 大井義雄・川崎秀昭 著 カラーコーディネーター入門 色彩 改訂増補版 (監修 財団法人日本色彩研究所)</p> <p>(2) 参考文献は、講義中に適時示す。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 「導入」 講義方式の説明と資料配布</p> <p>第2回 「色とは」 色と光 視覚のメカニズム</p> <p>第3回 「色の記録・伝達方法1」 色名 色の標準</p> <p>第4回 「色の記録・伝達方法2」</p> <p>第5回 「色の混合」 加法混色 減法混色</p> <p>第6回 「照明」 色と照明の関係</p> <p>第7回 「色彩の心理1」 色の見えの効果</p> <p>第8回 「色彩の心理2」</p> <p>第9回 「色彩調和1」 色の秩序・配色</p> <p>第10回 「色彩調和2」</p> <p>第11回 「色彩調和論」 様々な色彩調和論</p> <p>第12回 「色彩計画」 対象に対応した色彩表現の検討</p> <p>第13回 「色と文化」 色と文化の関係</p> <p>第14回 「商品と色」 商品の特徴を表す色彩</p> <p>第15回 「まとめと試験、あるいはレポート」</p>		
成績評価の方法	出席と授業態度 (30%) , 試験あるいはレポート (70%) で評価		

(注) インテリアプランナー登録資格取得選択必修A科目 (学生便覧参照)

授業科目	生活造形史	担当者	丸山 容爾・多々良 尊子
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】長い歴史の中でどのように物が変化してきたかを学ぶと同時に、未来を考える。</p> <p>【概要】前半は、丸山担当で「商業・工業デザイン」について、後半は多々良担当で「ファッションデザイン」についての歴史を中心に講義をする。</p> <p>【到達目標】造形の歴史を探り、私たちとこれからの造形とのつながりを考えていく。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) テキストは、プリントしたものを配布する。 (2) 参考文献は、講義中に適時示す。		
授業スケジュール	(担当 丸山) 第1回 「導入」(講義方式の説明と資料配布) 第2回 「文字の起源」 第3回 「文字と書写体」 第4回 「文房四宝 1」 第5回 「文房四宝 2」 第6回 「書体・印刷 1」 第7回 「書体・印刷 2」 第8回 「書籍」 第9回 「現代の書籍 装幀」 (担当 多々良) 第10回 「生活造形の視点から見るファッションデザインの歴史」 第11回 「ファッションデザイナーの誕生とオートクチュールの成立」 第12回 「ファッションブランドの起源と発展」 第13回 「既製服産業におけるデザインの価値」 第14回 「ファッションデザイナーの個性(シャネル、ディオール、川久保玲)」 第15回 「まとめと試験、あるいはレポート」		
成績評価の方法	出席と授業態度(30%)、試験あるいはレポート(70%)で評価		

(注) インテリアプランナー登録資格取得選択必修A科目(学生便覧参照)

授業科目	デザイン実習 I	担当者	丸山 容爾
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】基礎的な作図技術と考え方を学ぶ。</p> <p>【概要】各種の平面構成やコラージュ等を通じて、自分のアイデアを作品上に反映させる。</p> <p>【到達目標】作品制作と講評を通じて、デザイン表現の理論と楽しさを体験する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) なし(デザイン用具については、第1回目に説明する。)		
授業スケジュール	第1回 「導入」 実習方式の説明等 第2回～第4回 「基本作図・平面構成」 相反するテーマをセットにして、色彩表現する 第5回～第7回 「デッサン」 石膏デッサンを通じて、物の見方を学ぶ 第8回～第10回 「コラージュ」 雑誌を使用したコラージュ作成 第11回～第14回 「パソコンを使用した作図」 Illustratorの基礎 第15回 「まとめ講評」 作品講評		
成績評価の方法	出席と授業態度(30%)、提出作品(70%)で評価		

(注) インテリアプランナー登録資格取得選択必修A科目(学生便覧参照)

授業科目	デザイン実習Ⅱ	担当者	丸山 容爾
	[履修年次] 今年度は1・2年合同 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 色々なテーマの下、作図実習を通じてデザインの基本的な技術と考え方を学ぶ。</p> <p>【概要】 デザイン実習Ⅰの延長として、パソコンを使用した高度な表現を行う。</p> <p>【到達目標】 ドローイング・ソフトを使用し、学んだ手法を駆使して最終的にポスターの制作をする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) なし (デザイン用具については、第1回目の時間内に説明する。)		
授業スケジュール	第1回 「導入」 実習方式の説明等 第2回～第4回 「ピクトグラム」 身の回りのピクトグラムについて考える 第5回～第7回 「シンボルマーク」 パソコンによるシンボルマークの作成 第8回～第10回 「レタリング」 各自の名前をレタリングし、文字の作りを学ぶ 第11回～第14回 「ポスター」 デザイン実習の総まとめ 第15回 「まとめ講評」 作品講評		
成績評価の方法	出席と授業態度 (30%) , 提出作品 (70%) で評価		

授業科目	CAD 設計	担当者	揚村 固
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義 (演習を含む) 方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 建設の実務において必須のものとなっているCADによって各種図面の作成法を学ぶ。</p> <p>【概要】 CAD の概念と基礎を習得することを目的とする。</p> <p>【到達目標】 設計製図で培った知識をもとにCADソフトによる実際に体験する。 <u>注) 設計製図ⅠⅡの履修が望ましい</u></p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント資料		
授業スケジュール	第1回 CAD設計概念と基礎 第2回 二次元CADとレイヤーの概念 第3回 柱と壁の連結 第4回 開口部と建具 第5回 寸法線その他 第6回 平面図 1 第7回 平面図 2 第8回 立面図 1 第9回 立面図 2 第10回 矩計詳細図 1 第11回 矩計詳細図 2 第12回 矩計詳細図 3 第13回 三次元CADとCG 1 第14回 三次元CADとCG 2 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	成果物の評価 (100%) による。		

(注) 二級建築士(木造建築士)受験資格取得必修科目, インテリアプランナー登録資格取得選択必修B科目(学生便覧参照)

授業科目	食物と栄養	担当者	釜田 忠																																		
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義方式																																				
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品に含まれる成分の物理化学的性質とそれら食品成分の栄養効果について基礎的な知識を理解し、健康的な日常生活を送るための食生活の改善、栄養改善を図る。</p> <p>【概要】食品学は食品成分の化学、食品成分から見た食品の特性、食品成分の栄養価を扱う学問であり、一方栄養学はヒトまたは生物が栄養素を摂取し、代謝を営み、最終的には栄養改善を図ることを学ぶ学問である。本講義では、健康の維持増進に必要な食品中の栄養素（炭水化物、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル、食物繊維）の基礎的な化学、特性、栄養効果について講義する。</p> <p>【到達目標】食品成分の特性や栄養効果・生理機能を理化学し、自らの食生活の改善に役立てることができる基礎的な知識を習得することを目標とする。</p>																																				
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント																																				
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回：イントロダクション</td> <td>・科目概要の説明</td> </tr> <tr> <td>第2回：食品の分類と栄養素</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>第3回：食品成分1</td> <td>・水分の物理化学的性質と水分の生理機能</td> </tr> <tr> <td>第4回：食品成分2</td> <td>・炭水化物1（炭水化物の種類と物理化学的性質）</td> </tr> <tr> <td>第5回：食品成分3</td> <td>・炭水化物2（炭水化物の栄養効果と食物繊維の生理機能）</td> </tr> <tr> <td>第6回：食品成分4</td> <td>・タンパク質1（アミノ酸とタンパク質の物理化学的性質）</td> </tr> <tr> <td>第7回：食品成分5</td> <td>・タンパク質2（タンパク質の栄養効果と生理機能）</td> </tr> <tr> <td>第8回：食品成分6</td> <td>・脂質1（脂質の物理化学的性質）</td> </tr> <tr> <td>第9回：食品成分7</td> <td>・脂質2（脂質の反応と栄養効果）</td> </tr> <tr> <td>第11回：食品成分8</td> <td>・脂溶性ビタミンの物理化学的性質と生理機能</td> </tr> <tr> <td>第12回：食品成分9</td> <td>・水溶性ビタミンの物理化学的性質と生理機能1</td> </tr> <tr> <td>第13回：食品成分10</td> <td>・水溶性ビタミンの物理化学的性質と生理機能2</td> </tr> <tr> <td>第12回：食品成分9</td> <td>・ミネラルの物理化学的性質と生理機能1</td> </tr> <tr> <td>第12回：食品成分9</td> <td>・ミネラルの物理化学的性質と生理機能1</td> </tr> <tr> <td>第13回：植物性食品の特性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回：動物性食品の特性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめと試験</td> <td></td> </tr> </table>			第1回：イントロダクション	・科目概要の説明	第2回：食品の分類と栄養素	・	第3回：食品成分1	・水分の物理化学的性質と水分の生理機能	第4回：食品成分2	・炭水化物1（炭水化物の種類と物理化学的性質）	第5回：食品成分3	・炭水化物2（炭水化物の栄養効果と食物繊維の生理機能）	第6回：食品成分4	・タンパク質1（アミノ酸とタンパク質の物理化学的性質）	第7回：食品成分5	・タンパク質2（タンパク質の栄養効果と生理機能）	第8回：食品成分6	・脂質1（脂質の物理化学的性質）	第9回：食品成分7	・脂質2（脂質の反応と栄養効果）	第11回：食品成分8	・脂溶性ビタミンの物理化学的性質と生理機能	第12回：食品成分9	・水溶性ビタミンの物理化学的性質と生理機能1	第13回：食品成分10	・水溶性ビタミンの物理化学的性質と生理機能2	第12回：食品成分9	・ミネラルの物理化学的性質と生理機能1	第12回：食品成分9	・ミネラルの物理化学的性質と生理機能1	第13回：植物性食品の特性		第14回：動物性食品の特性		第15回：まとめと試験	
第1回：イントロダクション	・科目概要の説明																																				
第2回：食品の分類と栄養素	・																																				
第3回：食品成分1	・水分の物理化学的性質と水分の生理機能																																				
第4回：食品成分2	・炭水化物1（炭水化物の種類と物理化学的性質）																																				
第5回：食品成分3	・炭水化物2（炭水化物の栄養効果と食物繊維の生理機能）																																				
第6回：食品成分4	・タンパク質1（アミノ酸とタンパク質の物理化学的性質）																																				
第7回：食品成分5	・タンパク質2（タンパク質の栄養効果と生理機能）																																				
第8回：食品成分6	・脂質1（脂質の物理化学的性質）																																				
第9回：食品成分7	・脂質2（脂質の反応と栄養効果）																																				
第11回：食品成分8	・脂溶性ビタミンの物理化学的性質と生理機能																																				
第12回：食品成分9	・水溶性ビタミンの物理化学的性質と生理機能1																																				
第13回：食品成分10	・水溶性ビタミンの物理化学的性質と生理機能2																																				
第12回：食品成分9	・ミネラルの物理化学的性質と生理機能1																																				
第12回：食品成分9	・ミネラルの物理化学的性質と生理機能1																																				
第13回：植物性食品の特性																																					
第14回：動物性食品の特性																																					
第15回：まとめと試験																																					
成績評価の方法	筆記試験（70%） + 小テスト（30%）																																				

(注) 教職必修

授業科目	調理実習 I	担当者	立石 百合恵																														
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 実習方式																																
テーマ及び概要	<p>【テーマ】調理に親しむ 調理を日常に取り込む</p> <p>【概要】栄養素や食品の知識を生かし、食品の調理性を充分生かした調理操作をほどこしながら料理を学ぶ。その他、食品の旬や郷土料理、食の作法などを学ぶ。</p> <p>【到達目標】調理に興味を持ち、日常の食生活に取り入れる</p>																																
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 実習プリント (2) 調理実習：峯書房、調理と理論：同文書院																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション：調理室の使用法についての説明、材料発注表の作成の練習など</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>果物の調理（ジャムとマーマレード）</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>日本料理の基礎（炊飯の調理操作、出汁の調理操作、焼き魚の調理操作、酢の物の調理操作）</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>西洋料理（コンソメスープの調理操作と魚のムニエル、菓子用ソースカスタードを用いた菓子）</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>中国料理の基礎（湯の調理操作と中国料理特有の調味料を使用した調理操作）</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>日本料理（初夏の料理）</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>西洋料理（ポタージュの調理操作とハンバーグステーキ、菓子用ソースカラメルを用いた菓子）</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>中国料理（なすの蒸しもの、かき豆腐のくず汁、鶏手羽先の醤油煮込み、さつまいものあめからめ）</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>郷土菓子と日本の保存食（かるかん、あくまき、梅干し）</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>西洋料理（特殊なスープの調理操作とポーココロケ、パンパロア）</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>テーブルマナー（日本料理）</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>日本料理（夏の料理）</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>小麦粉の調理（ロールパンとビーフシチュー）</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>本膳料理（一汁三菜）</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>「まとめと試験」</td> </tr> </table>			第1回	オリエンテーション：調理室の使用法についての説明、材料発注表の作成の練習など	第2回	果物の調理（ジャムとマーマレード）	第3回	日本料理の基礎（炊飯の調理操作、出汁の調理操作、焼き魚の調理操作、酢の物の調理操作）	第4回	西洋料理（コンソメスープの調理操作と魚のムニエル、菓子用ソースカスタードを用いた菓子）	第5回	中国料理の基礎（湯の調理操作と中国料理特有の調味料を使用した調理操作）	第6回	日本料理（初夏の料理）	第7回	西洋料理（ポタージュの調理操作とハンバーグステーキ、菓子用ソースカラメルを用いた菓子）	第8回	中国料理（なすの蒸しもの、かき豆腐のくず汁、鶏手羽先の醤油煮込み、さつまいものあめからめ）	第9回	郷土菓子と日本の保存食（かるかん、あくまき、梅干し）	第10回	西洋料理（特殊なスープの調理操作とポーココロケ、パンパロア）	第11回	テーブルマナー（日本料理）	第12回	日本料理（夏の料理）	第13回	小麦粉の調理（ロールパンとビーフシチュー）	第14回	本膳料理（一汁三菜）	第15回	「まとめと試験」
第1回	オリエンテーション：調理室の使用法についての説明、材料発注表の作成の練習など																																
第2回	果物の調理（ジャムとマーマレード）																																
第3回	日本料理の基礎（炊飯の調理操作、出汁の調理操作、焼き魚の調理操作、酢の物の調理操作）																																
第4回	西洋料理（コンソメスープの調理操作と魚のムニエル、菓子用ソースカスタードを用いた菓子）																																
第5回	中国料理の基礎（湯の調理操作と中国料理特有の調味料を使用した調理操作）																																
第6回	日本料理（初夏の料理）																																
第7回	西洋料理（ポタージュの調理操作とハンバーグステーキ、菓子用ソースカラメルを用いた菓子）																																
第8回	中国料理（なすの蒸しもの、かき豆腐のくず汁、鶏手羽先の醤油煮込み、さつまいものあめからめ）																																
第9回	郷土菓子と日本の保存食（かるかん、あくまき、梅干し）																																
第10回	西洋料理（特殊なスープの調理操作とポーココロケ、パンパロア）																																
第11回	テーブルマナー（日本料理）																																
第12回	日本料理（夏の料理）																																
第13回	小麦粉の調理（ロールパンとビーフシチュー）																																
第14回	本膳料理（一汁三菜）																																
第15回	「まとめと試験」																																
成績評価の方法	調理実習（30%） レポート（70%）																																

(注) 教職必修

授業科目	調理実習Ⅱ	担当者	立石 百合恵
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 調理を日常に取り込み、調理技術を習得する 【概要】 調理実習Ⅰで学んだ調理操作のステップアップ 【到達目標】 調理を日常的に行い、調理を通して食育を理解する		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 実習プリント (2) 調理実習：峯書房、調理応用編：峯書房、調理と理論：同文書院		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション 第2回 日本料理（行事食：巻き寿司と巻き寿司の応用、清まし汁、サイダー寒） 第3回 西洋料理（カレーライス、ピネグレットソースのサラダ、ドイツ風パウンドケーキ、レモンスカッシュ） 第4回 魚の調理講習会 第5回 中国料理（餃子、エビチリ、八宝菜、棒棒鶏） 第6回 小麦粉の調理（焼き菓子：アップルパイ） 第7回 西洋料理（ローストチキン、サンドウィッチ、バターケーキ） 第8回 日本料理（行事食：おせち・三種肴、煮物、焼き物） 第9回 日本料理（行事食：七草かゆ、鯛のでんぶ、清まし汁、はなびら餅） 第10回 テーブルマナー（西洋料理） 第11回 日本料理（冬の料理：鍋料理） 第12回 小麦粉の調理（メロンパン） 第13回 郷土料理（きびなごの刺身、さつま揚げ、豚骨煮、さつま汁） 第14回 西洋料理（フルコース） 第15回 「まとめと試験」		
成績評価の方法	調理実習（30％） レポート（70％）		

授業科目	生活文化	担当者	揚村 固・多々良 尊子
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 多様な生活文化を理解し比較することにより、生活することの根源的な意味を考える基礎とする。 【概要】 日常的な生活の場における文化的な要素（言語・方言、生活の知恵、芸能、技能、工芸、道具、建築、服装、料理、生活習慣、礼儀、行事、遊び、家族関係など）が社会的に共有・伝承され、生活様式として確立していることを概説する。それらが育まれてきた気候・風土や、伝えられているところを知り、現在の私たちの生活を相対化してみる。 【到達目標】 衣食住を単なる生活手段としてではなく、それぞれの地域や民族に定着した生活様式としてとらえることにより、その背景にある価値観を理解する。また、異なる文化を知ることにより複眼的なものの見方を養う。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない (2) 小池三枝、柴田美恵『日本生活文化史』光生館		
授業スケジュール	第1回 生活文化とは何か 第2回 風土と生活文化 : 主食の違い、衣服の構成の違い、家族関係の違い 第3回 『西洋衣食住』に描かれた日本の近代化：和洋折衷、和魂洋才 第4回 世界の民族衣装（1）：西アジア、中央アジア、インド 第5回 世界の民族衣装（2）：東南アジア、中国、朝鮮半島 第6回 世界の民族衣装（3）：アメリカ、中南米 第7回 日本の民族衣装 : 祭礼の衣装、沖縄・薩南諸島の衣生文化 第8回 日本住居のあけぼの : 歴史の実相 第9回 竪穴と高床 : 鹿児島と世界の住居 第10回 寝殿造りから書院造り：日本住居の成立過程 第11回 茶室と数寄屋 : 住文化の多様化 第12回 玄関と屋敷構え : 日本と鹿児島住居空間の特質 第13回 住居の近代化 : 西洋の住文化移入 第14回 世界の住文化 : 世界住居と日本住居の特異性 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	多々良担当分（50％）：レポートおよび授業時間内の課題による 揚村担当分（50％）：レポートおよび授業時間内の課題による		

授業科目	環境生物学	担当者	市川 敏弘
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生物と環境との相互作用を理解し、生態系の構造と特徴を考察する。さらに、環境の変化が生物の生活に及ぼす影響について考察する。</p> <p>【概要】 主に海の生物と環境について取り上げる。鹿児島湾や有明海などの身近な海、また黒潮などの外洋海域について、さまざまな生態系の特徴を説明する。また、地球環境の変動と海に関する最近の研究成果を紹介する。</p> <p>【到達目標】 多様な生物とその環境について自然科学の視点から理解を深めることを目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキストは使用しない。図表はプリントして配布する。参考図書や文献は講義中に紹介する。		
授業スケジュール	第1回 地球と生物の歴史：地球の誕生、海の誕生、生命の発生 第2回 海の研究史：大航海時代、海洋大探検、近代科学として海の研究 第3回 海の生態系と陸の生態系：生態系の景観、食物連鎖、生物の大きさと量 第4回 海水の性質と生物の生活：光、水温、塩分、密度、栄養塩 第5回 海水の運動と生物の生活：海流、深層水の循環、海水の年令、湧昇流 第6回 外洋海域の生物と環境：プランクトン 第7回 鹿児島湾の生物と環境 第8回 有明海の生物と環境 第9回 サンゴ礁の生物と環境 第10回 マリンスノーの発見：海にも雪があった、雪を作る 第11回 海と地球温暖化：二酸化炭素、生物ポンプ、鉄の役割 第12回 陸の環境汚染：サイレント・スプリング、足尾の鉱毒 第13回 海の環境汚染：ビキニ環礁の水爆実験、水俣 第14回 補足 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（100％）		

授業科目	地球環境論	担当者	岩船 昌起
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地球環境や自然環境のしくみと人間活動や健康とのかかわり</p> <p>【概要】イチョウやカンアオイ等の植物、サケやシカ等の動物、火山や海岸等の地形・地質を取り上げ、自然環境・地球環境に関わる基本的な内容を解説したい。そして、環境問題と人間の生活・行動との関わりや、自然環境と人間の健康との関わりについても紹介する。</p> <p>【到達目標】講義で紹介した地球環境や自然環境のしくみを口頭で説明でき、自然環境への負荷を抑え、かつ自身の健康も管理できる生活習慣を実践できるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。ただし、毎回の講義でプリントを配布する。 (2) 講義にて複数の書籍等を紹介する。		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：講義の概要と成績評価の方法等 第2回 火山とプレートテクトニクス：鹿児島・日本の地形・地質に関する基礎知識 第3回 環境と植生：鹿児島・日本の植物生態・植生地理に関する基礎知識 第4回 環境と動物：鹿児島・日本の動物生態に関する基礎知識 第5回 氷期における日本の自然：鹿児島・日本に関する第四紀学的な基礎知識 第6回 海岸の自然環境：鹿児島・日本の海岸の地形・気候・植生など、身近な自然環境の事例 第7回 河川の自然環境：鹿児島・日本の河川の地形・気候・植生など、身近な自然環境の事例 第8回 スライドショー：日本の自然（沖縄・屋久島・霧島山・日本アルプス・房総半島・北海道等） 第9回 スライドショー：海外の自然環境（北米・ドイツ・オーストリア・ネパール・タイ・台湾等） 第10回 氷河時代と人類の発達：新生代における人類の発達の概要と人類の身体的特性の概要 第11回 自然環境と人間の生理：気温・水温・気圧等の環境変化に応じた人間の生理的な適応 第12回 自然環境を活用した保養・療養：湯治、森林セラピー、タラソセラピー、生気象学等 第13回 環境倫理学の概要：環境倫理学の成り立ちと基本的な考え方、環境問題と生命の価値 第14回 自然のシステムを基盤にした地域構想：担当者の研究紹介 第15回 総まとめ：これまでの授業に関する補足等 ※ オプションとして、霧島山等での野外巡検を休日等に予定している。 ※ 以上を計画しているが、講義の進行に応じて内容が削除修正される場合もある。		
成績評価の方法	学期末等のレポート（60％）、授業ごとのノートの書き方とリプライシートへのコメント（25％）、野外巡検への参加と行動・意欲（15％）にて評価する。		

授業科目	保育学	担当者	相星 壮吾・池堂 猛彦・石川 満佐育
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】保育の概念と保育に必要な基礎知識について学ぶ。</p> <p>【概要】子どもは、出生後さまざまな経験を積みながら発達していく。そして、子どもの発達には、周囲からの働きかけ（発達援助）が不可欠である。保育学講義では、保育（発達援助）の概念と実際を学ぶとともに、子どもの標準的な発育発達、子どもによくみられる病気と対処法、子どもの安全対策等、保育に必要な知識の習得を目指す。</p> <p>【到達目標】保育の概念と保育に必要な基礎知識について理解し、説明ができるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(担当 相星) なし (担当 相星) なし		
授業スケジュール	<p>(担当 相星) 第1回 保育とは？(その1)：子どもの成長の最終目標、児童福祉法、児童憲章、子どもの権利条約 第2回 保育とは？(その2)：発達援助、遊びと学習、自律と自立 第3回 子どもの発育・発達の実際(その1)：新生児期～乳児期の発育、運動発達、知的発達、社会性の発達 第4回 子どもの発育・発達の実際(その2)：幼児期～学童期の発育、運動発達、知的発達、社会性の発達 第5回 発達に問題を抱える子どもたち(その1)：身体障害、知的障害 第6回 発達に問題を抱える子どもたち(その2)：発達障害 第7回 子どもの健康と安全(その1)：子どもによくみられる病気とその症状・対応 第8回 子どもの健康と安全(その2)：子どもの事故防止対策 第9回 もう一度、保育とは？(その1)：保護者への支援・育児援助・育児不安対策・児童虐待防止 第10回 もう一度、保育とは？(その2)：発達援助の実際 (担当 石川) 第11回 事前指導 (担当 池堂) 第12回 保育園における保育実習(1) 第13回 保育園における保育実習(2) 第14回 保育園における保育実習(3) (担当 石川) 第15回 事後指導</p>		
成績評価の方法	(担当 相星) 筆記試験 各担当者が100点/3で点数を算出した後、3人の合計を総合点として評価する。		

(注) 教職必修

授業科目	卒業研究	担当者	井余田 秀美
	[履修年次] 2年 [学期] 通年 [単位] 4単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】自ら研究課題を設定し、課題探求と問題解決の能力を養う。</p> <p>【概要】生活化学及び生活コロイド学の分野から基礎課題や応用課題を設定し取り組む</p> <p>【到達目標】実験や演習を行うことにより、衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 中西茂子著「洗剤と洗浄の科学」 北原文雄著「界面・コロイド科学の基礎5」 近藤保也著「優しいコロイドと界面の科学」		
授業スケジュール	<p>第1～3回 研究課題の決定、参考資料の収集 第4～8回 予備実験 第9～22回 本実験 第23～第24回 まとめ 第25～第27回 論文作成 第28～第29回 発表準備 第30回 発表</p>		
成績評価の方法	口頭発表(30%)と論文(70%)		

授業科目	卒業研究	担当者	揚村 固
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 通年 〔単位〕 4単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 住居と建築にまつわる興味深いテーマについて独自に設定・探求し、結論を得てプレゼンテーションする。</p> <p>【概要】 住生活学と住居設計学に関連する分野からディスカッションのうえ特定の研究課題を設定する。これまでの知見を整理し、未解決の問題を明らかにして、調査・実験・制作を通して独自の成果をまとめ、これを発表する。（特定の設計課題を意図した住居・建築の設計も含む。）</p> <p>【到達目標】 研究テーマの設定、調査研究、まとめ、発表までのプロセスを経験する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) テーマによって適宜		
授業スケジュール	第1回～第3回 研究基礎 第4回～第5回 テーマ設定とプレゼン1 第6回～第8回 テーマ設定と研究方針の検討 第9回～第12回 研究調査 第13回～第15回 中間発表1 第16回～第18回 研究方針の検討 第19回～第22回 調査研究 第23回～第24回 中間発表2 第24回～第27回 研究調査 第28回～第29回 まとめと発表準備 第30回 発表		
成績評価の方法	課題発表 (50%) 研究成果物 (50%)		

授業科目	卒業研究	担当者	石川 満佐育
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 通年 〔単位〕 4単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ&概要】 学校教育領域、対人関係領域に関する課題について、各自がテーマを設定し、心理学の研究方法を用いて、調査・分析し、成果をまとめる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①□ 「研究」のプロセスを学ぶ ②□ 自分の意見をまとめ、表現できるようにすることを目指す。 ③□ 効果的なプレゼンテーションの方法を身につけることを目指す。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：授業の進め方 第2回～第5回 心理学の研究方法及び基礎知識 第6回～第27回 テーマ設定、仮説生成、調査、分析、執筆（毎回の報告） 第28、29回 発表準備 第30回 発表会		
成績評価の方法	授業での毎回の報告：30% 卒業論文70%		

授業科目	卒業研究	担当者	多々良 尊子
	[履修年次] 2年 [単位] 4単位	[学期] 通年 [必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 安全で快適な衣生活を営むために解決すべき課題について調査・研究し、成果をまとめる。</p> <p>【概要】 衣生活においてどのような課題があるのか現状分析する。これまでに学習した内容を基に、研究テーマを設定し、文献の調べ方や社会調査の方法などを検討し、実践する。その中から、問題解決につながる独自の知見をみつける。</p> <p>【到達目標】 衣生活における様々な課題の中から研究テーマを見つけ、それにアプローチする方法を学習する。研究成果を発表することにより、効果的なプレゼンテーションの方法を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 鷺田清一『ファッション学のすべて』新書館 文化服装学院『コーディネートテクニック アパレル編Ⅰ』文化出版局</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第4回 研究方法の概説（テーマの設定、文献検索の方法、調査の方法など）</p> <p>第5回～第23回 各自で研究に取り組み、適宜、中間報告を行う</p> <p>第24回～第27回 研究のまとめ</p> <p>第28回～第29回 発表準備</p> <p>第30回 口頭発表</p>		
成績評価の方法	研究成果の評価（60%）、研究発表（20%）、議論参加の積極性（20%）		

10 第一部商経学科の専攻間で共通する科目
(専門基礎科目)

授業科目	現代社会論	担当者	斉藤 悦則
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 現代社会の諸問題にアプローチする。</p> <p>【概要】 社会学・経済学・思想・哲学から、さまざまな分析装置（道具）を借りて、今という時代を「非常識的に」解釈する。世間で流布している通説、マスコミが私たちに信じさせようとしていることは、じつは「ウソ」かもしれないのである。非常識になれば、そうした情報の虚妄から免れることができる（かもしれない）。</p> <p>【到達目標】 頭をさらに柔らかくして、新しいアイデアを生み出す底力を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 特になし		
授業スケジュール	第1回 良いは悪い……合成の誤謬 第2回 社会の不幸度……アノミー 第3回 隣と差をつけたい……記号的消費 第4回 フェティシズム……手段の自己目的化 第5回 禁欲が資本主義を生んだ……プロテスタンティズム 第6回 浪費の制度化……資本主義の文化的矛盾 第7回 強者と弱者……ルサンチマン 第8回 正常と異常……パノプチコン 第9回 社会的ジレンマ……共有地の悲劇 第10回 恋愛の形……ロマンチック・ラブ・イデオロギー 第11回 他者との距離……ヤマアラシのジレンマ 第12回 個性の時代って本当？……大衆社会 第13回 貧乏人には救いが……文化資本 第14回 努力すればいいってもんじゃない……80・20の法則（パレートの法則） 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業ごとに実施する小論文（100%）		

授業科目	社会哲学	担当者	種村 完司
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会哲学において最も重要な課題である、現代の価値観や倫理の諸問題を取り上げる。</p> <p>【概要】1) 人生や社会の価値を問う倫理学は、どんな機能をもっており、他の学問とどのように関係しているか。2) 科学技術は、現代人の生活にどんな影響を及ぼしているか、また、科学技術を支える価値観に問題はないか。3) 地球規模で発生している自然環境・生態系破壊の中で、今どんな新しい倫理が求められているか。4) 急速に発達している先端医療や生命科学において、どんな哲学的倫理的な問題が発生しており、それらをどう解決したらよいか。――などを中心的なテーマとして、わかりやすく講義する。</p> <p>【到達目標】1) 倫理学の性格や役割についての基礎知識 2) 現代の科学技術や医療、自然環境・生態系問題に対する的確な理解 3) 自分の生活や価値観への問い直し、倫理的思考力の育成 ―等々を目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	毎回、必要な資料やプリントを配布する。		
授業スケジュール	第1回 社会の哲学および倫理学の現代的機能 第2回 倫理学の基本的性格と学問上の位置 ―「倫理」とは何か、「道徳」とは何か 第3回 今日の科学技術が及ぼしている社会面・生活面への影響と問題点（その1） 第4回 今日の科学技術が及ぼしている社会面・生活面への影響と問題点（その2） 第5回 科学技術を支えている価値観についての反省 第6回 現代の医療や生命科学の中で発生している哲学・倫理問題（1）―「脳死」と死の判定 第7回 現代の医療や生命科学の中で発生している哲学・倫理問題（2）―「臓器移植」 第8回 現代の医療や生命科学の中で発生している哲学・倫理問題（3）―「安楽死」 第9回 現代の医療や生命科学の中で発生している哲学・倫理問題（4）―「尊厳死」とターミナル・ケア 第10回 地球環境・生態系問題の現実と哲学的課題 第11回 環境倫理学における諸問題（1）―今日の主要な論争点 第12回 環境倫理学における諸問題（2）―「自然の権利」をめぐる 第13回 環境倫理学における諸問題（3）―生命中心主義と人間中心主義 第14回 「持続可能な社会」にむけて必要な価値観と諸方策 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋毎回の授業での感想・意見（30%）		

授業科目	経済学	担当者	内田 昌廣
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複雑化した現代社会に生きる私たちにあって、様々な経済事象を理解できる力 = 「経済知力」の重要性はますます高まっている。本講義では、経済学の入門講座として、経済学的な見方・考える力を身につけるための基礎力を養う。</p> <p>【概要】 経済を構成する消費者、企業、政府の行動理論を学び、これらの経済主体を結び付けているさまざまな市場や国民経済全体の成り立ち・仕組みについての理解を深める。本講義で修得する知識をベースとして、経済関連の他科目でのより深い理解に繋げる。</p> <p>【到達目標】 経済学の基本的な考え方を理解し、経済の仕組みや動きについての全般的な基礎知識を習得すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 野口旭『ゼロからわかる経済の基本』講談社現代新書、小塩隆士『高校生のための経済学入門』ちくま新書、朴勝俊・飯田善郎・寺井晃『経済学のはじめの一步』晃洋書房、吉本佳生・NHK『出社が楽しい経済学』日本放送出版協会(NHK出版)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明：講義の目的・進め方 / 序論：経済って何だろう（欲求と経済、経済の主役、限りある資源、トレードオフ） 第2回 市場経済の仕組み (1)：資本主義・市場経済とは？、消費者や企業はどのように買う量や売る量を決めるのか？ 第3回 市場経済の仕組み (2)：買う量や売る量を変化させるものは？、需要と供給はどのようにして一致するのか？ 第4回 市場経済の仕組み (3)：市場で交換を行うことのメリットは？— 当事者の満足度、資源の効率的な配分 第5回 市場経済の仕組み (4)：価格は誰が決める？、不完全な市場とは 第6回 企業の様々な価格戦略：価格差別、二部料金制、ディスカウントストア、歩合制家賃 第7回 国全体の経済の仕組み (1)：国内総生産（GDP）って何だろう、GDPの3つの側面とは、GDPの大きさを決めるものは 第8回 国全体の経済の仕組み (2)：好景気と不景気のサイクル（景気循環）が起こる理由、インフレ・デフレとは 第9回 国全体の経済の仕組み (3)：お金の経済学 — 金融の仕組み、金利の決め方 第10回 国全体の経済の仕組み (4)：海外との取引 — 自由貿易の理論、国際収支の仕組み、為替レート（円高・円安）とは 第11回 国全体の経済の仕組み (5)：政府の役割 ① — 貯蓄のパラドクス、公共投資や減税の効果、財政政策の「落とし穴」 第12回 国全体の経済の仕組み (6)：政府の役割 ② — 市場の失敗、所得再分配 第13回 国全体の経済の仕組み (7)：日本銀行の役割 — 金融緩和と金融引き締め 第14回 マルクス経済学概論：マルクスが分析した資本主義経済、剰余価値説、資本主義についての歴史観 第15回 まとめと試験 (※ 講義の進み具合によって予定を変更する場合があります)</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	行政法	担当者	山本 敬生
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法の基本構造を体系的に把握し、行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。</p> <p>【概要】周知のとおり、行政法は通則的法典が存在しておらず、そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法学に比べて強く求められる学問である。本講義では、行政法の基本原理である法律による行政の原理（法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則）、行政行為、行政立法、行政計画、行政指導、行政契約、行政上の義務履行確保制度、行政手続等をわかりやすく解説し、行政法の基礎理論を体系的に理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法といった一般法について、国民の権利救済という視点から学習する。</p> <p>【到達目標】行政法の基本原理、行政の行為形式論、行政上の一般制度、行政救済法について説明できるようになり、行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 適宜、プリントを配布する。 (2) 『ポケット六法』（平成23年度版）有斐閣2010年</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 法律による行政の原理 第2回 行政立法 第3回 行政行為(1) 第4回 行政行為(2) 第5回 行政指導 第6回 行政上の義務履行確保制度 第7回 行政手続法 第8回 行政不服申立て 第9回 行政事件訴訟法(1) 第10回 行政事件訴訟法(2) 第11回 行政事件訴訟法(3) 第12回 国家賠償法(1) 第13回 国家賠償法(2) 第14回 損失補償 第15回 まとめと試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について、 ・法規命令（委任命令、執行命令）、行政規則について ・公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について ・無効の行政行為、取消しうべき行政行為、瑕疵の治癒と転換について ・規制行政指導、助成行政指導、調整的行政指導、要綱行政について ・代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政罰について ・申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為について ・審査請求、異議申立て、再審査請求、教示について ・抗告訴訟、取消訴訟、事情判決、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議について ・処分性、原告適格、法律の保護する利益説、保護に値する利益説について ・狭義の訴えの利益、無効等確認訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟について ・代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について ・公の营造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について ・正当な補償、完全補償説、相当補償説、国家賠償の谷間、予防接種事故について 		
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + 授業での発言の記録 (10%) を基準に、総合的に評価する。		

授業科目	経済政策	担当者	内田 昌廣
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国民の社会生活の向上を目的として行われる経済政策について、その考え方・政策手段・課題に関する基礎を学習する。</p> <p>【概要】経済政策が必要とされる背景、経済政策に関する思想、伝統的な経済政策の概要から、現代社会における新しい政策課題まで幅広く取り上げて解説し、自分なりに経済政策を評価できる基礎力を養う。</p> <p>【到達目標】主要な経済政策の意義や政策手段の概要について理解し、その限界や課題について関心や自分の意見を持てるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 山口三十四・足立正樹・丸谷治史・三谷直紀『経済政策基礎論』有斐閣ブックス 大竹文雄『経済学的思考のセンスーお金がない人を助けるには』中公新書		
授業スケジュール	第1回 概要説明：講義の目的・進め方 / 序論：なぜ人々の自由な経済活動に、政府が介入する必要があるのだろうか？ 第2回 経済政策の思想：政府は何どこまで介入（関与）すべき？— 新自由主義と新社会主義、大きな政府と小さな政府 第3回 成長と安定の経済政策（1）：成長のための経済政策 — 成長政策の手段、発展途上国と経済成長 第4回 成長と安定の経済政策（2）：安定のための経済政策 — 雇用の改善と物価安定、安定化政策の手段、安定化政策の課題 第5回 所得と資産の分配政策（1）：所得分配の格差を測る方法、望ましい分配の基準とは 第6回 所得と資産の分配政策（2）：分配政策の手段（課税制度、社会保障制度）、分配政策の効果と課題 第7回 産業政策（1）：産業政策の必要性、外部性と産業政策（産業育成政策、知的財産権の保護政策）、公共財の供給 第8回 産業政策（2）：自然独占と規制政策、公益企業の規制緩和と民営化 第9回 産業政策（3）：情報の非対称性と経済政策、市場支配力と独占禁止政策 第10回 労働政策（1）：労働政策の必要性、労働政策の歴史、失業に対する政策 第11回 労働政策（2）：女性雇用・高齢者雇用・若年雇用に対する政策 第12回 農業と人口問題：グローバル化と農業問題、少子高齢化と年金問題 第13回 環境政策：環境税、温暖化ガスの排出権取引、太陽光発電の推進 第14回 グローバル経済と経済政策：自国利益と国際協調、地域経済統合と経済政策、政策協調による新たな国際ルール作り 第15回 まとめと試験 (※ 講義の進み具合によって予定を変更する場合があります)		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	社会政策	担当者	朝日 吉太郎
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】格差や貧困はなぜ生まれるか、どうなくすか考える。</p> <p>【概要】資本主義社会において、賃金や雇用条件の改善、社会保障の充実が、なぜ求められ、どのように発展してきたのか、そして、今日なぜ格差拡大と社会保障削減が進むのかを分析し、その理由と問題性、解決課題をさぐります。</p> <p>【到達目標】資本主義が作り出す貧困や格差の特徴をその原因から法則的にとらえ、今日の社会を生きるためには、何を考える必要があるのかという視点を獲得すること</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 特に定めない (2) 後藤道夫・木下武男「なぜ富と貧困はひろがるのか 格差社会を変えるチカラをつけよう」旬報社		
授業スケジュール	第1回 講義の目的と進め方について： 第2回 資本と賃労働 : 資本賃労働関係の理論的把握 第3回 賃金（1）賃金形態 : 賃金についての俗説を批判する。 第4回 賃金（2）時間賃金・出来高賃金 : 賃金形態の発展とその影響をとらえる。 第5回 資本主義的生産と労働時間の延長 : 資本が労働日を延長する基本法則を理解する 第6回 標準労働日を巡る闘争と工場法体系 : 産業革命による労使の力関係の変化と社会政策形成史を理解する 第7回 社会政策本質論争の特徴と限界 : 社会政策本質論争の理論的問題点を検討する 第8回 直接的生産方式の諸結果と貧困化論の新たな可能性 : 貧困化論の問題点を検討する。 第9回 社会政策と国家 : 国家の一政策としての社会政策を理解するために国家論を検討する 第10回 帝国主義と協同的労使関係 : 現代資本主義の下での労使関係の特徴を検討する 第11回 福祉国家 : 社会政策の総合大系としての福祉国家の意味をとらえる 第12回 ケインズ革命の終焉 社会政策から総合社会政策へ : ケインズ政策の限界と社会政策の経済政策化をとらえる 第13回 新自由主義と福祉国家のゆらぎ : 今日のグローバル化の下での福祉国家政策の転換をとらえる 第14回 グローバル化とフレキシキュリティ政策の可能性 : 労働者の処遇抑制、福祉抑制の中で何が生じているかを理解する 第15回 まとめ		
成績評価の方法	論述試験 (100%)		

授業科目	社会思想	担当者	斉藤 悦則
	[履修年次] 1, 2年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ばらばらの個人の集まりが、社会として「まとまっている」、その根拠について考える。</p> <p>【概要】 社会はどうしてまとまっているか、それについて、さまざまな考え方（思想）を紹介する。それらの思想は、それぞれ「もってもらしさ」を備えている。しかも、相互に対立し合う。このことを通じて、世の中に「大正解」はない、ということ学ぶ。</p> <p>【到達目標】 もってもらしい学説（お説教）に、容易に丸め込まれない思考力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 特になし		
授業スケジュール	第1回 社会のまとまり……ホッブス 第2回 自分が人生の主人公……ロック 第3回 文明の進歩＝徳性の下落……ルソー 第4回 生産力主義……サン・シモン 第5回 労働を遊びに変える……フーリエ 第6回 労働をとおして成長する……ブルードン 第7回 近代人の疎外……フォイエルバッハ 第8回 群衆への埋没をまぬがれる……キルケゴール 第9回 自立しつつ連帯する……マルクス 第10回 異見の有用性……J・S・ミル 第11回 絶対自由主義……バクーニン 第12回 国家という暴力装置……レーニン 第13回 敵の敵は味方……カール・シュミット 第14回 多様性が豊かさの源……レヴィ・ストロース 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業ごとに実施する小論文（100%）		

授業科目	民法	担当者	疋田 京子
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「外国人」という存在を鏡として「民法」を学ぶ</p> <p>【概要】民法は、契約や損害賠償請求、婚姻、親子、相続など私たちが「他者」と共に生活する日常生活に深く関わっている。国籍に基づくナショナルや民族に基づくエスニックを異にする外国人を、共に生活する他者として位置づけ、民法における「人」の処遇のあり方、「人」の生活を支える法規範や制度のあり方、生成の様子を検討し、「民法」とは何かの全体像をつかむ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 大村敦『他者とともに生きる 民法から見た外国人法』（東京大学出版会）		
授業スケジュール	第1回 外国人と民法～導入；二つの訴訟（東京都昇進訴訟、小樽温泉訴訟） 第2回 現代日本の外国人：外国人が直面している法律問題 第3回 民法典における外国人に関する規定：内外人平等の原則をめぐる論争 第4回 民法学と外国人：外国人の識別と同定 第5回 外国人の基本的処遇：出入国管理、在留資格、法的人格、参政権 第6回 外国人の家族生活（1）家族関係と準拠法、婚姻関係における外国人の固有の問題 第7回 外国人の家族生活（2）「外国人法」における「親子」 第8回 外国人の家族生活（3）その他の家族関係、「家族」の処遇と「家族」の意義 第9回 外国人の労働：制度と実情、法的対応 第10回 外国人就学生をめぐる問題 第11回 外国人の日常生活：住まい・買い物、問題の所在と基本的な考え方 第12回 外国人の事故をめぐる問題：民事責任と保険、損害額の算定、外国人不法就労者の場合 第13回 外国人の多様性・日本人の多様性：戦後日本の「外国人」、明治二本の「日本人」 第14回 外国人と市民＝社会と法の将来 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	講義ごとに提出してもらおう小レポート（30点）＋試験（70点）		

授業科目	商法	担当者	田平 紀男
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 商法入門</p> <p>【概要】 商法の解説を行う。「商法総則」, 「会社法」を中心として扱う。商法は、民法の財産法部分（「総則」, 「物件」及び「債権」）と関係しているので、受講者は、あわせて、この民法の知識を修得することが望ましい。</p> <p>【到達目標】 (1) 商法の基礎を理解する。 (2) 法的思考方法を習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 近藤光男編 『現代商法入門』 有斐閣 (2) 『ポケット六法』 有斐閣</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 第2回 商法とは何か 第3回 商法総則(1) 第4回 商法総則(2) 第5回 商法総則(3) 第6回 商法総則(4) 第7回 会社(1) 第8回 会社(2) 第9回 会社(3) 第10回 会社(4) 第11回 会社(5) 第12回 会社(6) 第13回 商行為(1) 第14回 商行為(2) 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	産業心理学	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 産業にかかわる心理学を多角的に学ぶ</p> <p>【概要】 産業におけるヒューマンファクター(人的要因)を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。 簡単な心理実験、心理テストなども織り交ぜていく予定である。</p> <p>【到達目標】 商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開 (2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明 第2回 インターフェイスと精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質 第3回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用 第4回 ヒューマンインターフェイス1：ヒューマンインターフェイスの基本原則 第5回 ヒューマンインターフェイス2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介 第6回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策 第7回 仕事の成功と動機付け：成功、失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類 第8回 人間関係、労働時間：職場における人間関係、労働時間と仕事の関係 第9回 人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策 第10回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム 第11回 販売と購買心理：販売のテクニックと消費者の購買心理 第12回 説得と印象管理：コミュニケーションにおける説得と印象管理 第13回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察 第14回 予備 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート(通常のレポート2回分が80%、授業中のショートレポートが20%)		

授業科目	簿記論 I (経済専攻)	担当者	白谷 健一
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 複式簿記の仕組みについて学習する。 【概要】 まず、企業会計で用いられる複式簿記の一巡の手続きを単純な取引例を通じて学習し、さらに企業活動の根幹である商品売上の処理について学習する。 なお、簿記の知識は理論の勉強とともに、多くの問題にあたることによって定着するため、毎回の講義で問題演習を課す。 【到達目標】 簿記に関する基礎的な知識と三分法による商品売上の記帳方法を習得する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 加古直士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記 3級商業簿記』税務経理協会 (1) 加古直士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック 3級商業簿記』税務経理協会		
授業スケジュール	第 1 回 講義ガイダンス、簿記の要素 (資産、負債、純資産、収益、費用) 第 2 回 簿記の基本概念 (借方・貸方、貸借対照表・損益計算書) 第 3 回 取引と勘定記入 (簿記上の取引、勘定) 第 4 回 仕訳と転記① (仕訳) 第 5 回 仕訳と転記② (転記) 第 6 回 仕訳帳と総勘定元帳 (仕訳帳、総勘定元帳、標準式、残高式) 第 7 回 試算表① (単純な試算表の作成) 第 8 回 6桁精算表 (単純な精算表の作成) 第 9 回 決算と財務諸表の作成① (決算仕訳) 第 10 回 決算と財務諸表の作成② (勘定の締め切り、試算表・財務諸表の作成) 第 11 回 現金・預金① (現金、当座預金) 第 12 回 現金・預金② (現金過不足、小口現金) 第 13 回 商品売買① (三分法、仕入帳、売上帳) 第 14 回 商品売買② (商品有高帳) 第 15 回 まとめと試験 (※ 講義の進捗によって予定を変更する場合があります)		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	簿記論 I (経営情報専攻)	担当者	宗田 健一
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式 (黒板とパワーポイントの併用)		
テーマ及び概要	【テーマ】 複式簿記の仕組みの理解 【概要】 みなさんは、これまでに一度くらい「小遣帳」や「家計簿」などをつけた経験があると思います。「小遣帳」では、何をいつ買ったか (現金収支とその明細) くらいしか記入しなかったと思います。しかし、利益の獲得を目的としている企業がつけている帳簿では、現金収支に限らずさまざまな取引を記帳しています。会社はさまざまな取引を記帳するために「複式簿記」と呼ばれる記録・計算の技術を用いています。この複式簿記の仕組み (原理) を理解することがこのコース (科目) の目的です。 【到達目標】 複式簿記の仕組みを理解し、初歩的な会計の知識を獲得する、日商簿記 3 級レベルの簿記一巡の手続きを理解する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 蛭川幹夫『基本簿記』実教出版、2010年。 蛭川幹夫他『基本簿記演習』実教出版、2010年。 (2) 随時紹介		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス：履修登録確認、コース・パケット配布、簿記とは、簿記の用語 第 2 回 基礎 1：資産・負債・資本と貸借対照表 第 3 回 基礎 2：収益・費用と損益計算書 第 4 回 基礎 3：取引と勘定記入 第 5 回 基礎 4：仕訳 第 6 回 基礎 5：転記 第 7 回 復習、小テスト 1 第 8 回 基礎 6：試算表 第 9 回 基礎 7：決算 1 第 10 回 基礎 8：決算 2 第 11 回 基礎 9：損益計算書、貸借対照表の作成 第 12 回 基礎 10：精算表 第 13 回 復習、小テスト 2 第 14 回 復習、小テスト 3 (講義の進み具合で、調整等を行う場合があります) 第 15 回 まとめと試験		
成績評価の方法	小テスト・予習・復習の状況 (20%)、および最終試験 (80%) で評価します。 第 1 回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。		

(注 1) 経営情報専攻 (宗田) と経済専攻 (白谷) とは、別クラスです。

(注 2) 2011 年度の経営情報専攻の簿記論 II は前期に開講されます。簿記論 I を履修する学生は、必ずセットで簿記論 II の履修登録を行ってください。

(注 3) 2010 年度以前に簿記論 II のみを履修済みの学生も 2011 年度に簿記論 I を履修登録できますが、その旨を宗田まで申し出てください。

(注 4) 後期に開講される、財務会計論、コンピュータ会計を履修する予定の学生は、必ず、簿記論 I, II を履修してください。

授業科目	経営学総論	担当者	瀬口 毅士
	〔履修年次〕 1年 (注) 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経営学の全体像を理解する。</p> <p>【概要】 この授業では、経営学に関する様々なテーマを体系的に講義する。経営学に初めて触れる人を対象に、分かりやすい説明から始めつつ、経営学の主要論点を解説していく。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営学の全体像を理解してもらう。 2. 各回のつながり (各分野のつながり) を意識してもらう。 3. 経営学に関する各専門の講義を受講するための基礎力をつける。 		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン：授業の進め方を説明し、経営学とはどのようなものかについて解説する。</p> <p>第2回 経営学の誕生と経営管理論：テイラーの科学的管理法とその後の管理論の展開について講義する。</p> <p>第3回 経営戦略論 (1)：経営戦略の定義、3つのレベル、企業戦略のそれぞれについて説明する。</p> <p>第4回 経営戦略論 (2)：ポジショニング・アプローチと資源ベース・アプローチに区分し、競争戦略論を解説する。</p> <p>第5回 経営組織論 (1)：組織構造論に焦点を当て、代表的な組織構造を中心に講義する。</p> <p>第6回 経営組織論 (2)：組織行動論について、組織文化論などを中心に講義する。</p> <p>第7回 人的資源管理論：モチベーション理論およびリーダーシップ論について、代表的な学説を検討する。</p> <p>第8回 生産管理論：主にトヨタ生産システムを取り上げながら、生産のあり方について講義する。</p> <p>第9回 株式会社制度：主要な会社形態である株式会社制度について理解を深めてもらう。</p> <p>第10回 コーポレート・ガバナンス：企業は誰のためのものか、そして、どのように運営していくべきかについて講義する。</p> <p>第11回 日本の経営論：米国企業と対比させながら、日本企業の特徴とその変遷について説明する。</p> <p>第12回 国際経営論：国際経営の特徴、および国際経営を行う際に生じる問題を提示する。また、時事問題も取り上げる。</p> <p>第13回 企業の社会的責任論：様々な企業不祥事と企業の社会的責任について考えてもらいたい。</p> <p>第14回 環境経営論：近年とくに注目されてきている環境経営について講義する。</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験60%+授業ごとに実施する確認テスト40%		

(注) 平成23年度は2年生も受講することができる。

授業科目	情報科学概論	担当者	岡村 俊彦
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピュータやネットワークなど情報科学全般の基礎知識を学ぶ</p> <p>【概要】 コンピュータ (ハードウェア、ソフトウェア、周辺機器) やネットワークの仕組みを知り、現代社会においてどのような役割があり、どのような問題点があるかを知る。結果として、効果的かつ適切なIT活用が可能となり、トラブル解決もできるようになる。また、ネットワークを安全に使うためのルール、マナーを学ぶ。また、授業の3分の1程度の時間を使い、ITに関する学生からの質問に対する解説をおこなう。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初心者向け情報関連雑誌を80%以上理解できる ・初心者に対して、パソコンやネットワークの安全、便利な運用に関する簡単なアドバイスができる ・調子の悪いパソコンを直す 		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開</p> <p>(2) 初心者向け情報関連雑誌</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明</p> <p>第2回 ハードウェアとソフトウェア：ハードとソフトの違いと役割</p> <p>第3回 パソコンの中身：パソコン内部の部品とその役割</p> <p>第4回 単位と容量と速度：情報処理や通信に関わる単位と容量、速度</p> <p>第5回 インターネットの仕組み：インターネットとネットワークの仕組み</p> <p>第6回 モニタ、光学ドライブ：モニタの種類と特性、光学ドライブの種類とメディア</p> <p>第7回 インターネットにまつわるあれこれ：インターネットに関する質問に対する回答</p> <p>第8回 電子メールの使い方：電子メールの仕組みと正しい使用方法</p> <p>第9回 インターフェイスと周辺機器：インターフェイスの種類と様々な周辺機器紹介</p> <p>第10回 ソフトの分類：ソフトウェアの分類と正しい使用方法</p> <p>第11回 コンピュータウィルス：コンピュータウィルスの仕組みと防御法</p> <p>第12回 セキュリティ対策：ネットワーク全般のセキュリティ対策</p> <p>第13回 これからのインターネット：インターネットの最新事例と今後の展開</p> <p>第14回 予備</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート (通常のレポート2回分が80%、授業中のショートレポートが20%)		

授業科目	文書作成実習	担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報機器を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】 情報機器を活用し、実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商PC検定(文書作成)対策を行い、資格取得を目指す。使用するアプリケーションソフトは前期同様「Microsoft Word」とし、Wordの応用機能も習得していく。</p> <p>【到達目標】 実践的なビジネス文書の作成能力の習得(日商PC検定文書作成3級合格レベルのスキルの習得)</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 富士通オフィス機器株式会社(著)『日商PC検定試験 文書作成 3級完全マスター』FOM出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 前期の復習・・・・・・・・概要説明, 前期の復習(基本的なビジネス文書の作成)</p> <p>第2回 社外文書の作成・・・・・・・・ビジネス文書の基礎知識, 社外文書の作成(案内状)</p> <p>第3回 社内文書の作成・・・・・・・・ビジネス文書のライティング技術, 課題文書作成(表を利用した文書の作成)</p> <p>第4回 ネット社会の特徴・・・・・・・・ネットワーク社会の特徴について, 社内文書の作成(連絡文書)</p> <p>第5回 デジタル情報の整理法・・・・・・・・デジタル情報の整理法について, 計算式を含む文書の作成</p> <p>第6回 図解の利用・・・・・・・・ネットワーク関連の法律について, 課題文書作成(図解を利用した文書)</p> <p>第7回 検定対策・・・・・・・・文書作成3級検定模擬問題演習(知識科目, 実技科目)</p> <p>第8回 検定対策・・・・・・・・文書作成3級検定模擬問題演習(知識科目, 実技科目)</p> <p>第9回 検定対策・・・・・・・・文書作成3級検定模擬問題演習(知識科目, 実技科目)</p> <p>第10回 文書の編集・・・・・・・・いろいろな応用機能(段組み, タブ, ヘッダー・フッターなど), 課題文書作成</p> <p>第11回 議事録の作成・・・・・・・・議事録の作成(スタイルの設定, セクション区切りの挿入など)</p> <p>第12回 報告書の作成・・・・・・・・課題文書(報告書)の作成(テンプレートの利用, 段落罫線など)</p> <p>第13回 Excelデータの利用・・・・・・・・Excelデータ(表, グラフ)の文書への取り込み</p> <p>第14回 総合復習・・・・・・・・これまでに学習した機能を利用した文書作成</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	定期試験(知識科目20%+実技科目60%) + 授業ごとに実施する課題(20%)		

(注) 経済専攻と経営情報専攻とは、別クラス

授業科目	応用文書処理	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 2年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ</p> <p>【概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己紹介文書作成: ワードプロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する 2) 提案書作成: インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する 3) ホームページ作成: 自分なりの大学のホームページを作成し、公開する。 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる ・わかりやすいドキュメントを作成する ・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。 		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布, Webでも公開</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明</p> <p>第2回 自己紹介文書作成1: ワードプロを使ったベース文書の作成</p> <p>第3回 自己紹介文書作成2: 表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合</p> <p>第4回 自己紹介文書作成3: 写真, 図の取り扱いとベース文書の結合</p> <p>第5回 自己紹介文書作成4: 仕上げ。印刷設定のコツ</p> <p>第6回 提案書作成1: インターネットによる費用検索</p> <p>第7回 提案書作成2: 表計算ソフトを使った自動計算書</p> <p>第8回 提案書作成3: プレゼン資料の作成</p> <p>第9回 提案書作成4: 仕上げ, データ送信のコツ</p> <p>第10回 ホームページ作成1: USBメモリへのソフトの導入。HTML概念の復習。</p> <p>第11回 ホームページ作成2: 課題設定とページ作成</p> <p>第12回 ホームページ作成3: 資料収集とページ作成</p> <p>第13回 ホームページ作成4: ページ公開</p> <p>第14回 予備</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート(3つの課題を総合的に評価: 100%)		

授業科目	PC データ活用	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 表計算ソフト Microsoft Excel 基本操作の習得 【概要】 表計算ソフト Microsoft Excel を使用し、作表や表計算といった基本操作はもちろんのこと、一歩進んだ操作知識や、効率的に作業を進めるための応用力を身につけられるような技術を学ぶ。 【到達目標】 表計算ソフト Microsoft Excel の基本操作を確実に習得する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 実教出版編集部 編『30時間でマスターWindowsVista 対応 Excel2007』実教出版 (2)		
授業スケジュール	第1回 Excel 基本操作確認 第2回～第3回 編集機能の活用、関数（合計・平均）の設定、書式設定などで見やすい表にする 第4回～第8回 計算式の設定の仕方・関数の設定（順位・条件など） 第9回～第11回 グラフ作成、編集 第12回～第13回 データベース機能 第14回 ピボットテーブル、ピボットグラフの作成 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業内での操作状況（70%）＋試験（30%）		

授業科目	PC データ活用実習	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 取得操作の実践活用 【概要】 前期習得した内容を活用出来るよう、さまざまな実践問題に取り組む。 【到達目標】 PC検定（データ活用）の3級・もしくは2級の取得		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 実教出版編集部 編『30時間でマスターWindowsVista 対応 Excel2007』実教出版 (2) 資料プリント		
授業スケジュール	第1回 前期の復習 第2回～第4回 演習 第5回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業内での操作状況（40%）＋授業内小テスト（30%）＋試験（30%）		

授業科目	PCアプリケーション実習	担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学習やビジネスの場で使用されている様々なアプリケーション・ソフトウェアを実践的に使いこなせるようになる。</p> <p>【概要】 本実習は前期の情報リテラシーII (E)・(F) の応用となるので、前期のクラス編成を継続する。情報リテラシーII で扱えなかった各種ソフトウェア (プレゼンテーション, PDF ファイル作成, OCR, 動画編集, HP 作成等) の基本的使い方を学習する。</p> <p>【到達目標】 上記ソフトウェアの基本的使い方に習熟し, 自ら実践的に応用できるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) なし (2) 随時, 資料ファイルを配信		
授業スケジュール	第1回 授業前アンケート (使用ソフトウェアの希望など) 第2回 Windows パソコンの基本的な扱い方の復習 第3回 プレゼンテーション・ソフトウェア PowerPoint (1) 第4回 プレゼンテーション・ソフトウェア PowerPoint (2) 第5回 PDF ファイルの扱い方・OCR の利用 第6回 PDF ファイルの扱い方・文書ファイルの統合 第7回 動画ファイルの扱い方・ムービーメーカーの使い方 第8回 動画ファイルの扱い方・ムービーの撮影 第9回 動画ファイルの扱い方・ムービーの編集 第10回 インターネットの応用・地図サイトの活用 第11回 ホームページの作成 (1) 第12回 ホームページの作成 (2) 第13回 ホームページの作成 (3) 第14回 総復習 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	課題と試験 (1:1) の結果を合せて評価		

11 經濟專攻專門科目

授業科目	日本経済論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本経済</p> <p>【概要】明治から現在までの日本の産業政策と、構造改革の下での福祉改革を中心に講義します(下記、授業スケジュールを参照)。</p> <p>【到達目標】現在、日本経済の進むべき方向について、さまざまな議論がなされています。しかし、そうした議論は一定の方向に収束する様子を見せず、真っ向から対立する議論が一層激しく戦わされているといった状況です。こうした状況では、自分自身で主体的に考え、判断できることが非常に重要となります。この講義では、日本経済の特質とその問題点、そして日本経済が過去や国際経済とどのようにつながっているのかについて理解を深め、日本の経済について主体的に考えられるようになることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 田代洋一・萩原伸次郎・金澤史男編『現代の経済政策 第3版』有斐閣		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等 第 3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義、その後の産業構造の変化等 第 4回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況、傾斜生産方式、1950年代前半の産業政策等 第 5回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等 第 6回 日本の産業と行政指導：勸告操短、企業の反発等 第 7回 開放体制への移行：IMF8 条国への移行、産業再編等 第 8回 1970年代の日本経済：2度のオイル・ショック、構造不況業種への対応、知識集約化・高付加価値化への動き等 第 9回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴・グループ内の結び付き、現在の状況等 第 10回 1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦、日米構造協議等 第 11回 現在の産業政策：産業活力再生特別措置法、現在の産業政策の特徴等 第 12回 グローバル化と構造改革：プラザ合意と国際協調、バブル崩壊後の動向、構造改革の本質等 第 13回 構造改革下の福祉改革：国民負担率に対する認識、構造改革下の福祉改革の内容と特徴等 第 14回 総括：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	財政学	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財政・財政学</p> <p>【概要】財政に関する基本的な概念や理論、日本の財政制度とそれが抱える課題に関する内容を中心に、グローバル化の影響等についても講義します(下記、授業スケジュール参照)。</p> <p>【到達目標】財政には、政府の活動が正直に反映され、その政府の活動は、社会のあり方や人々の生活、経済状況に非常に重要な影響を与えます。これからの日本の社会のあり方やそこでの人々の生活、経済状況は、国民一人一人の財政に対する判断によって、大きく変わることになるでしょう。そこで、本講義では、受講者が財政に関して自分自身で主体的に考え、判断できるようになることを目指し、財政に関する基本的な概念や理論、そして日本の財政の制度、実態、抱えている課題について理解を深めることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 金澤史男編『財政学』有斐閣		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 財政とは何か：財政の定義、政府に対する評価の揺れ、市場の失敗、政府の機能等 第 3回 予算(1)：定義、役割、予算原則等 第 4回 予算(2)：日本の制度、その抱えている課題、改革の方向等 第 5回 経費(1)：定義、経費を分析する意味、経費の分類等 第 6回 経費(2)：経費膨張の法則・転位効果、小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等 第 7回 租税(1)：定義、租税の根拠、代表的な租税原則等 第 8回 租税(2)：公平の基準、望ましい税制とは等 第 9回 公債(1)：定義、民間債務との対比、租税との対比、公債の種類等 第 10回 公債(2)：日本の国債発行における原則、制度、「ギリシャよりひどい」は本当か等 第 11回 財政投融资(1)：定義、運用対象、批判等 第 12回 財政投融资(2)：2001年度の改革、今後の展望等 第 13回 財政改革の基本的な見方：社会の変化と財政、本当の財政危機とは、財政改革で求められる視点等 第 14回 総括：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	農業経済論	担当者	田中 史朗
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 世界の中の日本農業—日本農業の針路—</p> <p>【概要】 世界および日本の農業動向と課題を分析・抽出し、世界の食料需給が逼迫化していく中で、いかに日本農業の再建を図り、地域社会再生に繋げていったらよいかを、多角的に検証し解明していく。</p> <p>【到達目標】 世界の人口推移と食料生産の動向、そして日本農業の現状と諸問題の解明を踏まえて、日本農業の今後のありようを展望することのできる能力を身につけさせたい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回 世界の人口推移と食料生産の動向：地域別の食料需給動向と人口扶養力 第 2回 農産物貿易とフードマイレージ：地域別・国別農産物貿易の特徴とフードマイレージ 第 3回 マルサスの人口論と新マルサス主義：人口論，レスターブラウンと新マルサス主義批判 第 4回 農業の近代化と自由貿易政策：農業革命と自由貿易政策 第 5回 ヨーロッパ，新大陸，日本の農業の特徴と比較：経営規模と生産性 第 6回 途上国における「緑の革命」の功罪と限界について：緑の革命とは 第 7回 農業開発と環境問題：途上国の人口爆発と環境破壊 第 8回 食の安全と農業：遺伝子組み換え作物とBSE 第 9回 農業組織論：農業経営組織の種類と特徴 第 10回 日本農業の現状と課題（1）：国民経済に占める農業の地位と自給率 第 11回 日本農業の現状と課題（2）：農業の近代化と担い手 第 12回 戦後の日本農業政策の検証：「農業基本法」から「食料・農業・農村基本法」 第 13回 農業の再生への道標（1）：六次産業化と都市との交流 第 14回 農業の再生への道標（2）：食育，スローフード運動と所得補償方式 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時に実施するレポート(40%)＋期末試験(60%)		

授業科目	金融論	担当者	内田 昌廣
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「経済の血液」である金融は、個人の生活や企業活動を支えるとともに、その動向は仕事・生活にも大きな影響を与える。本講義では、金融論の入門講座として金融に関する基礎知識を学習するとともに、金融が経済に及ぼす影響など広い視野を養う。</p> <p>【概要】 金融の役割や金融機関が果たしている機能から、金融業界が直面している課題や最近の世界金融危機の原因まで、幅広いテーマを取り上げて金融というものの全体像を掴み、社会人として必要な金融リテラシーの基礎を養う。</p> <p>【到達目標】 金融機関の役割や金融市場など金融の基本的な知識を習得し、金融関連の情報に関心を持ち正しく理解できるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 日本経済新聞社編『ベーシック金融入門』日本経済新聞出版社(日経文庫)，安達智彦＋武蔵大学金融学科『金融の基本』日本実業出版社，家森信善『はじめて学ぶ金融のしくみ』中央経済社，岩崎博充『手こたえるように銀行がわかる本』かんき出版，株式フォーラム21『手こたえるように株・証券がわかる本』かんき出版，森宮康『保険の基本 新版』日経文庫		
授業スケジュール	第 1回 概要説明：講義の目的・進め方 / 序論：金融とは何か — お金が果たす役割，金融という機能とは？ 第 2回 銀行の役割 (1)：資金決済の仕組み，内国為替と外国為替，全銀システムと銀行間決済 第 3回 銀行の役割 (2)：銀行の業務(預金と貸付)，銀行の収益構造，信用創造メカニズム 第 4回 証券会社の役割 (1)：証券(株式・債券)の仕組み，証券発行市場，証券流通市場 第 5回 証券会社の役割 (2)：ブローカー業務，アンダーライティング業務，セリング業務，ディーラー業務 第 6回 保険会社の役割 (1)：保険の原理と機能，生命保険と損害保険 第 7回 保険会社の役割 (2)：間接金融の主体としての役割，機関投資家としての役割 第 8回 その他の金融機関：信託銀行，投資信託会社，消費者金融会社，クレジットカード会社など 第 9回 短期金融市場と外国為替市場：金融機関同士が取引する市場の仕組みと機能，市場金利，市場為替レート 第 10回 金利とは何か：利息，利率・利回り，金利はどうやって決まるのか，割引現在価値とは 第 11回 日本銀行と金融政策：日本銀行の金融調節，金融引き締め・金融緩和，量的緩和政策 第 12回 金融システムの安定化のための政策 (1)：銀行に対する規制，預金者保護の制度 第 13回 金融システムの安定化のための政策 (2)：証券会社・保険会社に対する規制，投資家や保険契約者保護の制度 第 14回 バブル経済崩壊と世界金融危機：日本のバブル経済と崩壊，世界金融危機などのように起こったか 第 15回 まとめと試験 (※ 講義の進み具合によって予定を変更する場合があります)		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	法學特講	担当者	疋田 京子
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「家族の法」、ライフスタイルの多様化によって家族に関する法はどのように変化しているのか</p> <p>【概要】社会の急激な変化が起こるとき、必ずといっていいほど家族法の大改革が行われてきた。すなわち、社会と家族と家族法とは密接に連動しながら変化している。先進国では、戦後の高度経済成長による社会と家族の変化に対応して、制度の拘束を緩め(脱制度化)、当事者の自由な意思によって多様な家族関係の形成を認める(契約化)方向で、ほとんど例外なく家族法の大改正を経験してきた。これに対し、日本では、戦後の家族法大改革以降、家族法はそれほど大きな改正を受けることなく安定性を示してきた。しかし、その日本でも、1970年代後半以降、経済の低成長時代に入ってから、社会と家族の大きな変化を痛切に感じるようになった。</p> <p>【到達目標】戦後、日本国憲法制定に伴う家族法大改革によって制定された家族法は、なぜ大きな改革をすることなく社会に適応してきたのか。中核となる民法の家族法の全体像と、現在、どのような家族法の改革が要請されているのかを理解すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 利谷信義『家族の法』(有斐閣) (2) 講義時に指定する。		
授業スケジュール	第1回 家族の法を考える：「家族法」とは何か 第2回 現代家族を保障してきた現行家族法：戦後・家族法の主な改正点 第3回 家庭裁判所の役割：現行家族法の柔軟性 第4回 現行家族法の役割と問題点—国際的な人権確立の動きと家族法改正への動き 第5回 法的に見た結婚(1) 結婚をめぐる社会の動きと日本の婚姻制度 第6回 法的に見た結婚(2) 結婚と財産 第7回 離婚制度(1)：日本の離婚制度の概要と特色 第8回 離婚制度(2)：協議離婚と調停・審判離婚、裁判離婚 第9回 離婚後の生活(1)：子どもと財産 第10回 離婚後の生活(2)： 第11回 親子と法(1) 夫婦と親子の違い 第12回 親子と法(2) 内縁と認知 第13回 相続法の全体の仕組み 第14回 相続をめぐる意識と法 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験(70点) + 授業ごとに書いてもらう小レポート(30点)		

授業科目	簿記論Ⅱ	担当者	臼谷 健一
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業における諸取引と決算の処理について学習する。</p> <p>【概要】 やや複雑な取引の処理、決算に必要な処理を学習し、「簿記論Ⅰ」で学習した簿記一巡の手続きと合わせて損益計算書や貸借対照表といった財務諸表の作成方法を学習する。なお、簿記の知識・理論の勉強とともに、多くの問題にあたることによって定着するため、毎回の講義で問題演習を課す。</p> <p>【到達目標】 日商簿記検定3級程度の仕訳・財務諸表の作成方法を習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記 3級商業簿記』税務経理協会 (1) 加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック 3級商業簿記』税務経理協会		
授業スケジュール	第1回 「簿記論Ⅰ」の復習 第2回 売掛金と買掛金 (掛取引、売掛金元帳、買掛金元帳) 第3回 その他の債権・債務 (売掛金・買掛金を除く債権・債務) 第4回 手形取引① (約束手形、為替手形、手形の裏書・売却) 第5回 手形取引② (手形貸付金・手形借入金、手形記入帳) 第6回 貸倒損失と貸倒引当金 (貸倒れ、貸倒引当金) 第7回 売買目的有価証券 (売買目的有価証券の取得・売却・期末評価) 第8回 固定資産 (固定資産の取得・売却・減価償却) 第9回 費用・収益の繰延べと見越し (前払費用・未受収益、未払費用・未収収益) 第10回 消耗品の会計処理、資本と税金 (消耗品・消耗品費、引出金、租税公課) 第11回 試算表② (やや複雑な試算表、売掛金明細票・買掛金明細票) 第12回 8桁精算表 (決算整理事項、期末修正事項) 第13回 帳簿決算 (元帳の締め切り、損益計算書・貸借対照表の作成) 第14回 帳簿と伝票 (3伝票制・5伝票制) 第15回 まとめと試験 (※ 講義の進度によって予定を変更する場合があります)		
成績評価の方法	筆記試験(100%)		

授業科目	国際経済論	担当者	野村 俊郎
		[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化～トヨタのSPSと日系ブラジル人</p> <p>【概要】グローバル化が加速する21世紀の世界経済について、その制度的な枠組みをWTO, FTA, EPAを中心に、バラッサの経済統合の理論を参照しながら説明する。そのうえで、日本企業の急速な海外生産の拡大を量的な面から外観するとともに、海外工場に最新のモノづくりの技術が導入される一方で、国内マザー工場のイノベーションが停滞している現状をみていく。</p> <p>【到達目標】21世紀のグローバル化の現状を制度面と、その制度を活用する民間企業の活動の両面から理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	授業中に指示する。		
授業スケジュール	<p>第1回 21世紀のグローバル化の二つの方向：外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化</p> <p>第2回 WTOの仕組み：最恵国待遇、内国民待遇、数量制限の禁止、ドーハラウンド</p> <p>第3回 FTAとバラッサの5段階説：EU</p> <p>第4回 進展するFTAとEPAの限界：東アジア共同体かTPPか、NAFTA、メルコスル。日本のEPA戦略の意義と限界</p> <p>第5回 海外工場から始まる最新のモノづくり（中国1）：广汽トヨタにおけるSPSとリーン化の進展</p> <p>第6回 同上（中国2）：SPSと労働過程の変容～ネオテイラー主義からウルトラテイラー主義へ～</p> <p>第7回 同上（中国3）：サプライヤーパーク内専用道創設引き：JITからJISへの進化と負担転嫁</p> <p>第8回 同上（中国4）：日系自動車メーカーと中国金型産業</p> <p>第9回 同上（中国5）：中国金型産業の発展と限界</p> <p>第10回 同上（タイ）：トヨタモータータイランドにおけるコンベア同期台車式SPS</p> <p>第11回 同上（台湾）：国瑞汽車におけるAGV牽引同期台車式SPS</p> <p>第12回 同上（インドネシア）：TMMINにおけるハンガー式SPS</p> <p>第13回 内に向かうグローバル化：リーマンショックと生産のフレキシビリティ</p> <p>第14回 同上：リーマンショックと雇用のフレキシビリティ</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	アジア経済論	担当者	野村 俊郎
		[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】成長するアジアとアジア共同体への展望</p> <p>【概要】ヨーロッパ27カ国はヒト、モノ、カネの出入りが自由な共同体、EUを結成している。この27カ国は、地面の上には国境がなく、文字通り自由に出入りできる。アジアにも、こうした自由な共同体はできるのか？TPPと東アジア共同体の可能性を検討する。そのうえで、世界経済の成長を牽引する中国、インド、東南アジアの現状を概観する。以上の検討を踏まえて、アジア経済の未来を展望する。</p> <p>【到達目標】アジア共同体への道を、各国の発展の現状から理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	<p>第1回 アジアとヨーロッパ：統合に向かう成長と統合による成長</p> <p>第2回 アジア経済への道（1）：経済統合の5段階</p> <p>第3回 同上（2）：TPPによる完全自由化への道</p> <p>第4回 同上（3）：東アジア共同体による保護を残した自由化への道</p> <p>第5回 中国経済（1）：経済規模で日本を追い抜いた中国経済</p> <p>第6回 同上（2）：社会主義を目指す資本主義</p> <p>第7回 同上（3）：アメリカよりも「自由な市場経済の国」中国～改革開放30年の成果～</p> <p>第8回 インド経済（1）：インドの概況</p> <p>第9回 同上（2）：植民地から独立、管理経済を経て91年から自由化</p> <p>第10回 同上（3）：民族資本として成長するTATA</p> <p>第11回 東南アジアの経済（1）：タイとインドネシア</p> <p>第12回 同上（2）：マレーシア、フィリピン、ベトナム</p> <p>第13回 アジアの未来（1）：中国、インド、日本の役割</p> <p>第14回 同上（2）：アジア共同体への展望</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	国際関係論	担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史の変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】国際社会の現在の諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 原彬久編『国際関係学講義』（有斐閣、2006年）。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的、方法</p> <p>第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何か違うのか</p> <p>第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第7回 国際関係のなりたち4：朝鮮戦争とベトナム戦争</p> <p>第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバル化と貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：環境問題、人権、予防外交</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：9.11以後の世界</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：グローバルガバナンス</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	試験によって評価する。(100%)		

授業科目	比較文化	担当者	中谷 彩一郎
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーションとは何か。</p> <p>【概要】異文化理解・異文化コミュニケーションについて学ぶ。講義を通して単に知識を得るだけでなく、毎回個人あるいはグループによるワークを織り交ぜながら、異文化と接したときにどう対処すべきなのかを具体的に考えてみる。</p> <p>【到達目標】国際的視野から異文化を正しく理解し、コミュニケーションする方法を学ぶ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布		
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 文化・異文化とは？</p> <p>第3回 コミュニケーションとは？</p> <p>第4回 言語・非言語コミュニケーション1</p> <p>第5回 言語・非言語コミュニケーション2</p> <p>第6回 言語・非言語コミュニケーション3</p> <p>第7回 ステレオタイプと偏見</p> <p>第8回 価値観</p> <p>第9回 文化・文明の衝突</p> <p>第10回 異文化の理解</p> <p>第11回 カルチャーショックと異文化適応</p> <p>第12回 翻訳と通訳</p> <p>第13回 異文化コミュニケーションの方法</p> <p>第14回 多文化共生</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度(40%)、筆記試験(60%)		

授業科目	アジア事情	担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 東アジア, 東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】 アジアは、地理、歴史、言語、文化、宗教、民族など、すべての面において多様である。本講義では、「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも、「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては、植民地化や日本占領期という共通の時代性が、現代においては脱植民地化、国民国家建設、リージョナリズム（地域主義）の形成という共通性がある。また、最近「東アジア共同体」ということがしきりに叫ばれている。これらの共通する事象を抽出し、分析する。</p> <p>【到達目標】 「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。 (2) プリント		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：講義の目的と方法 第2回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか 第3回 歴史的形成1：植民地以前のアジア 第4回 歴史的形成2：植民地のようす 第5回 歴史的形成3：脱植民地化、国民国家建設、開発 第6回 歴史的形成4：冷戦下のアジア 第7回 東南アジア1：インドシナ三国 第8回 東南アジア2：ベトナム戦争の影響 第9回 東南アジア3：タイ、ミャンマー、マレーシア 第10回 東南アジア4：メコン河流域開発 第11回 東南アジアの地域協力体制：ASEANの形成 第12回 アジアにおける協力体制1：「東アジア共同体」について 第13回 アジアにおける協力体制2：「東アジア共同体」と日本 第14回 アジアにおける協力体制3：「東アジア共同体」の展望 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	レポートによって評価する。(100%)		

授業科目	ヨーロッパ事情	担当者	大重 康雄
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>ヨーロッパの現状を主に経済の視点でとらえ、ヨーロッパ(EU)がもたらす世界経済への影響や欧州統合での課題を考察する。</p> <p>【概要】</p> <p>ヨーロッパの地域統合(EU)から通貨統合およびその後の金融財政危機に至る過程に重点を置き、今後のヨーロッパ社会の展望について考える。特に平成23年度(2011年度)は国際経済危機後の経済状況が深刻化しており、EUにおける雇用や財政問題・環境・エネルギー問題への対処を米国や日本と比較し、将来への展望を全員で意見交換する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>ヨーロッパの地域統合(EU)の拡大と深化の現状と課題を学び、日本や東アジアまた地域経済の抱える課題解決の糸口を見出す。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済』有斐閣アルマ および講師作成プリント (2) 原輝史『現代ヨーロッパ経済史』有斐閣		
授業スケジュール	第1回 現在ヨーロッパで何が起きているか 第2回 ヨーロッパ産業資本の形成 第3回 ヨーロッパ統合の歴史 第4回 統一通貨ユーロとは 第5回 国際金融危機とEU財政諸問題 第6回 EU社会が抱える課題 第7回 イギリスとEU経済 第8回 フランスとEU経済 第9回 ドイツとEU経済 第10回 その他諸国とEU経済 第11回 EUと東欧・ロシアとの現状 第12回 EUと自由貿易協定(FTA) 第13回 欧州通貨と国際金融システム 第14回 ヨーロッパ社会と統合の将来 第15回 試験		
成績評価の方法	筆記試験(80%) + 出席点(20%)		

授業科目	国際経済特講	担当者	梅 允中
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ及び概要】 経済のグローバル化の進展は著しく、消費者のニーズも多様化していることによって、貿易取引を行う企業は増えつつあります。そこで、これからは、輸出入取引の仕組みや外国為替、貿易決済などの貿易実務の知識を得ることは重要です。この講義では、貿易実務について広く習得し、貿易実務担当者となるための知識を身に付けます。また、貿易実務を学習しながら、貿易英語も勉強します。</p> <p>【到達目標】 貿易実務担当者レベル</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	最新版 貿易実務 ハンドブック 日本貿易実務検定協会 編 発行所 中央書院		
授業スケジュール	第1回～第4回 輸入編 ・貿易とは、規制の確認、インコタームズ、輸入の流れ ・輸入採算、契約、海上貨物保険 ・決済方法、通関、貨物引取り 第5回～第8回 輸出編 ・輸出採算、輸出流れ、輸出信用状、輸出書類作成 第9回～第10回 外国為替編 ・外国為替の仕組み、為替リスク、外国為替と銀行取引 第11回 貨物海上保険 第12回 通関と関税 第13回 仲介貿易 第14回 貿易実例紹介 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	期末試験の成績（70％）に授業での発言内容及び予習の状況（30％）を加味する。		

授業科目	地域経済論	担当者	田中 史朗
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地域経済と第一次産業—地域再生の視角—</p> <p>【概要】 離島・半島など条件不利地域において（鹿児島県としてその例外ではなく、むしろ多く抱える）、どのような問題を抱え、どのようにして地域経済の再建と地域社会の再生を図っていったらよいかを、事例分析を通して、多角的に解析し、考察していく。</p> <p>【到達目標】 農山漁村地域の抱える諸問題の解明を踏まえて、それに対する政策的処方箋を導出するなど、地域学の視点から農山漁村地域の社会発展のありようについて考察できる能力を身につけさせたい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第1回 地域主義と地方の時代：地域問題と地域経済論 第2回 内発的発展論：地域社会の再生と持続可能な発展 第3回 地域づくり運動の展開：地域づくり運動の諸相と課題 第4回 農山漁村地域の活性化 実態編（1）：農山村地域での地域づくりとその手法 第5回 農山漁村地域の活性化 実態編（2）：漁村地域での地域づくりとその手法 第6回 資源管理論：コモンズの悲劇と広域的資源管理組織 第7回 里海・里山は誰のものか：地域資源の利用・管理とコンフリクト 第8回 第一次産業の担い手問題：後継者対策とU・Iターン者 第9回 地域リーダー論：地域リーダーの特徴、育成、そして役割 第10回 経営組織論：地域づくりと経営組織形態 第11回 農山漁村地域の組織問題：異種間連携とホロニック 第12回 農林水産物の流通機構と価格形成：付加価値向上に向けての取り組み 第13回 地域システムの形成：ハブ型リレーションシップからネットワークへ 第14回 農山漁村地域再生への道標：事業開発への挑戦と生活文化の再生 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時に実施するレポート(40％)+期末試験（60％）		

授業科目	地域産業政策	担当者	田中 史朗
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地域経済の再建と地域社会の再生</p> <p>【概要】 閉塞感の漂う条件不利地域にあって、地域の持続的な発展に何が必要なのか、事例分析を踏まえて解明していきたい。</p> <p>【到達目標】 地域のニーズを知る力、地域の課題や問題点を的確に捉えて、その解決のために必要な施策を考える力を鍛錬したい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回 条件不利地域の現状と諸問題：条件不利地域とは 第 2回 日本における地域開発の特徴：工業化と都市化の進展 第 3回 日本における地域開発の功罪 実態編（1）：全国総合開発計画と高度経済成長 第 4回 日本における地域開発の功罪 実態編（2）：格差の拡大と公害問題 第 5回 経済のグローバル化の進展と産業の空洞化現象：円高ドル安とリゾート開発 第 6回 内発的発展論と地域経済の再建：地域資源と地域づくり 第 7回 地域再生のための手法：六次産業化と生活文化の再生 第 8回 農村地域再生への取り組み 実態編（1）：自然生態系との共生モデル他 第 9回 山村地域再生への取り組み 実態編（2）：地域資源活用型ビジネスモデル他 第 10回 漁村地域再生への取り組み 実態編（3）：地域まるごとブランド化と都市との交流 第 11回 地方都市再生への取り組み 実態編（4）：中心市街地活性化とコンパクトシティ 第 12回 地方都市再生への取り組み 実態編（5）：歴史的建造物・街並み修復保全型街づくりと観光事業 第 13回 地方都市再生への取り組み 実態編（6）：自然景観と芸術文化による地域づくり 第 14回 地域再生のための内発的発展モデル：人、組織、環境、産業 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時に実施するレポート(40%)+期末試験(60%)		

授業科目	地方自治論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地方自治, 地方行財政</p> <p>【概要】 地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係の特徴は何かといった視点を踏まえて、地方自治に関する基本的な理論や制度について講義するとともに、参考になるとと思われる海外の事例も取り上げます(下記、授業スケジュールを参照)。</p> <p>【到達目標】 地方自治に関する基本的な理論、そして日本の地方自治に関する制度やその課題について理解を深め、地方自治、地方行財政について、自分自身で主体的に考えられるようになることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 林健久編『地方財政読本 第5版』東洋経済新報社		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 地方自治：地方自治とは何か、地方政府の特徴、地方分権が求められる背景、グローバル化の影響等 第 3回 地方自治体の意思決定(1)：役所と議会の関係、国と地方自治体の関係等 第 4回 地方自治体の意思決定(2)：地方の予算制度、長の強い権限等 第 5回 地方自治体の財源(1)：三位一体の改革、地方債等 第 6回 地方自治体の財源(2)：地方財政健全化法について等 第 7回 地方自治体の財源(3)：地方交付税、国庫支出金等 第 8回 法定外税(1)：法定外税の定義、地方分権一括法での変更点、現在の傾向等 第 9回 法定外税(2)：受益・原因と負担の関係、可能性と問題点等 第 10回 市町村合併：「平成の大合併」とその背景、望ましい合併とは、現在の状況等 第 11回 市民参加・参画：歴史、求められている背景、藤沢市の事例等 第 12回 非営利組織：アメリカの非営利開発法人の事例等 第 13回 住民自治：シアトル・メトロの事例について 第 14回 総括：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	労働法	担当者	疋田 京子
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい労働）」とは何か</p> <p>【概要】1919年に国際労働機関（ILO）が結成されて以来、「人間らしい労働」の実現はその基本理念だった。そのILO発展の歴史を概観しながら、国際社会の中で日本がどのような対応をしてきたか。設立90周年になるILOが、現在、あえて「ディーセント・ワーク」をスローガンとして掲げているのはなぜなのか。日本の労働法の発展と現在を、国際社会の中に位置づける。</p> <p>【到達目標】グローバル化する社会の中で、労働の分野で「規制緩和」とはどのような意味をもち、どのような結果をもたらしているのかを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 資料を配布する。 (2) 講義時に紹介する。		
授業スケジュール	第1回 労働法前史：山本茂実『ああ野麦峠—ある製糸女工哀史』を読む 第2回 国際労働機関ILOの発展史 第3回 労働法とは：日本国憲法で保障された労働者の権利と労働法 第4回 労働基準法の目的と内容：労働基準法の概要と法の実効性を確保する方法 第5回 労働契約のルール：労働契約上の権利・義務 第6回 労働時間のルール：労働時間・時間外労働・割増賃金 第7回 休憩・休日のルール 第8回 労働時間規制の弾力化は何かをもたらしたか 第9回 女性雇用のルール：男女同一賃金の原則から男女雇用機会均等法制定まで 第10回 母性保護規定、育児・介護休業法、アフターマティブ・アクション 第11回 労働安全衛生と労災補償：過労死、パワー・ハラスメント 第12回 労働契約の終了：契約解除の自由と解雇制限、非正規雇用と雇い止め 第13回 竹信恵美子『ルボ雇用劣化不況』を読む 第14回 労働は商品ではない：労働の人間化とディーセント・ワーク 第15回 予備日		
成績評価の方法	レポート（60点）＋ 毎回の講義終了時に提出してもらおう小レポート（40点）		

授業科目	地域研究特講	担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の格差の状況について認識し、貧困の問題について国際社会はどのような対応をとってきたのかを講義する。</p> <p>【概要】本講義では、さまざまな国際協力・開発援助について取り上げる。最初に開発援助についての歴史について言及した後、国際機関、国家、地方自治体、市民が主体となった国際協力について概観する。</p> <p>【到達目標】さまざまな行為体が、さまざまなレベルで、多様な援助が行われていることを理解することが到達目標である。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。 (2) 新潟国際ボランティアセンター編『地方発の国際NGO：グローバルな市民社会に向けて』（明石書店、2008年）		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：講義の目的と方法 第2回 世界の現状1：数値からみる世界の格差 第3回 世界の現状2：グローバリゼーションの進展 第4回 第二次世界大戦後の国際経済体制：ブレトンウッズ体制について 第5回 途上国の開発：輸入代替工業化戦略と輸出志向工業化戦略 第6回 国際機関による援助1：さまざまな国際機関 第7回 国際機関による援助2：構造調整政策について 第8回 国家を主体とする援助1：ODAについて（1） 第9回 国家を主体とする援助2：ODAについて（2） 第10回 企業による社会活動：CSRを中心に 第11回 市民を主体とする援助1：NPOの活動（1） 第12回 市民を主体とする援助2：NPOの活動（2） 第13回 市民を主体とする援助3：NPOの活動（3） 第14回 人間の安全保障 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	試験によって評価する。（100%）		

授業科目	地方自治法	担当者	山本 敬生
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住民自治、団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で、地方公共団体の種類及び事務、住民の権利義務、条例と規則、議会、執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し、地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】地方自治法は、国と地方自治公共団体の役割分担、機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設、普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与、国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では、地方自治法をわかりやすく解説することで、地方自治法が地域主権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。</p> <p>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し、国と地方公共団体のあるべき関係を法的観点から考察できる力を習得することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 『ポケット六法』（平成23年度版）有斐閣2010年</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 地方自治の意義 第2回 地方公共団体の種類 第3回 地方公共団体の区域・事務 第4回 住民の権利義務(1) 第5回 住民の権利義務(2) 第6回 条例(1) 第7回 条例(2) 第8回 議会(1) 第9回 議会(2) 第10回 執行機関(1) 第11回 執行機関(2) 第12回 議会と長との関係 第13回 地方公共団体と国の関係 第14回 予算 第15回 まとめと試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民自治、団体自治、伝来説、固有権説、地方自治の本旨について ・地方公共団体の構成要素、都道府県、市町村について、 ・区域、機関委任事務、法手受託事務について ・住民、条例の制定改廃の請求、事務監査の請求について ・議会の解散請求、議員、長及び特定職員の解職請求、住民監査請求について ・条例制定権の範囲と限界、法令先占論、条例の効力について ・条例制定手続、条例と罰則、行政罰、規則の制定事項について ・議会の地位、町村総会、議会の組織、議会の権限、調査権について ・定例会、臨時会、議会の運営、定足数の原則、過半数議決の原則について ・長の地位、長の権限、長の職務の代理、地方公共団体の事務所について ・行政委員会の意義、長と行政委員会との関係、監査委員、教育委員会について ・再議制度、専決処分、長に対する不信任議決、議会の解散について ・国の関与の手続、法定受託事務の処理基準、国地方係争処理委員会について ・予算事前議決の原則、予算公開の原則、予算単一主義の原則について 		
成績評価の方法	筆記試験（90%）＋授業での発言の記録（10%）を基準に、総合的に評価する。		

12 経営情報専攻専門科目

授業科目	簿記論Ⅱ(経営情報専攻)	担当者	宗田 健一
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式(黒板とパワーポイントの併用)		
テーマ及び概要	【テーマ】 複式簿記と財務諸表 【概要】 簿記論Ⅰなどで簿記一巡の手続きを学修した学生を対象として、諸取引の処理と決算に関して学習します。また、新聞記事などをもとにして社会における簿記・会計の役割について学習します。 【到達目標】 複式簿記の記録・計算の知識と技術の修得により、最終的に、財務諸表(損益計算書・貸借対照表)の作成が行えるようになる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 蛭川幹夫『基本簿記』実教出版, 2010年。 蛭川幹夫他『基本簿記演習』実教出版, 2010年。 (2) 随時紹介		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス:履修登録確認, コース・パケット配布, 諸取引1:現金・現金過不足 第2回 諸取引2:当座・小口現金 第3回 諸取引3:商品売買取引(3分法) 第4回 諸取引4:掛取引 第5回 諸取引5:手形取引1 第6回 諸取引6:手形取引2 第7回 諸取引7:その他の債券, 債務 第8回 復習, 小テスト1 第9回 諸取引8:売買目的有価証券 第10回 諸取引9:固定資産 第11回 諸取引10:資本金と税金 第12回 諸取引11:決算整理1 第13回 諸取引12:決算整理2 第14回 諸取引13:伝票 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	小テスト・予習・復習の状況(20%), および最終試験(80%)で評価します。 第1回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。		

(注1) 経営情報専攻(宗田)と経済専攻(臼谷)とは、別クラスです。

(注2) 2011年度の経営情報専攻の簿記論Ⅰは前期に開講されます。簿記論Ⅱを履修する学生は、必ずセットで簿記論Ⅰの履修登録を行ってください。

(注3) 2010年度以前に簿記論Ⅰのみを履修済みの学生も2011年度に簿記論Ⅱを履修登録できますが、その旨を宗田まで申し出てください。

(注4) 後期に開講される、財務会計論、コンピュータ会計を履修する予定の学生は、必ず、簿記論Ⅰ,Ⅱを履修してください。

授業科目	経営管理論	担当者	竹中 啓之
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義形式		
テーマ及び概要	【テーマ】 企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。 【概要】 2人以上の個人が集団として活動する場合、そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり、その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。 したがって経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり、このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では、彼らが、ある目的を実行するためにどのように組織を効率よく調整し、組織内部にいる関係者のみならず、組織外部のさまざまな状況と関わり合いを持ち、対処しているのかを講義していきます。 【到達目標】 組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門用語を知る。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 講義中に随時指示する		
授業スケジュール	第1回 講義概要の説明:今後の講義の概要について説明する 第2回 経営学と経済学の違い:経営学と経済学の考え方の違いについて説明する 第3回 経営学の発展と必要性:経営学の必要性について説明する 第4回 株式会社の特徴とは何か:株式会社の特徴について説明する 第5回 組織と個人の関わり方:組織と個人の関わり方について、企業文化等を通して考える 第6回 組織内での人の動かし方:組織における人間観について 第7回 人はなぜ働くのか:人はなぜ働くのかを考える 第8回 日本の経営を考える:日本の経営を説明する 第9回 成果主義とはどのような制度か:成果主義の考え方を説明する 第10回 組織構造とそのポジション(1):組織構造の仕組みについて説明する 第11回 組織構造とそのポジション(2):組織構造の問題点について説明する 第12回 経営管理と経営戦略:経営管理と経営戦略の考え方の違いについて説明する 第13回 企業は誰のものか:企業は誰のものか考える 第14回 経営者の役割とは何か:経営者の役割を考える 第15回 まとめと試験:まとめと試験を行う		
成績評価の方法	前期筆記試験(70%), 授業でのレポート(30%) (予定) 詳細については、1回目の講義で説明します。		

授業科目	経営組織論	担当者	朝日 吉太郎
		[履修年次] 1, 2年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 資本の生産力を高める諸手段とその結果生じる企業環境の変化をとらえます。</p> <p>【概要】 資本主義企業は生産力を高めるための競争を絶え間なく続けることを強制されています。生産力の上昇は人間が自然を加工する力の上昇を意味し、より豊かな富や労働の軽減による余暇を人々に保証する可能性を持ちますが、現実の資本主義の下では、むしろ、失業や労働苦が拡大される条件に変化しがちです。技術開発の影響や労働組織の編成の歴史に触れながら、生産性の向上と人間らしい職場とを統合するシステムについて検討します。前期開講の社会政策の講義が参考になります。</p> <p>【到達目標】 経営組織の変化が生産力と労働者に与える諸側面についての法則的な理解に基づいて、今日の日本の企業組織の変化をとらえる視点を養います。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 特に指定しません。</p> <p>(2) 清野良榮編著『分析・日本資本主義』文理閣 朝日吉太郎編著『グローバル化とドイツ経済。社会システムの新展開』文理閣</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 経営学の対象と課題 : オリエンテーション</p> <p>第2回 労働と経営 : 資本主義生産様式の理解の復習</p> <p>第3回 資本の生産性と労働組織の発展 : 資本の生産力とその展開の原理を理解する。</p> <p>第4回 協業 : 資本主義の一般的組織形態である協業の理解する</p> <p>第5回 分業 : 分業の持つ生産力と労企業の組織構成の変化をとらえる</p> <p>第6回 機械制大工業 機械制と生産力 : 機械制大工業の発展法則とその組織構成への影響を理解する</p> <p>第7回 機械性大工業と直接的生産の諸結果 : 機械性大工業の労働者、労働市場、労働過程への影響を理解する</p> <p>第8回 監督労働 : 企業の巨大化に伴う、マネジメント組織の発展を検討する</p> <p>第9回 フォーディズム : 大量生産体制とアブセンティズムなど労働疎外を検討する。</p> <p>第10回 モダンタイムズの世界 : 20世紀初頭の巨大工業の発展を当時の人々の視点から、感じてみる</p> <p>第11回 ボルボイズムと労働の人間化要求 : スウェーデンの自動車会社での労働の人間化の取組を検討する</p> <p>第12回 ドイツの共同決定 : ドイツにおける共同決定による経営参加を検討する。</p> <p>第13回 日本の経営論 : TQC等、アメリカの経営手法が日本で展開した理由を検討する。</p> <p>第14回 グローバル化と財界の新日本の経営戦略 : 日本財界のグローバル化戦略をとらえて、今日の職場問題を検討する。</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	論述試験 (80%) レポート (20%)		

授業科目	管理会計論	担当者	臼谷 健一
		[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業内における会計データの利用法について学習する。</p> <p>【概要】 「何をすべきか」という意思決定と「どの程度うまくできたか」という業績評価の2つの活動を支援することが管理会計の主な目的であり、この目的のために多くの技法が開発・利用されてきた。それらの技法が意思決定と業績評価にどのように貢献するのかについて学習する。</p> <p>【到達目標】 管理会計における各種技法の意義と特徴を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 林總『うちの社長に読ませたい100文字でわかる会計』(2007) KKベストセラーズ、プリント</p> <p>(2) 浅田孝幸他『管理会計・入門—戦略経営のためのマネジリアル・アカウンティング』(2005) 有斐閣アルマ</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 講義ガイダンス、管理会計のフレームワーク (外部報告会計と内部報告会計)</p> <p>第2回 原価概念 (発生形態別分類、発生態様別分類)</p> <p>第3回 原価計算① (伝統的原価計算)</p> <p>第4回 原価計算② (活動基準原価計算)</p> <p>第5回 原価計算③ (活動基準原価計算の応用)</p> <p>第6回 原価企画 (原価維持・原価改善・原価企画、VE)</p> <p>第7回 損益分岐点分析 (変動費、固定費、貢献利益)</p> <p>第8回 経営計画と予算 (理念・戦略・計画・予算、予算差異分析)</p> <p>第9回 事業部制組織 (職能別組織、事業部制組織)</p> <p>第10回 業績評価 (投資利益率、残余利益)</p> <p>第11回 バランス・スコアカード (BSCの4つの視点、因果関係)</p> <p>第12回 キャッシュフロー経営 (キャッシュフロー計算書)</p> <p>第13回 部分最適と全体最適 (制約理論)</p> <p>第14回 ポートフォリオ・マネジメント (ポジショニング、競争戦略)</p> <p>第15回 講義のまとめ</p> <p>(※ 講義の進度によって予定を変更する場合があります)</p>		
成績評価の方法	小テスト (計4回、各25%) ※期末定期試験は実施しません。		

授業科目	比較経営論	担当者	瀬口 毅士
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経営システムの多様性を知ろう</p> <p>【概要】 この授業では、様々な国の経営を取り上げ、経営システムの比較を行う。まずは日本の経営システムを理解した後、欧米・アジア各国の経営システムを取り上げる。</p> <p>【到達目標】 各国の歴史、政治、経済、地理、などによって、経営のあり方が異なることを知る。また、経営システムの多様性や経路依存性が存在することを理解すること、を目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第 1回 インTRODクシヨン：授業の進め方や経営比較の視点について解説する。 第 2回 日本の経営（1）：日本企業の概要、歴史、統治構造などについて解説する。 第 3回 日本の経営（2）：日本企業について、戦略や組織の側面から検討する。 第 4回 日本の経営（3）：日本企業の生産方式、労使関係などについて講義する。 第 5回 アメリカの経営（1）：アメリカ企業の歴史および統治構造や経営システムの特質について講義する。 第 6回 アメリカの経営（2）：アメリカ企業の経営について、戦略、組織、生産、労働、などの側面から検討する。 第 7回 イギリスの経営（1）：イギリス企業の歴史および統治構造や経営システムの特質について講義する。 第 8回 イギリスの経営（2）：イギリスのなかでも、特に工場労働における労使関係を取り上げ、説明する。 第 9回 フランスの経営：フランス企業の歴史および統治構造や経営システムの特質について講義する。 第 10回 ドイツの経営：ドイツ企業の歴史および統治構造や経営システムの特質について講義する。 第 11回 中国の経営：中国企業を取り巻く環境の変化や統治構造、経営システムの特質について講義する。 第 12回 韓国の経営：韓国企業の歴史および統治構造や経営システムの特質について講義する。 第 13回 その他の国々の経営：第 12 回までに取り上げなかった国々の経営システムについて講義する。 第 14回 グローバル競争：これまで見てきた国々が、グローバル市場という同じ舞台上、どのようにしのぎを削っているかを見る。 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 60% + 授業ごとに実施する確認テスト 40%		

授業科目	経営分析	担当者	臼谷 健一
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業経営を診断、分析するために必要な各指標について学習する。</p> <p>【概要】 実在する企業の、財務諸表やその他のデータを用いながら、財務諸表の読みかたや、企業の安全性・収益性・成長性を分析するために必要な指標について学習する。</p> <p>【到達目標】 各種の指標の意味について理解し、それらの指標を用いて企業の経営状態を分析できる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 佐藤裕一『ビジュアル 経営分析の基本』日本経済新聞社、プリント		
授業スケジュール	第 1回 講義ガイダンス、経営分析の基礎①（目的、情報の入手） 第 2回 経営分析の基礎②（貸借対照表） 第 3回 経営分析の基礎③（損益計算書） 第 4回 経営分析の基礎④（連結決算） 第 5回 安全性分析①（他人資本、自己資本） 第 6回 安全性分析②（キャッシュフロー） 第 7回 安全性分析③（資本回転率） 第 8回 収益性分析①（売上高利益率） 第 9回 収益性分析②（資本利益率） 第 10回 収益性分析③（付加価値） 第 11回 成長性分析①（売上高伸び率、利益伸び率） 第 12回 成長性分析②（配当性向） 第 13回 総合分析①（1株あたり純資産、1株あたり純利益） 第 14回 総合分析②（その他の評価項目） 第 15回 講義のまとめ （※ 講義の進度によって予定を変更する場合があります）		
成績評価の方法	期末レポート（100%）		

授業科目	企業行動科学	担当者	竹中 啓之
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業経営における意思決定やリーダーシップについて考える</p> <p>【概要】行動科学とは、個人や集団の形で人間が行う行動に関して、その動機・過程・効果を実際におこった事実をもとにして記述し、説明し、分析していく記述論的アプローチを行うものである。そのためには経営学だけではなく、心理学・社会学・経済学などの諸学問の境界を超えた学際的な考え方が必要となる。</p> <p>この講義ではこのようなアプローチ方法を前提として、企業における意思決定過程の分析を試みることにする。企業目的を達成するために、一つの企業行動として意思決定を調整する方法について説明する。またそのほかにも、リーダーシップ論やヒトの動機づけ理論についても取り上げる。</p> <p>【到達目標】組織における意思決定プロセスを理解する。リーダーシップの主要な理論に触れる。主要な動機づけ理論を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定 (2) 講義中に随時指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明：講義の概略を説明する 第2回 意思決定プロセスとはどのようなものか：意思決定プロセスについて説明する 第3回 組織の意思決定：組織の意思決定について説明する 第4回 集団での意思決定は優れているのか：集団での意思決定が優れているかどうか考える 第5回 組織の運営と個人の役割：組織の運営における個人の役割を考える 第6回 意思決定のスピードと組織構造：意思決定のスピードと組織構造の関係を考える 第7回 組織文化が意思決定に与える影響：組織文化が意思決定に与える影響を考える 第8回 インセンティブシステム（動機づけ理論）（1）：動機づけ理論について説明する 第9回 インセンティブシステム（動機づけ理論）（2）：動機づけ理論の問題点について説明する 第10回 リーダーシップとは何か（1）：リーダーシップ論について説明する 第11回 リーダーシップとは何か（2）：リーダーシップ論の問題点について説明する 第12回 上司と部下の関係を考える（1）：上司と部下の関係について説明する 第13回 上司と部下の関係を考える（2）：問題のある上司に当たったときの対処法を考える 第14回 卒業式は自由な人生の終わりか：大学での学びについて考える 第15回 まとめと試験：まとめと試験を行う</p>		
成績評価の方法	<p>前期筆記試験（70%）、授業でのレポート（30%）（予定） 詳細については、1回目の講義で説明します。</p>		

授業科目	経営戦略論	担当者	竹中 啓之
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営戦略の基本的な考え方を説明し、実際に行われている企業活動との関わりを考える</p> <p>【概要】経営戦略とは、企業全体の活動を視野に入れた「企業戦略」と、より具体的な競争戦略を実行する「事業戦略」に大きく分けることができる。この講義では、まず時代と共に戦略論がどのように変化してきたかを概観し、「企業戦略」の重要性について考える。次に、競争に勝ち抜くためのより具体的な「事業戦略」についていくつかの視点を取り上げ、多様な競争に勝ち抜く方法を考えていく。また、実際の企業がこのような戦略をどのように捉え、活用しているのかについても調べていくことにする。</p> <p>【到達目標】経営戦略論の概要を理解する。「企業戦略」の重要性を知る。多様な競争戦略の方法を知る。実際の企業戦略について触れる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定 (2) 講義中に随時指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 講義の概要：講義の概要を説明する 第2回 経営戦略の概念：経営戦略の全般的な考え方を説明する 第3回 企業戦略とはどのようなものか（1）：企業戦略とはどのようなものかを考える 第4回 企業戦略とはどのようなものか（2）：企業戦略を考える意味を説明する 第5回 企業ドメイン(事業領域)の戦略（1）：企業ドメインの考え方について説明する 第6回 企業ドメイン(事業領域)の戦略（2）：企業ドメインの問題点について説明する 第7回 経営戦略と経営資源（1）：経営資源と経営戦略の考え方について説明する 第8回 経営戦略と経営資源（2）：経営資源の考え方を応用した経営戦略を考える 第9回 事業戦略・競争戦略：創発戦略・学習アプローチについて考える 第10回 具体的な競争戦略（1）：競争戦略について考える 第11回 具体的な競争戦略（2）：競争戦略の類型について考える 第12回 相手にしない戦略一反撃を予想した戦略：競争しない競争戦略と考える 第13回 実際の企業における競争戦略を考える：具体的な企業の戦略例を説明する 第14回 新規創出戦略：新規創出戦略について考える 第15回 まとめと試験：まとめと試験を行う</p>		
成績評価の方法	<p>後期筆記試験（70%）、授業でのレポート（30%）（予定） 詳細については、1回目の講義で説明します。</p>		

授業科目	企業論	担当者	朝日 吉太郎
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 資本主義的企業の発展法則をベースにグローバル化の中の企業戦略を考えます。</p> <p>【概要】 世界の政治・経済は、巨大な企業や企業集団に強く影響されています。このような企業が常に勝ち組みになる方策の一つが、市場万能主義をとる新自由主義の発想の根底にありました。ところが、これらの企業の暴走がバブル崩壊・経済危機となって現れ、多くの人々に強い否定的な影響を与えています。どうしてこのような自体になってしまったのでしょうか。現代資本主義の特徴である独占資本の形成発展と現状を法的にとらえながら、グローバル化の中での独占資本企業戦略の特徴、問題、課題について検討します。前期開講の社会政策の講義が参考になります。</p> <p>【到達目標】 日本の企業集団の成立と発展、今後の変化とそれに対応する能力を身につけ、今日の企業社会のあり方について考える力を身につけます。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) とくに定めなし。</p> <p>(2) 丸山恵也『批判経営学』-学生・市民と働く人のために</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 今日の経済の特徴と企業集団の力 : オリエンテーション</p> <p>第2回 資本主義と企業 : 資本主義的企業経営の原理をとらえる</p> <p>第3回 競争と機械化 : 生産性向上競争と企業巨大化の原理をとらえる</p> <p>第4回 蓄積と制限 : 資本蓄積の法則を理解する</p> <p>第5回 合理化投資 : 資本蓄積のための合理化投資の必然性と資本主義的人口法則をとらえる</p> <p>第6回 利潤と競争 : 企業利潤の理解と、特別利潤の形成原理を理解する</p> <p>第7回 商業資本 : 資本主義的商業資本の形成とその展開、制限を理解する</p> <p>第8回 利子生み資本 : 利子生み資本の基本原則を理解する</p> <p>第9回 銀行と信用、株式会社 : 銀行資本と株式資本を理解する。</p> <p>第10回 独占資本の形成と企業集団 : 独占の法則をとらえる</p> <p>第11回 企業集団と国家 : 企業集団の形成と企業集団と国家との連携を理解する</p> <p>第12回 日本資本主義の特徴 : 日本資本主義の社会構造と、その下での企業の運動をとらえる</p> <p>第13回 戦後日本資本主義と企業社会の形成 : 「日本的経営」の特徴を理解する</p> <p>第14回 グローバル化と企業集団の蓄積戦略の展開 : グローバル化の下での企業の多国籍化、国内での柔軟化をとらえる。</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	論述試験 (100%)		

授業科目	財務会計論	担当者	宗田 健一
	〔履修年次〕 1, 2年		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式 (黒板とパワーポイントの併用)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本の企業会計制度とその役割</p> <p>【概要】 本年度の財務会計論では、会計学を初めて学ぶ学生を対象として、制度会計の領域に関して講義を行います。財務会計論は、会計関連科目の基礎をなす科目です。企業の活動状況を財務情報に集約して適切に利害関係者に伝達したり、企業の公表する財務諸表を理解したりするためには、会計学の知識が不可欠となります。本講義では、制度会計(会社法会計と金融商品取引法会計)を中心として学習するとともに、財務諸表を読み解く知識と技術の獲得を目指します。</p> <p>【到達目標】 財務諸表の作成プロセスを理解する。財務諸表を読み解く基本的な知識と技術を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 片山覚他『入門会計学』実教出版、2009年。</p> <p>(2) 随時紹介</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録確認、コース・パケット配布、会計って何？</p> <p>第2回 会計と複式簿記：会計の定義・領域、複式簿記</p> <p>第3回 会計情報の利用者：利害関係者、会計のグローバル化</p> <p>第4回 会計情報の開示：制度会計、ディスクロージャー制度</p> <p>第5回 財務諸表1：財務諸表の体系</p> <p>第6回 財務諸表2：貸借対照表1</p> <p>第7回 財務諸表3：貸借対照表2</p> <p>第8回 財務諸表4：貸借対照表3</p> <p>第9回 財務諸表5：損益計算書1</p> <p>第10回 財務諸表6：損益計算書2</p> <p>第11回 財務諸表7：キャッシュ・フロー計算書1</p> <p>第12回 財務諸表8：キャッシュ・フロー計算書2</p> <p>第13回 財務諸表9：株主資本変動計算書1</p> <p>第14回 財務諸表10：株主資本変動計算書2</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	<p>講義への参加度 (発言や質問など) (5%) 期末試験 (95%) で評価します。</p> <p>第1回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。</p>		

(注1) 簿記論 I, II を履修済みであることを前提に講義を行います。

(注2) 後期に開講予定のコンピュータ会計を履修する予定の学生は、この財務会計論を履修してください。

授業科目	マーケティング論	担当者	瀬口 毅士
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】マーケティングを体系的に学ぶ</p> <p>【概要】マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための「仕組みづくり」である。現代社会においてマーケティングの役割はますます重要になってきている。この授業では、マーケティングの基本および現代のマーケティングについて講義していく。</p> <p>【到達目標】マーケティングについて理解してもらい、消費者としての視点および販売者としての視点を養ってもらう。すなわち、消費者として、購買してもらうために企業はどのようなマーケティングを行っているのかを理解し、「賢い消費者」になることである。同時に、販売者として、顧客にモノやサービスを売るためには、いかなる努力が必要かを知ることである。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション：授業の進め方を説明し、マーケティングの概要を解説する。</p> <p>第2回 マーケティングの誕生と基本概念：マーケティングの原点および押えておくべき基本概念を説明する。</p> <p>第3回 標的市場の選択：STPの概念を用いて、いかに標的市場を選定するのかについて講義する。</p> <p>第4回 市場・消費者行動分析：市場や消費者を分析するために何が必要か、具体的にどのような方法があるのかについて講義する。</p> <p>第5回 競争分析：ポーターやコトラーの戦略論を解説し、いかにマーケティング上の優位性を追求していくかを講義する。</p> <p>第6回 製品戦略：製品差別化戦略や製品ライフサイクル、製品開発プロセス、などを中心に解説する。</p> <p>第7回 価格戦略：価格設定の重要性とそれを戦略的に行う方法について説明する。</p> <p>第8回 プロモーション戦略：プロモーションの手段、およびそれらを組み合わせるプロモーション・ミックスについて説明する。</p> <p>第9回 流通戦略：流通の仕組みとチャネル選択の方法について説明する。</p> <p>第10回 ブランド戦略：強いブランドを築くことの重要性と、そのようなブランドを築くための基本戦略について解説する。</p> <p>第11回 経験価値マーケティング：代表的な事例を用いて、消費者の経験を演出する様々な方法を考えてもらう。</p> <p>第12回 関係性マーケティング：企業と消費者の相互関係のあり方と、両者の相互関係を通じた長期的関係の構築について見ていく。</p> <p>第13回 グローバル・マーケティング：国際的にマーケティングを展開する際、いかなる要素を考慮すべきかについて考えてもらう。</p> <p>第14回 ソーシャル・マーケティング：マーケティングにおける社会的責任について講義する。</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験60%+授業ごとに実施する確認テスト40%		

授業科目	経営工学	担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可能 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業などにおける運営業務の科学化</p> <p>【概要】 現在の企業活動においては、情報技術を有効に活用した情報収集、さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず、取引先も含めた情報も共有化されることで、より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では、企業活動において頻繁に行われる意思決定、例えば、生産スケジュールの立案や在庫管理など、その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。</p> <p>【到達目標】 企業活動における、ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 圓川隆夫・伊藤謙治、『生産マネジメントの手法』、朝倉書店		
授業スケジュール	<p>第1回 序論：経営工学とは</p> <p>第2回 投資計画：お金の現在価値と将来価値</p> <p>第3回 需要予測：過去のデータから未来を予測する</p> <p>第4回 生産スケジューリング：どんな順番で製品を作れば良いのか</p> <p>第5回 工程編成：均等に作業を割り当てるには</p> <p>第6回 プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには</p> <p>第7回 設備配置：設備のキャパシティはどれくらいいすれば良いのか</p> <p>第8回 生産計画：何をどれくらい作れば一番儲かるのか</p> <p>第9回 生産管理：トヨタ生産方式を中心とする生産管理</p> <p>第10回 作業分析：作業者の動作を分析する</p> <p>第11回 配送計画：配送順序を決める</p> <p>第12回 最短経路：一番近い道を探す</p> <p>第13回 在庫問題：在庫コストを少なくする</p> <p>第14回 評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + レポート (30%)		

授業科目	コンピュータ会計	担当者	宗田 健一
	〔履修年次〕 1, 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 実習方式 (一部、講義方式を含む。基本的なパソコン教室での講義。)		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 パソコンを用いた財務諸表分析</p> <p>【概要】 この科目では、簿記一巡の手続きに関して理解しており、財務会計に関する基本的な知識を有していることを前提に講義を行います。講義の前半では初歩的な会計用語の解説と財務諸表の見方に関して説明します。また、分析ツールのひとつとしてマイクロソフト社の表計算ソフト(エクセル)の使用を予定していますので、エクセルの基本的な操作に関して説明します。</p> <p>上記の初歩的な説明を行った後、講義の後半では、各種分析手法(成長性、収益性、安全性)について学習し、個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際、『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』(通称: EDINET (Electronic Disclosure for Investors' Network))を用いて実際の財務諸表データを入手して各種分析を行います。</p> <p>【到達目標】 基本的な財務諸表分析が行えるようになる。エクセルを用いて財務データを表やグラフに加工することができるようになる。実際のデータを用いた各種分析を行い、その結果の解釈を行うことができるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 片山覚他『入門会計学』実教出版、2009年。 (2) 随時紹介		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス:履修登録確認、コース・パケット配布、会計の全体像 第2回 会計情報の利用者:利害関係者、会計情報の入手方法(EDINETの使い方) 第3回 有価証券報告書:全体像、記載内容の確認、分析対象企業の絞り込み 第4回 財務諸表分析1:財務諸表分析とは、分析の視点 第5回 財務諸表分析2:安全性分析1 第6回 財務諸表分析3:安全性分析2 第7回 財務諸表分析4:収益性分析1 第8回 財務諸表分析5:収益性分析2 第9回 財務諸表分析6:成長性分析3 第10回 財務諸表分析7:キャッシュ・フロー分析1 第11回 財務諸表分析8:キャッシュ・フロー分析2 第12回 財務諸表分析9:その他の分析項目 第13回 時系列分析(2社以上) 第14回 同業他社比較分析(2社以上) 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	講義での発言内容、講義(毎回ではないが)で作成した資料(40%)、および期末レポート(60%)で評価する。 第1回目の講義においてコース・パケットを配布する。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示する。		

(注1) 簿記論I, IIを履修済みであることを前提に講義を行います。

(注2) コンピュータ会計を履修する予定の学生は、財務会計論を履修してください。

授業科目	応用データ活用	担当者	倉重 賢治
	〔履修年次〕 1, 2年いずれでも履修可能 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 リレーショナルデータベースの概念と基本操作</p> <p>【概要】 実務でのコンピュータ利用において、データベース処理ソフトは、非常に重要な役割を果たしている。この演習では、まず、リレーショナルデータベースの基本的な概念を論じる。次に、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社のAccessの操作を修得し、データベース設計に関する応用問題に取り組んでいく。</p> <p>【到達目標】 データベースソフトのAccessを利用して、簡単なシステム開発を行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 『30時間でマスター Access2007』, 実教出版 (2) きたみあきこ, 『Access2007 マスターブック』, 毎日コミュニケーションズ		
授業スケジュール	第1回 序論:リレーショナルデータベースの概念 第2回 Accessの操作: Accessとは 第3回 Accessの操作:レコードの並べ替え 第4回 Accessの操作:レコードの追加 第5回 Accessの操作:フォームの作成 第6回 Accessの操作:選択クエリの作成 第7回 Accessの操作:さまざまなクエリ 第8回 Accessの操作:データベースの設計 第9回 Accessの操作:リレーションシップの作成 第10回 Accessの操作:レポートの作成 第11回 Accessの操作:レポートのアレンジ 第12回 Accessの操作:マクロの利用 第13回 総合演習 第14回 総合演習 第15回 総合演習		
成績評価の方法	講義中の小テスト(40%) + 課題(60%)		

授業科目	プログラミング	担当者	倉重 賢治
		[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p>【概要】 プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。</p> <p>【到達目標】 (1) 基本的なプログラミング技術を身につける。 (2) VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定 (2) 立山秀利, 『ExcelVBA のプログラミングのツボとコツがゼッタイにわかる本』, 秀和システム</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 序論：プログラミングの概念 第 2 回 マクロ：マクロの登録と実行 第 3 回 エディタ：VBE (Visual Basic Editor) の使い方 第 4 回 VBA の利用：プロシージャ 第 5 回 VBA の利用：オブジェクト 第 6 回 VBA の利用：セルの操作 第 7 回 VBA の利用：演算子 第 8 回 VBA の利用：条件分岐 第 9 回 VBA の利用：繰り返し処理 第 10 回 VBA の利用：変数の利用 第 11 回 VBA の利用：関数の作成 第 12 回 VBA の利用：ユーザーフォーム 第 13 回 総合演習 第 14 回 総合演習 第 15 回 総合演習</p>		
成績評価の方法	講義中の小テスト (40%) + 課題 (60%)		

授業科目	情報論特講	担当者	倉重 賢治
		[履修年次] 1, 2年いずれでも履修可能 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報技術やその役割について</p> <p>【概要】 現代において、コンピュータやネットワークからなる情報システムは、各種業務を迅速に行う上で必要不可欠なものとなっており、データ分析やシミュレーションなど様々な意思決定の場でも用いられることが多い。この講義では、コンピュータやネットワークに関する基本的な事柄、コンピュータを用いた意思決定方法について学習を行う。</p> <p>【到達目標】 情報技術の基本的な事柄を学び、それらが実社会でどのように役に立っているのかを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 序論：講義の概要 第 2 回 情報技術の進化：コンピュータやインターネットの歴史 第 3 回 コンピュータの仕組み 1：ハードウェア 第 4 回 コンピュータの仕組み 2：ソフトウェア 第 5 回 ネットワーク技術 1：インターネットの概要 第 6 回 ネットワーク技術 2：インターネットのプロトコル 第 7 回 コンピュータの利用：データベースとプログラミング 第 8 回 情報セキュリティ 1：共通鍵暗号 第 9 回 情報セキュリティ 2：公開鍵暗号 第 10 回 シミュレーション 1：シミュレーションとは 第 11 回 シミュレーション 2：簡単なシミュレーションを体験する 第 12 回 意思決定 1：意思決定とは 第 13 回 意思決定 2：エクセルのソルバーの利用 第 14 回 データ分析：エクセルのデータ分析の利用 第 15 回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + レポート (30%)		

13 第二部商經学科教養科目
(教養一般)

授業科目	人間と文化	担当者	木戸 裕子・倉重 賢治・木下 朋美・轟 義昭・穴戸 克実 宗田 健一・斉藤 悦則
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択		〔学期〕 前期 (注) 〔授業形態〕 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文化という人間の営みを、人文・社会諸科学の多岐にわたる分野から考察する。</p> <p>【概要】県立短大の、三つの学科の7人の教員がそれぞれの分野から、世界各国さまざまな時代における「文化」とは何かを考察します。一週間という集中した期間で、さまざまな知見を学ぶことで、受講生にとって、時代と社会の趨勢を理解する幅広い教養を身につけることを期待します。</p> <p>【到達目標】各国、各時代の文化について、多方面から考え、理解する。また、考えたことを自分のことばで表現することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (必要に応じて後日指示します。) (2) 授業中、必要に応じて指示します。		
授業スケジュール (22年度の実績)	第1回 文化とは (木戸) 第2回 日本古典文学と文化 (俊寛説話の変遷) (木戸) 第3回 人間の感覚の定量化 (倉重) 第4回 人間の行動のモデル化 (倉重) 第5回 香りを楽しむ文化 (木下) 第6回 世界、日本、そして鹿児島のお茶と文化 (木下) 第7回 黒澤映画『乱』『蜘蛛巣城』と日本の因襲・文化1 (轟) 第8回 黒澤映画『乱』『蜘蛛巣城』と日本の因襲・文化2 (轟) 第9回 住宅の空間文化 (1)日本の間取りと歴史 (穴戸) 第10回 住宅の空間文化 (2)世界の間取りと暮らし (穴戸) 第11回 簿記・会計の歴史と文化1 (宗田) 第12回 簿記・会計の歴史と文化2 (宗田) 第13回 地域の文化資本1 (斉藤) 第14回 地域の文化資本2 (斉藤) 第15回 試験とまとめ		
成績評価の方法	レポートの提出 (80%) と毎回の授業の感想・意見等 (20%) で評価します。		

(注) 前期集中講義期間 (9月20・21日, 26日~30日の7日間)

授業科目	日本の歴史	担当者	永山 修一
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 南九州・南島の先史・古代・中世</p> <p>【概要】 日本全体の歴史の流れの中で、南九州から南島に生活した人々の姿を、なるべく最新の情報を使用しながら概観していきたい。</p> <p>【到達目標】 歴史的なものの見方や考え方を理解し、郷土の歴史に関心を持つ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 適宜プリントを用意する。 (2) 原口泉・永山修一・日隈正守・松尾千歳・皆村武一著『鹿児島県の歴史』(山川出版社, 1999年 第5版2007年)		
授業スケジュール	第1回 歴史の見方・資料と史料 (1) 第2回 資料と史料 (2) 第3回 資料と史料 (3) 第4回 資料と史料 (4) 第5回 考古学から見る南九州 (1) 第6回 考古学から見る南九州 (2) 第7回 神話・伝承の中の南九州 第8回 奈良時代の南九州―「薩摩国正税帳」をよむ (1) 第9回 奈良時代の南九州―「薩摩国正税帳」をよむ (2) 第10回 平安時代の南九州―京田遺跡出土木簡をめぐる 第11回 平安時代の南九州―交通路をめぐる 第12回 平安時代の南九州―墨書土器をめぐる諸問題 第13回 夜光貝と硫黄をめぐる歴史 第14回 キカイガシマをめぐる諸問題 第15回 奄美と琉球		
成績評価の方法	授業ごと的小テスト等 (60%) + レポート (40%)		

授業科目	日本文学	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択		〔学期〕 前期 〔授業形態〕 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 旅と文学</p> <p>【概要】 九州新幹線鹿児島ルート全線開業に伴い、鹿児島と九州各地、本州との行き来がますます盛んになりそうです。新幹線に限らず交通機関の発達した現代においても、人は旅することで様々な発見をします。そういう発見、体験は文学に豊富な題材をもたらしました。交通機関の発達していない古代において人は旅で何を感じ、どんな文学作品を書いてきたのでしょうか。本講義では旅を描いた文学作品に触れ、各時代の人々の考え、文化について学びます。</p> <p>【到達目標】 旅をテーマにした様々な文学作品に触れ文学のおもしろさを知る。自分の考えをことばで表現することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし。プリントを用意します。</p> <p>(2) 第1回授業で提示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 家にはあはれに盛る飯を・・・『万葉集』の旅</p> <p>第3回 はるばるも来ぬものかな・・・『伊勢物語』東下りの旅</p> <p>第4回 男もすなる日記といふものを・・・『土佐日記』の旅</p> <p>第5回 二千里の外、故人の心・・・『源氏物語』の旅1</p> <p>第6回 『源氏物語』の旅2</p> <p>第7回 あづま路の道のはてよりも・・・『更級日記』の旅</p> <p>第8回 都出でてけふ九日になりけり・・・『匡衡集』・『赤染衛門集』1</p> <p>第9回 『匡衡集』・『赤染衛門集』2 平安時代の転勤事情</p> <p>第10回 月日は百代の過客にして・・・『奥の細道』</p> <p>第11回 薩摩の旅・お江戸の旅・・・『垂邑詩集 (すいゆうししゅう)』1</p> <p>第12回 『垂邑詩集』2</p> <p>第13回 江戸の紀行集</p> <p>第14回 鉄道マニアの文豪 内田百閒『阿房列車』</p> <p>第15回 前期定期試験</p>		
成績評価の方法	レポートの提出 (80%) および講義に関する毎回の感想・意見等 (20%) で評価します。		

授業科目	こころの科学	担当者	石川 満佐育
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択		〔学期〕 前期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「科学としての心理学」について、学生の自己理解、他者理解に役立つような知識、研究例を紹介するとともに、その研究方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 心理学領域のうち、社会心理学、カウンセリング心理学、青年心理学のトピックスを取り上げながら進めていく。また、心理学的研究の理解を深めるために、実際に質問紙調査、実験等を体験してもらい実習も取り入れる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①心理学という学問領域の多様性について理解し、心理学的なものの方・考え方を養うことを目標とする。</p> <p>②自己理解・他者理解を深めるための知識を習得することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。</p> <p>(2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：心理学とは？</p> <p>第2回 心理学の基礎知識</p> <p>第3回 心理学の対象と研究方法</p> <p>第4回 社会心理学①：自己開示と自己呈示</p> <p>第5回 社会心理学②：対人認知</p> <p>第6回 社会心理学③：集団の影響</p> <p>第7回 社会心理学④：人とのつき合い方</p> <p>第8回 カウンセリング心理学①：カウンセリングとは？</p> <p>第9回 カウンセリング心理学②：自己理解のためのカウンセリング</p> <p>第10回 カウンセリング心理学③：ストレスへの対処</p> <p>第11回 カウンセリング心理学④：支援が必要な人たち</p> <p>第12回 青年心理学①：青年期の特徴</p> <p>第13回 青年心理学②：青年期の対人関係</p> <p>第14回 青年心理学③：進路選択・現代社会の中での自分</p> <p>第15回 まとめと 試験</p>		
成績評価の方法	感想・質問などのミニレポート提出：40%、試験あるいはレポートで評価：60%		

授業科目	比較文化	担当者	中谷 彩一郎
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ヨーロッパ文化史</p> <p>【概 要】 ヨーロッパの長い分裂と統合の歴史を、文化的側面から共時的かつ通時的に比較しながら概観する。資料を読んだり、画像や映像を見たりしながら、単なる事項の丸暗記ではなく、ヨーロッパ文化をできるだけ実感できるように配慮したい。</p> <p>【到達目標】 ヨーロッパ文化の流れを把握し、時代や国による違いが理解できるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布		
授業スケジュール	第 1回 ギリシア：ヨーロッパの基層 第 2回 ローマ：ヨーロッパ統合の先駆 第 3回 カロリング・ルネサンス：ローマ文化とキリスト教文化の融合 第 4回 ビザンツ文化：東のローマ 第 5回 中世の文化：ロマネスクとゴシック、大学 第 6回 ルネサンス：人文主義 第 7回 大航海時代：ヨーロッパ世界の拡大 第 8回 宗教改革：カトリックとプロテスタント 第 9回 近代ヨーロッパの成立：主権国家の形成、啓蒙主義 第 10回 17～18 世紀の文化：バロックとロココ、科学革命 第 11回 産業革命と市民革命：ヨーロッパの再編 第 12回 19 世紀の文化：ロマン主義、写実主義、自然主義 第 13回 20 世紀前半：二つの世界大戦とヨーロッパ 第 14回 戦後世界から 21 世紀へ：ヨーロッパ世界の「再統合」 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度 (30%) , 筆記試験 (70%)		

授業科目	アジア文化論	担当者	川野 和昭
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 東・南アジアと南九州及び南西諸島の竹の文化の比較。</p> <p>【概 要】 講師自ら行っているラオス北部の少数民族及び南九州、南西諸島のフィールドワークのデータを、「竹の文化」という切り口で、両地域の文化比較を行う。現地で撮影した映像を豊富に用いた講義を行う。</p> <p>【到達目標】 「竹の文化」をキーワードに、東南アジアの文化の特質を明らかにするとともに、日本列島及びアジアにおける鹿児島 の文化的アイデンティティを確認する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキストなし。その都度手作りの資料を配布する。		
授業スケジュール	第 1回 本講の概要、目的、方法、評価について。アジア地域の確認 第 2回～第 4回 焼畑文化、特に「竹の焼畑」文化。南九州から南西諸島 第 5回～第 8回 ラオス北部の「竹の焼畑」文化 第 9回～第 11回 稲作儀礼と稲作神話の比較 第 12回～第 14回 竹の生活道具の比較 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	学期末筆記試験 (60%) と授業への意欲 (40%)		

授業科目	日本国憲法	担当者	山本 敬生
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を体系的に理解した上で、日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに、基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年、その価値が問い直されている一方、新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では、国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権、平和に崇高な価値をおき、その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義、個人の尊厳の原理に基づき、個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として、人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。</p> <p>【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し、政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 小栗実編『新検証・日本国憲法』法律文化社 2007年 適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 『ポケット六法』（平成23年度版）有斐閣2010年</p>		
授業スケジュール	<p>第1回：憲法概論 第2回：基本権総論 第3回：包括的権利 第4回：精神的自由権(1) 第5回：精神的自由権(2) 第6回：経済的自由権 第7回：受益権 第8回：社会権(1) 第9回：社会権(2) 第10回：国会(1) 第11回：国会(2) 第12回：内閣 第13回：裁判所 第14回：財政 第15回：まとめと試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について ・ 私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について ・ 幸福追求権、プライバシーの権利、法の下での平等について ・ 思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について ・ 表現の自由、検閲の禁止、知る権利、学問の自由、教育の自由について ・ 職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について ・ 裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について ・ 生存権、環境権、教育を受ける権利について ・ 勤労権、労働基本権、団結権、団体交渉権、争議権について ・ 国権の最高機関、唯一の立法機関、衆議院の優越について ・ 国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について ・ 内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について ・ 最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について ・ 財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、予算について 		
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + 授業での発言の記録 (10%) を基準に、総合的に評価する。		

授業科目	数学の世界	担当者	寛山 榮助
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】数学の世界を理解するための根拠について</p> <p>【概要】数学は言うまでもなく高度に抽象化された理論体系の学問です。われわれは物事の奥に潜んでいる数理的構造の本質を見据え解析し、推論する思考過程を身につける能力を培い育てていくことです。一方、数学を学ぶ過程で修得される種々の概念やそれらを表現し駆使する手段として修練される数式取り扱いの手法や技能は諸科学の研究のみならず人間活動のいろいろな場に応用されています。数学は、知的で文化的な面と技術的で実用的な面を併せ持っていて概念的に論述する場合は前者に力点をおくことが望ましい。すなわち『数学とはなにか』、『何のために数学を学ぶか』等に興味・関心をよせ自問自答しながら講義に臨んで欲しい。</p> <p>【到達目標】 1 教科としての数学と学問としての数学について理解を深める。 2 人格形成ならびに社会生活に役立つ数学的ものの見方・考え方を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 量的なことを考慮して、特に定めない</p> <p>(2) 興味、関心、意欲養成に適宜提示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 第1章 数学という学問 1 数学の要請：数学的帰納法 第2回 ・デカルトの発見の方法 第3回 2 数学の関数的表現 ・近似多項式の微分表現 第4回 ・マクローリンの定理とテーラー展開の魅力 第5回 3 数学の源と数「0」の発見 ・整数の素数分解の一意性 第6回 ・完全数 ・友愛数 ・婚約数の定義とその発見 第7回 4 三平方の定理の古典数学としての魅力 ・ピタゴラス数の折り紙表現 第8回 5 フェルマーの定理と現代数学 第9回 第2章 経済や社会の動向を探る現代数学 1 行列と次元 ・ケーキ作り 第10回 2 クラメルの定理 ・三元連立一次方程式 第11回 3 経営や生産性の効率性 1 マルコフの推移行列 第12回 2 推移行列とマーケット・シェア 第13回 第3章 現代数学をどう理解するか 1 数学の論証性 第14回 2 ロバチェフスキーの『平行線論』と数学の世界 第15回 「まとめと試験」 (定期考査、自分で考える「数学の世界」について小論)</p>		<p>★履修状況調査と感想文</p> <p>★試験と小論</p>
成績評価の方法	定期試験60% (ノートの確認)、興味・関心・態度40%で評価する。		

授業科目	環境問題	担当者	相場 慎一郎・井余田 秀美・野村 俊郎・曾宮 和夫
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】環境問題を様々な角度から考える 【概要】環境問題を、森林(相場)、化学(井余田)、自動車産業(野村)、環境保護行政(曾宮)の四つの視点から考える 【到達目標】環境に関する複眼的思考を養う		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第1回 総論：環境問題の複眼的考察 第2回 森林(1)：森林の役割 第3回 森林(2)：森林と環境 第4回 化学(1)：汚染物質1 第5回 化学(2)：汚染物質2 第6回 化学(3)：汚染物質3 第7回 化学(4)：汚染物質4 第8回 自動車(1)：ハイブリッド 第9回 自動車(2)：EV 第10回 自動車(3)：LCVとULCV 第11回 自動車(4)：発電と蓄電 第12回 環境保護行政(1)：総論 第13回 環境保護行政(2)：屋久島 第14回 環境保護行政(3)：奄美 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	4人の講師の25点満点×4		

授業科目	かごしまカレッジ教育	担当者	松尾 弘徳
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】伝わる日本語とは何かを学ぶ 【概要】自分の頭で考え、そして考えたことを実際に話したり書いたりすることで、下記①②の目標への到達を目指します。この授業では特に「話す・書く」という部分に重点を置き、スピーチや論理的な文章の執筆などを行います。 【到達目標】「相手に伝えたいことをうまく伝えられず友人との人間関係に溝ができてしまった」あるいは「アルバイトの面接などにおいて自己アピールをうまくできず後悔した」というようなことは誰も経験があるのではないのでしょうか。 演習形式の本授業は、主に以下の2つの能力の習得・研鑽を目指します。 ◇ 円滑な対人コミュニケーションを行える能力 ◇ これまでにインプットしてきた内容を適切にアウトプットできる能力 これらの能力を身につけることで、必要な情報を正確に受け取れるようになったり、情報を的確に伝達・表現できるようになったり、あるいは聞き手への十分な気配りが行えるようになり、その結果冒頭に挙げたようなトラブルが生じにくくはらずです。		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキストは指定せず、毎回プリントを配布します。 参考文献も授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。		
業スケジュール	第1回 授業の進め方の説明 第2回 偏愛マップでコミュニケーション 第3回 わかりやすい文章を書く・1-あいまい文 第4回 わかりやすい文章を書く・2-接続詞の上手な使い方 第5回 わかりやすい文章を書く・3-Eメールの文章 第6回 自己紹介をする・1-自分を紹介すること 第7回 自己紹介をする・2-みんなの前で話してみよう 第8回 敬語のしくみ・1-3種類の敬語 第9回 敬語のしくみ・2-間違いやすい敬語 第10回 敬語のしくみ・3-敬語を使いこなすために 第11回 想いを伝える・1-想いを伝えるということ 第12回 想いを伝える・2-手紙の執筆 第13回 想いを伝える・3-スピーチの準備 第14回 想いを伝える・4-自分を人に知ってもらうためのスピーチ 第15回 まとめと試験 以上の予定ですが、進行状況次第で変更の可能性があります。		
成績評価の方法	評価基準は次のとおりです。 平素の作業の成果(50%)、学期末に行うまとめテスト(50%) なお、総授業回数の1/3に該当する回数分を欠席した場合、単位は認定しないので留意のこと。 授業計画および授業内容の詳細については初回授業時に具体的に説明します。		

(注) 受講者数は20名を上限とします。

受講希望者が多い場合は抽選となりますが、「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」受講希望者を優先します。

授業科目	かごしま教養プログラム	担当者	県内12大学の担当教員
		[履修年次] 1年 [学期] 前期集中 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【概要】鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローバル」を考える文・理のバランスがとれたリベラルアーツ教育を行います。2泊3日の夏季集中授業で、講義とグループ学習（チューターの支援あり）を行います。さらに、夜間はディベートなどを取り入れ、学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習します。なお、4,500円程度の宿泊経費等が必要となります。</p> <p>【学習目標】</p> <p>①講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。</p> <p>②グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。</p> <p>③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	平成22年度実施概要（平成23年度については未定。若干の変更の予定があります。）		
成績評価の方法	講義ノート（レポート以外の部分） 30%、グループ討論・発表内容（40%）、レポート（30%）として評価を行い、それらを集計して最終評価とします。		

(注) 「かごしまカレッジ教育」の履修が条件となります。

授業科目	かごしまフィールドスクール	担当者	県内12大学の担当教員
		[履修年次] 1年 [学期] 前期集中 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【概要】地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らしなどにかかわる地域・施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし、今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し、今後、地域を活性化していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらを発展させる方策などについて考えます。</p> <p>この活動により、鹿児島の本質と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけ、あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。なお、4,500円程度の宿泊経費等が必要となります。</p> <p>【学習目標】</p> <p>①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を地産する。</p> <p>②同地区等のさらなる活性化のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。</p> <p>③実地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。</p> <p>テーマ別に編成されたグループにおいて、これらの3つの学習目標を達成する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	平成22年度実施概要（平成23年度は未定。若干の変更の予定があります。）		
成績評価の方法	地域学習を通して指定地区等の独自性を調査・認識し、グループ討論・発表とレポート作成を行います。 実地調査等30%（学習目標①）、グループ討論・発表20%と提案内容20%（学習目標②）、レポート30%（学習目標③）として評価を行い、それらを集計して最終評価とします。		

(注) 「かごしま教養プログラム」の履修が条件となります。

授業科目	キャリアデザイン	担当者	担当教員
		[履修年次] 2年 [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式及びワークショップ	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年生を対象に、卒業後のキャリア形成についての具体的なイメージを描けるようになること</p> <p>【概要】近年の若者を巡る就職状況の厳しさの中、本学の学生も卒業後の進路のイメージは人それぞれである。入学時にすでに明確な就職希望を持っている学生もいるが、自分の興味だけで考えている場合、キャリア構築という点からは一面的な見方しかできていないおそれがある。入学時には興味のなかった様々な職種をできるだけ系統的に紹介し、社会の中で働くことの心構えや具体的な就職準備作業などキャリアデザインに必要な知識理解を系統的に身につけることを目指す。短期的な就職活動だけのためではなく、社会人として自立するために必要な自分なりのキャリアデザインを作り上げていく心構えを育てる助けになるであろう。</p> <p>※1年生は原則として全員受講すること。</p> <p>【到達目標】本講義を通じて、県短生をとりまく就業環境、社会の中で働くことの意味、就職活動の実践的な進め方などを系統的に学んでいただきたい。</p>		
授業スケジュール	<p>〔講師車〕平成22年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期(7月23日) 社会人になる(就職する)ことはなぜ必要なのか、県短を取り巻く就職状況はどうかキャリア教育の総論的な講義を行う。 講師: 森脇丈子(生活科学科准教授), 西村道子(株式会社 昂) 川村美鈴(KTS 鹿児島テレビ) ・第2期(9月27,28日) 地域を代表する企業・団体の経営者の話を聞き、働くことの意味、会社組織と学生生活との違いを考える。社会人として要求される発想力・コミュニケーション力をアップするワークショップを体験する。 講師: 田原武志((株)アシップ), 石原美貴(石原興業(株) 石原荘) 前田幸一((株)浜島印刷), 丸田真悟(NPO 法人かごしまアートネットワーク) 小林陸夫(大学生協九州事業連合) ・第3期(12月24日) 県短生が多く志望する企業の人事・採用担当者や実際に現場で活躍しているOB・OGから話を聞き、進路イメージを具体化させる。 講師: 北川隆巴(京セラ(株)), 秋葉重登(鹿児島相互信用金庫) 宇都泰礼((株)健康家族), 原田忍((株) エム・ティ・エス) 本学卒業生8人(中学校教員, 栄養士など) ・第4期(2月1日) いよいよ実際の就職活動を目前に控えて、労働基準法など社会人として働くために必要な法的知識を身につけるとともに、具体的な就職準備作業を行う。 講師: 疋田京子(商経学科准教授), 学生部学生課職員 <p>※23年度のスケジュール・講師は適宜掲示する。</p>		
成績評価の方法	レポート2回(100%)		

(注) 23年度は3年生も希望者のみ履修可

14 第二部商經学科教養科目
(外国語科目)

授業科目	英語 I (A)	担当者	土持 かおり
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ナチュラルスピードの英語での会話の聞き取りに慣れ親しむとともに、海外旅行で役立つ会話文やフレーズを身につける。</p> <p>【概要】授業の前半では、洋楽を使ったエクササイズや、チャンツ（リズム練習）やパラレルリーディング（音声を聞きながらの音読）などの口頭練習で、楽しみながら英語の音声変化やリズムになれ、「自然な速さの英語を聞き取るコツ」・「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。リスニング・スピーキングが苦手な人でも楽しめる練習法を取り入れていきます。後半では、海外旅行英会話学習用のビデオ教材で、主人公ハルコと楽しく海外旅行を擬体験しながら、ナチュラルスピードの会話の聞き取りに慣れ親しむとともに、一人で海外旅行をする際に必要な、基本的で役立つ会話表現やフレーズを学習していきます。さらに、海外旅行で理解しなければならない英語での書類、案内、パンフレットなどから素早く必要な情報を読み取る練習をしていきます。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、またはなじみのある場面において、相手の情報や考えを理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音・易しい表現で、情報や自分の考えを伝えられるようになる。</p>		
(1) テキスト	佐藤公雄編著 『First Time Abroad ー初めての海外旅行ー』 (成美堂)		
授業スケジュール	<p><毎回、LL教室を使用します></p> <p>第1回 授業内容と進め方及び評価の説明 / リスニングとスピーキングのコツ 第2回 On a Flight: Taking a Seat ~ 機内での過ごし方① ー機内で座席に着くー 第3回 On a Flight: Mean Service ~ 機内での過ごし方② ー機内での食事ー 第4回 Immigration ~ 入国の手続き① ー入国審査を受けるー 第5回 Customs ~ 入国の手続き② ー税関での申告ー 第6回 Checking in at a Hotel ~ ホテルの利用法① ーホテルにチェックインするー 第7回 Seeing the Room ~ ホテルの利用法② ー部屋に案内してもらうー 第8回 Guest Services ~ ホテルの利用法③ ー客室でのサービスー 第9回 Checking Out ~ ホテルの利用法④ ーホテルをチェックアウトするー 第10回 Tourist Information ~ 旅行案内所を利用する 第11回 Taking a City Bus ~ 市内バスに乗る 第12回 Taking a Taxi ~ タクシーに乗る 第13回 Renting a Car ~ レンタカーを借りる 第14回 Asking Directions ~ 道順をたずねる 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業への参加と取り組み (20%) + 復習のための小テスト (30%) + 定期試験 (50%)		

授業科目	英語 I (B)	担当者	Simon Runswick
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>The basic theme of this course is everyday communication in a variety of situations.</p> <p>【概要】</p> <p>The class will introduce students to a variety of everyday</p> <p>【到達目標】</p> <p>English, The students will practice this language through various activities. The course aim is to improve student's communicative abilities.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) ENGLISH FIRSTHAND Marc Helgesen et al. Longman Asia ELT		
授業スケジュール	<p>第1回 Introductions 第2回 // 第3回 Describing People 第4回 // 第5回 Schedules 第6回 // 第7回 Locations 第8回 // 第9回 Directions 第10回 // 第11回 Past activities 第12回 // 第13回 The Past 第14回 // 第15回 Review</p>		
成績評価の方法	The class will be assessed on weekly performance and a final test.		

授業科目	英語Ⅱ(A)	担当者	土持 かおり
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ナチュラルスピードの英語での会話の聞き取りに慣れるとともに、海外旅行で役立つ会話文やフレーズを身につけ、自分でも使えるようになる。</p> <p>【概要】授業の前半では、洋楽を使ったエクササイズや、パラレルリーディングやシャドーイングなど耳と口の両方を使った口頭練習で、英語の音声変化やリズムになれ、「自然な速さの英語を聞き取るコツ」・「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。リスニング・スピーキングが苦手な人でも楽しめる練習法を取り入れていきます。</p> <p>授業の後半では、海外旅行英会話学習用のビデオ教材で、主人公ハルコと一緒に海外旅行で遭遇する様々な場面を楽しく疑似体験しながらリスニング力をつけるとともに、役立つ会話表現やフレーズを学習し、一人でも海外旅行を楽しめる程度の英語力をつけていきます。さらに、海外旅行で理解しなければならぬ英語での案内文、地図、メニューなどから素早く必要な情報を読み取る練習をしていきます。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、またはなじみのある場面において、ナチュラルスピードに近い自然な英語での情報や考えを理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で、情報や自分の考えを伝えられるようになる。</p>		
(1) テキスト	佐藤公雄編著 『First Time Abroad ー初めての海外旅行ー』 (成美堂)		
授業スケジュール	<p><毎回、LL教室を利用します></p> <p>第1回 授業内容と進め方及び評価の説明 / リスニングエクササイズ 第2回 At a Museum ~美術館にて 第3回 At a Golf Shop ~ゴルフ・ショップにて 第4回 Going to the Theater ~劇場に行く 第5回 At a Department Store ~デパートで買い物をする 第6回 Shopping for a Souvenir ~おみやげを買う 第7回 Breakfast at a Hotel ~ホテルで朝食 第8回 Lunch at a Fast-Food Place ~ファーストフード店でランチ 第9回 Making a Dinner Reservation ~夕食の席を予約する 第10回 Dinner at a Restaurant ~レストランで夕食 第11回 At a Post Office ~郵便局を利用する 第12回 Making a Phone Call ~日本へ国際電話をかける 第13回 Lost and Found ~落とし物で遺失物取扱所へ行く 第14回 Going to a Doctor ~医者にかかると 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業への参加と取り組み (20%) + 復習のための小テスト (30%) + 定期試験 (50%)		

授業科目	英語Ⅱ(B)	担当者	Simon Runswick
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The basic theme of this course is everyday communication in a variety of situations.</p> <p>【概要】 The class will introduce students to a variety of everyday</p> <p>【到達目標】 English, The students will practice this language through various activities. The course aim is to improve student's communicative abilities.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) ENGLISH FIRSTHAND Marc Helgesen et al. Longman Asia ELT		
授業スケジュール	<p>第1回 Asking personal question 第2回 // 第3回 Getting Information 第4回 // 第5回 Plans 第6回 // 第7回 Predictions 第8回 // 第9回 Shopping 第10回 // 第11回 Following instructions 第12回 // 第13回 Opinions 第14回 // 第15回 Review</p>		
成績評価の方法	The class will be assessed on weekly performance and a final test.		

授業科目	異文化コミュニケーション（英語）	担当者	英語担当教員全員
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 通年
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジで研修を行う。授業は英語研修とアメリカ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。</p> <p>2010年度ハワイ研修の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/3(金)～9/19(日) ・参加者 14名 ・研修費用 約29万円(授業料, 往復航空券, 滞在費, 朝食と昼食の食費, 保険料) <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジの担当教員が指示		
授業スケジュール	<p>事前指導 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行う。ハワイ大学コミュニティカレッジでの研修内容の説明, 海外渡航に伴う種々の事柄を説明, 前もって課題(レポート作成)の指示。</p> <p>海外研修 9月を予定(約2週間), 現地の大学で午前中に英語の授業, 午後に文化に関する授業(フラダンス, レイ作り, ハワイの文化, ハワイの植物), その他学外授業としての見学。</p> <p>事後指導 帰国後に総括</p>		
成績評価の方法	担当教員が課した課題(研修日誌, 体験記)(50%)とハワイでの研修状況(50%)で評価する。		

授業科目	異文化コミュニケーション（中国語）	担当者	中国語担当教員全員
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 通年
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた中国語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は、わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は、中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在中、基礎的な実用中国語を習得し、さらに、南京農業大学の学生と交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。</p> <p>※2010年度中国研修の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程: 8月28日(土)～9月11日(土) [15日間] ・参加者: 13名(文学科日本語日本文学専攻5名, 英語英文学専攻2名, 商経学科経済専攻3名, 経営情報専攻3名) ・費用: 約14万円(授業料, 往復航空券, 寮の滞在費, 南京市内・市外の見学費用) <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。		
授業スケジュール	<p>事前指導 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> [1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明, [2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明, [3] 課題(レポート作成)の指示などです。 <p>海外研修 9月の夏期休業期間に約2週間実施予定です。現地の大学で午前中に中国語の授業を受けます。午後はさまざまな活動を通じて、中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語学部の学生と交流します。</p> <p>事後指導 帰国後に総括します。</p>		
成績評価の方法	担当教員が課した課題, および中国での学習成果を基に成績を算出します。		

授業科目	中国語 I (A)	担当者	陳 躍
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 楽しい中国語会話 【概要】 中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。 【到達目標】 中国語検定準四級。漢語水平考試HSK基礎1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 参考文献①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社		
授業スケジュール	第 1回 我是上海人 第 2回 我叫王平 第 3回 这里是南京路 第 4回 现在几点了? 第 5回 今天是星期几? 第 6回 你家有几口人? 第 7回 没关系 (中間テスト) 第 8回 香港的夏天热吗? (映画) 第 9回 四川菜很好吃 (映画) 第 10回 我经常散步 第 11回 牌价是多少? 第 12回 汉语难不难? 第 13回 我没吃蒜 第 14回 我想去超市 第 15回 テスト		
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする		

授業科目	中国語 I (B)	担当者	未定
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回		
成績評価の方法			

授業科目	中国語Ⅱ(A)	担当者	陳 躍
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 楽しい中国語会話</p> <p>【概 要】 中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】 中国語検定準四級。漢語水平考試HSK基礎1級程度。後期はその後半部分の学習に当てる</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂</p> <p>参考文献①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク</p> <p>②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 来我家玩吧</p> <p>第 2回 我打算去旅行</p> <p>第 3回 没看过, 听过</p> <p>第 4回 我能参加</p> <p>第 5回 我记一下</p> <p>第 6回 我们边走边谈</p> <p>第 7回 好像借给小李了 (中間テスト)</p> <p>第 8回 我不会打日文 (映画)</p> <p>第 9回 你知道号码吗? (映画)</p> <p>第 10回 什么都可以</p> <p>第 11回 被谁偷走了呢?</p> <p>第 12回 让你久等了</p> <p>第 13回 有没有单间?</p> <p>第 14回 我说得不好</p> <p>第 15回 テスト</p>		
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする		

授業科目	中国語Ⅱ(B)	担当者	未定
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概 要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	<p>第 1回</p> <p>第 2回</p> <p>第 3回</p> <p>第 4回</p> <p>第 5回</p> <p>第 6回</p> <p>第 7回</p> <p>第 8回</p> <p>第 9回</p> <p>第 10回</p> <p>第 11回</p> <p>第 12回</p> <p>第 13回</p> <p>第 14回</p> <p>第 15回</p>		
成績評価の方法			

15 第二部商経学科教養科目
(スポーツ・健康科目)

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ	担当者	瀬戸口 照夫・長岡 良治
	[履修年次] 1年 [学期] 前期, 後期 [単位] 各期1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学生の身体運動の減少は、健康的な生活や好ましい身体の発達に悪影響を及ぼしかねない。したがって、将来にわたって実践しうる基礎的運動技術の習得が目標である。</p> <p>【概要】 実技では、屋外でテニス、サッカー、ソフトボール、屋内では、バドミントン、バレーボール、ソフトバレーボール、バスケットボール、ミニサッカー等を課す</p> <p>【到達目標】 それぞれの種目の基礎的運動技術を習得しゲームが出来るようになることが最終目標である</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定		
授業スケジュール	選定した種目の基礎技術の練習をした後、ゲームを中心に実施する。 例 1, バドミントン ハイクリヤー, ドロップ, スマッシュ, ヘヤビンの練習後ゲームを実施する。 2, バレーボール, ソフトバレーボール パス, スパイク, サーブの練習後にゲームを実施する。 3, バスケットボール, ミニサッカー パス, シュート練習後ゲームを実施する。 4, テニス フォアハンドストローク, バックハンドストローク, ボレー, サーブの基礎練習後ゲームを実施。		
成績評価の方法	出席状況(50%), 基礎技術 (50%) 受講態度(25%) 運動技能能力(25%)		

16 第二部商経学科教養科目
(情報科目)

授業科目	情報リテラシー I	担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報機器を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】 情報機器を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。使用するアプリケーションソフトは「Microsoft Word」とし、Wordの基本操作も習得する。</p> <p>【到達目標】 タッチタイピングの習得、基本的な文書作成能力の習得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 富士通オフィス機器株式会社 (著) 『よくわかる初心者のための Word 2007』 FOM 出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 パソコンの基本操作・・・概要説明、起動と終了、ウィンドウ操作、Wordの画面構成</p> <p>第2回 文字の入力・・・キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第3回 文章の入力・・・キータッチ練習、文章の入力(分節単位の変換、一括変換)</p> <p>第4回 文書の作成・・・ビジネス文書の構成について、ページ設定、文章の入力、コピーと移動、保存</p> <p>第5回 文書の編集・・・文書の書き方について、文字の配置、書式設定(フォント、サイズ変更、太字など)</p> <p>第6回 通知状の作成・・・課題文書作成(通知状)、印刷</p> <p>第7回 表の作成・・・文書管理について、表の挿入、表への文字入力、表の選択</p> <p>第8回 表の編集・・・行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、網掛け、線種変更</p> <p>第9回 表の活用・・・課題文書作成(表を含む文書)</p> <p>第10回 図形挿入・・・図解について、図形挿入を使った地図の作成</p> <p>第11回 案内状の作成・・・課題文書作成(案内状)</p> <p>第12回 画像の利用・・・クリップアートの挿入、ワードアートの挿入、図の挿入</p> <p>第13回 チラシの作成・・・課題文書作成(チラシ)</p> <p>第14回 総合復習・・・これまで学習した機能を利用した文書作成</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	定期試験(知識科目20%+実技科目60%) + 授業ごとに実施する課題(20%)		

授業科目	情報リテラシー II	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 普段何気なく使っているパソコン・アプリケーションの、仕組みや基本操作を確認する。</p> <p>【概要】 Windows 7 の概念・基本操作を習得し、それをあらゆるアプリケーションに活用する。</p> <p>【到達目標】 ファイル操作、インターネット閲覧・操作(メールを含む)、アプリケーションの活用が確実にできる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 資料プリント</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 現在のパソコン活用状況の確認</p> <p>第2回 基本操作(画面の見方・用語の確認)</p> <p>第3回～第4回 メール操作(学内推奨のWebメール・Thunderbirdを使用)</p> <p>第5回～第6回 ファイル・フォルダ操作</p> <p>第7回～第8回 インターネットを活用</p> <p>第9回～第10回 デジカメ・画像を活用</p> <p>第11回～第13回 その他の便利な機能</p> <p>第14回～第15回 前期習得操作のまとめ</p>		
成績評価の方法	授業内での操作状況(80%) + レポート提出(20%)		

授業科目	情報リテラシーⅡ	担当者	瀬戸 博幸
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	
	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピュータを道具として使える力を持つ</p> <p>【概要】 現代は様々な情報がネットワークを介して飛び交っている情報ユビキタス社会である。我々はその中に生活し、情報を受信し、情報を発信しなければならない。その大きな窓口がコンピュータである。この時間ではコンピュータとはどのような機械なのか、どのようにしたら情報を受信し、発信する道具として使えるのか、演習をとおして初歩の初歩から体得しようとするものである。</p> <p>【到達目標】 そこにコンピュータがあるなら、それを臆せず使う気持ちを持たせる</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1)</p> <p>(2) ビデオ教材やホームページ上の記事を参考資料とする</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 コンピュータを起動しよう。OSってなんだろう。</p> <p>第2回 ビデオを介して、インターネットとは何か理解しよう</p> <p>第3回 ブラウザの基本的使い方</p> <p>第4回 Webメールの送受信</p> <p>第5回 ファイルとフォルダ</p> <p>第6回 フラッシュメモリを使おう (メールソフトを使ってメールしよう)</p> <p>第7回 ホームページを作ってみよう</p> <p>第8回 クリックひとつで次のページへ</p> <p>第9回 ペイントで描いた画像をページへ</p> <p>第10回 携帯から写メール</p> <p>第11回 HTMLあれこれ</p> <p>第12回 ホームページに自分のギャラリー (1)</p> <p>第13回 ホームページに自分のギャラリー (2)</p> <p>第14回 プレゼンでまとめよう (1)</p> <p>第15回 プレゼンでまとめよう (2)</p>		
成績評価の方法	メールによる日々の考察 (50%) + 公開したホームページとプレゼン作品 (50%) により評価する		

17 第二部商経学科専門科目

授業科目	経済学	担当者	内田 昌廣
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複雑化した現代社会に生きる私たちにとって、様々な経済事象を理解できる力 = 「経済知力」の重要性はますます高まっている。本講義では、経済学の入門講座として、経済学的な見方・考える力を身につけるための基礎力を養う。</p> <p>【概要】 経済を構成する消費者、企業、政府の行動理論を学び、これらの経済主体を結び付けているさまざまな市場や国民経済全体の成り立ち・仕組みについての理解を深める。本講義で修得する知識をベースとして、経済関連の他科目でのより深い理解に繋げる。</p> <p>【到達目標】 経済学の基本的な考え方を理解し、経済の仕組みや動きについての全般的な基礎知識を習得すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 野口旭『ゼロからわかる経済の基本』講談社現代新書、小塩隆士『高校生のための経済学入門』ちくま新書、朴勝俊・飯田善郎・寺井晃『経済学のはじめの一步』晃洋書房、吉本佳生・NHK『出社が楽しい経済学』日本放送出版協会(NHK出版)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明：講義の目的・進め方 / 序論：経済って何だろう（欲求と経済、経済の主役、限りある資源、トレードオフ） 第2回 市場経済の仕組み（1）：資本主義・市場経済とは？、消費者や企業はどのように買う量や売る量を決めるのか？ 第3回 市場経済の仕組み（2）：買う量や売る量を変化させるものは？、需要と供給はどのようにして一致するのか？ 第4回 市場経済の仕組み（3）：市場で交換を行うことのメリットは？— 当事者の満足度、資源の効率的な配分 第5回 市場経済の仕組み（4）：価格は誰が決める？、不完全な市場とは 第6回 企業の様々な価格戦略：価格差別、二部料金制、ディスカウントストア、歩合制家賃 第7回 国全体の経済の仕組み（1）：国内総生産（GDP）って何だろう、GDPの3つの側面とは、GDPの大きさを決めるものは？ 第8回 国全体の経済の仕組み（2）：好景気と不景気のサイクル（景気循環）が起こる理由、インフレ・デフレとは 第9回 国全体の経済の仕組み（3）：お金の経済学 — 金融の仕組み、金利の決め方 第10回 国全体の経済の仕組み（4）：海外との取引 — 自由貿易の理論、国際収支の仕組み、為替レート（円高・円安）とは 第11回 国全体の経済の仕組み（5）：政府の役割 ① — 貯蓄のパラドックス、公共投資や減税の効果、財政政策の「落とし穴」 第12回 国全体の経済の仕組み（6）：政府の役割 ② — 市場の失敗、所得再分配 第13回 国全体の経済の仕組み（7）：日本銀行の役割 — 金融緩和と金融引き締め 第14回 マルクス経済学概論：マルクスが分析した資本主義経済、剰余価値説、資本主義についての歴史観 第15回 まとめと試験 (※ 講義の進み具合によって予定を変更する場合があります)</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	社会学	担当者	斉藤 悦則
	[履修年次] 1, 2, 3年 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 社会学の基本概念を学ぶ</p> <p>【概要】 社会学の諸概念を道具として、身の回りの諸現実を新たな視点で見つめ直してみる。そうすると、いままで当たり前のことのように見えていたものが、意外に「変なこと」「怪しいこと」のように見えてくる。</p> <p>【到達目標】 常識に囚われて、硬直していた発想が、社会学を学べば柔軟になる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし (2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 社会学のおもしろさ……潜在機能 第2回 不良になろう……ラベリング 第3回 まなごしの地獄……一般化された他者 第4回 情報に踊らされる……予言の自己成就 第5回 格差のメカニズム……準拠集団 第6回 空気を読めってか？……他者志向 第7回 血液型とか信じる？……自由からの逃走 第8回 愛のジレンマ……社会的交換理論 第9回 わかりやすさの罠……疑似環境 第10回 オーラが消える……複製技術革命 第11回 コミュニティへの回帰……ゲメインシャフト 第12回 学校に行くとかバカになる……制度化 第13回 セクシーとは何か……稗の構造 第14回 事なかれ主義……官僚制 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業ごとに実施する小論文 (100%)		

授業科目	行政法	担当者	山本 敬生
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位	〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法の基本構造を体系的に把握し、行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。</p> <p>【概要】周知のとおり、行政法は通則的法典が存在しておらず、そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では、行政法の基本原理である法律による行政の原理（法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則）、行政行為、行政立法、行政計画、行政指導、行政契約、行政上の義務履行確保制度、行政手続等をわかりやすく解説し、行政法の基礎理論を体系的に理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法といった一般法について、国民の権利救済という視点から学習する。</p> <p>【到達目標】行政法の基本原理、行政の行為形式論、行政上の一般制度、行政救済法について説明できるようになり、行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 適宜、プリントを配布する。 (2) 『ポケット六法』（平成23年度版）有斐閣2010年		
授業スケジュール	第1回 法律による行政の原理 第2回 行政立法 第3回 行政行為(1) 第4回 行政行為(2) 第5回 行政指導 第6回 行政上の義務履行確保制度 第7回 行政手続法 第8回 行政不服申立て 第9回 行政事件訴訟法(1) 第10回 行政事件訴訟法(2) 第11回 行政事件訴訟法(3) 第12回 国家賠償法(1) 第13回 国家賠償法(2) 第14回 損失補償 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（90%）＋授業での発言の記録（10%）を基準に、総合的に評価する。		

授業科目	経済政策	担当者	内田 昌廣
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位	〔学期〕 後期 〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国民の社会生活の向上を目的として行われる経済政策について、その考え方・政策手段・課題に関する基礎を学習する。</p> <p>【概要】経済政策が必要とされる背景、経済政策に関する思想、伝統的な経済政策の概要から、現代社会における新しい政策課題まで幅広く取り上げて解説し、自分なりに経済政策を評価できる基礎力を養う。</p> <p>【到達目標】主要な経済政策の意義や政策手段の概要について理解し、その限界や課題について関心や自分の意見を持てるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 山口三十四・足立正樹・丸谷冷史・三谷直紀『経済政策基礎論』有斐閣ブックス 大竹文雄『経済学的思考のセンスーお金がない人を助けるには』中公新書		
授業スケジュール	第1回 概要説明：講義の目的・進め方 / 序論：なぜ人々の自由な経済活動に、政府が介入する必要があるのだろうか？ 第2回 経済政策の思想：政府が何にどこまで介入（関与）すべき？— 新自由主義と新社会主義、大きな政府と小さな政府 第3回 成長と安定の経済政策（1）：成長のための経済政策 — 成長政策の手段、発展途上国と経済成長 第4回 成長と安定の経済政策（2）：安定のための経済政策 — 雇用の改善と物価安定、安定化政策の手段、安定化政策の課題 第5回 所得と資産の分配政策（1）：所得分配の格差を測る方法、望ましい分配の基準とは 第6回 所得と資産の分配政策（2）：分配政策の手段（課税制度、社会保障制度）、分配政策の効果と課題 第7回 産業政策（1）：産業政策の必要性、外部性と産業政策（産業育成政策、知的財産権の保護政策）、公共財の供給 第8回 産業政策（2）：自然独占と規制政策、公益企業の規制緩和と民営化 第9回 産業政策（3）：情報の非対称性と経済政策、市場支配力と独占禁止政策 第10回 労働政策（1）：労働政策の必要性、労働政策の歴史、失業に対する政策 第11回 労働政策（2）：女性雇用・高齢者雇用・若年雇用に対する政策 第12回 農業と人口問題：グローバル化と農業問題、少子高齢化と年金問題 第13回 環境政策：環境税、温暖化ガスの排出権取引、太陽光発電の推進 第14回 グローバル経済と経済政策：自国利益と国際協調、地域経済統合と経済政策、政策協調による新たな国際ルール作り 第15回 まとめと試験 （※ 講義の進み具合によって予定を変更する場合があります）		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	社会政策	担当者	朝日 吉太郎
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 格差や貧困はなぜ生まれるか、どうなくすか考える。</p> <p>【概要】 資本主義社会において、賃金や雇用条件の改善、社会保障の充実が、なぜ求められ、どのように発展してきたのか、そして、今日なぜ格差拡大と社会保障削減が進むのかを分析し、その理由と問題性、解決課題をさぐります。</p> <p>【到達目標】 資本主義が作り出す貧困や格差の特徴をその原因から法的にとらえ、今日の社会を生きるためには、何を考える必要があるのかという視点を獲得すること</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 特に定めない</p> <p>(2) 後藤道夫・木下武男「なぜ富と貧困はひろがるのか 格差社会を変えるチカラをつけよう」旬報社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 講義の目的と進め方について：</p> <p>第2回 資本と賃労働 : 資本賃労働関係の理論的把握</p> <p>第3回 賃金(1) 賃金形態 : 賃金についての俗説を批判する。</p> <p>第4回 賃金(2) 時間賃金・出来高賃金 : 賃金形態の発展とその影響をとらえる。</p> <p>第5回 資本主義的生産と労働時間の延長 : 資本が労働日を延長する基本法則を理解する</p> <p>第6回 標準労働日を巡る闘争と工場法体系 : 産業革命による労使の力関係の変化と社会政策形成史を理解する</p> <p>第7回 社会政策本質論争の特徴と限界 : 社会政策本質論争の理論的問題点を検討する</p> <p>第8回 直接的生産方式の諸結果と貧困化論の新たな可能性 : 貧困化論の問題点を検討する。</p> <p>第9回 社会政策と国家 : 国家の一政策としての社会政策を理解するために国家論を検討する</p> <p>第10回 帝国主義と協同的労使関係 : 現代資本主義の下での労使関係の特徴を検討する</p> <p>第11回 福祉国家 : 社会政策の総合大系としての福祉国家の意味をとらえる</p> <p>第12回 ケインズ革命の終焉—社会政策から総合社会政策へ : ケインズ政策の限界と社会政策の経済政策化をとらえる</p> <p>第13回 新自由主義と福祉国家のゆらぎ : 今日のグローバル化の下での福祉国家政策の転換をとらえる</p> <p>第14回 グローバル化とフレキシキュリティ政策の可能性 : 労働者の処遇抑制、福祉抑制の中で何が生じているかを理解する</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	論述試験 (100%)		

授業科目	社会思想	担当者	斉藤 悦則
	〔履修年次〕 1, 2, 3年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ばらばらの個人の集まりが、社会として「まとまっている」、その根拠について考える。</p> <p>【概要】 社会はどうしてまとまっているか、それについて、さまざまな考え方(思想)を紹介する。それらの思想は、それぞれ「もってもらしさ」を備えている。しかも、相互に対立し合う。このことを通じて、世の中に「大正解」はない、ということ学ぶ。</p> <p>【到達目標】 もってもらいし学説(お説教)に、容易に丸め込まれない思考力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 社会のまとまり……ホップス</p> <p>第2回 自分が人生の主人公……ロック</p> <p>第3回 文明の進歩=徳性の下落……ルソー</p> <p>第4回 生産力主義……サン・シモン</p> <p>第5回 労働を遊びに変える……フーリエ</p> <p>第6回 労働をとおして成長する……ブルードン</p> <p>第7回 近代人の疎外……フォイエルバッハ</p> <p>第8回 群衆への埋没をまぬがれる……キルケゴール</p> <p>第9回 自立しつつ連帯する……マルクス</p> <p>第10回 異見の有用性……J・S・ミル</p> <p>第11回 絶対自由主義……バクーニン</p> <p>第12回 国家という暴力装置……レーニン</p> <p>第13回 敵の敵は味方……カール・シュミット</p> <p>第14回 多様性が豊かさの源……レヴィ・ストロース</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業ごとに実施する小論文 (100%)		

授業科目	民法	担当者	疋田 京子
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「外国人」という存在を鏡として「民法」を学ぶ</p> <p>【概要】民法は、契約や損害賠償請求、婚姻、親子、相続など私たちが「他者」と共に生活する日常生活に深く関わっている。国籍に基づくナショナルや民族に基づくエスニックを異にする外国人を、共に生活する他者として位置づけ、民法における「人」の処遇のあり方、「人」の生活を支える法規範や制度のあり方、生成の様子を検討し、「民法」とは何かの全体像をつかむ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 大村敦『他者とともに生きる 民法から見た外国人法』（東京大学出版会）		
授業スケジュール	第 1回 外国人と民法～導入 ；二つの訴訟（東京都昇進訴訟、小樽温泉訴訟） 第 2回 現代日本の外国人：外国人が直面している法律問題 第 3回 民法典における外国人に関する規定：内外人平等の原則をめぐる論争 第 4回 民法学と外国人：外国人の識別と同定 第 5回 外国人の基本的処遇：出入国管理、在留資格、法的人格、参政権 第 6回 外国人の家族生活（1）家族関係と準拠法、婚姻関係における外国人の固有の問題 第 7回 外国人の家族生活（2）「外国人法」における「親子」 第 8回 外国人の家族生活（3）その他の家族関係、「家族」の処遇と「家族」の意義 第 9回 外国人の労働：制度と実情、法的対応 第 10回 外国人就学生をめぐる問題 第 11回 外国人の日常生活：住まい・買い物、問題の所在と基本的な考え方 第 12回 外国人の事故をめぐる問題：民事責任と保険、損害額の算定、外国人不法就労者の場合 第 13回 外国人の多様性・日本人の多様性：戦後日本の「外国人」、明治二本の「日本人」 第 14回 外国人と市民＝社会と法の将来 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	講義ごとに提出してもらおう小レポート（30点）＋試験（70点）		

授業科目	商法	担当者	板倉 大治
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代企業の組織・活動と法</p> <p>【概要】現代の経営は、ある程度大きな資本を用い、従業員を雇用して、多方面に、あるいは広い地域で事業を展開しています。それに伴って生じる様々なリスクを避けるため、たとえば「会社」組織を利用して出資者の危険を分散し、会社役員や従業員の行為に対する企業の責任を制限し、消費者との契約条項に企業側の責任の軽減・免除を定めたりしています。しかし、大企業の行き過ぎたリスク回避策は、取引相手である中小・零細企業や顧客・消費者など一般公衆の利益を圧迫し、あるいは環境問題を引き起こしたりします。そのような対立する利益の調整をはかり企業行動の規範を定めているのが商法です。</p> <p>商法は、企業取引を安全・円滑・迅速に行うための合理的な企業組織について規律を設けていますが、それらの現状と問題点を裁判例や最新のトピックを参照しながら検討します。</p> <p>【到達目標】</p> (1) 民法・一般法人法のほかに、商法・会社法が設けられている理由やその役割を説明できる。 (2) 企業取引を安全・円滑・迅速に行うための諸制度について、その特色を説明できる。 (3) 国際化や情報技術化など、現代社会の要請に応える諸制度について、その概要を説明できる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 荻井・平田編『新現代商法入門(第3版)』（法律文化社2900円）を使用し、講義プリントを併用します。 (2) 岩波書店・セレクト六法(1365円)などの小型六法全書を持参してください。		
授業スケジュール	第 1回 企業法としての商法（商人・商行為の概念） 第 2回 企業の成立と商法の適用範囲 / 商法の基本原則 第 3回 商業登記と電子化社会 第 4回 商号自由主義とその制限—CI 戦略と商号— 第 5回 名板貸（名義貸し）の責任 第 6回 商号権によるブランドの保護—不正競争の防止— 第 7回 営業譲渡とその効果 / 営業所について 第 8回 商業使用人—商業代理人制度— 第 9回 企業会計と商法—会計帳簿・書類の電子化— 第 10回 企業取引と普通取引條款 第 11回 消費者取引の規制—特定商取引法・製造物責任法— 第 12回 会社法の基礎（その1） 第 13回 会社法の基礎（その2） 第 14回 有価証券法の基礎 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験の成績によって評価します（100%）。受験資格として3分の2以上出席して下さい。		

授業科目	産業心理学	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 産業にかかわる心理学を多角的に学ぶ</p> <p>【概要】 産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。 簡単な心理実験、心理テストなども織り交ぜていく予定である。</p> <p>【到達目標】 商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布, Web でも公開 (2) 特になし		
授業スケジュール	第1回 概要説明 第2回 インターフェイスと精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質 第3回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用 第4回 ヒューマンインターフェイス1：ヒューマンインターフェイスの基本原則 第5回 ヒューマンインターフェイス2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介 第6回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策 第7回 仕事の成功と動機付け：成功、失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類 第8回 人間関係、労働時間：職場における人間関係、労働時間と仕事の関係 第9回 人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策 第10回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム 第11回 販売と購買心理：販売のテクニックと消費者の購買心理 第12回 説得と印象管理：コミュニケーションにおける説得と印象管理 第13回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察 第14回 予備 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート（通常のレポート2回分が80%、授業中のショートレポートが20%）		

授業科目	簿記論 I	担当者	宗田 健一
	[履修年次] 1, 2, 3年 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択 (注1)	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式（黒板とパワーポイントの併用）
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複式簿記の仕組みの理解</p> <p>【概要】 みなさんは、これまでに一度くらい「小遣帳」や「家計簿」などをつけた経験があると思います。「小遣帳」では、何をいつ買ったか（現金収支とその明細）くらいしか記入しなかったと思います。しかし、利益の獲得を目的としている企業がつけている帳簿では、現金収支に限らずさまざまな取引を記帳しています。会社はさまざまな取引を記帳するために「複式簿記」と呼ばれる記録・計算の技術を用いています。この複式簿記の仕組み（原理）を理解することがこのコース（科目）の目的です。</p> <p>【到達目標】 複式簿記の仕組みを理解し、初歩的な会計の知識を獲得する、日商簿記3級レベルの簿記一巡の手続きを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 蛭川幹夫『基本簿記』実教出版、2010年。 蛭川幹夫他『基本簿記演習』実教出版、2010年。 (2) 随時紹介		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：履修登録確認、コース・パケット配布、簿記とは、簿記の用語 第2回 基礎1：資産・負債・資本と貸借対照表 第3回 基礎2：収益・費用と損益計算書 第4回 基礎3：取引と勘定記入 第5回 基礎4：仕訳 第6回 基礎5：転記 第7回 復習、小テスト1 第8回 基礎6：試算表 第9回 基礎7：決算1 第10回 基礎8：決算2 第11回 基礎9：損益計算書、貸借対照表の作成 第12回 基礎10：精算表 第13回 復習、小テスト2 第14回 復習、小テスト3（講義の進み具合で、調整等を行う場合があります） 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	小テスト・予習・復習の状況（20%）、および最終試験（80%）で評価します。 第1回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。		

(注1) 2011年度後期に開講されるコンピュータ会計、2012年度後期に開講される財務会計論を履修する予定の学生は、必ず、簿記論I、IIを履修してください。

授業科目	文書作成実習	担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報機器を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】 情報機器を活用し、実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商PC検定（文書作成）対策を行い、資格取得を目指す。使用するアプリケーションソフトは前期同様「Microsoft Word」とし、Wordの応用機能も習得していく。</p> <p>【到達目標】 実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商PC検定文書作成3級合格レベルのスキルの習得）</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 富士通オフィス機器株式会社(著)『日商PC検定試験 文書作成 3級完全マスター』POM出版 (2)		
授業スケジュール	第1回 前期の復習・・・・・・・・概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成） 第2回 社外文書の作成・・・・・・・・ビジネス文書の基礎知識、社外文書の作成（案内状） 第3回 社内文書の作成・・・・・・・・ビジネス文書のライティング技術、課題文書作成（表を利用した文書の作成） 第4回 ネット社会の特徴・・・・・・・・ネット社会の特徴について、社内文書の作成（連絡文書） 第5回 デジタル情報の整理法・・・・・・・・デジタル情報の整理法について、計算式を含む文書の作成 第6回 図解の利用・・・・・・・・ネット関連の法律について、課題文書作成（図解を利用した文書） 第7回 検定対策・・・・・・・・文書作成3級検定模擬問題演習（知識科目、実技科目） 第8回 検定対策・・・・・・・・文書作成3級検定模擬問題演習（知識科目、実技科目） 第9回 検定対策・・・・・・・・文書作成3級検定模擬問題演習（知識科目、実技科目） 第10回 表の編集・・・・・・・・行の挿入、コピー、セルの結合、分割、線種の変更など 第11回 文書の編集・・・・・・・・いろいろな応用機能（段組み、タブ、ヘッダー・フッターなど）、課題文書作成 第12回 議事録の作成・・・・・・・・議事録の作成（スタイルの設定、セクション区切りの挿入など） 第13回 報告書の作成・・・・・・・・課題文書（報告書）の作成（テンプレートの利用、Excelデータの取り込みなど） 第14回 総合復習・・・・・・・・これまでに学習した機能を利用した文書作成 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	定期試験（知識科目20%+実技科目60%）+授業ごとに実施する課題（20%）		

授業科目	統計学	担当者	寛山 榮助
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 集団や自然現象の実態把握を目的とする統計手法とは何か。</p> <p>【概要】 統計学の源を辿ると概ね、次の3つに分類できる。第1はドイツの国勢学派、第2はイギリスの政治算術派、第3は主としてフランスの古典確率論である。統計学の父と呼ばれている、コーリング（1696～1681）がドイツの大学で講義したとき、国家の状態に関する学問という意味で、ラテン語の「state, 国家」という言葉を用いた。この言葉が今日、ヨーロッパのstatistics（統計学）の語源となっている。</p> <p>現代では、統計学は、数学の応用として、集団に関する研究をする学問であるとみなされている。</p> <p>自然災害と呼ばれている地震災害や風水災害等の偶然に起こる偶然現象、自然界で営まれている動植物に関する生命現象等の問題解決のためにも、理解を深められるような項目を精選した。意欲のある学生を歓迎します。</p> <p>【到達目標】 1 分散・標準偏差・相関係数についての統計手法の重要な意義を理解し、その算法に習熟する。 2 正しくデータを読みか態度から生じた記述統計学と推測統計学の意義を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 量的なことを考慮して、特に定めない。 (2) 興味・関心・意欲養成に適宜提示する。		
授業スケジュール	第1回 第1章 統計学の概要 1 古典統計学 第2回 2 近代統計学 (1) 記述統計学 (2) 推測統計学 3 現代統計学 第3回 第2章 統計資料の整理 1 度数分布 2 平均値と標準偏差 第4回 ・平均値 ・分散と標準偏差 第5回 3 例題演習 第6回 4 1次変換による平均値、標準偏差の役割 第7回 ・度数分布表に基づいた平均値、標準偏差の算法 第8回 5 相関関係と回帰方程式 ・相関 ・相関表 ・相関図 回帰直線 第9回 ・相関係数の定義とその性質 ・共分散 ・相関係数に関する定理 第10回 6 1次変換による相関係数の不変性 第11回 ・度数分布表に基づいた相関係数の算法 第12回 7 回帰直線の方程式 ・回帰係数の定義 回帰直線を描く 第13回 第3章 正規分布とガウス曲線 第14回 ・標準正規分布曲線 第15回 まとめと試験（定期考査、感想文）	★アンケート感想文	
成績評価の方法	【達成目標】定期試験60%（ノート整理がポイント）、関心・意欲40%で評価する。		

授業科目	応用文書処理	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 2, 3年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ</p> <p>【概要】 1) 自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する 2) 提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する 3) ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し、公開する。</p> <p>【到達目標】 ・初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる ・わかりやすいドキュメントを作成する ・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。</p> <p>☆注意事項：ワープロや表計算ソフトの基礎的な使用法を習得した学生を対象とする。パソコン初心者の履修は不可。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布, Web でも公開 (2)		
授業スケジュール	第1回 概要説明 第2回 自己紹介文書作成1：ワープロを使ったベース文書の作成 第3回 自己紹介文書作成2：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合 第4回 自己紹介文書作成3：写真、図の取り扱いとベース文書の結合 第5回 自己紹介文書作成4：仕上げ。印刷設定のコツ 第6回 提案書作成1：インターネットによる費用検索 第7回 提案書作成2：表計算ソフトを使った自動計算書 第8回 提案書作成3：プレゼン資料の作成 第9回 提案書作成4：仕上げ、データ送信のコツ 第10回 ホームページ作成1：USBメモリへのソフトの導入、HTML概念の復習。 第11回 ホームページ作成2：課題設定とページ作成 第12回 ホームページ作成3：資料収集とページ作成 第13回 ホームページ作成4：ページ公開 第14回 予備 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート（3つの課題を総合的に評価：100%）		

授業科目	PCデータ活用	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト Microsoft Excel 基本操作の習得</p> <p>【概要】 表計算ソフト Microsoft Excel を使用し、作表や表計算といった基本操作はもちろんのこと、一歩進んだ操作知識や、効率的に作業を進めるための応用力を身につけられるような技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 表計算ソフト Microsoft Excel の基本操作を確実に習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 実教出版編集部 編『30時間でマスターWindowsVista 対応 Excel2007』実教出版 (2)		
授業スケジュール	第1回 Excel 基本操作確認 第2回～第3回 編集機能の活用、関数（合計・平均）の設定、書式設定などで見やすい表にする 第4回～第8回 計算式の設定の仕方・関数の設定（傾斜・条件など） 第9回～第11回 グラフ作成、編集 第12回～第13回 データベース機能 第14回 ピボットテーブル、ピボットグラフの作成 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業内での操作状況（70%）＋試験（30%）		

授業科目	PC データ活用実習	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 取得操作の実践活用</p> <p>【概要】 前期習得した内容を活用出来るよう、さまざまな実践問題に取り組む。</p> <p>【到達目標】 PC検定（データ活用）の3級・もしくは2級の取得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 実教出版編集部 編『30時間でマスターWindowsVista 対応 Excel2007』実教出版</p> <p>(2) 資料プリント</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回～第14回 演習</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業内での操作状況 (40%) + 授業内小テスト (30%) + 試験 (30%)		

授業科目	PCアプリケーション実習	担当者	瀬戸 博幸
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピュータを道具として使う力を持つ</p> <p>【概要】 パソコンは非常に有効な機械であり、OSの発達により格段に使いやすくなった。これを仕事に活用するときアプリケーションソフトの存在が見えてくる。昨今、特にHTML5の登場を契機にWebブラウザをアプリケーションの基盤として使おうとする傾向が見えてきている。そこでJavaScriptを用いてブラウザを制御する実習を通してアプリケーションについて考えてみることにする。</p> <p>【到達目標】 各アプリケーションソフトがどのような役割を担っているか考える力をもたせる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1)</p> <p>(2) ホームページで紹介されているJavaScriptの記事を参考資料とする</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ホームページにアニメーションを取り入れよう (オリエンテーション)</p> <p>第2回 JavaScriptの紹介 (1) HTMLにJavaScriptを組み入れる</p> <p>第3回 JavaScriptの紹介 (2) 繰り返しの処理はどのように行われるのか</p> <p>第4回 JavaScriptの紹介 (3) ソースにコメントをつけよう</p> <p>第5回 JavaScriptの紹介 (4) 画像の位置を制御</p> <p>第6回 JavaScriptの紹介 (5) 画像を動かしてみよう</p> <p>第7回 JavaScriptの紹介 (6) 簡単なゲームにしてみよう</p> <p>第8回 JavaScriptの紹介 (7) 簡単なゲームにしてみよう (その2)</p> <p>第9回 自分でやってみよう (1) 構想</p> <p>第10回 自分でやってみよう (2) 作画</p> <p>第11回 自分でやってみよう (3) アニメーション化</p> <p>第12回 自分でやってみよう (4) アニメーション化</p> <p>第13回 自分でやってみよう (5) アニメーション化</p> <p>第14回 自分でやってみよう (6) ホームページで公開</p> <p>第15回 まとめ アプリケーションソフトって何だろう</p>		
成績評価の方法	メールによる日々の考察 (50%) + 公開した作品 (50%) により評価する		

授業科目	PC アプリケーション実習	担当者	口脇 淳子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 主なアプリケーションソフトの活用</p> <p>【概要】 主に3つのアプリケーションソフトを体験し、パソコン活用の幅を広げる。</p> <p>【到達目標】 習得した各ソフトを利用してそれぞれ課題に基づいた作品（データ）を完成させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 資料プリント (2)		
授業スケジュール	第1回～第5回 プレゼンテーション作成（発表を含む） 第6回～第10回 ホームページ作成 第11回～第15回 データベース作成		
成績評価の方法	授業内での操作状況（40%）＋各テーマごとの作品提出（60%）		

授業科目	日本経済論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本経済</p> <p>【概要】明治から現在までの日本の産業政策と、構造改革の下での福祉改革を中心に講義します(下記、授業スケジュールを参照)。</p> <p>【到達目標】現在、日本経済の進むべき方向について、さまざまな議論がなされています。しかし、そうした議論は一定の方向に収束する様子を見せず、真っ向から対立する議論が一層激しく戦わされているといった状況です。こうした状況では、自分自身で主体的に考え、判断できることが非常に重要となります。この講義では、日本経済の特質とその問題点、そして日本経済が過去や国際経済とどのようにつながっているのかについて理解を深め、日本の経済について主体的に考えられるようになることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 田代洋一・萩原伸次郎・金澤史男編『現代の経済政策 第3版』有斐閣		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等 第3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義、その後の産業構造の変化等 第4回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況、傾斜生産方式、1950年代前半の産業政策等 第5回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等 第6回 日本の産業と行政指導：勸告操短、企業の反発等 第7回 開放体制への移行：IMF8 条国への移行、産業再編等 第8回 1970年代の日本経済：2度のオイル・ショック、構造不況業種への対応、知識集約化・高付加価値化への動き等 第9回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴・グループ内の結び付き、現在の状況等 第10回 1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦、日米構造協議等 第11回 現在の産業政策：産業活力再生特別措置法、現在の産業政策の特徴等 第12回 グローバル化と構造改革：プラザ合意と国際協調、バブル崩壊後の動向、構造改革の本質等 第13回 構造改革下の福祉改革：国民負担率に対する認識、構造改革下の福祉改革の内容と特徴等 第14回 総括：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	財政学	担当者	船津 潤
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	[学期] 後期
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 財政・財政学</p> <p>【概要】 財政に関する基本的な概念や理論、日本の財政制度とそれが抱える課題に関する内容を中心に、グローバル化の影響等についても講義します(下記、授業スケジュール参照)。</p> <p>【到達目標】 財政には、政府の活動が正直に反映され、その政府の活動は、社会のあり方や人々の生活、経済状況に非常に重要な影響を与えます。これからの日本の社会のあり方やそこでの人々の生活、経済状況は、国民一人一人の財政に対する判断によって、大きく変わることになるでしょう。そこで、本講義では、受講者が財政に関して自分自身で主体的に考え、判断できるようになることを目指し、財政に関する基本的な概念や理論、そして日本の財政の制度、実態、抱えている課題について理解を深めることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 金澤史男編『財政学』有斐閣		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 財政とは何か：財政の定義、政府に対する評価の揺れ、市場の失敗、政府の機能等 第 3回 予算(1)：定義、役割、予算原則等 第 4回 予算(2)：日本の制度、その抱えている課題、改革の方向等 第 5回 経費(1)：定義、経費を分析する意味、経費の分類等 第 6回 経費(2)：経費膨張の法則・転位効果、小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等 第 7回 租税(1)：定義、租税の根拠、代表的な租税原則等 第 8回 租税(2)：公平の基準、望ましい税制とは等 第 9回 公債(1)：定義、民間債務との対比、租税との対比、公債の種類等 第 10回 公債(2)：日本の国債発行における原則、制度、「ギリシャよりひどい」は本当か等 第 11回 財政投融资(1)：定義、運用対象、批判等 第 12回 財政投融资(2)：2001年度の改革、今後の展望等 第 13回 財政改革の基本的な見方：社会の変化と財政、本当の財政危機とは、財政改革で求められる視点等 第 14回 総括：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	農業経済論	担当者	田中 史朗
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	[学期] 後期
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 世界の中の日本農業—日本農業の針路—</p> <p>【概要】 世界および日本の農業動向と課題を分析・摘出し、世界の食料需給が逼迫化していく中で、いかに日本農業の再建を図り、地域社会再生に繋げていったらよいかを、多角的に検証し解明していく。</p> <p>【到達目標】 世界の人口推移と食料生産の動向、そして日本農業の現状と諸問題の解明を踏まえて、日本農業の今後のありようを展望することのできる能力を身につけさせたい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回 世界の人口推移と食料生産の動向：地域別の食料需給動向と人口扶養力 第 2回 農産物貿易とフードマイレージ：地域別・国別農産物貿易の特徴とフードマイレージ 第 3回 マルサスの人口論と新マルサス主義：人口論、レスターブラウンと新マルサス主義批判 第 4回 農業の近代化と自由貿易政策：農業革命と自由貿易政策 第 5回 ヨーロッパ、新大陸、日本の農業の特徴と比較：経営規模と生産性 第 6回 途上国における「緑の革命」の功罪と限界について：緑の革命とは 第 7回 農業開発と環境問題：途上国の人口爆発と環境破壊 第 8回 食の安全と農業：遺伝子組み換え作物とBSE 第 9回 農業組織論：農業経営組織の種類と特徴 第 10回 日本農業の現状と課題(1)：国民経済に占める農業の地位と自給率 第 11回 日本農業の現状と課題(2)：農業の近代化と担い手 第 12回 戦後の日本農業政策の検証：「農業基本法」から「食料・農業・農村基本法」 第 13回 農業の再生への道標(1)：六次産業化と都市との交流 第 14回 農業の再生への道標(2)：食育、スローフード運動と所得補償方式 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時におこなうレポート(40%)＋期末試験(60%)		

授業科目	金融論	担当者	内田 昌廣
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「経済の血液」である金融は、個人の生活や企業活動を支えるとともに、その動向は仕事・生活にも大きな影響を与える。本講義では、金融論の入門講座として金融に関する基礎知識を学習するとともに、金融が経済に及ぼす影響など広い視野を養う。</p> <p>【概要】 金融の役割や金融機関が果たしている機能から、金融業界が直面している課題や最近の世界金融危機の原因まで、幅広いテーマを取り上げて金融というものの全体像を掴み、社会人として必要な金融リテラシーの基礎を養う。</p> <p>【到達目標】 金融機関の役割や金融市場など金融の基本的な知識を習得し、金融関連の情報に関心を持ち正しく理解できるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 日本経済新聞社編『ベーシック金融入門』日本経済新聞出版社（日経文庫）、安達智彦＋武蔵大学金融学科『金融の基本』日本実業出版社、家森信善『はじめて学ぶ金融のしくみ』中央経済社、岩崎博充『手にとるように銀行がわかる本』かんき出版、株式フォーラム21『手にとるように株・証券がわかる本』かんき出版、森宮康『保険の基本 新版』日経文庫</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明：講義の目的・進め方 / 序論：金融とは何かー お金が果たす役割、金融という機能とは？ 第2回 銀行の役割 (1)：資金決済の仕組み、内国為替と外国為替、全銀システムと銀行間決済 第3回 銀行の役割 (2)：銀行の業務（預金と貸付）、銀行の収益構造、信用創造メカニズム 第4回 証券会社の役割 (1)：証券（株式・債券）の仕組み、証券発行市場、証券流通市場 第5回 証券会社の役割 (2)：ブローカー業務、アンダーライティング業務、セリング業務、ディーラー業務 第6回 保険会社の役割 (1)：保険の原理と機能、生命保険と損害保険 第7回 保険会社の役割 (2)：間接金融の主体としての役割、機関投資家としての役割 第8回 その他の金融機関：信託銀行、投資信託会社、消費者金融会社、クレジットカード会社など 第9回 短期金融市場と外国為替市場：金融機関同士が取引する市場の仕組みと機能、市場金利、市場為替レート 第10回 金利とは何か：利息、利率・利回り、金利はどうやって決まるのか、書引 現在価値とは 第11回 日本銀行と金融政策：日本銀行の金融調節、金融引き締め・金融緩和、量的緩和政策 第12回 金融システムの安定化のための政策 (1)：銀行に対する規制、預金者保護の制度 第13回 金融システムの安定化のための政策 (2)：証券会社・保険会社に対する規制、投資家や保険契約者保護の制度 第14回 バブル経済崩壊と世界金融危機：日本のバブル経済と崩壊、世界金融危機はどのように起こったか 第15回 まとめと試験 (※ 講義の進み具合により予定を変更する場合があります)</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	経済学史	担当者	斉藤 悦則
		[履修年次] 1, 2, 3年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経済をとらえる学説の移り変わりを眺める。</p> <p>【概要】 もともと経済学は、経世済民（人民救済）の学問であった。「まっとうな」金儲け、「法外でない」利子、「正当な」価格や分配などについて考える学問であった。したがって、それは倫理学（道徳の科学）と大きく重なり合う。ところが、経済学はだいたい道徳の科学から離れていく。そして、そのことによって「より科学的になった」とも言われる。</p> <p>【到達目標】 経済学の移ろいを眺めて、現代の経済を見つめる眼力を育てる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし (2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 人の不幸を土台にして幸せになる？……重商主義 第2回 生産的という発想……重農主義 第3回 分業による生産性の向上……アダム・スミス 第4回 供給が需要をつくりだす……J・B・セイ 第5回 食糧自給による安全保障……マルサス 第6回 国際分業の大切さ……リカードゥ 第7回 経済学者にたまされるな……リスト 第8回 変化をとらえる……マルクス 第9回 理想の資本主義……J・S・ミル 第10回 限界革命……ワルラス 第11回 革新（イノベーション）の大事さ……シュンペーター 第12回 市場は万能ではない……ケインズ 第13回 市場の擁護……ハイエク 第14回 法律を犯さなきゃいいってもんじゃない……アマルティア・セン 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業ごと実施する小論文 (100%)		

授業科目	経済学特講	担当者	蔵元 淳
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 すべての人に関係する親族法と相続法と悪徳商法の手口について</p> <p>【概要】 親族法（親子、兄弟姉妹、夫婦の各関係）と相続法について、弁護士経験にもとづき具体的に講義する。 また、経済的に苦しむ人々の救済手段たる消費者破産についてもふれる予定である。 加えて、悪徳商法にひっかからないためにこの時間を設け、ネットワークビジネス、内職商法、就職商法、デート商法、キャッチセールスなどの被害の手口、対処の仕方について講義をする。</p> <p>【到達目標】 司法書士のレベルに到達できるよう講義するつもりである。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 六法（小六法、模範六法その他何でも可）を持参願いたい。 (2)		
授業スケジュール	第1回 悪徳商法にひっかからないために、ネットワークビジネス、内職商法、就職商法、デート商法、キャッチセールスなどの被害の手口、対処の仕方について 第2回 婚姻（結婚）とは 第3回 内縁について 第4回 離婚とは 第5回 離婚原因について 第6回 離婚に伴う親権の指定、財産分与、慰謝料などについて 第7回 親子（実子）について 第8回 親子（養子）について 第9回 相続とは 第10回 誰が相続するか 第11回 相続の割合はどうか 第12回 遺言書について 第13回 遺留分とは、どういうことか 第14回 個人破産とは、どういうことか 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（80%）に授業での発言内容（20%）を加味する。		

授業科目	国際経済論	担当者	野村 俊郎
	〔履修年次〕 1, 2, 3年 〔単位〕 2単位		〔学期〕 前期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化～トヨタのSPSと日系ブラジル人</p> <p>【概要】 グローバル化が加速する21世紀の世界経済について、その制度的な枠組みをWTO, FTA, EPAを中心に、バラッサの経済統合の理論を参照しながら説明する。そのうえで、日本企業の急速な海外生産の拡大を量的な面から外観するとともに、海外工場に最新のモノづくりの技術が導入される一方で、国内マザー工場のイノベーションが停滞している現状をみていく。</p> <p>【到達目標】 21世紀のグローバル化の現状を制度面と、その制度を活用する民間企業の活動の両面から理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	授業中に指示する。		
授業スケジュール	第1回 21世紀のグローバル化の二つの方向：外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化 第2回 WTOの仕組み：最恵国待遇、内国民待遇、数量制限の禁止、ドーハラウンド 第3回 FTAとバラッサの5段階説：EU 第4回 進展するFTAとEPAの限界：東アジア共同体かTPPか、NAFTA、メルコスル。日本のEPA戦略の意義と限界 第5回 海外工場から始まる最新のモノづくり（中国1）：广汽トヨタにおけるSPSとリーマン化の進展 第6回 同上（中国2）：SPSと労働過程の変容～ネオテイラー主義からウルトラテイラー主義へ～ 第7回 同上（中国3）：サプライヤーパーク内専用道順引き：JITからJISへの進化と負担軽減 第8回 同上（中国4）：日系自動車メーカーと中国金型産業 第9回 同上（中国5）：中国金型産業の発展と限界 第10回 同上（タイ）：トヨタモータータイランドにおけるコンベア同期台車式SPS 第11回 同上（台湾）：国瑞汽車におけるAGV牽引同期台車式SPS 第12回 同上（インドネシア）：TMMINにおけるハンガー式SPS 第13回 内に向かうグローバル化：リーマンショックと生産のフレキシビリティ 第14回 同上：リーマンショックと雇用のフレキシビリティ 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	国際立地論	担当者	野村 俊郎
	〔履修年次〕 1, 2, 3年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業が創業の地から国内の他地域へ、そして海外へ展開していくプロセスの考察</p> <p>【概要】自動車産業を例に、創業の地から東北・北海道、九州への立地、南アフリカ、アルゼンチン、ベネズエラへの立地と展開していく過程を考察する。</p> <p>【到達目標】資本の民族性と国際性を理解するとともに、ナショナル、リージョナル、グローバルの意味を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	授業で指示する。		
授業スケジュール	第 1回 国内立地と国際立地 第 2回 国内立地 (1) 東北・北海道への立地 第 3回 国内立地 (2) 東北・北海道への立地 第 4回 国内立地 (3) 東北・北海道への立地 第 5回 国内立地 (4) 九州への立地 第 6回 国内立地 (5) 九州への立地 第 7回 国内立地 (6) 九州への立地 第 8回 国際立地 (1) 中国への立地 第 9回 国際立地 (2) 南アフリカへの立地 (IMV1) 第 10回 国際立地 (3) アルゼンチンへの立地 (IMV2) 第 11回 国際立地 (4) ベネズエラへの立地 (IMV3) 第 12回 国際立地 (5) 第 13回 資本の民族性と国際性 (1) : 国家によって総括された資本と、それを超えていく資本 第 14回 資本の民族性と国際性 (2) : ナショナル, リージョナル, グローバル 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	アジア経済論	担当者	野村 俊郎
	〔履修年次〕 1, 2, 3年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】成長するアジアとアジア共同体への展望</p> <p>【概要】ヨーロッパ27カ国はヒト、モノ、カネの出入りが自由な共同体、EUを結成している。この27カ国は、地面の上には国境がなく、文字通り自由に出入りできる。アジアにも、こうした自由な共同体はできるのか? TPPと東アジア共同体の可能性を検討する。そのうえで、世界経済の成長を牽引する中国、インド、東南アジアの現状を概観する。以上の検討を踏まえて、アジア経済の未来を展望する。</p> <p>【到達目標】アジア共同体への道を、各国の発展の現状から理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第 1回 アジアとヨーロッパ: 統合に向かう成長と統合による成長 第 2回 アジア経済への道 (1) : 経済統合の5段階 第 3回 同上 (2) : TPPによる完全自由化への道 第 4回 同上 (3) : 東アジア共同体による保護を残した自由化への道 第 5回 中国経済 (1) : 経済規模で日本を追い抜いた中国経済 第 6回 同上 (2) : 社会主義を目指す資本主義 第 7回 同上 (3) : アメリカよりも「自由な市場経済の国」中国へ改革開放30年の成果へ 第 8回 インド経済 (1) : インドの概況 第 9回 同上 (2) : 植民地から独立、管理経済を経て91年から自由化 第 10回 同上 (3) : 民族資本として成長するTATA 第 11回 東南アジアの経済 (1) : タイとインドネシア 第 12回 同上 (2) : マレーシア、フィリピン、ベトナム 第 13回 アジアの未来 (1) : 中国、インド、日本の役割 第 14回 同上 (2) : アジア共同体への展望 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	国際関係論	担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生じうるさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史の変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】国際社会の現在の諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。 (2) 原林久編『国際関係学講義』（有斐閣、2006年）。		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：講義の目的、方法 第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何か違うのか 第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化 第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦 第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1 第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2 第7回 国際関係のなりたち4：朝鮮戦争とベトナム戦争 第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム 第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序 第10回 国際社会における諸問題1：グローバリゼーションと貧困問題 第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発 第12回 国際社会における諸問題3：環境問題、人権、予防外交 第13回 国際社会における諸問題4：9.11以後の世界 第14回 国際社会における諸問題5：グローバルガバナンス 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	試験によって評価する。(100%)		

授業科目	アジア事情	担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔学期〕 後期 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東アジア、東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】アジアは、地理、歴史、言語、文化、宗教、民族など、すべての面において多様である。本講義では、「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも、「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては、植民地化や日本占領期という共通の時代性が、現代においては脱植民地化、国民国家建設、リージョナリズム（地域主義）の形成という共通性がある。また、最近「東アジア共同体」ということがしきりに叫ばれている。これらの共通する事象を抽出し、分析する。</p> <p>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。 (2) プリント		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：講義の目的と方法 第2回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか 第3回 歴史的形成1：植民地以前のアジア 第4回 歴史的形成2：植民地のようす 第5回 歴史的形成3：脱植民地化、国民国家建設、開発 第6回 歴史的形成4：冷戦下のアジア 第7回 東南アジア1：インドシナ三国 第8回 東南アジア2：ベトナム戦争の影響 第9回 東南アジア3：タイ、ミャンマー、マレーシア 第10回 東南アジア4：メコン河流域開発 第11回 東南アジアの地域協力体制：ASEANの形成 第12回 アジアにおける協力体制1：「東アジア共同体」について 第13回 アジアにおける協力体制2：「東アジア共同体」と日本 第14回 アジアにおける協力体制3：「東アジア共同体」の展望 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	レポートによって評価する。(100%)		

授業科目	ヨーロッパ事情	担当者	大重 康雄
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[学期] 後期 [授業形態] 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ヨーロッパの現状を主に経済の視点でとらえ、ヨーロッパ (EU) がもたらす世界経済への影響や欧州統合での課題を考察する。</p> <p>【概要】 ヨーロッパの地域統合 (EU) から通貨統合およびその後の金融財政危機に至る過程に重点を置き、今後のヨーロッパ社会の展望について考える。特に平成23年度 (2011年度) は国際経済危機後の経済状況が深刻化しており、EUにおける雇用や財政問題・環境・エネルギー問題への対処を米国や日本と比較し、将来への展望を全員で意見交換する。</p> <p>【到達目標】 ヨーロッパの地域統合 (EU) の拡大と深化の現状と課題を学び、日本や東アジアまた地域経済の抱える課題解決の糸口を見出す。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済』有斐閣アルマ および講師作成プリント (2) 原輝史『現代ヨーロッパ経済史』有斐閣		
授業スケジュール	第1回 現在ヨーロッパで何が起きているか 第2回 ヨーロッパ産業資本の形成 第3回 ヨーロッパ統合の歴史 第4回 統一通貨ユーロとは 第5回 国際金融危機とEU財政諸問題 第6回 EU社会が抱える課題 第7回 イギリスとEU経済 第8回 フランスとEU経済 第9回 ドイツとEU経済 第10回 その他諸国とEU経済 第11回 EUと東欧・ロシアとの現状 第12回 EUと自由貿易協定 (FTA) 第13回 欧州通貨と国際金融システム 第14回 ヨーロッパ社会と統合の将来 第15回 試験		
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + 出席点 (20%)		

授業科目	地域経済論	担当者	田中 史朗
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地域経済と第一次産業—地域再生の視角—</p> <p>【概要】 離島・半島など条件不利地域において (鹿児島県とてその例外ではなく、むしろ多く抱える)、どのような問題を抱え、どのようにして地域経済の再建と地域社会の再生を図っていったらよいかを、事例分析を通して、多角的に解析し、考察していく。</p> <p>【到達目標】 農山漁村地域の抱える諸問題の解明を踏まえて、それに対する政策的処方箋を導出するなど、地域学の視点から農山漁村地域の社会発展のありようについて考察できる能力を身につけさせたい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第1回 地域主義と地方の時代：地域問題と地域経済論 第2回 内発的発展論：地域社会の再生と持続可能な発展 第3回 地域づくり運動の展開：地域づくり運動の諸相と課題 第4回 農山漁村地域の活性化 実態編 (1)：農山村地域での地域づくりとその手法 第5回 農山漁村地域の活性化 実態編 (2)：漁村地域での地域づくりとその手法 第6回 資源管理論：コモンズの悲劇と広域的資源管理組織 第7回 里海・里山は誰のものか：地域資源の利用・管理とコンフリクト 第8回 第一次産業の担い手問題：後継者対策とU・Iターン者 第9回 地域リーダー論：地域リーダーの特徴、育成、そして役割 第10回 経営組織論：地域づくりと経営組織形態 第11回 農山漁村地域の組織問題：異種間連携とホロニック 第12回 農林水産物の流通機構と価格形成：付加価値向上に向けての取り組み 第13回 地域システムの形成：ハブ型リレーションシップからネットワークへ 第14回 農山漁村地域再生への道標：事業開発への挑戦と生活文化の再生 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時に実施するレポート(40%)+期末試験 (60%)		

授業科目	地域産業政策	担当者	田中 史朗
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地域経済の再建と地域社会の再生</p> <p>【概要】 閉塞感の漂う条件不利地域にあって、地域の持続的な発展に何が必要なのか、事例分析を踏まえて解明していきたい。</p> <p>【到達目標】 地域のニーズを知る力、地域の課題や問題点を的確に捉えて、その解決のために必要な施策を考える力を鍛錬したい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回 条件不利地域の現状と諸問題：条件不利地域とは 第 2回 日本における地域開発の特徴：工業化と都市化の進展 第 3回 日本における地域開発の功罪 実態編（1）：全国総合開発計画と高度経済成長 第 4回 日本における地域開発の功罪 実態編（2）：格差の拡大と公害問題 第 5回 経済のグローバル化の進展と産業の空洞化現象：円高ドル安とリゾート開発 第 6回 内発的発展論と地域経済の再建：地域資源と地域づくり 第 7回 地域再生のための手法：六次産業化と生活文化の再生 第 8回 農村地域再生への取り組み 実態編（1）：自然生態系との共生モデル他 第 9回 山村地域再生への取り組み 実態編（2）：地域資源活用型ビジネスモデル他 第 10回 漁村地域再生への取り組み 実態編（3）：地域まるごとブランド化と都市との交流 第 11回 地方都市再生への取り組み 実態編（4）：中心市街地活性化とコンパクトシティ 第 12回 地方都市再生への取り組み 実態編（5）：歴史的建造物・街並み修復保全型街づくりと観光事業 第 13回 地方都市再生への取り組み 実態編（6）：自然景観と芸術文化による地域づくり 第 14回 地域再生のための内発的発展モデル：人、組織、環境、産業 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時に実施するレポート(40%)＋期末試験(60%)		

授業科目	地方自治論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地方自治, 地方行財政</p> <p>【概要】 地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係の特徴は何かといった視点を踏まえて、地方自治に関する基本的な理論や制度について講義するとともに、参考になるとと思われる海外の事例も取り上げます(下記、授業スケジュールを参照)。</p> <p>【到達目標】 地方自治に関する基本的な理論、そして日本の地方自治に関する制度やその課題について理解を深め、地方自治、地方行財政について、自分自身で主体的に考えられるようになることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 林健久編『地方財政読本 第5版』東洋経済新報社		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 地方自治：地方自治とは何か、地方政府の特徴、地方分権が求められる背景、グローバル化の影響等 第 3回 地方自治体の意思決定(1)：役所と議会の関係、国と地方自治体の関係等 第 4回 地方自治体の意思決定(2)：地方の予算制度、長の強い権限等 第 5回 地方自治体の財源(1)：三位一体の改革、地方債等 第 6回 地方自治体の財源(2)：地方財政健全化法について等 第 7回 地方自治体の財源(3)：地方交付税、国庫支出金等 第 8回 法定外税(1)：法定外税の定義、地方分権一括法での変更点、現在の傾向等 第 9回 法定外税(2)：受益・原因と負担の関係、可能性と問題点等 第 10回 市町村合併：「平成の大合併」とその背景、望ましい合併とは、現在の状況等 第 11回 市民参加・参画：歴史、求められている背景、藤沢市の事例等 第 12回 非営利組織：アメリカの非営利開発法人の事例等 第 13回 住民自治：シアトル・メトロの事例について 第 14回 総括：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	労働法	担当者	正田 京子
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい労働）」とは何か</p> <p>【概要】1919年に国際労働機関（ILO）が結成されて以来、「人間らしい労働」の実現はその基本理念だった。そのILO発展の歴史を概観しながら、国際社会の中で日本がどのような対応をしてきたか。設立90周年になるILOが、現在、あえて「ディーセント・ワーク」をスローガンとして掲げているのはなぜなのか。日本の労働法の発展と現在を、国際社会の中に位置づける。</p> <p>【到達目標】グローバル化する社会の中で、労働の分野で「規制緩和」とはどのような意味をもち、どのような結果をもたらしているのかを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 資料を配布する。 (2) 講義時に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 労働法前史：山本茂実『ああ野麦峠—ある製糸女工哀史』を読む 第2回 国際労働機関ILOの発展史 第3回 労働法とは：日本国憲法で保障された労働者の権利と労働法 第4回 労働基準法の目的と内容：労働基準法の概要と法の実効性を確保する方法 第5回 労働契約のルール：労働契約上の権利・義務 第6回 労働時間のルール：労働時間・時間外労働・割増賃金 第7回 休憩・休日のルール 第8回 労働時間規制の弾力化は何かをもたらしたか 第9回 女性雇用のルール：男女同一賃金の原則から男女雇用機会均等法制定まで 第10回 母性保護規定、育児・介護休業法、アファーマティブ・アクション 第11回 労働安全衛生と労災補償：過労死、パワー・ハラスメント 第12回 労働契約の終了：契約解除の自由と解雇制限、非正規雇用と雇い止め 第13回 竹信恵美子『ルボ雇用劣化不況』を読む 第14回 労働は商品ではない：労働の人間化とディーセント・ワーク 第15回 予備日</p>		
成績評価の方法	レポート（60点）＋ 毎回の講義終了時に提出してもらう小レポート（40点）		

授業科目	国際経済特講	担当者	梅 允中
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ及び概要】経済のグローバル化の進展は著しく、消費者のニーズも多様化していることによって、貿易取引を行う企業は増えつつあります。そこで、これからは、輸出入取引の仕組みや外国為替、貿易決済などの貿易実務の知識を得ることは重要です。この講義では、貿易実務について広く習得し、貿易実務担当者となるための知識を身に付けます。また、貿易実務を学習しながら、貿易英語も勉強します。</p> <p>【到達目標】貿易実務担当者レベル</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>最新版 貿易実務 ハンドブック 日本貿易実務検定協会 編 発行所 中央書院</p>		
授業スケジュール	<p>第1回～第4回 輸入編 ・貿易とは、規制の確認、インコタームズ、輸入の流れ ・輸入採算、契約、海上貨物保険 ・決済方法、通関、貨物引取り 第5回～第8回 輸出編 ・輸出採算、輸出流れ、輸出信用状、輸出書類作成 第9回～第10回 外国為替編 ・外国為替の仕組み、為替リスク、外国為替と銀行取引 第11回 貨物海上保険 第12回 通関と関税 第13回 仲介貿易 第14回 貿易実例紹介 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	期末試験の成績（70%）に授業での発言内容及び予習の状況（30%）を加味する。		

授業科目	地域研究特講	担当者	山本 晃正
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 前期
テーマ及び概要	<p>【テーマ】消費者をめぐる法律問題の諸相</p> <p>【概要】キャッチセールス、資格商法、マルチ商法などの悪徳商法や外国為替証拠金取引などの金融商品被害はどのように規制されているのか、食品偽装などで問題とされる食の安全性はどのように確保されるのか、危険な製品で受けた消費者の被害はどのように金銭賠償されるのか、サラ金への規制はどうなっているか、公正な競争や表示のための規制はどうなっているのかなど、われわれ消費者を取り巻く様々な法律問題を、できるだけ具体的事例を取り上げながら考えていく。</p> <p>【到達目標】消費者が直面する具体的諸問題の現状や内容に関心を持ち理解すると共に、消費者が保障されている法律上の制度や諸権利の内容に関心を持ち理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	杉浦市郎編著『新・消費者法これだけは』法律文化社		
授業スケジュール	<p>第1回 消費者問題の諸相、消費者の権利、消費者と契約：契約とは何か、契約の拘束力からの離脱</p> <p>第2回 消費者と契約：消費者契約法（目的、対象、取消権）</p> <p>第3回 消費者と契約：消費者契約法（不当条項の無効、適格消費者団体による差止請求権）</p> <p>第4回 消費者と契約：特定商取引法（対象とする取引の概要、ネガティブ・オプション）</p> <p>第5回 消費者と契約：特定商取引法（訪問販売・電話勧誘販売に関する諸規制、クーリングオフの意味と制度概要）</p> <p>第6回 消費者と契約：特定商取引法（通信販売・特定継続的役務提供・業務提供誘引販売取引に関する諸規制）</p> <p>第7回 消費者と契約：特定商取引法（連鎖販売取引＝マルチ商法に関する諸規制）、無限連鎖防犯法（ねずみ講の禁止）</p> <p>第8回 消費者と安全：製造物責任法（目的・製造物の概念・欠陥の概念）</p> <p>第9回 消費者と安全：製造物責任法（責任主体・製造物責任・免責事由）</p> <p>第10回 消費者と信用取引：貸金業法とグレーゾーン金利など</p> <p>第11回 消費者と信用取引：割賦販売法（割賦販売・ローン提携販売・信用購入あっせん）</p> <p>第12回 消費者と金融商品取引：金融商品取引法（投資家＝消費者保護規制）</p> <p>第13回 消費者と公正な競争秩序の維持：独占禁止法（消費者保護に関連の深い側面に限定して）</p> <p>第14回 消費者と不当表示・景品提供：不当景品類及び不当表示防止法（景品表示法）</p> <p>第15回 まとめと試験</p> <p>第8回前後と第14回前後頃に2回、復習のために模擬演習テスト（成績評価には影響しない）を実施する。</p>		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	地方自治法	担当者	山本 敬生
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 後期
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住民自治、団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で、地方公共団体の種類及び事務、住民の権利義務、条例と規則、議会、執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し、地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】地方自治法は、国と地方自治公共団体の役割分担、機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設、普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与、国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では、地方自治法をわかりやすく解説することで、地方自治法が地域主権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。</p> <p>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し、国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 『ポケット六法』（平成23年度版）有斐閣2010年</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 地方自治の意義</p> <p>第2回 地方公共団体の種類</p> <p>第3回 地方公共団体の区域・事務</p> <p>第4回 住民の権利義務(1)</p> <p>第5回 住民の権利義務(2)</p> <p>第6回 条例(1)</p> <p>第7回 条例(2)</p> <p>第8回 議会(1)</p> <p>第9回 議会(2)</p> <p>第10回 執行機関(1)</p> <p>第11回 執行機関(2)</p> <p>第12回 議会と長との関係</p> <p>第13回 地方公共団体と国の関係</p> <p>第14回 予算</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験（90%）＋授業での発言の記録（10%）を基準に、総合的に評価する。		

授業科目	簿記論Ⅱ	担当者	宗田 健一
	〔履修年次〕 1, 2, 3年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注1) 〔授業形態〕 講義方式 (黒板とパワーポイントの併用)		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複式簿記と財務諸表</p> <p>【概要】 簿記論Ⅰなどで簿記一巡の手続きを学修した学生を対象として、諸取引の処理と決算に関して学習します。また、新聞記事などをもとにして社会における簿記・会計の役割について学習します。</p> <p>【到達目標】 複式簿記の記録・計算の知識と技術の修得により、最終的に、財務諸表(損益計算書・貸借対照表)の作成が行えるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 蛭川幹夫『基本簿記』実教出版、2010年。 蛭川幹夫他『基本簿記演習』実教出版、2010年。 (2) 随時紹介		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：履修登録確認、コース・パケット配布、 諸取引1：現金・現金過不足 第2回 諸取引2：当座・小口現金 第3回 諸取引3：商品売買取引（3分法） 第4回 諸取引4：掛取引 第5回 諸取引5：手形取引1 第6回 諸取引6：手形取引2 第7回 諸取引7：その他の債券、債務 第8回 復習、小テスト1 第9回 諸取引8：売買目的有価証券 第10回 諸取引9：固定資産 第11回 諸取引10：資本金と税金 第12回 諸取引11：決算整理1 第13回 諸取引12：決算整理2 第14回 諸取引13：伝票 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	小テスト・予習・復習の状況（20%）、および最終試験（80%）で評価します。 第1回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。		

(注1) 2011年度後期に開講されるコンピュータ会計、2012年度後期に開講される財務会計論を履修する予定の学生は、必ず、簿記論Ⅰ、Ⅱを履修してください。

授業科目	経営管理論	担当者	竹中 啓之
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】 2人以上の個人が集団として活動する場合、そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり、その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。</p> <p>したがって経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり、このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では、彼らが、ある目的を実行するためにどのように組織を効率よく調整し、組織内部にいる関係者のみならず、組織外部のさまざまな状況と関わり合いを持ち、対処しているのかを講義していきます。</p> <p>【到達目標】 組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門的用語を知る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 講義中に随時指示する		
授業スケジュール	第1回 講義概要の説明：今後の講義の概要について説明する 第2回 経営学と経済学の違い：経営学と経済学の考え方の違いについて説明する 第3回 経営学の発展と必要性：経営学の必要性について説明する 第4回 株式会社の特徴とは何か：株式会社の特徴について説明する 第5回 組織と個人の関わり方：組織と個人の関わり方について、企業文化等を通して考える 第6回 組織内での人の動き方：組織における人間観について 第7回 人はなぜ働くのか：人はなぜ働くのかを考える 第8回 日本の経営を考える：日本の経営を説明する 第9回 成果主義とはどのような制度か：成果主義の考え方を説明する 第10回 組織構造とそのポジション（1）：組織構造の仕組みについて説明する 第11回 組織構造とそのポジション（2）：組織構造の問題点について説明する 第12回 経営管理と経営戦略：経営管理と経営戦略の考え方の違いについて説明する 第13回 企業は誰のものか：企業は誰のものか考える 第14回 経営者の役割とは何か：経営者の役割を考える 第15回 まとめと試験：まとめと試験を行う		
成績評価の方法	前期筆記試験（70%）、授業でのレポート（30%）（予定） 詳細については、1回目の講義で説明します。		

授業科目	原価計算	担当者	白谷 健一
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 製造業で用いられる原価計算技法について学習する。 【概要】 製品の販売価格の決定や在庫金額の計算には製品原価を知る必要がある。この「原価」はどのようにして計算されるのかについて日商簿記検定（工業簿記）2級レベルの問題演習をととして学習する。 【到達目標】 日商簿記検定2級程度の原価計算・工業簿記を習得する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 岡本清・廣本敏郎監修『段階式日商簿記 2級工業簿記』税務経理協会、プリント		
授業スケジュール	第1回 講義ガイダンス、工業簿記と原価計算（工業簿記の勘定体系） 第2回 原価の分類（発生形態別分類、製品とのかかわりによる分類、発生態様別分類） 第3回 費目別原価計算①（材料費・労務費・経費の計算） 第4回 費目別原価計算②（製造間接費の配賦） 第5回 部門別原価計算（部門費の配賦） 第6回 個別原価計算（原価計算表の集計） 第7回 総合原価計算①（単純総合原価計算） 第8回 総合原価計算②（工程別総合原価計算） 第9回 総合原価計算③（組別総合原価計算、等級別総合原価計算） 第10回 標準原価計算①（材料費・労務費の差異分析） 第11回 標準原価計算②（製造間接費の差異分析） 第12回 直接原価計算①（固定費調整） 第13回 直接原価計算②（損益分岐点分析） 第14回 工場会計の独立（本社・工場勘定） 第15回 まとめと試験 ※ 講義の進捗によって予定を変更する場合があります		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	経営学特講	担当者	田原 武志・東 圭太
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】 「経営」を広義にとらえ、手法を具体的に考察する。 【概要】 本講義では、「経営」を一般的にイメージする会社だけではなく例えば、文化祭実行委員会等の組織体やそれぞれの家庭、自分自身の人生などを経営（マネジメント）する事はどういう事を学ぶ。それぞれの経営資源の洗い出しから始まり、次に成果を作り出していく手法について考察する。自己の成長と幸福が、家庭・会社・地域社会の成長と幸福へとつながるという基本思想のもと、学生諸君とともに自由な発想で考えていく場とする。 【到達目標】 社会人としての様々な局面を向えた時、その課題を深く理解し論理的な解決を目指し、自己成長を遂げる思考力や行動力を身に付ける。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 毎回プリントを用意する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーリング 第2回～第14回 毎回テーマを決めて講義、レポート、感想発表 「世界に誇れる鹿児島県の良さととは？」 「日新公いろは歌の考察」 「自分がもし起業したとしたら？」 「企業の果たす役割責任について」 「自分の仕事観について」 「鹿児島で活動し社会貢献していると思う企業・団体を1つ選び理由を述べよ」 「鹿児島に関する好きな歌を1つ選んで解釈し、選んだ理由を述べよ」 「家庭人、社会人としてのリスクマネジメント」 「人生において貯蓄の意義を考察」 「ファイナンシャル・プランニングの基本考察」等々 第15回 定期試験（プリント・レポート・ノート持ち込み可）		
成績評価の方法	授業での感想発表、定期試験の結果、毎回のレポートの総合評価（全体で100%）		

授業科目	比較経営論	担当者	瀬口 毅士
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営システムの多様性を知ろう</p> <p>【概要】この授業では、様々な国の経営を取り上げ、経営システムの比較を行う。まずは日本の経営システムを理解した後、欧米・アジア各国の経営システムを取り上げる。</p> <p>【到達目標】各国の歴史、政治、経済、地理、などによって、経営のあり方が異なることを知る。また、経営システムの多様性や経路依存性が存在することを理解すること、を目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション：授業の進め方や経営比較の視点について解説する。</p> <p>第2回 日本の経営（1）：日本企業の概要、歴史、統治構造などについて解説する。</p> <p>第3回 日本の経営（2）：日本企業について、戦略や組織の側面から検討する。</p> <p>第4回 日本の経営（3）：日本企業の生産方式、労使関係などについて講義する。</p> <p>第5回 アメリカの経営（1）：アメリカ企業の歴史および統治構造や経営システムの特質について講義する。</p> <p>第6回 アメリカの経営（2）：アメリカ企業の経営について、戦略、組織、生産、労働、などの側面から検討する。</p> <p>第7回 イギリスの経営（1）：イギリス企業の歴史および統治構造や経営システムの特質について講義する。</p> <p>第8回 イギリスの経営（2）：イギリスのなかでも、特に工場労働における労使関係を取り上げ、説明する。</p> <p>第9回 フランスの経営：フランス企業の歴史および統治構造や経営システムの特質について講義する。</p> <p>第10回 ドイツの経営：ドイツ企業の歴史および統治構造や経営システムの特質について講義する。</p> <p>第11回 中国の経営：中国企業を取り巻く環境の変化や統治構造、経営システムの特質について講義する。</p> <p>第12回 韓国の経営：韓国企業の歴史および統治構造や経営システムの特質について講義する。</p> <p>第13回 その他の国々の経営：第12回までに取り上げなかった国々の経営システムについて講義する。</p> <p>第14回 グローバル競争：これまで見てきた国々が、グローバル市場という同じ舞台上、どのようにしのぎを削っているかを見る。</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験60%+授業ごとに実施する確認テスト40%		

授業科目	企業行動科学	担当者	竹中 啓之
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業経営における意思決定やリーダーシップについて考える</p> <p>【概要】行動科学とは、個人や集団の形で人間が行う行動に関して、その動機・過程・効果を実際におこった事実をもとにして記述し、説明し、分析していく記述論的アプローチを行うものである。そのためには経営学だけではなく、心理学・社会学・経済学などの諸学問の境界を超えた学際的な考え方が必要となる。</p> <p>この講義ではこのようなアプローチ方法を前提として、企業における意思決定過程の分析を試みることにする。企業目的を達成するために、一つの企業行動として意思決定を調整する方法について説明する。またそのほかに、リーダーシップ論やヒトの動機づけ理論についても取り上げる。</p> <p>【到達目標】組織における意思決定プロセスを理解する。リーダーシップの主要な理論に触れる。主要な動機づけ理論を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定</p> <p>(2) 講義中に随時指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明：講義の概略を説明する</p> <p>第2回 意思決定プロセスとはどのようなものか：意思決定プロセスについて説明する</p> <p>第3回 組織の意思決定：組織の意思決定について説明する</p> <p>第4回 集団での意思決定は優れているのか：集団での意思決定が優れているかどうか考える</p> <p>第5回 組織の運営と個人の役割：組織の運営における個人の役割を考える</p> <p>第6回 意思決定のスピードと組織構造：意思決定のスピードと組織構造の関係を考える</p> <p>第7回 組織文化が意思決定に与える影響：組織文化が意思決定に与える影響を考える</p> <p>第8回 インセンティブシステム（動機づけ理論）（1）：動機づけ理論について説明する</p> <p>第9回 インセンティブシステム（動機づけ理論）（2）：動機づけ理論の問題点について説明する</p> <p>第10回 リーダーシップとは何か（1）：リーダーシップ論について説明する</p> <p>第11回 リーダーシップとは何か（2）：リーダーシップ論の問題点について説明する</p> <p>第12回 上司と部下の関係を考える（1）：上司と部下の関係について説明する</p> <p>第13回 上司と部下の関係を考える（2）：問題のある上司に当たったときの対処法を考える</p> <p>第14回 卒業式は自由な人生の終わりか：大学での学びについて考える</p> <p>第15回 まとめと試験：まとめと試験を行う</p>		
成績評価の方法	前期筆記試験（70%）、授業でのレポート（30%）（予定） 詳細については、1回目の講義で説明します。		

授業科目	経営戦略論	担当者	竹中 啓之
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経営戦略の基本的な考え方を説明し、実際に行われている企業活動との関わりを考える</p> <p>【概要】 経営戦略には、企業全体の活動を視野に入れた「企業戦略」と、より具体的な競争戦略を実行する「事業戦略」に大きく分けることができる。この講義では、まず時代と共に戦略論がどのように変化してきたかを概観し、「企業戦略」の重要性について考える。次に、競争に勝ち抜くためのより具体的な「事業戦略」についていくつかの視点を取り上げ、多様な競争に勝ち抜く方法を考えていく。また、実際の企業がこのような戦略をどのように捉え、活用しているのかについても調べていくことにする。</p> <p>【到達目標】 経営戦略論の概要を理解する。「企業戦略」の重要性を知る。多様な競争戦略の方法を知る。実際の企業戦略について触れる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 講義中に随時指示する		
授業スケジュール	第1回 講義の概要：講義の概要を説明する 第2回 経営戦略の概念：経営戦略の全般的な考え方を説明する 第3回 企業戦略とはどのようなものか(1)：企業戦略とはどのようなものかを考える 第4回 企業戦略とはどのようなものか(2)：企業戦略を考える意味を説明する 第5回 企業ドメイン(事業領域)の戦略(1)：企業ドメインの考え方について説明する 第6回 企業ドメイン(事業領域)の戦略(2)：企業ドメインの問題点について説明する 第7回 経営戦略と経営資源(1)：経営資源と経営戦略の考え方について説明する 第8回 経営戦略と経営資源(2)：経営資源の考え方を応用した経営戦略を考える 第9回 事業戦略・競争戦略：創発戦略・学習アプローチについて考える 第10回 具体的な競争戦略(1)：競争戦略について考える 第11回 具体的な競争戦略(2)：競争戦略の類型について考える 第12回 相手にしない戦略―反撃を予想した戦略：競争しない競争戦略と考える 第13回 実際の企業における競争戦略を考える：具体的な企業の戦略例を説明する 第14回 新規創造戦略：新規創造戦略について考える 第15回 まとめと試験：まとめと試験を行う		
成績評価の方法	後期筆記試験(70%)、授業でのレポート(30%) (予定) 詳細については、1回目の講義で説明します。		

授業科目	企業論	担当者	朝日 吉太郎
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 資本主義的企業の発展法則をベースにグローバル化の中の企業戦略を考えます。</p> <p>【概要】 世界の政治・経済は、巨大な企業や企業集団に強く影響されています。このような企業が常に勝ち組みになる方策の一つが、市場万能主義をとる新自由主義の発想の根底にありました。ところが、これらの企業の暴走がバブル崩壊・経済危機となって現れ、多くの人々に強い否定的な影響を与えています。どうしてこのような自体になってしまったのでしょうか。現代資本主義の特徴である独占資本の形成発展と現状を法的にとらえながら、グローバル化の中での独占資本企業戦略の特徴、問題、課題について検討します。前開講の社会政策の講義が参考になります。</p> <p>【到達目標】 日本の企業集団の成立と発展、今後の変化とそれに対応する能力を身につけ、今日の企業社会のあり方について考える力を身につけます。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) とくに定めなし。 (2) 丸山恵也『批判経営学』-学生・市民と働く人のために		
授業スケジュール	第1回 今日の経済の特徴と企業集団の力 : オリエンテーション 第2回 資本主義と企業 : 資本主義的企業経営の原理をとらえる 第3回 競争と機械化 : 生産性向上競争と企業巨大化の原理をとらえる 第4回 蓄積と制限 : 資本蓄積の法則を理解する 第5回 合理化投資 : 資本蓄積のための合理化投資の必然性と資本主義的人口法則をとらえる 第6回 利潤と競争 : 企業利潤の理解と、特別利潤の形成原理を理解する 第7回 商業資本 : 資本主義的商業資本の形成とその展開、制限を理解する 第8回 利子生み資本 : 利子生み資本の基本原則を理解する 第9回 銀行と信用、株式会社 : 銀行資本と株式資本を理解する。 第10回 独占資本の形成と企業集団 : 独占の法則をとらえる 第11回 企業集団と国家 : 企業集団の形成と企業集団と国家との連携を理解する 第12回 日本資本主義の特徴 : 日本資本主義の社会構造と、その下での企業の運動をとらえる 第13回 戦後日本資本主義と企業社会の形成 : 「日本の経営」の特徴を理解する 第14回 グローバル化と企業集団の蓄積戦略の展開 : グローバル化の下での企業の多国籍化、国内での柔軟化をとらえる。 第15回 まとめ		
成績評価の方法	論述試験(100%)		

授業科目	経営工学	担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可能 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業などにおける運営業務の科学化</p> <p>【概要】 現在の企業活動においては、情報技術を有効に活用した情報収集、さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず、取引先も含めた情報も共有化されることで、より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では、企業活動において頻繁に行われる意思決定、例えば、生産スケジュールの立案や在庫管理など、その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。</p> <p>【到達目標】 企業活動における、ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 圓川隆夫・伊藤兼治、『生産マネジメントの手法』、朝倉書店</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 序論：経営工学とは 第2回 投資計画：お金の現在価値と将来価値 第3回 需要予測：過去のデータから未来を予測する 第4回 生産スケジューリング：どんな順番で製品を作れば良いのか 第5回 工程編成：均等に作業を割り当てるには 第6回 プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには 第7回 設備配置：設備のキャパシティはどれくらいにすれば良いのか 第8回 生産計画：何をどれくらい作り一番儲かるのか 第9回 生産管理：トヨタ生産方式を中心とする生産管理 第10回 作業分析：作業者の動作を分析する 第11回 配送計画：配達順序を決める 第12回 最短経路：一番近い道を探す 第13回 在庫問題：在庫コストを少なくする 第14回 評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + レポート (30%)		

授業科目	コンピュータ会計	担当者	宗田 健一
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注1, 2) [授業形態] 実習方式 (一部、講義方式を含む。基本的にはパソコン教室での講義。)		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 パソコンを用いた財務諸表分析</p> <p>【概要】 この科目では、簿記一巡の手続きに関して理解しており、財務会計に関する基本的な知識を有していることを前提に講義を行います。講義の前半では初歩的な会計用語の解説と財務諸表の見方に関して説明します。また、分析ツールのひとつとしてマイクロソフト社の表計算ソフト (エクセル) の使用を予定していますので、エクセルの基本的な操作に関して説明します。</p> <p>上記の初歩的な説明を行った後、講義の後半では、各種分析手法 (成長性、収益性、安全性) について学習し、個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際、『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』 (通称：EDINET (Electronic Disclosure for Investors' Network)) を用いて実際の財務諸表データを入手して各種分析を行います。</p> <p>【到達目標】 基本的な財務諸表分析が行えるようになる。エクセルを用いて財務データを表やグラフに加工することができるようになる。実際のデータを用いた各種分析を行い、その結果の解釈を行うことができるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 片山寛他『入門会計学』実教出版、2009年。 (2) 随時紹介</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録確認、コース・パケット配布、会計の全体像 第2回 会計情報の利用者：利害関係者、会計情報の入手方法 (EDINETの使い方) 第3回 有価証券報告書：全体像、記載内容の確認、分析対象企業の絞り込み 第4回 財務諸表分析1：財務諸表分析とは、分析の視点 第5回 財務諸表分析2：安全性分析1 第6回 財務諸表分析3：安全性分析2 第7回 財務諸表分析4：収益性分析1 第8回 財務諸表分析5：収益性分析2 第9回 財務諸表分析6：成長性分析3 第10回 財務諸表分析7：キャッシュ・フロー分析1 第11回 財務諸表分析8：キャッシュ・フロー分析2 第12回 財務諸表分析9：その他の分析項目 第13回 時系列分析 (2社以上) 第14回 同業他社比較分析 (2社以上) 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	講義での発言内容、講義 (毎回ではないが) で作成した資料 (40%)、および期末レポート (60%) で評価する。 第1回目の講義においてコース・パケットを配布する。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示する。		

(注1) 簿記論I, IIを履修済みであることを前提に講義を行います。

(注2) コンピュータ会計を履修する予定の学生は、簿記論I, II、財務会計論を履修済みであることが望ましいです。この点から2年次以降の履修を勧めます。

授業科目	応用データ活用	担当者	倉重 賢治
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可能 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択	[学期] 後期 [授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 リレーショナルデータベースの概念と基本操作</p> <p>【概要】 実務でのコンピュータ利用において、データベース処理ソフトは、非常に重要な役割を果たしている。この演習では、まず、リレーショナルデータベースの基本的な概念を論じる。次に、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の操作を修得し、データベース設計に関する応用問題に取り組んでいく。</p> <p>【到達目標】 データベースソフトの Access を利用して、簡単なシステム開発を行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『30時間でマスター Access2007』, 実教出版 (2) きたみあきこ, 『Access2007 マスターブック』, 毎日コミュニケーションズ</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 序論：リレーショナルデータベースの概念 第2回 Access の操作：Access とは 第3回 Access の操作：レコードの並べ替え 第4回 Access の操作：レコードの追加 第5回 Access の操作：フォームの作成 第6回 Access の操作：選択クエリの作成 第7回 Access の操作：さまざまなクエリ 第8回 Access の操作：データベースの設計 第9回 Access の操作：リレーションシップの作成 第10回 Access の操作：レポートの作成 第11回 Access の操作：レポートのアレンジ 第12回 Access の操作：マクロの利用 第13回 総合演習 第14回 総合演習 第15回 総合演習</p>		
成績評価の方法	講義中の小テスト (40%) + 課題 (60%)		

授業科目	プログラミング	担当者	倉重 賢治
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可能 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p>【概要】 プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。</p> <p>【到達目標】 (1) 基本的なプログラミング技術を身につける。 (2) VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定 (2) 立山秀利, 『ExcelVBA のプログラミングのツボとコツがゼッタイにわかる本』, 秀和システム</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 序論：プログラミングの概念 第2回 マクロ：マクロの登録と実行 第3回 エディタ：VBE (Visual Basic Editor) の使い方 第4回 VBA の利用：プロシージャ 第5回 VBA の利用：オブジェクト 第6回 VBA の利用：セルの操作 第7回 VBA の利用：演算子 第8回 VBA の利用：条件分岐 第9回 VBA の利用：繰り返し処理 第10回 VBA の利用：変数の利用 第11回 VBA の利用：関数の作成 第12回 VBA の利用：ユーザーフォーム 第13回 総合演習 第14回 総合演習 第15回 総合演習</p>		
成績評価の方法	講義中の小テスト (40%) + 課題 (60%)		

授業科目	情報論特講	担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可能 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 後期 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報技術やその役割について</p> <p>【概要】 現代において、コンピュータやネットワークからなる情報システムは、各種業務を迅速に行う上で必要不可欠なものとなっており、データ分析やシミュレーションなど様々な意思決定の場でも用いられることが多い。この講義では、コンピュータやネットワークに関する基本的な事柄、コンピュータを用いた意思決定方法について学習を行う。</p> <p>【到達目標】 情報技術の基本的な事柄を学び、それらが実社会でどのように役に立っているのかを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 特になし		
授業スケジュール	第1回 序論：講義の概要 第2回 情報技術の進化：コンピュータやインターネットの歴史 第3回 コンピュータの仕組み1：ハードウェア 第4回 コンピュータの仕組み2：ソフトウェア 第5回 ネットワーク技術1：インターネットの概要 第6回 ネットワーク技術2：インターネットのプロトコル 第7回 コンピュータの利用：データベースとプログラミング 第8回 情報セキュリティ1：共通鍵暗号 第9回 情報セキュリティ2：公開鍵暗号 第10回 シミュレーション1：シミュレーションとは 第11回 シミュレーション2：簡単なシミュレーションを体験する 第12回 意思決定1：意思決定とは 第13回 意思決定2：エクセルのソルバーの利用 第14回 データ分析：エクセルのデータ分析の利用 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + レポート (30%)		

授業科目	マーケティング論	担当者	瀬口 毅士
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】マーケティングを体系的に学ぶ</p> <p>【概要】マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための「仕組みづくり」である。現代社会においてマーケティングの役割はますます重要になってきている。この授業では、マーケティングの基本および現代のマーケティングについて講義していく。</p> <p>【到達目標】マーケティングについて理解してもらい、消費者としての視点および販売者としての視点を養ってもらい、すなわち、消費者として、購買してもらうために企業はどのようなマーケティングを行っているのかを理解し、「賢い消費者」になることである。同時に、販売者として、顧客にモノやサービスを売るためには、いかなる努力が必要かを知ることである。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第1回 イントロダクション：授業の進め方を説明し、マーケティングの概要を解説する。 第2回 マーケティングの誕生と基本概念：マーケティングの原点および押えておくべき基本概念を説明する。 第3回 標的市場の選択：STPの概念を用いて、いかに標的市場を選定するのかについて講義する。 第4回 市場・消費者行動分析：市場や消費者を分析するために何が重要か、具体的にどのような方法があるのかについて講義する。 第5回 競争分析：ポーターやコトラーの戦略論を解説し、いかにマーケティング上の優位性を追求していくかを講義する。 第6回 製品戦略：製品差別化戦略や製品ライフサイクル、製品開発プロセス、などを中心に解説する。 第7回 価格戦略：価格設定の重要性とそれを戦略的に行う方法について説明する。 第8回 プロモーション戦略：プロモーションの手段、およびそれらを組み合わせるプロモーション・ミックスについて説明する。 第9回 流通戦略：流通の仕組みとチャネル選択の方法について説明する。 第10回 ブランド戦略：強いブランドを築くことの重要性と、そのようなブランドを築くための基本戦略について解説する。 第11回 経験価値マーケティング：代表的な事例を用いて、消費者の経験を演出する様々な方法を考えてもらう。 第12回 関係性マーケティング：企業と消費者の相互関係のあり方と、両者の相互関係を通じた長期的関係の構築について見ていく。 第13回 グローバル・マーケティング：国際的にマーケティングを展開する際、いかなる要素を考慮すべきかについて考えてもらう。 第14回 ソーシャル・マーケティング：マーケティングにおける社会的責任について講義する。 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験60%+授業ごとに実施する確認テスト40%		

18 商経学科の演習・実習科目

第一部商経学科の演習科目

「演習科目」

(経済専攻・経営情報専攻とも)

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備考
基礎演習	1年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 I	1年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 II	2年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	2年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。

第二部商経学科の演習科目

「演習科目」

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備考
基礎演習	1年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 I	2年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 II	3年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	3年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。

授業科目	(第一部・第二部) 基礎演習・演習Ⅰ・演習Ⅱ・卒業研究	担当者	学科教員全員
<p>①社会科学に独特の授業形態としての「演習」系の授業科目</p> <p>社会科学系の学習の要は「演習」という授業形式です。これは(1)司会・報告・問題提起・討論といった対話型の授業で、講義科目と異なり、参加する学生の皆さんによって自発的に運営されます。また、担当教員と所属学生で構成する演習は、工場見学や研究のための合宿、国内外における調査活動などを行う基礎となる集団でもあります。そして、(2)対話型であるために、参加学生各自の自発性が重要で、他の講義科目・実習科目などで身につけた学力を自分自身の力で統合し、応用してゆく場です。そのため、(3)どの担当教員の演習に参加するかということが、その他の講義科目・実習科目をどのように履修してゆくべきかを決定することになりますので、加入が決定した演習Ⅰの専門性を充分考慮して、受講登録に臨むようにして下さい。</p>			
<p>②商経学科の「演習」系の授業科目はどんな特性があるのか？</p> <p>商経学科の「演習」系授業科目は、(1)すべて必修科目で、(2)これを順番に受講することで、社会学的なものから考え方から出発して、自分自身の問題関心に基づいて卒業論文を執筆するところまで系統的に学ぶことができるようになっています。</p>			
<p>③「演習」系科目の受講の流れ</p>			
<p>(第一部)</p>			
<p>1年生前期「基礎演習」</p>			
<p>全員が基礎演習に所属し、ゼミナールの基本的な部分(運営・議論など)について、学びます。</p>			
<p>1年生後期「演習Ⅰ」→2年生前期「演習Ⅱ」→2年生後期「卒業研究」</p>			
<p>1年生後期から始まる演習は、卒業までの期間、自らが選択した教員と学んでいくことになります。</p>			
<p>演習ごとの特色のあるテーマについて、教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。</p>			
<p>2年後期に卒業論文を仕上げることによって、物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。</p>			
<p>(第二部)</p>			
<p>1年生前期「基礎演習」</p>			
<p>全員が基礎演習に所属し、ゼミナールの基本的な部分(運営・議論など)について、学びます。</p>			
<p>2年生後期「演習Ⅰ」→3年生前期「演習Ⅱ」→3年生後期「卒業研究」</p>			
<p>2年生後期から始まる演習は、卒業までの期間、自らが選択した教員と学んでいくことになります。</p>			
<p>演習ごとの特色のあるテーマについて、教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。</p>			
<p>3年後期に卒業論文を仕上げることによって、物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。</p>			
<p>④演習のテーマ及び概要・スケジュール</p>			
<p>各演習には、担当教員によって設定されたテーマがあります。それは応募段階での掲示で示されます。皆さんはそれを参考にして、「演習Ⅰ」の所属を考えることになります。ただし、最終的には、演習参加者との討論によって決定されることになります。スケジュールについても同様です。</p>			
<p>⑤成績評価の方法</p>			
<p>演習ごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。</p>			
<p>⑥受講登録上の注意</p>			
<p>原則として「演習Ⅰ」から「卒業研究」までは一つの集団として継続されます。従って、「演習Ⅰ」の選択が重要となります。</p>			

授業科目	社会活動	担当者	担当教員全員
	[履修年次] 年次指定なし [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100％）		

授業科目	企業研修	担当者	担当教員全員
	[履修年次] 2年 [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100％）		

19 教職に関する科目

授業科目	教職入門	担当者	田口 康明
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教職の意義や役割について、実際上の学校におけるその職務内容や身分等を含めて理解し、あわせて児童生徒への進路選択の機会提供に資する教師の役割について考察する。</p> <p>【概要】本科目は、教員免許の取得に必要な科目であり、「教職の意義」について検討考察し、学校で働く教師の職務内容、すなわち教育活動とサービスの関係、研修や身分とその保障について扱う。また近年、学校教育と実社会の繋がりが着目され、その際重要となるキャリア教育についても扱う。講義を中心とするが、必要に応じて資料に関連した文献、記事、VTR等を取り入れる。</p> <p>【到達目標】「教職とは何か」という点についての理解につぎが、教職の意義および教員の役割、教員の職務内容(研修、サービス及び身分保障等を含む)に関する知識を習得すること。子どもたちの進路選択と教職の関係を理解すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 古橋和夫編『教職入門—未来の教師に向けて』萌文書林</p> <p>(2) 授業内で随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 教育職員免許法における本科目の位置づけなど</p> <p>第2回 教える・教えられる関係の変遷1 古代のソクラテスの対話法や中世の徒弟訓練の親方について</p> <p>第3回 教える・教えられる関係の変遷2 江戸時代の寺子屋の師匠や産業革命期のヨーロッパで発生した近代学校の教師</p> <p>第4回 教える・教えられる関係の変遷3 教職の位置づけについて、戦前の教師聖職論から戦後の専門職論へ</p> <p>第5回 現代学校における教師の役割と仕事1 学校における教員の日常と職務内容</p> <p>第6回 現代学校における教師の役割と仕事2 学級経営・生徒指導・進路指導・教育相談</p> <p>第7回 現代の教師の身分と地位1 教員養成制度と研修制度</p> <p>第8回 現代の教師の身分と地位2 教員のサービス・身分と公務員制度</p> <p>第9回 学校における分業制の理解 学校種と少教職種、校内分業体制と校務分掌、教職の全体性</p> <p>第10回 学校・家庭・地域社会の役割と連携における教師の役割1 いじめ・不登校への地域と連携した対応、学校を取り巻く社会での連携、自然体験</p> <p>第11回 学校・家庭・地域社会の役割と連携における教師の役割2 進路選択とキャリア教育、社会体験のコーディネーターとしての役割、職業観の涵養</p> <p>第12回 教師の資質をめぐる動き1 戦後の教員政策の変遷</p> <p>第13回 教師の資質をめぐる動き2 教員評価・不適格教員・心の健康</p> <p>第14回 これからの教師に求められるものは何か 生涯学習社会における教師の成長の意義</p> <p>第15回 まとめ・試験</p>		
成績評価の方法	授業中のミニ・レポート(3回程度)30%、筆記試験70%		

授業科目	教育原理	担当者	田口 康明
		[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p> <p>【概要】教員になるために必要な教育学の知識として、最低限心得ておくべき教育学の理論を踏まえつつ、実際の教育を分析的に見る目を養うことがねらいである。主として学校教育を中心に考察する。教育の目標・意義・思想・歴史に関する広汎かつ基礎的な知識理解の習得を目指す。具体的には、現代の学校教育を支える近代公教育史及びその思想の理解である。最新の教育実践の紹介など、今日のトピック・情報を数多く取り入れて講義を進める予定である。</p> <p>【到達目標】教育の理念や歴史に関する基礎的な知識理解の習得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『教育原理 八訂版』, 教師養成研究会, 学芸図書, 2003年</p> <p>(2) 参考文献随時紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス この科目の位置づけと目的</p> <p>第2回 教育とは何か その目的と機能に関する教育思想の理解</p> <p>第3回 現代の学校と教育課題 今日の学校教育を取り巻く「問題行動」について理解する</p> <p>第4回 近代公教育思想1 ジョン・ロックとルソーの人間観・教育思想について理解する</p> <p>第5回 西洋での学校の出現 中世から近代にかけて簇生した学校や大学について理解する</p> <p>第6回 近代公教育思想2 ペスタロッチとヘルバルトの教育思想について理解する</p> <p>第7回 日本における学校の成立 明治5年の学制の意義と社会的に果たした役割について理解する</p> <p>第8回 近代公教育思想3 日本の教育の原型を創った森有礼と師範教育について理解する</p> <p>第9回 日本における学校教育の展開 大正期から昭和初期にかけての学校教育運動の発生とその結末について理解する</p> <p>第10回 戦後日本の教育改革 戦後日本の学校教育の原型となった教育改革について理解する</p> <p>第11回 戦後日本のカリキュラムの改革史 学習指導要領の変遷とその重点の変化について理解する</p> <p>第12回 日本の1950年代～80年代の教育改革 中央教育審議会・臨時教育審議会による教育改革について理解する</p> <p>第13回 世界の教育改革 1950年代～70年代の各国の教育改革について理解する</p> <p>第14回 新しい学力観とPISA 「生きる力」の概念や世界標準の学力について考察する</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	筆記試験と小レポート(8:2程度の比率)で評価する。		

授業科目	教育心理学	担当者	石川 満佐育
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ&概要】 教育活動を行ううえで必要となる知識（理論や概念）を提供する科目として教育心理学がある。本講義では、教育心理学の主要テーマである「学習」、「発達」、「評価」、「性格」の4つについて学ぶ。 適切な教育活動を行うには、学習に関する理論や概念を知る必要がある。また、教育の対象である子どもの発達過程や年齢に応じた心理的特性を知っておく必要がある。さらに、知識の習得だけでなく、その知識を教育活動にどのように活かしていくかを考えることを意識できるようにする。</p> <p>【到達目標】 ①教育心理学に関する知識（概念・理論）の習得 ②教育心理学の観点から教育活動を考える意識を持つ。 ③知識を応用するという意識を高める</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。 (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション・教育心理学とは？ 第2回 学習①：学習理論 第3回 学習②：動機づけ 第4回 学習③：学習指導法 第5回 学習④：記憶のメカニズム 第6回 学習⑤：効果的な学習法 第7回 発達①：発達理論①（エリクソンの心理社会的発達理論） 第8回 発達②：発達理論②（ピアジェの認知発達理論） 第9回 発達③：乳幼児期の発達の特徴 第10回 発達④：児童期、青年期の発達の特徴 第11回 評価①：教育評価 第12回 評価②：知能検査 第13回 性格①：パーソナリティ理論 第14回 性格②：パーソナリティ検査 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	毎講義ごとの感想・質問などのミニレポート提出：40%、筆記試験：60%		

(注) 中学校教諭2種免許

授業科目	教育行政学概論	担当者	岩橋 法雄
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期集中 〔単位〕 1単位 〔必修/選択〕 必修 (注) 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代日本の教育の行政・制度 【概要】日本の教育の管理運営は、誰(Who)が、誰(Whom)を、どのようなルール(which principles)で、行われているのか？その仕組みと今後考えるべき課題を、歴史的かつ比較的に考察していく。「誰が」は直接的には教育行政機関（文部科学省、教育委員会）であるが、まずは教育委員会の委員長と教育長の違いから説き起こそう。それは、教育委員会の理念の解釈をすることとなるからである。「誰を」は学校教育だけではないのだが当面は学校を中核に説き起こし、子どもの権利条約の立場から考察する。「どのような・・・」は、案外みなさんに関心を持たれていないが、学校で学び、生活する私たちに密接に関係している＜教育の法律に関すること＞である。教育の様々な分野での法とその意味を歴史的に、そして構造的に概観する。 【到達目標】日本の教育行政・制度、公教育経営の基本的な事項について理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 仙波克也・楠達夫編『現代教育法制の構造と課題』（コレール社刊） (2) 授業中に随時指示</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 「教育行政」の歴史的成立とその基本的性格 ・ゲルマン型とアングロ・サクソン型（Administration と Governance）の相違と特質 第2回 学校、選ばれる学校とそうでない学校（unpopular と popular）の相克。教育の制度と管理運営。 第4回 戦後日本の教育行政の基本原則、その歴史的変遷 ・1945年教育基本法の「教育行政」観、教育委員会委員長と教育長（レイマン・コントロールの意味）、教育委員会の役割 第5回 新教育基本法の「教育行政」観。日本の教育行政機関・文部科学大臣・文部科学省、教育委員会（教育委員会の構成と権限） 第6回 教育関連諸法規の概要 第7回 教師と法 ・公務員としての教師は、何ができて何ができないか？（身分上の問題）、対生徒の関係において、何ができて何ができないか？（①体罰になること、ならないこと、②校長の権限、教諭の権限） 第8回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業中に課すレポート並びに最終試験によって評価する		

(注) 7.5回

授業科目	教育課程論	担当者	吉田 尚史
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 1単位	〔学期〕 後期集中 〔必修/選択〕 必修 (注)	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 教育課程(カリキュラム) の定義・歴史・現状・課題。現在の学習指導要領との関連。</p> <p>【概要】 本来、教育課程 (カリキュラム) は、各学校毎に作成されるものであるが、日本には、その教育課程の基準である学習指導要領が存在し各学校種に応じて規定されている。そうした教育課程(カリキュラム) の基本概念及び編成方法、歴史と現状、課題について概説する。また、子どもの学習を促進するカリキュラムづくりのあり方について受講生とともに検討し、学習指導要領を踏まえた教育課程を編成する方法と力量を形成する。</p> <p>【到達目標】 教育課程(カリキュラム) の定義、歴史、現状、課題に関する基礎的認識・概念の習得。2年次の実習に向けて各学校のカリキュラムのねらいと内容を適切に理解する能力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 大杉須英編『中学校学習指導要領(平成20年版) 全文と改訂のピンポイント解説』明治図書出版</p> <p>(2) 随時紹介</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 教育課程(カリキュラム) とは何か 教育課程の基本概念や教育課程の編成方法・形式について理解する。</p> <p>第2回 学習指導要領と教育課程編成、教科書 学習指導要領と各学校の教育課程並びに教科書との関係を把握し、学習指導要領について理解を深める</p> <p>第3回 日本の教育課程行政(学習指導要領) 史 戦後の学習指導要領の編成について理解する</p> <p>第4回 現行の学習指導要領の解説(1) 平成20年の改訂について主に「総則」を理解する</p> <p>第5回 現行の学習指導要領の解説(2) 平成20年の改訂について主に各教科「国語」「英語」「家庭」を理解する</p> <p>第6回 教育目標と教材教具 教育目標と教材・教具の関連について理解し、優れた教材・教具を紹介する。</p> <p>第7回 まとめ 今後の教育課程のあり方を展望する。これまでの学習成果をまとめる 試験(試験期間内)</p>		
成績評価の方法	筆記試験 70%、授業内の小テスト・課題 30%		

(注) 7.5回 0.5回分は試験期間内の試験に充てる

授業科目	国語科教育法	担当者	岩本 晃代
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 2単位	〔学期〕 後期 〔必修/選択〕 必修	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中学校における国語科教育の意義を明らかにし、授業の構築方法について講義する。また、一部に実践授業を組み入れる。</p> <p>【概要】 中学校学習指導要領の内容について説明する。それをもとに文部科学省検定教科書に掲載された国語科教材について具体的な指導例を紹介する。また、教材研究の方法、学習指導案の作成方法について講じ、模擬授業を行うことによって授業の作り方が具体的に理解できるようにする。</p> <p>【到達目標】 中学校国語科教育の意義を理解し、教材研究および指導案の作成ができるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『中学校学習指導要領解説 国語編』文部科学省、大田勝司他編『国語科学習指導の研究』双文社出版、プリント。</p> <p>(2) 授業中、適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 授業とは何か</p> <p>第2回 中学校学習指導要領・国語編について</p> <p>第3回 国語科の目標と内容</p> <p>第4回 国語科学習指導の展開その1</p> <p>第5回 国語科学習指導の展開その2</p> <p>第6回 教材研究の方法その1</p> <p>第7回 教材研究の方法その2</p> <p>第8回 学習指導案の作成その1</p> <p>第9回 学習指導案の作成その2</p> <p>第10回 模擬授業その1</p> <p>第11回 模擬授業その2</p> <p>第12回 模擬授業その3</p> <p>第13回 模擬授業その4</p> <p>第14回 教育実習の心構え</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	レポート(指導案を含む) 100%		

授業科目	英語科教育法	担当者	久木田 美枝子
	〔履修年次〕1年 〔学期〕後期 〔単位〕2単位 〔必修/選択〕必修 〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語教育の大変革期を迎え、現代の英語教育に必要とされる基礎知識と未来への展望を把握すると共に、科学的に分析し、各自が多文化共生社会での望ましい英語教師像をイメージできるようにする。</p> <p>【概要】日本における英語教育の変遷を把握し、世界の外国語教育、英語教育の指導理念、枝叩木教育の指導法の変遷、言語スキルの指導法、情報技能と指導、授業論などを概説し、現代の指導者に不可欠な国際理解教育についても考察する。実践面としては、ここ数年の東京都中学校英語教育研究会の動向を踏まえつつ、同研究会の研究公開授業などのビデオ等を参考に実習前の英語教育の基礎を習得する。</p> <p>【到達目標】教育実習前に、現代の英語教育の状況を把握することによって、英語教師としての資質向上に精進すると共に、自立的に、臨機応変に、授業を組み立てていくことをも目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 高梨康雄・高橋正夫著 『新・英語教育学概論』 金星堂 (2) 随時プリント、		
授業スケジュール	第1回 日本の英語教育の歴史の変遷 第2回 世界の英語教育、外国語教育の目的 第3回 指導理念を考えるモデル・ケース：小学校英語教育、広い視野からみる外国語学習の目標 第4回 指導法の変遷 第5回 現代の主な指導法、評価論 第6回 言語スキルと指導技術（リスニング、スピーキング） 第7回 言語スキルと指導技術（リーディング、ライティング、コミュニケーション・スキル） 第8回 国際理解教育 第9回 情報技能と指導 第10回 授業展開、学習指導案 第11回 授業研究、外国語学習者の心理 第12回 教師論、教育現場が実習生に求める資質・英語力 第13回 模擬授業 第14回 模擬授業 第15回 まとめ		
成績評価の方法	授業の発言内容（30%）、レポート（70%）で評価する。		

授業科目	家庭科教育法	担当者	長友 悠紀子
	〔履修年次〕1年 〔学期〕後期 〔単位〕2単位 〔必修/選択〕必修 〔授業形態〕講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】家庭科教師に必要な基礎的知識および指導方法</p> <p>【概要】中学校における家庭科を指導するために必要な基礎的知識や指導方法を具体的に講義し授業実践力を身につけることをねらいとする。学習指導要領に示された目標、内容の取り扱いの解説を行う。また、学習指導計画の作成や学習指導案の書き方を具体的に指導する。</p> <p>【到達目標】家庭科教育の理念や問題を踏まえ、望ましい教師像を念頭に置き、実践しようとする人材の育成。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 佐藤文子・川上雅子 改訂版 『家庭科教育法』 高陵社書店 (2) 文部科学省『中学校学習指導要領(平成20年10月) 解説一技術・家庭編一』		
授業スケジュール	第1回【家庭科教育法とは】家庭科教育法を学ぶにあたっての説明および家庭科教育の意義について 第2回【教科教育としての家庭科】家庭科教育の理念および目標について 第3回【家庭科教育を支える学問】家庭科教育と家政学、家庭科教育が育む力 第4～5回【家庭科の教師、家庭科の歴史】家庭科の教師に求められる要素、歴史の変遷と展望 第6回【小学校の家庭科】目標、内容、指導上の諸問題 第7～8回【中学校の技術・家庭科】家庭科の性格、目標、内容、指導上の諸問題 第9回【学習指導の計画】年間指導計画、領域、題材 第10回【学習指導案の作成】学習指導案の例、基本学習指導過程 第11回【学習指導法】学習指導の技術、指導の諸方式について 第12回【実験・実習指導の留意点】実験実習における基本的留意点について、教具・資料の活用 第13回【教育評価法】評価の目的、観点、評価法、記述法 第14回【家庭科指導の実際】家庭科の施設と設備および中学校における調理実習VTR視聴 第15回 まとめと後期定期試験		
成績評価の方法	筆記試験(90%)＋レポート(学習指導案等10%)		

授業科目	道徳教育の研究	担当者	田口 康明
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業での指導</p> <p>【概要】2006年改正された教育基本法の中でも、「自律」や「規範意識」など、「道徳教育」への期待は高まっている。また現代の青少年の無気力や規範意識の欠落が、数多くの場面で強調されている。こうした現状について、一方的に指弾するのではなく、状況を相対化しながら今日の「道徳教育」についての検討を進めていく。具体的には、学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業の実際について検討する。さらに今日の意味での「道徳教育」に含まれる、消費者教育、法教育、シティズンシップ教育、環境教育などの実践事例も紹介検討する。道徳教育を学校教育全体を通して行うことの意義を検討する。</p> <p>【到達目標】道徳の授業が実際に行えるようその指導法の習得と、道徳教育に関する基礎的な知識理解を得ること</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)『中学校学習指導要領解説 道徳編』 文部科学省 (2)随時、指示する		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 授業のねらいと目標、道徳教育の歴史(道徳教育の経緯や特徴)について理解する 第2回 「道徳教育」とは何か、 道徳教育と道徳の時間の特徴、道徳教育の構造や役割について学ぶ 第3回 道徳の目標及び内容 一徳性や内容項目、現代社会と「道徳」の関係について理解する 第4回 「道徳教育」の目標並びに「道徳」の時間の目標 道徳の指導計画、年間計画等の必要性や内容について学ぶ 第5回 「道徳」の指導計画と実際の指導 授業計画、指導案作成など実際の指導法について学ぶ 第6回 評価 道徳教育の評価の方法と実際について学ぶ 第7回 新たな「道徳教育」の課題 まとめと法教育、シティズンシップ教育、環境教育、消費者教育など 第8回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート(2回程度) 30%、試験 70%		

(注) 中学校教諭2種免許 7.5回

授業科目	道徳教育論	担当者	田口 康明
	[履修年次] 2年(栄養教諭課程履修者) [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業での指導</p> <p>【概要】2006年改正された教育基本法の中でも、「自律」や「規範意識」など、「道徳教育」への期待は高まっている。また現代の青少年の無気力や規範意識の欠落が、数多くの場面で強調されている。こうした現状について、一方的に指弾するのではなく、状況を相対化しながら今日の「道徳教育」についての検討を進めていく。具体的には、学校教育にもとめられている「道徳教育」の基本的なあり方、目標、内容、指導計画、授業の実際について検討する。さらに今日の意味での「道徳教育」に含まれる、消費者教育、法教育、シティズンシップ教育、環境教育などの実践事例も紹介検討する。道徳教育を学校教育全体を通して行うことの意義を検討する。</p> <p>【到達目標】道徳の授業が実際に行えるようその指導法の習得と、道徳教育に関する基礎的な知識理解を得ること</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)『中学校学習指導要領解説 道徳編』 文部科学省 (2)随時、指示する		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 授業のねらいと目標、道徳教育の歴史(道徳教育の経緯や特徴)について理解する 第2回 「道徳教育」とは何か、 道徳教育と道徳の時間の特徴、道徳教育の構造や役割について学ぶ 第3回 道徳の目標及び内容 一徳性や内容項目、現代社会と「道徳」の関係について理解する 第4回 「道徳教育」の目標並びに「道徳」の時間の目標 道徳の指導計画、年間計画等の必要性や内容について学ぶ 第5回 「道徳」の指導計画と実際の指導 授業計画、指導案作成など実際の指導法について学ぶ 第6回 評価 道徳教育の評価の方法と実際について学ぶ 第7回 新たな「道徳教育」の課題 まとめと法教育、シティズンシップ教育、環境教育、消費者教育など 第8回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート(2回程度) 30%、試験 70%		

(注) 栄養教諭2種免許 7.5回

授業科目	特別活動の研究	担当者	田口 康明
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	入学式、全校朝礼、運動会などさまざまな「学校行事」、学校生活の中核でありさまざまな活動を担う「学級活動」、生徒の自治的諸能力の慎重が期待される「生徒会活動」、これらによって構成されるのが、「特別活動」である。さらに中学校では非公式に「部活動」が加わる。こうした活動が、諸外国の学校に比して、量的にも質的にも「充実」していることが、歴史的に見ても日本の学校教育の特徴であり、今日でもその占める位置は大きい。本講義では、学習指導要領等に記載された目標・内容、その歴史、国際比較、近年の動向などを取り上げて、特別活動の意義について理解を深める。近年注目を浴びている「体験的活動」や「キャリア教育」もこの領域で取り扱われることなどについて、受講生自らが自己の体験を振り返りつつ検討する。講義が主体であるが、随時グループ討議などを加えていきたい。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 文科省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』		
授業スケジュール	第1回 ガイダンスー授業のねらいと目標 第2回 「特別活動」とは何か、 第3回 「学級活動」の目標と内容 第4回 「生徒会活動」の目標と内容 第5回 「学校行事」の目標と内容1 儀式的行事など 第6回 「学校行事」の目標と内容2 勤労生産・奉仕的行事など 第7回 「特別活動」の現代的な意義・まとめ		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート(2回程度)および、最後のレポート等を総合して評価する。		

(注) 中学校教諭2種免許 7.5回

授業科目	特別活動論	担当者	田口 康明
	[履修年次] 2年(栄養教諭課程履修者) [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	入学式、全校朝礼、運動会などさまざまな「学校行事」、学校生活の中核でありさまざまな活動を担う「学級活動」、生徒の自治的諸能力の慎重が期待される「生徒会活動」、これらによって構成されるのが、「特別活動」である。さらに中学校では非公式に「部活動」が加わる。こうした活動が、諸外国の学校に比して、量的にも質的にも「充実」していることが、歴史的に見ても日本の学校教育の特徴であり、今日でもその占める位置は大きい。本講義では、学習指導要領等に記載された目標・内容、その歴史、国際比較、近年の動向などを取り上げて、特別活動の意義について理解を深める。近年注目を浴びている「体験的活動」や「キャリア教育」もこの領域で取り扱われることなどについて、受講生自らが自己の体験を振り返りつつ検討する。講義が主体であるが、随時グループ討議などを加えていきたい。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 文科省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』		
授業スケジュール	第1回 ガイダンスー授業のねらいと目標 第2回 「特別活動」とは何か、 第3回 「学級活動」の目標と内容 第4回 「生徒会活動」の目標と内容 第5回 「学校行事」の目標と内容1 儀式的行事など 第6回 「学校行事」の目標と内容2 勤労生産・奉仕的行事など 第7回 「特別活動」の現代的な意義・まとめ		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート(2回程度)および、最後のレポート等を総合して評価する。		

(注) 栄養教諭2種免許 7.5回

授業科目	教育方法学概論	担当者	吉田 尚史
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 1単位	〔学期〕 後期集中 〔必修/選択〕 必修 (注)	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 教育方法と教師の指導技術を中心に教育方法論の基本的事項と授業づくりの基礎的技法を学ぶ。</p> <p>【概要】 授業について代表的な思想や優れた教師の実践を学ぶことを通して、授業に対する考えや教育の方法・技術に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】 授業や教育の方法・技術について、「教える」という立場から、分析したり、考えたりすることができる。先輩教師の授業実践から、授業の世界の複雑さや奥深さを捉えることができる。自分なりに「よい授業」に対する考え（授業や教育に対する哲学）を深め、それを指導案や教材・教具・発問等の指導技術に具体化することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1)特に定めなし。資料を配付する。</p> <p>(2)日本教育方法学会編『リテラシーと授業改善—PISAを契機とした現代リテラシー教育の探究』図書文化社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業とは何か 近代以前、近代以降の授業の様子を歴史的に考察する</p> <p>第2回 授業を創る(1) 具体的な教材と教育内容、教育目標の関係を理解する</p> <p>第3回 授業を創る(2) 授業のプロセスを構想し、教授行為と学習形態・学習方法について検討する</p> <p>第4回 授業を創る(3) 教育の環境づくりとメディア・教育機器の活用、授業の評価の方法について理解する</p> <p>第5回 授業の技術 ベテラン教員の実践事例に学ぶ</p> <p>第6回 教科書のない授業 総合的な学習の時間の指導法について理解する</p> <p>第7回 まとめ 授業の世界の複雑さと教師という仕事の特異性について理解する 試験（試験期間内）</p>		
成績評価の方法	筆記試験 70%、授業内の小テスト・課題 30%		

(注) 7.5回 0.5回分は試験期間内の試験に充てる

授業科目	教育相談	担当者	石川 満佐育
	〔履修年次〕 2年 〔単位〕 2単位	〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 必修 (注)	〔授業形態〕 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ&概要】 児童生徒の不適応等は多様化しており、いじめ、不登校、暴力行為をはじめとした問題行動、児童生徒のメンタルヘルスの問題など早期の解決が求められている。本講義では、教師という立場から援助者として生徒に関わるうえで必要となる知識やスキル等を、「カウンセリング心理学」、「発達臨床心理学」、「学校心理学」の観点から学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ①教育相談について学校現場で必要な知識を習得する。 ②相手と状況に応じて、どのような教育的「援助」が求められているのかを実践的に理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。</p> <p>(2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション・教育相談とは？</p> <p>第2回 教育相談の必要性と重要性</p> <p>第3回 教育相談の基本的な考え方</p> <p>第4回 校内支援体制①：役割について</p> <p>第5回 校内支援体制②：連携について</p> <p>第6回 生徒理解の方法①：アセスメントについて</p> <p>第7回 生徒理解の方法②：アセスメントの実際</p> <p>第8回 教師に求められるカウンセリング理論</p> <p>第9回 教師が行うカウンセリング技法Ⅰ</p> <p>第10回 教師が行うカウンセリング技法Ⅱ</p> <p>第11回 心理教育プログラム</p> <p>第12回 教育相談の実際①：不登校のケース</p> <p>第13回 教育相談の実際②：いじめのケース</p> <p>第14回 教育相談の実際③：発達障害のケース</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	毎講義ごとの感想・質問などのミニレポート提出：40%、試験あるいはレポートで評価：60%		

(注) 中学教諭2種免許

授業科目	生徒指導論	担当者	石川 満佐育
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ&概要】 児童生徒の不適応等は多様化しており、いじめ、不登校、暴力行為をはじめとした問題行動、児童生徒のメンタルヘルスの問題など早期の解決が求められている。本講義では、不適応を起こしている生徒、支援が必要な生徒の実態を理解し、そうした生徒への対応を考えられるようになるための基礎知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ①生徒指導上の「問題」の背景を多面的、多角的に理解する。 ②相手と状況に応じて、どのような教育的「援助」が求められているのかを実践的に理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。 (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション・生徒指導とは？ 第2回 学校心理学的アプローチ 第3回 教師と児童生徒の関係 第4回 児童生徒の仲間関係 第5回 児童生徒における諸問題①：不登校 第6回 児童生徒における諸問題②：いじめ・暴力 第7回 児童生徒における諸問題③：学校ストレス 第8回 特別支援教育 第9回 支援を必要とする子どもたち①：発達障害 第10回 支援を必要とする子どもたち②：発達障害 第11回 支援を必要とする子どもたち①：精神疾患 第12回 支援を必要とする子どもたち②：精神疾患 第13回 進路指導について① 第14回 進路指導について② 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	毎講義ごとの感想・質問などのミニレポート提出：40%、筆記試験：60%		

(注) 中学校教諭2種免許

授業科目	生徒指導原論	担当者	石川 満佐育
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ&概要】 児童生徒の不適応等は多様化しており、いじめ、不登校、暴力行為をはじめとした問題行動、児童生徒のメンタルヘルスの問題など早期の解決が求められている。本講義では、不適応を起こしている生徒、支援が必要な生徒の実態を理解し、そうした生徒への対応を考えられるようになるための基礎知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ①生徒指導上の「問題」の背景を多面的、多角的に理解する。 ②相手と状況に応じて、どのような教育的「援助」が求められているのかを実践的に理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。 (2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション・生徒指導とは？ (学校心理学的アプローチ) 第2回 教師と生徒との関係・教師と児童生徒の関係 第3回 児童生徒における諸問題①：不登校・いじめ・暴力 第4回 特別支援教育 第5回 支援を必要とする子どもたち①：発達障害 第6回 支援を必要とする子どもたち②：精神疾患 第7回 進路指導について 第8回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	毎講義ごとの感想・質問などのミニレポート提出：40%、筆記試験：60%		

(注) 栄養教諭2種免許 7.5回

授業科目	教職実践演習（中学校教諭）	担当者	田口 康明・石川 満佐育・岩本 晃代・久木田 美枝子 未定
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や、介護等体験など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、教師になるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。</p> <p>②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。</p> <p>③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、規律ある学級経営を適切に行うことができる。</p> <p>④学習指導の基本事項を身に付けており、子どもの状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができる。</p> <p>授業の概要</p> <p>短大の2年間で学んだ教職に関する知識と、教育実習などで獲得した教科指導や生徒指導などの実践体験を統合する。その際、使命感や責任感、教育的な愛情など、教師として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するとともに、社会性や対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営力、教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し、教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を補い、その定着を図る。すべての回について、教職課程専任教員が中心になって行う。ただし、第11回と第14回は教科に関する教員が中心になって行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。</p> <p>(2) 学習指導案資料など適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>授業計画</p> <p>第1回：[ガイダンス]プログラムの説明、資料の配布、課題の提示、各授業の到達目標の提示、学習計画の提示・説明、履修カルテの活用の説明を行う。</p> <p>第2回：[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り、グループ討論、履修カルテを使った自己評価活動を行う。</p> <p>第3回：[ロールプレイ(1)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、場面に応じた教師としての話し方を身につける。</p> <p>第4回：[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、日常的に発生する学級内の問題への対処方法を身につける。</p> <p>第5回：[グループ討論(1)]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、特別支援教育の基本理念について、グループ討論を行う。</p> <p>第6回：[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている、子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎などについて学ぶ。</p> <p>第7回：[振り返り]講演についてのグループ討論、これまでの学修に関する小レポートの作成、履修カルテを活用した教員との面談を行う。</p> <p>第8回：[グループ討論(2)]居場所づくりを意識した生徒理解、多様化に応じた学級づくりについて、グループ討論を行う。</p> <p>第9回：[学校見学] (11月中旬を予定。ただし、この回のみ見学対象校の都合により異なる時期の開催となる場合もある。) 教科指導の実際・学校経営の実際を学ぶ。</p> <p>第10回：[グループ討論(3)]学校見学についての省察</p> <p>第11回：[模擬授業(1)] 教科に関する科目担当教員による指導の下、教科に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。</p> <p>第12回：[模擬授業(2)] 教科及び総合的な学習の時間に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。</p> <p>第13回：[模擬授業(3)] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。</p> <p>第14回：[グループ討論(4)] 教科に関する科目担当教員による指導の下、教科等の指導の重点について討論活動を行い、授業計画や学習形態の工夫を定着させる。</p> <p>第15回：[レポートの作成と発表] テーマ「これからの教師に求められること」を発表する</p>		
成績評価の方法	<p>学生に対する評価：授業に関するミニ・レポート、ファイナル・レポートによって評価する。</p>		

授業科目	教職実践演習（栄養教諭）	担当者	町田 和恵・木場 幸子・田口 康明・石川 満佐育
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や、栄養士養成課程の授業科目の履修など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、栄養教諭となるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。</p> <p>②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。</p> <p>③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、学級の状況に応じて給食の管理及び食育の指導を適切に行うことができる。</p> <p>④食育の指導の基本事項を身に付けて、児童生徒の状況に応じて、学習活動、体験活動等を工夫することができる。</p> <p>【概要】 短大の2年間で学んだ栄養管理並びに教職に関する知識と、教育実習などで獲得した給食管理と食育指導などの実践体験を統合する。その際、使命感や責任感、教育的な愛情など、栄養教諭として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するとともに、社会性や対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営力、教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し、教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を補い、その定着を図る。すべての回について、教職課程の栄養教育実習担当専任教員と教職課程専任教員が中心になって行う。ただし、第11回と第14回は学校栄養教育論の担当教員が中心となって行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 文部科学省 (2008) 『中学校学習指導要領』, 文部科学省 (2007) 『食に関する指導の手引』 (いずれも東山書房)</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>授業計画</p> <p>第1回：[ガイダンス]プログラムの説明、資料の配布、課題の提示、各授業の到達目標の提示、学習計画の提示・説明。</p> <p>第2回：[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り、グループ討論、履修カルテを使った自己評価活動を行う。</p> <p>第3回：[ロールプレイ(1)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、場面に応じた教師としての話し方を身につける。</p> <p>第4回：[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、日常的に発生する学級内の問題への対処方法を身につける。</p> <p>第5回：[グループ討論(1)]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、特別支援教育の基本理念について、グループ討論を行う。</p> <p>第6回：[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎、生活習慣の変化を踏まえた生徒理解について学ぶ。</p> <p>第7回：[振り返り]講演についてのグループ討論、これまでの学修に関する小レポートの作成、履修カルテを活用した教員との面談を行う。</p> <p>第8回：[グループ討論(2)]居場所づくりを意識した生徒理解、多様化に応じた学級づくりについて、グループ討論を行う。</p> <p>第9回：[学校見学] (学校経営・給食の管理・食育の指導の実際を学ぶ。時間は8:20～12:50までを予定している。</p> <p>第10回：[グループ討論(3)]学校見学についての省察を行う。</p> <p>第11回：[模擬授業(1)]教室の場面を想定した食育の指導に関する実践的な指導力を身につける。</p> <p>第12回：[模擬授業(2)] 食育の指導及び総合的な学習の時間の実践的な指導について。</p> <p>第13回：[模擬授業(3)] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける。</p> <p>第14回：[グループ討論(4)] 給食の時間における食に関する指導の重点について、模擬授業や討論活動を行い、学習形態の工夫を定着させる。</p> <p>第15回：[レポートの作成と発表] テーマ「これからの栄養教諭に求められること」を発表。</p>		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート、ファイナル・レポートによって評価する。		

授業科目	教育実習（事前・事後指導を含む）	担当者	田口 康明
	[履修年次] 2年 [学期] 前期集中 [単位] 5単位 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 実習・講義方式		
テーマ及び概要	教育実習は、教員免許状を取得するための必修科目であり、単なる体験ではなく、大学における教職科目や専門科目の知識・理論などの学習を学校現場で適用、実践研究する「実習」である。大学（短大）において積み重ねてきた教職のための学習は、「目の前」に生徒のいない学習であったが、実習期間中は生徒との「応答」関係の中での学習である。とりわけ思春期にある「中学生」や、先達である教職員の先生方との交流が基盤となる。とりあえず教員の資格を持ちたい、という安易な気持ちで教育現場での実習に臨むことは許されない。教員を目指す強い意志と実習生としての立場をわきまえた謙虚さ、教育への愛着、生徒たちとの相互理解があつてこそ、はじめて教育実習生として受け入れられ存在が認知される。この授業では、教育実習のために必要な心構えやスキルを中心に学習し、実習に臨み、実習後は、実習体験から得られた多くの事柄を定着させ、社会人としてのあるべき姿を省察するような活動を行う。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。 (2) 学習指導案資料など適宜紹介する。		
授業スケジュール	事前・事後指導：ワークショップ形式を中心とし、適宜講義を加える。 第1回 教育実習ガイダンス。授業を創ることと学習指導案との関連性 第2回 教室における教師のふるまい。授業展開の実際例を学ぶ。 第3回 模擬授業（1）、卒業生教員の体験談を聞く 第4回 模擬授業（2）、同和教育について 第5回 模擬授業（3）、教科指導及び生徒指導の方法 第6回 教育実習に関わる実務について 第7回 教育実習の反省と総括、採用試験に向けて 教育実習：中学校という教育現場の協力を得て3週間の実習活動を行う。		
成績評価の方法	実習先の評価、実習日誌、事前事後の提出物等ポートフォリオ的な評価に心掛ける。さらには参加態度によって総合的に評価する。科目の性質上、遅刻、欠席は原則として一切認めない。		

(注) 中学校教諭2種免許

授業科目	栄養教育実習	担当者	町田 和恵
		〔履修年次〕 2年 〔単位〕 1単位	〔学期〕 前期集中 〔必修/選択〕 必修 (注)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 教育現場において求められている栄養教育実践力</p> <p>【概要】 栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく、学校給食を生きた教材として有効に活用することなどによって、子どもに正しい食習慣を身につけさせる指導と、給食の栄養や衛生の管理を柱とした職務内容を学習することを目的とし、実践の教育現場での授業技術や生徒理解の方法について直接的、体験的に学習する。主に県内の小、中学校、給食センターで、1週間の実習を行う。</p> <p>【到達目標】 学校教育全般の組織・運営を理解し、栄養教諭職務の全体像を把握する。また、栄養教諭としての基礎的能力の修得をめざし、作成した学習指導案に基づいて授業を行い、食に関する実践的な指導力を身につけるとともに、児童・生徒の理解、定着度を評価する力を培う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』</p> <p>(2) 文部科学省「食生活学習教材」</p>		
授業スケジュール	<p>各施設により異なる</p> <ol style="list-style-type: none"> 指導教諭等からの説明 <ul style="list-style-type: none"> 学校経営 校務分掌の理解 サービス等 児童及び生徒への個別相談、指導の実習 <ul style="list-style-type: none"> 指導、相談の場の参観、補助等 児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習 <ul style="list-style-type: none"> 学級活動及び給食の時間における指導の参観、補助 教科等における教科担任等と連携した指導の参観、補助 給食放送指導、配膳指導、後片付け指導の参観、補助 児童生徒会、委員会活動、クラブ活動における指導の参観、補助 指導計画案、指導案の立案作成、教材研究等 食に関する指導の連携・調整の実習 <ul style="list-style-type: none"> 校内における連携・調整（学級担任、研究授業の企画立案、校内研修等）の参観、補助 家庭・地域との連携・調整の参観、補助等 学校給食の管理を一体的に担う方法 		
成績評価の方法	実習先評価 (60%) , 実習ノート・参加態度等 (40%) によって総合的に評価する。		

(注) 栄養教諭2種免許

授業科目	栄養教育実習の事前事後の指導	担当者	町田 和恵
		〔履修年次〕 2年 〔単位〕 1単位	〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 必修 (注)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。</p> <p>【概要】 栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく、指導の場に臨んで生かせる技術を習得するために、栄養教育実習の教育効果を高め実践的指導力の充実をはかることを目的として、実習の事前事後の指導を行う。事前指導の内容は、栄養教育実習の意義、目的や実習校での参観・参加・授業実習、学習指導案の説明と作成などである。また、事後指導では各実習生の報告をもとに必要な指導を行う。</p> <p>【到達目標】 本授業では、教育実習に参加する基本的な心構えや技能、及び実習後の反省と総括、今後に向けての展望を持つことをねらいとする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』</p> <p>(2) 山本公弘『気がするにできる総合学習・体験学習—新しい栄養指導3』東山書房 文部科学省「食生活学習教材」</p>		
授業スケジュール	<p>事前指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 第1回 栄養教育実習のオリエンテーション 意義や目的、心構えなど 第2回 実習の評価の方法、実習後の提出物（実習ノート、学習指導案など）、実習中の短大との連絡方法などの指導 第3回 指導計画案、指導案の立案作成、教材研究 第4回 模擬授業の実施（1） 班に分かれて授業をする 第5回 模擬授業の実施（2） 班に分かれて授業をする <p>事後指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 第6回 栄養教育実習の報告・発表（1） 教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化 第7回 栄養教育実習の報告・発表（2） 教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化 第8回 相互評価、実習の反省、問題点の整理 今後の課題の明確化 		
成績評価の方法	発表・提出物 (80%) , 取り組み態度 (20%) を総合的に評価する。 事前事後指導の完全参加が基礎条件となる		

(注) 栄養教諭2種免許 ※7.5回